

野團體として進むこととなつた

(C) 牧野虎雄氏を首班とする旺友社でも引續いて不展不出品、第二部會絕對排撃の決議をなし、更に前年秋以來第二部會を支持して来た一般出品者同盟は文展支持六十餘名、反對三十餘名となつて同盟を解散二分した。

(D) 小倉右一郎氏の第三部會も「帝院三部會員の獨占的鑑査にたづさはる文展に招待の禮を受けざることを決議し、第一部會と京都の舊帝展系日本畫部のみが支持を聲明日本美術院、國畫會、青龍社、春陽會などは帝國美術會員として送つた各會の首班が辭表を提出したため勿論文展には参加せず、二科會、獨立美術協會は依然在野的存在を確保して不参加、また帝國美術院會員として殘留する舊二科系の石井柏亭、有馬生馬、安井曾太郎、山下新太郎四氏は六月三十日文展に對して絶縁を聲明した。

要するに前年度の反官展騒動が花やかであつたのに對比する時、今期の紛擾は著しく深刻化して、各團體の内部分裂が顕著し、畫家の本體を赤裸々に白日下に曝け出してしまつたのである。

文展

かゝる四圍の情勢にも拘らず文部當局はあくまで文展強行策をとり、九月十一日本年度臨時文展の展覧會委員を決定した。

第一部 伊東深水、矢澤政月、服部有恒、見玉希蓬

吉田秋光、永田春水、根上富治、川崎小虎、廣島見甫、水田竹園、堂本印象、矢野藤村、福田平八郎、深本一洋、中村大三郎、小野竹齋、山口雄揚(以上鑑査委員) 竹内桐鳳、西山翠暉、西村五雲、川村俊舟、荒木十敏、結城素明、松林桂月、松岡映丘(以上審査のみ立會)

第二部 石川富治、金山平三、牧野虎雄、安宅安五郎、小秋萬吾、鈴木千久馬、辻永、中山純、田邊至、中野和高、齋藤與良、長谷川昇、山本巖、太田喜二郎、川島理一郎、林俊衛、中村研一、高間惣七、藤田嗣治(以上鑑査委員) 南雲造、中村不折、岡田三郎助、和田三造、中澤弘光(以上審査のみ立會)

第三部 帝國美術院會員のみのみ立會
第四部 石田英一、堆朱楊成、六角紫水、藤野清、鹿島英二、山鹿清華、高村豊周、山本安曇、松田權六、佐々木泉堂、北原千鹿、廣川松五郎、杉田末堂、津田信夫、板谷波山、香取秀眞、清水龜藏、清水六兵衛

昭和十一年文展摘要

- 一、展覧會は第一部、二部、三部、四部の綜合展とす
- 一、鑑査展と招待展とに分つ
- 一、鑑査展は十月十六日より十一月三日まで
- 一、招待展は十一月六日より十一月二十三日まで
- 一、第一部、二部、三部
- 一、第四部は鑑査を経たる作品と招待を受けたる作品とを陳列室を分ちて全會期陳列す
- 一、鑑査を受ける作品は二點以内、招待作品は一、二點

在野展覧會の情勢

各在野團體の首班が官展と在野團體との間を動いたために在野團體にも一種の動搖はあ

即ち松田改組に對して(一)參與、指定、付則などの格付を撤廢して無鑑査を復活し(二)隔年制を廢して毎年綜合展(四部)を開くこと、(三)鑑査展、招待展にわけて連體開催するといふ三點に修正の眼目はあるわけである。

第二部の委員には文展不参加を聲明してゐる在野側の藤田嗣治(二科)中山純(獨立)及び川島理一郎氏を入れたがこの人々は拒絶した。第二部會々員の牧野、金山兩氏も拒絶した。かく依然混亂を續ける畫界に對しこれまで沈黙を護つてゐた藤島武二氏は九月二十五日文相に對し官展解消の意見書を手交したため、文相は今後文展と帝國美術院を分離する旨及び近代美術館を建設したい旨を言明した。しかし藤島氏は遂に本年度文展には不出品を決意して第二部會を脱退、新團體「新制作派協會」を結成した中堅作家を激勵、その展覧會に贊助出品するといふ皮肉な現象を呈するに至つた。

また第二部會の田邊至、中村研一、安宅安五郎三氏も文展委員受諾に難色があつたが當局の諒解運動が奏功して漸く受諾、贊否兩論囂々たる中に十月十六日から十一月三日まで鑑査展、十一月六日から十一月二十三日まで招待展として文展は開催された。

つた。日本美術院内部にも多少影響したがしかしさすがに在野畫壇の老練だけにその貫録を見せつけて例年の如く文展を白眼視しつゝ九月二日から花々しく開幕、青龍社も九月一日から、二科會も同様美術の秋を賑はせた。たゞ二科會にあつては展覧會を閉ぢた十月四日、宿伊之助、小山敏三、木下孝則、木下義謙四氏が「藝術上の立場を異にする」との理由で脱退し渦紋を描いたが、結局十一月二十二日、舊二科系四會員たる石井柏亭、安井曾太郎諸氏と一水會を結成することとなつた。かくて十六會員の辭表はその儘にして昭和十二年を迎へ、文部當局の無言主義が疲れた果た鬮壇に影響して不気味な静寂を保つてゐた。辭表提出組の横山大觀、安田靨彦氏らと川合玉堂、錦木清方、菊池契月、橋本綱雪諸氏、國展の梅原龍三郎氏らによる新團體結成も噂のみで中々實現せず、春は例年の如く春台、光風會を露拂ひに獨立、國展、春陽會などから花々しく蓋を開けて行つたのである。

文化勳章と帝國藝術院新設

これは今期美術界のみならず我が藝術史上特記されねばならない一大事象である。即ち昭和十二年二月十一日、紀元の佳節を卜して制定された文化勳章を美術界の四元老が拜受されたこと、また六月二十三日文部省から發表された帝國藝術院の生誕とである。文化勳章は我國文化の貢獻者を顯彰する長き聖旨によ

つて制定されたもので、科學界の三名、文學界の二名に對し美術界から四名の拜受者を出したことは美術界にとり無上の光榮であると感じは至美術界から湧いたのである。畫壇の光榮者は左の四氏である。

岡田三郎助氏 明治二年生、明治二十八年黒田清輝、久米桂一郎氏らに従つて油繪を研究、二十九年東京美術學校教授となり、翌年フランスに留學、四十一年文部省美術展覧會常務委員となる、帝室技藝員たり

藤島武二氏 慶應三年生、川端玉章について日本畫を學び後松岡壽、山本芳翠につき洋畫を學び、明治二十九年東京美術學校助教授、同三十八年伊、佛兩國に留學、四十五年同校教授となり帝國美術院會員、帝室技藝員たり

竹内桐鳳氏 元治元年生、土田英村、幸野櫻嶺に師事し後京都府畫學校に學び、帝國美術院會員、帝室技藝員たり、曾て京都市立美術學校、同市立繪畫專門學校に教鞭をとり、また美術視察のため歐洲に出張を命ぜられ、大正十三年フランス政府より授勳せらる

横山大觀氏 明治元年生、明治二十六年東京美術學校日本畫科を卒業、繪本雅邦に師事す、同四十一年文展創設されるや審査員に選ばれられ從來その任にあること七回、大正二年辭して日本美術院を創立す、帝室技藝員たり

帝國藝術院創設と畫壇の動向

文化勳章の制定は美術行政の進路に一轉換を齎らした。これまでに文部省では松田、平

生兩改組に關係した人々、赤間専門學務局長石丸學藝課長らを変更し、當時の次官河原春作氏、専門局長たりし伊東延吉氏は本由弘人學藝課長、有光次郎學務課長らと編首協議を續け、行詰つた美術界打開方策として、同時に我が國多年の懸案だつたアカデミーの創設即ち帝國藝術院の設置を一氣に敢行することとした。しかし帝國美術院會員を再整理することは紛糾を再發せしめる虞れがあるので据置とし、初めの定員百名は八十名に修正するやむなき状態となつたので結局左の如き陣容と官制とが發表されたのである。

藝術院官制

第一條 帝國藝術院は文部大臣の管理に屬し藝術の發達をはかり文化の向上に資するを以て目的とす

第二條 帝國藝術院は藝術に關する重要な事項を審議す、帝國藝術院は藝術の發達に資するため適宜事業を行ふことを得、帝國藝術院は藝術に關する重要事項に付文部大臣に建議することを得

第三條 文部大臣は藝術に關する重要な事項に付帝國藝術院に諮問することを得

第四條 帝國藝術院は院長一人、會員八十人以内を以て組織す

第五條 院長及び會員は藝術に關し識見開闊卓越する者の中より文部大臣の奏請により内閣においてこれを命ず、院長及び會員は勅任官の待遇を受く

第六、七、八條略
第四則 本令は公布の日よりこれを施行す、帝國美術院官制はこれを廢止す、本令施行の日において現に帝國美術院長または帝國美術院會員たる者別に辭令を發せられざる時はそれ／＼帝國美術院長または帝國美術院會員たるものとす

新會員藝術院

- 文藝 幸田 露伴 徳田 秋聲 岡本 綺堂
泉 鏡花 菊池 寛 武者小路實篤 徳島 貞一
千葉 胤明 井上 通泰 佐佐木信綱 齋藤 茂吉
高濱 虚子 河井 醉茗 國分 青崖 三宅 雪嶺
徳宮 蘇峰
音樂 幸田 延子 橘 禁重 忠龍
豐 時義
能樂 梅若万三郎 實生 新
建築 伊東 忠太 塚本 精
書道 比田井天來 尾上 柴舟
辭令を用ひずるに會員となる舊帝國美術院會員
美術 橋本 關雪 西村 五雲 西山翠暉
川合 玉堂 川村 曼舟 橋本 清方 横山 大觀
竹内 楠風 安田 靉彦 前田 青邨 松林 桂月
松岡 映丘 川端 龍子 小林 古徳 室 翠雲
荒木 十敏 菊池 契月 結城 素明 石井 弘孝
岡田三郎助 和田 英作 中村 不折 中津 太朗
梅原龍三郎 山下新太郎 和田 三造 安井付太郎
藤島 武二 小杉 放庵 有馬 生馬 南 繁造
建品 大歩 内藤 伸 山崎 朝雲 藤井 浩祐
朝倉 文夫 齋藤 素巖 佐藤 朝山 北村 西望
平橋 田中 板谷 波山 富本 徳吉 香取 秀眞
清水 大兵衛 清水 龜藏 津田 信夫 (以上四十六名)
院長 清水 澄氏 主事 本田弘人氏(學藝課長)

文部當局が藝術院會員受諾の内交渉を始め、平生改組に對し辭表を提出した日本美術院の横山、安田、小林、前田四氏と國展の梅原氏、前美校校長和田英作氏等は受諾に難色があつたが、當局必死の説得によつて漸く納得、小杉放庵氏も受諾してたゞ一人青龍社の總帥川端龍子氏のみが遂に辭退した。文壇方面では島崎藤村、正宗白鳥兩氏が辭退して参加しなかつたことを付記する。

美術行政顧問の設置と新文展

藝術院は安井文相の招待會(於東京會館)を最初の顔合せとし花々しく生れ出たが、これに次で文部當局により企てられたのは美術行政に關する顧問として五相談役を依頼、次で調査會を設け美術行政を畫策、美術家等技術専門家の手から分離したことである。相談役は細川護立侯、岡部長景子、松浦鎮次郎氏、正木直彦氏と帝國藝術院院長清水澄氏の五氏で、六月二十九日、七月二日と二回相談會を開き秋十月開催すべき第一回文部省美術展覽會の要項と審査員を決定し、美術界に永年にわたつて醸成されてゐる諸情弊を漸進的に清掃しながら一方には美術家の生活權を出来るだけ脅かさぬよう改善しようといふ進み出したのである。是非は兎も角として從來の文部當局は美術行政に對しては全然美術家任せで、一國美術の興隆發展を意圖するといひながら

方針も運用すべき機構もなく、帝國美術院に一任の形でたゞその會費間に風波なきのみを念願して来た。この點に氣づいて帝國美術院を解消し、展覽會をはじめ美術教育その他の行政を悉く文部省の手に取戻し、そこに整備した顧問乃至調査會などの機構を確立、それによつて今後の方針を實現して行かうとしてゐるのである。美術家達は隨かに天下り的な權力的な藝術統制には反對であらう、それだから過去二ヶ年間の紛争が熾いたのである。文部當局として最早無理強ひな統制などをしようとは思つてゐないだらう、しかし今回の行政機構の整備確立は悪くすると、即ち一步踏み誤ると藝術統制といふ結果に陥りやすい、この意味で藝術院官制が官報に公布された昭和十二年六月二十四日は我が美術史上最も重要なエポックとなるであらう。

文部省美術展覽會要項

- 一、名稱 第一回文部省美術展覽會
一、場所 上野公園東京府美術館
一、會期 昭和十二年十月十六日より同十一月二十日まで
一、内容 (イ)種目 ▲第一部繪畫 ▲第二部繪畫(油繪、水彩畫、パステル畫、素描、創作版畫) ▲第三部彫塑 ▲第四部美術工藝
(ロ) 出品、無審査、受審査者の二つに分つ、無審査者の出品は一點、受審査者の出品は二點以内とす

- (ハ)方法、各部の綜合展とし、無審査作品、審査作品を同時に陳列す
(ニ)寸法、第一部の出品につきては受審査者は縦十尺、横十三尺以内、無審査者は縦十尺、横七尺以内、無審査者にして上記の制限を超えるもの(但し縦十尺、横二十五尺以内)にありては審査員において陳列すべきや否やを決定す、無審査者のうち帝國美術院會員及び第一回文展審査員は縦十尺、横二十五尺以内とす
△第二部の出品につきては受審査者は隨意、無審査者は八十號以内、無審査者にして上記の制限を超えるもの(但し審査員において陳列すべきや否やを決定す、無審査者のうち帝國美術院會員は隨意とす△第四部の出品につきては任意とす△第四部の出品につきては任意とす△第四部の出品につきては任意とす、その他ものは縦十二尺、横十二尺以内
一、搬入期日 受審査者は十月一日より同五日まで、無審査者は十月一日より同十二日まで
同 審査員 氏名
【第一部】(主任) 橋本 關雪
菊池 契月 小林 古徳 西村 五雲 西山 翠暉
安田 靉彦 宇田 萩邨 川崎 小虎 堂本 印象
中村 岳陵 野田 九浦 福田平八郎 矢澤 弦月
矢野 橋村 吉村 忠夫
【第二部】(主任) 南 繁造
安井會太郎 伊原宇三郎 金山 平三 川島理一郎
小林 萬香 齋藤 與里 鈴木千久馬 田邊 至
辻 永 中野 和高 中村 研一 長谷川 昇
林 倭衛 牧野 虎雄
【第三部】(主任) 北村 西望

- 朝倉 文夫 佐藤 朝山 齋藤 素巖 内藤 伸
藤井 浩祐 安藤 照石 井 鶴三 小倉右一郎
國方 林三 澤田 晴廣 長谷川榮作 横江 嘉純
【第四部】(主任) 津田 信夫
清水 龜藏 富本 徳吉 岩田 藤七 海野 清
河村 晴山 佐々木象堂 高村 豐周 堆朱 湯成
沼田 一雅 山崎 清華 吉田源十郎 六角 繁水
無審査 (イ)昭和十一年文部省美術展覽會において招待を受けたる者
(ロ)昭和十一年文部省美術展覽會において文部大臣賞を受けたる者(但し今年度に限る)
ポストン日本古美術展覽會と
國寶搬出是非論

ハーバード大學三百年記念祭を機會にポストン美術館と我が國際文化振興會との協力の下に、昭和十一年九月十日からポストン美術館に開催された「日本古美術展覽會」の準備交渉のため、ポストン美術館長エツヂエル氏が來朝、各方面と折衝した結果、かねて國寶の海外搬出問題が種々論議されてゐたにも拘らず、保險總額百五十萬圓でアメリカのポストンまで百數十點の古美術品が搬出され、帝室博物館溝口美術課長が付添つて盡力、特別陳列室七室に展覧、十二月十四日貨物船那古丸で無事歸來した。我が古美術品としては珍しい大名旅行であつたが、ポストン美術館でも獻身的努力と誠意を披瀝し、展覽會の備帖も一萬圓を投じてわざ／＼日本で印刷、豪華

備帖を完成したほどである、出品物中の主な一部を列記すれば
宮内省御寶下、若冲筆花鳥圖、法隆寺傳來の伎樂面、高松宮家御所藏秋花圖屏風、帝室博物館藏蕪村筆松屏風、住吉繪卷、東京美術學校藏孔雀明王像、根津嘉一郎氏藏啓書記筆山水圖、土橋嘉兵衛氏藏國寶三十六歌仙の一つ、村山長學氏藏岩佐又兵衛筆堀江物語繪卷三卷、細川護立侯藏等伯筆屏風鳥鷲の圖、大橋新太郎氏藏雪舟筆花鳥屏風武藏金太郎氏藏光悅筆鹿の圖卷物、岩崎小彌太氏藏傳周文筆山水圖等、御物四點、國寶二點、重要美術品百餘點
かうしてポストンの日本古美術展は偉大な反響と好評を歐米に博して終つたが、この好成績に刺激されて十一月には英京ロンドンから「來る一九三八年を期しロンドンで日本古美術展を開催したい」との申込みがあつた、かねて國寶、重要美術品類の海外搬出に對して反對意見を持つてゐた國寶保存會委員福精一博士は同會十八委員の賛同を得て連名の「國寶保存法改正」に關する建議を文部大臣に提出した。即ち國寶保存法第三條にある「國寶は之を輸出又は移出することを得ず、但し主務大臣の許可を受けたるときはこの限りに非ず」なる條文を改正して「但し以下を削除し主務大臣の許可如何に關せず國寶は今後絶対に輸出出來ぬこととして、國寶搬出問題に絶対永久的な結末をつけんとしたのである。

國內においては搬出不可の論がかくの如く、他方ロンドンのロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ(王立美術院)からは催促して来るので、外務省では十二月二十二日協議会を開いた結果、我が國には既に國寶保存法があるから大規模の展覧會を外國で開催することは不可能な状態にある旨の回答を致し申込みを謝絶した。前記の國寶保存法改正建議は文相に提出したまへ、何れ具體化しなかつたが、輿論は海外搬出の是非を繞つて相當やかましく、美術批評家協會なども活動した。なほ翌十二年六月にはドイツから日本古美術展開催の交渉が外務、文部兩省に齎らされた。

現代美術館建設運動

この運動は數年前から起つてゐるが、平生文相が豫算五百萬圓を致して紀元二千六百年までに建設したいと聲明しながらその後更に具體化しないため、十二年二月二十二日、石川寅治、石川鶴三、伊原宇三郎、津田信夫、矢澤政月、木村莊八諸氏によつて現代美術館建設促進聯盟が結成され、更に三月二十二日かつて近代美術館建設期成會の委員たりし正木直彦、香坂昌康、赤間信義、關屋貞三郎諸氏と芝田徹心氏(東京美術學校校長)、作家側から松林桂月、結城素明、山崎朝雲、内藤伸、北村四望諸氏を交へる懇談會を開き、「萬國博覧會開催に際して建てられる美術館を都心に建設して永久保存すべき美術館とすべし」

といふ請願書を提出した。さらに貴族院豫算委員第三分科會において貴族院議員關屋貞三郎氏が本問題につき質問をなし、河原文部次官の答辯があつた。

展覧會一覽 (昭和十二年七月)

主要展覧會

○青龍社第八回展(一一・九・一一—一二・八、東京府美術館) 平生文相の改組を機会に他の辭表提出十五會員とともに辭表を出した主宰川端龍子氏は當展覧會に出品作をもつて太平洋連作四部作が完成するため、神戸川崎造船所へ出かけて題材を求めスケッチするなど社人らとともに元氣一杯の力作を陳列した搬入一二四點、中入選四九點、新入選一七點主な作品は左の如し

川端龍子「海洋を制するもの」(太平洋連作第四)「雷雨」坂口一草「黒島」加納三善「夏日好菜」山崎雪龍

【受賞】(新社友) 山崎雪龍(新社友)市野章、三好光志、松宮左京、坂鏡一、若米地水子、奥田正一(氏實)谷口富美枝、山崎雪龍、安西啓明

○第二十三回日本美術院展覧會(一一・九・一一—一〇・四、東京府美術館) 平生改組に對し反對の意思表示として帝國美術院會員辭任の辭表を提出した横山大觀、安田靉彦、前田青邨、平柳田中、佐藤朝山諸氏とさらに

先輩に准ずる小川芋錢、木村武山、中村岳陵、山村耕花、石井鶴三諸氏の文展不参加で意氣頓に揚り、同人、院友の精進が院展全體に反映して盛大な展覧會となりト野の秋を賑はした。搬入總數五二〇點、試作展であつたといへば昨年比して倍加してゐる。彫刻搬入一八五點、入選(繪畫)五三點、新入選一二二點、(彫塑)五〇點、新入選一一點、主なる作品は

繪畫 横山大觀「野の花」安田靉彦「紅梅」前田青邨「白河梨翁」小林古経「紫苑紅梅」奥村土牛「鬼」太田豊雨「船路」望山南風「白雨」酒井三良「青田風」山村耕花「寒巖主」郷倉千鶴「月明」小川芋錢「聽秋」中村貞以「海女」溝上遊龍「受洗を願ふ」

彫塑 中村直人「ミス・ミサハ」武井直也「青年」平橋田中「源右府」天內青圃「佛母摩耶夫人」吉田白嶺「迦陵仙」石井鶴三「老婦浴後」

○二科會第廿三回展(一一・九・二一—一〇・四、府美術館) 石井、安井、山下、有島四氏を失つてから第二年度の展覧會、會員會友に比し新人の元氣と進歩が力強く頼もしい。特別陳列として藤田嗣治氏秘藏のゴヤの名作「闘牛」(エッチング四十二枚)とその他デュエナイ、ブラック、ドラム、モヂリアニ、ロダン、ロート等の作品廿點があつた。搬入、繪畫四二二四點、入選三三八點新入選九五點、彫塑三三五點、入選五九點新入選一六點、主な作品は左の如し

清水刀根「庭上三人」木下孝則「イオンヌ河畔」宮本三郎「野に憩ふ」島崎麟二「少年」恰伊之助「夏の

午後」小山政三「志摩の海女」中川紀元「青い團扇」向井湖吉「舞れゆく寒霞後」藤田嗣治「自畫像」ドモの喧嘩」野間仁根「花園の友人」鈴木信太郎「花と魚貨」東郷青島「小島」【受賞】(新會員)高岡徳太郎、栗原信、宮本三郎、向井潤吾、鈴木信太郎、松村外次郎、笠置季男(新會友)安宅虎雄、小出卓二、長谷川八十、上田隆、(推薦)岡田謙三、高崎鶴二、田村孝之介(特待)中村善策、柏原寛太郎、田邊三重松、藤井二郎、山口長男、飯田清兼、早川國彦、藤井榮子、川崎榮一、土田實、水内克

○昭和十一年文部省美術展覧會(鑑査展一一・一〇・一六—一一・三、招待一一・六—一一・二三、但し第四部のみは二分せず全期間を通ず、東京府美術館) 松田政組による新帝展は嚴冬の候と二・二六事件、畫家のストライキたる不出品同盟等の障害のため官設展としては未曾有の不成績であつたが、美術シズンとしては最適の時期に開いたこの平生文相による臨時展は、展覧會を二分した形式において、また新人登龍の道を寬選によつて開いた結果の實、内容において、幾多の問題を投じた。先づ鑑査展開幕前に從來の院實作品(洋畫)の加筆問題が起つた。これは鑑査前陳列中の會場へその作家が繪具箱を携へて入場して自作に筆を入れたと云ふのである。入場を一審査員が許したとか、餘りの大作のため搬入の際畫面が傷ついたのでその箇所を修理したのだとか説は區々、結局大臣實を保

留すべしとの説も出たが「今日に限り作品價値に關係なき加筆なるため不問に付す」との當局の苦しい解釋によつて落着した。一方日本畫にあつては各審査員が極端な寬選を行つたため陳列壁面が不足し九日間宛替替へ陳列といふ珍現象を呈した。併し招待展には竹内栖鳳氏が明治四十年第一回文展以來初めての大作六曲屏風一双を出品して評判となつた。全期間を通じ總入場者は十二萬五千八百八十二人(鑑査展は五萬人)で從來の帝展の廿萬人内外に比べると矢張り寂しく美術騒動が世間へ興へた影響を如實に物語る結果となつてしまつた

た賣約點數五十一點、鑑査展の搬入、第一部一五六一點、入選三六七點(新入選一〇三點)第二部三〇〇六點入選三三四點(新入選一七四點)第三部四一五點入選二二四點(新入選四六點)第四部七六九點入選一九四點(新入選四六點)招待展の出品、第一部九七點、第二部一一九點、第三部八八點であつた。主な作品を列挙する

【第一部】岩田正巳「波名をわたる源九郎義経」本印繁「其目寺の一遍上人」中村大三郎「讀書」結城素明「溪光」竹内福風「夏の鹿」島田墨仙「出師表」荒木十蔵「雄風」上村松園「序の舞」川村曼舟「露水」水田竹園「霜苑」西山翠暉「竹生鳥」野田九浦「古宮阻閑靜」矢野橋村「秋興」矢澤政月「採果園」吉村忠夫「燈籠大臣」廣島晃甫「あさかほ」【第二部】中澤弘光「鶴」南郷道子「守歌」岡田三郎助「婦人半身像」和田三造「按察さん」長谷川昇「青

服の少女」林徳衛「菖菖」中村不折「妙鏡山」高間愨七「泉」【第三部】朝倉文夫「九世團十郎の像」齋藤素廣「貝」内藤伸「天安川原」藤井浩諸「手鏡」長谷川榮作「寶華素影」山崎朝雲「菅公」蓮島大夢「十七の女」岡方林三「裸女」北村西望「旭日登天」【第四部】佐々木象堂「鑄銀器置物」山崎清華「透明手鏡」代瑠園立「岩田藤七」吹込み「扇子花」清水六兵衛「臨湖飛浪花」杉田末堂「鑄銅瓶」耳花版」坂谷波山「四方香爐」日本安曇「鳥付松文花瓶」藤野清「青金色繪瓶」【受賞】文部大臣賞(第一部)加藤榮三「菖菖」(第二部)朝井開右衛門「丘の上」選奨(第一部)山本丘人、曲村光男、秋野不矩(第二部)伊藤清水、岩崎勝平、川端實、倉員辰雄、平通武男、鈴木榮二郎(第三部)吉田敏示、山口四郎、藤野舜正、宮本朝儀(第四部)磯井如眞、林萬壽人、番浦省吾、渡邊紫風、河面冬山、内藤四郎、山本純氏、山崎洋二、福澤健一、小合友之助、廣瀬英五郎、平野利太郎【政府賞上】(第一部)「うなひの支」西澤篤哉、「曉山の雲」藤田周山「讀書」中村大三郎、「燈籠大臣」吉村忠夫、「序の舞」上村松園(第二部)「圖書にて」緒方亮平、「輪囷」耳野卯三郎「手傳」草光信成、「春」奥瀬英三、「婦人半身像」岡田三郎助(第三部)「養肥」北村正信「臨軍」一色五郎「籠球」藤野圓象(第四部)「津南天棚」吉田源十郎「柿香盆」船越春珉「金錯芙蓉紋花瓶」山本純氏「陶製草文水指」大森光彦(他に文部省記念賞として洋畫三點あり)○獨立美術協會第七回展(一一・三・一—一四・三、府美術館) 從來通りに美術の春の魁として開幕、抽象主義的な作品が餘りに多く獨立の惱みと批評された。主な作品は

林重義「秋野口瀧太郎」夜のレストラン」妹尾正彦「露室」鈴木去草「畫作」海老原喜之助「採果」川口軌外「エスキース」尾島善三郎「溪流」林武、プロ

○國畫會第十二回展(二二・四・一一一四・二七、府美術館) 主宰梅原龍三郎氏が富本

○春陽會第十五回展(二二・四・一一一四・二七、府美術館) 平生文展の勸誘に應ず

展覽會一束(昭和十一年)

七月

△立陣社洋畫展(一五、銀座青樹社) △一葉會作品展(八一、丸ビル) △日本山岳協會展(三十七、日本橋高島屋)

八月

△旺文社同人展(五十二、日本橋三越) △大踏會展(三十一、四、銀座紀伊國屋)

九月

△第三部會第二回展(二三十、府美術館) (准會員)三井高義(特選)大野信義、川島雄三、川

△明朗美術第三回展(二十九、府美術館) 落合明風(かまくら)吾が庭のながめ(新同人)

△故牧雅雄、木村五郎、橋本平八三氏遺作展(五十四、谷中日本美術院内)

△新自然派協會名古展(九十三、丸善) △新造型秋季展(十一、十五、銀座青樹社)

△大斗展(二十五、銀座紀伊國屋) △黑色洋畫展(廿五、廿九、銀座紀伊國屋)

△前會第二回洋畫展(五十九、銀座伊東屋) △朱明會第一回展(五十、神戸フチギヤラー)

△近代漫遊展(二十一、六、銀座紀伊國屋) △日本美術院同人展(十六、二十、上野松坂屋)

△伸草社第三回展(二十一、二十四、銀座伊東屋) △奈良美術家聯盟展(二十三、二十五、奈良會館)

△第三回白鬚展(二十七、三十一、日本橋高島屋) △木心舎彫刻展(廿七、卅一、日本橋高島屋)

△旺文社社友展(三十一、三、銀座青樹社) △新制作派協會展(十七、上野美術協會)

△七弦會、鍋水清五、伽羅安田、藤原佛性房、前田青郎、野の白隠、菊池契月、吉法師

△新構造社展(二十五、十二、五、府美術館) 齋藤素野氏の構造社から分裂した繪畫部と構造社彫刻部を脱退した寺畑助之丞氏の十七會が合流す、新

△大湖會第一回展(二十五、十二、六、府美術館) 全國小、中學教師で組織さる

△獨立美術秋季展 △東京會小品展(三六、日本橋高島屋)

△京美術學校秋季特別展(四一、同校陳列館) 同校收藏の黒田、久米、兒島、湯淺諸故人を初め藤原岡田、和田諸氏以下關係者の西洋畫名作模寫を陳列す

△N.A.S.新興美術家協會展(二十六、二十九、府美術館) △第三回くろも展(二十六、二十九、銀座紀伊國屋)

△青果會第五回展(二十一、二十五、銀座紀伊國屋) △第二回立陣社展(二十六、三十、銀座青樹社)

△第七回瀧派亞土社洋畫展(六、八、銀座紀伊國屋) △新時代洋畫展(二十七、三十、日動畫廊)

△瀧谷國四郎遺作展(七、十四、日本美術協會)「朝日朝顔」排毛氈(朝日賞授賞作)等

△春虹會第三回展(十六、二十、日本橋三越)上村松園「春雪」西村五雲「猿猴」宇田萩郎「春蘭」菊池契月「暹日」

△兒島虎次郎遺作展(十八日まで、銀座青樹社) △木下雅子遺作展(八、十、銀座資生堂)

△白鬚會第四回展(十一、十五、銀座紀伊國屋) △京都工藝院第一回展(十七、二十、岡崎公園京都美術會) 五條會、陶藝協會、金閣作家聯盟、社

△迎會洋畫展(十七、二十、上野松坂屋) △國畫院第一回展(二十一、六、日清生命ビル) 松岡

映丘「矢表」吉村忠夫「朝動」小村雪位「影向」岩田正巳「聖僧日蓮論卷」服部有恒「觀山」における讓良親王

△青龍社展(三十七、三越)受賞、演出榮一、佐藤本草、木村鹿之介

△七彩會展(二六、三〇、銀座日本サロン) △唯型第一回展(五、九、銀座紀伊國屋)

△日本畫會展(九、一三、府美術館) △全關西洋畫展(十一、八、大阪市立美術館)

△同人會表裝展(一一、二〇、府美術館) △第一回日本插畫美術展(一三、一五、銀座伊東屋)

△びゆるこ洋畫展(一五、一九、銀座三味堂) △日本木彫會展(一六、二五、府美術館)

△日本美術協會展(一八、二五、同會列品館) △越佐工裝美術會東京展(二二、三〇、府美術館)

△第十二回南紀美術展(二五、二九、大阪梅田阪急百貨店)

△獨立美術京都展(二四、一八、岡崎大禮記念美術

公開)

十二月

△光風會展(二八、府美術館) 南齋造「山莊」中澤弘光「蘆の湖」寺内萬次郎「横臥櫻」新會員、石橋武助、和田清、安達太郎、朝井開右衛門、岐島

利久、南政善、鈴木榮二郎、新會友、土佐林登夫、大河内信敬、田村一男、反町博彦、山口猛彦、藤岡俊一郎、岩崎勝平、水上信雄、須田烈太、光風

特賞石川滋彦、川端實 △太平洋畫會展(一八、三、一、府美術館) 中村不折

「古器と新人」石川寅治「舞伎」瀧谷國四郎、河合新藏、近藤七郎、宮地志行の遺作を陳列す、太平洋畫會賞、玉井方三、葵賞、海洲正太郎

△畫賞美術院展(一七、日本橋三越) △第四回巴人社展(六、十一、銀座紀伊國屋)

△アルペール・コルフ氏制作展(十六、十七、ベルギー大使館) ミニアチュアである

△旺文社第五回展(二五、四、五、府美術館) △東光會展(五、一、府美術館) 新會員、平通武男

岩下三四、新會友森田茂、井上修、石本秀雄、山下大五郎、東光會江藤哲、田代順七

△フォルム春季展(四、七、銀座紀伊國屋) △新美術家協會展(四、十三、府美術館) 新會員伊藤久三郎、柏原覺太郎、服部正一

△白鬚社第一回展(二、四、銀座青樹社) △唯兒社美術展(四、七、京都大丸)

△國際素描コンクール日本豫選展(四、九、上野松坂屋)

△佐伯蘭三遺作展(十三、二十一、府美術館) 山本發次郎氏の收藏品たる故人の傑作百數十點、無料公開

△春台美術展(二七、二、十四、府美術館) 岡田三郎助「琵琶湖畔」辻永「高原晚秋」中村研一「裸婦」伊原宇三郎「孔子廟」春台特賞、和田清、岩崎勝平、寺尾作次郎、春台賞、石川滋彦、景山榮次、楳原益太、服部邦行、三水義榮、矢島甲子太郎

△第十四回白日會展(二七、二、七、府美術館) 白日賞、川村清一郎、嶋川誠一、坂江重雄、笹野惠三

△白朝會展(十四、十九、日本橋高島屋) △新制作派小品展(二十二、二十六、銀座三味堂)

△六潮會展(二十五、二十七、日本橋三越) △第七回NOVA展(二十二、二十一、府美術館)

△新自然派協會展(三十七、銀座松坂屋) △エッセル東京展(一一、廿七、府美術館)

△獨友會第一回展

△春季三科展(二二二三、日本橋高島屋)

【五月】

- △ドイツ國寶名作展(一一一四、府美術館)
△獨文化協會、東京朝日新聞主催、ドイツ政府、外務、文部兩省後援デューラー、ホルバイン、グリーネワルト、コルネウリス、メンツェルなど四十二巨匠、九十六點を展覧、終つて京都において開催
△第一美術協會展(九二二四、府美術館)
△實在工藝美術會第二回展(二六三〇、府美術館)
△實在工藝賞、磯矢阿伎良、實在工藝奨励賞、大野五枝
△大日美術院第一回展(二七二六、五府美術館)
△結城素明、川崎小虎、青木大乗氏を中心に結成
△第二回京都市美術展(二九一六、一七、京都市美術館)
△構造社第十回展(一一二二、府美術館)
△作品百數十點を陳列、構造賞地賞
△露土社展(二五三〇、日本橋白木屋)
△四行會洋畫展(二〇二四、銀座資生堂)
△春芳堂展(七一七九、東美俱樂部)(二六一一七、京都美術俱樂部)
△三春會第四回展(一一二二、府美術館)
△上社會十周年展(一一二二、府美術館)
△土田榮徳素描遺作展(二二一六、日本橋三越)
△富田仙道遺作展(二七二六、二、上野美術協會)
△日本美術院王儲、船「大原の秋」「八潮の春」御室櫻子、他百二十餘點
△讀畫會展(三一六、府美術館)

△改々會展(一一五、銀座日本サロン)

- △齊々會第二回彫刻展(八一二、銀座資生堂)
△日本漆藝院展(九一七、日本橋三越)
△工華社工藝展(九一七、銀座松屋)
△東邦彫刻院小品展(二〇一三、日本橋高島屋)
△日本水彩畫會展(二一六、六、府美術館) 丸山晚露、淺間石楠、薄紅石楠、古川弘、ばら、李王家御買上
△日本彫刻家協會展(二二一六、六府美術館) 會員、雨田光平、加藤顯清、三木凱歌、早川龍一郎、武井直也、畠村直久、林是、大須賀力、中村七十その他
△律動展(二二二七、青樹社)
△工人社工藝展(二五三〇、日本橋高島屋)
△童林社繪畫彫刻展(二四一六、三、府美術館)
△海洋美術展(二五三三、三越)
△第七回留加會展(二五三六、三、府美術館)

【六月】

- △清光會展(一一五、資生堂) 横山大觀贊助出品
△明朝美術協會展(七一三、上野松坂屋) 落合朗風遺作陳列、藤田嗣治「噴霧」天曲風等
△第一回南畫聯盟展(一一二、日本美術協會)
△立光會洋畫展(一一七、大阪市美術館)
△東台邦畫會展(一一六、銀座日本サロン)
△四外邦畫會展(二一六、日動畫廊)
△海外超現實主義作品展(九一四、日本サロン)
△新彫塑協會第一回展(九一三、府美術館)
△造形版畫協會第一回展(九一三、銀座紀伊國屋)
△沈留留彫刻展(一五九、日本サロン)
△菊池容齋遺作展(一八二、東京美術學校)
△生爽會第一回展(二二二、日本橋三越)

美術界消息

昭和十一年七月

- △朝倉塾 學校として東京府の認可を受く、校長朝倉文夫氏
△故久米桂一郎氏銅像除幕式 七月二十八日東京美術學校校庭において舉行、北村西望氏作
△葵園記念館 大原孫三郎氏が發企、京都に設立すべく七月二十七日計畫を發表す
△藤井浩祐、近藤浩一、路野氏院展を去る、近藤氏は六月、藤井氏は九月日本美術院同人辭表を提出
△美術批評家協會結成 十月柳亮、外山卯三郎、ブルノ・タウト氏らによつて結成さる
△南畫聯盟結成 十一月南畫院の白倉二峰、福田浩湖氏らにより小室翠雲氏を顧問に結成された
△野生司香雪氏歸朝 日本美術院院友野生司香雪氏は助手河合志容氏とともに滿四年、印度ペナレ、サルナートのムラガンダー大寺院「釋迦一代記」の大壁畫を描いて完成、十一月三日歸京した
△一水會生る 二科會を脱退した小山敬三、船伊之助、木下孝則、木下義謙氏は十二月二十二日、石井柏亭、安井曾太郎、山下新太郎、有島生馬氏と一水會を組織した
△坂垣坦氏文庫に「十八世紀フランス繪畫の研究」により十一月文學博士號を授與された
△日本國際美術教育聯盟結成 二月十日、美術工藝圖畫手工教育に關する國際的研究交換、展覽會開催のため會長正木直彦氏、副會長芝田東京美術學校校長、山折日本美術學校校長の下に結成された
△自由美術家協會創立 二月十二日長谷川三郎、小城基、矢橋六郎、藤岡昇、津田正周氏らにより結成
△寺崎廣業氏胸像 内藤伸作 東京美術學校校庭で

二月二十一日除幕式舉行
△在野洋畫五團體懇談會成る 二月二十八日、二科獨立、國畫、春陽、新制作派の五團體
△中村研一英帝冠式へ 戴冠式記念大觀禮式に我國を代表して參加する軍艦「足柄」に同乗、四月三日横濱出港
△佐分實授賞者決定 昭和十一年自設した佐分實氏追憶のため設けられた本賞の第一回受賞者は國展の青山義雄氏に決定
△林重義氏獨立脱退 獨立美術協會創立以來の會員たる林氏は藝術上、同會最近の動向と相容れないので四月十三日脱退した
△昭和洋畫奨励賞 昭和十一年度受賞者評考委員會を四月二十七日開き、森田勝、倉員辰雄兩氏と決定
△映丘作「平治の重盛」イタリーへ 昭和四年度帝展で院賞を授與されたこの作は四月、大倉男からイタリー政府へ寄贈された
△瀟湘國皇帝に畫論進講 瀟湘國繪畫展が本春開かれ藤島、安井、津田諸氏が渡瀟、同國の美術熱大いに揚つたが、五月下旬渡瀟した川端龍子畫伯は皇帝に「瀟湘國の新興に伴ふ繪畫の將來」について進講申しあげた
△海洋美術會生る 五月の海軍館開館式を機會に同館内繪畫室に海軍畫を描いた人々が集り、六月十日結成した、海軍協會、海軍省を中心に、石井柏亭、山下新太郎、田邊至、石川寅治、御厨純一氏らである
△東洋會結成 六月東京美術學校出身の日本畫家矢澤政月、川崎小虎、吉村忠夫諸氏を中心に結成

逝ける人々

昭和十一年九月
△埴原久和代女史 元駐米大使埴原正直氏令妹、

九月十五日逝去、行年五十八、女史は日本洋畫壇最初の開秀畫家であつた女流最初の二科會友、晩年は失明と自宅の焼失で繪筆を断ち鎌倉阿覺寺の菅長太田常正氏について信仰生活に生きてゐた
△飯田操朗氏 獨立美術協會會友、十月六日逝去二十九歳、第一回から獨立展に關係し、第三回に海南賞、第五回に獨立賞、第六回に推薦で、前衛畫壇有数の才能ある作家であつた
△坂口右方視氏 一月六日逝去、初め日本美術院研究所にあつて畫技を磨き、のち春陽會に入つた
△栗原忠二氏 十一月十八日逝去、五十一歳、明治四十年東京美術學校に入り卒業後ロンドンへ渡り、ターナーに心酔、のちフランキンにつき學ぶ
昭和四年二月同志と第一美術協會を創立

明治・大正・昭和三聖代名作美術展覧會

昭和十二年六月二十七日をもつて紙幣二萬號に達した大阪朝日新聞社では記念事業の一として朝野各方面の支援を得て四月二十五日より五月二十七日まで、大阪市天王寺公園内市立美術館において明治・大正・昭和三聖代名作美術展覧會を開き入場者約十一萬人、出品は左の通りで國畫的なものも多く、西日本として畫期的な記録を遺した。

Table with 4 columns: 日本畫, 御物, 青嶽山水圖, 故山岡米親筆, etc. Lists various artworks and their creators.

故小山正太郎 故小林清親 故岡田三郎助 五姓田芳柳 合田清 故原田直治郎 故山本秀翠 五百城文哉 故中丸精十郎 故久間文吾 岡田精一 故久米桂一郎 故床次正精 故黒田清輝 故浅井忠 故黒田清輝 故久米桂一郎 故黒田清輝 故湯沢一郎 白瀧義之助 影城貞徳 故本多錦吉郎 渡邊審也 故黒田清輝 北運 故黒田清輝 赤松 故浅井忠

三宅克巳 故浅井忠 岡田三郎助 和田英作 故清水繁 石井柏亭 故河合新蔵 故瀧谷國四郎 高村真夫 橋本邦助 藤島武二 和田三造 鹿子水五郎 故山本森之助 吉田博 故石橋和訓 熊谷守一 中澤弘光 山脇信徳 平岡権八郎 小杉放庵 故萬馬虎次郎 故萬鉄五郎 太田喜二郎 辻永 加藤 永地秀太 故長原孝太郎

故廣瀨勝平 藤島武二 矢崎千代二 丸山晩霞 安井曾太郎 新井忠 大野隆徳 大久保作次郎 山本鼎 故片多徳郎 故關根正二 高間愨七 安宅安五郎 南 繁造 柚木久太 足立源一郎 小柴錦侍 故小出権重 故中村不折 故岸田劉生 故川上涼花 木ト義謙 國枝金三 都島英喜 富田温一郎 藤田嗣治

岡見富雄 金山平三 黒田重太郎 清水貞雄 椿貞雄 故黒山五郎 跡見泰 倉田白羊 鈴木亞夫 正宗得三郎 坂本繁二郎 演田 横井 和田英作 故岸田劉生 熊岡美彦 故岸伯祐三 坂本繁二郎 鈴木千久馬 寺内萬治郎 藤田 故青山 有馬さとえ 河野通勢 田邊至 故前田寛治 岡田三郎助 水孝則 草光信成 小島善太郎 高島達四郎

津田青楓 中野和 中村不折 梅原龍三郎 江藤純平 小杉放庵 小寺純吉 中川紀元 野間仁根 林 松村 三上知治 故前田寛治 猪熊 奥 故古賀春江 小林和 小山 齋藤 故佐伯祐三 鈴木信太郎 和田三造 池部 石川 伊原三郎助 岡田三郎助 木村 見島善三郎 故小出権重 小糸清太郎

中村研一 鍋井克之 長谷川 南 矢島 安井曾太郎 横堀角次郎 故佐分 故三岸好太郎 有島生馬 石井 内田 梅原龍三郎 曾宮一念 高岡徳太郎 東郷青児 中山 福澤一郎 故瀧谷國四郎 山下新太郎 石井 恩地孝四郎 小磯良平 小林徳三郎 清水登之 田口 藤島武二

これは皆杯の餘興の相談所です

凡ゆる演藝界の繁華を誇る弊社が、人氣と笑談を博してゐる専屬技藝員を皆
大衆的なもの、高尚なもの、多種多様な文字通り笑ひと興趣つきな多彩の内容で例
へば落語、漫才の一人或は二人の演藝種目から十数人十数人の一座に至るまで御
希望の陣容で御指定の日時、場所へ出演いたします。

この様な場合
官術、學校の催しに、記念會運動會又は歓迎會の催しや集會、結婚其他の披露宴から一般の宴會、
宴席等々、演藝のデパートメントストア吉本の移動演藝の御利用で愉快に面白く一層意義ある催しに
向商店、會社の宣傳法として、演劇、演藝とのタイアップを御希望の際は、小劇團から大一座の編成
を御相談に應じます。

アストンパデの樂藝演 藝演動移本吉

の御利用を!

目種藝演
客語・漫才・漫談・奇術・音曲・漫遊・
歌踊・日本舞踊・レヂュー・新舞踊・芝
劇・劍戟・ジャズ・民謡・曲技・寸劇・
モダン・コメディ・歌舞伎等々他諸藝
何でも網羅してゐます。

派遣出張先
東京・大阪・京都・名古屋・神戸・横濱・東京
地方・関東・関西・中部・東北・北海道
指定期間
指定期間
定日
定日
日時
日時
場所
場所

御申込みは
吉本興業合名會社の
移動演藝部へ
大阪市南區東清水町三番
電話南(75)四七五八八番
電話南(75)四七五八八番



映畫界

今期の映畫界は稀にみる事件の多きに終始した。しかしかうした事件といひ騒動といふも畢竟するに老舗、松竹キネマを中心とするいはゆる松竹プロックと新進、東寶プロックとの抗争にその原因を有し、スタブ、監督の引きぬきと常設館の奪ひ合ひとは、時にしばしば識者の聲をよびまじりに執拗に、貧乏に續けられたのだつた。

この抗争確執の犠牲となるもの、第一映畫社の解散をはじめ、日活の自潰とそれに次ぐ東寶との提携、一轉して松竹との合流、マキノ・トーキーの潰滅、PCL、JOの記録的擴充その他等々。

映畫そのものをみるに十一年下半年より今年にかけては日本映畫空前の豐作を示し「浪華悲歌」「祇園の姉妹」「愛怨帳」を發表した溝口健二を筆頭に「朱と緑」の島津保次郎、「一人息子」の小津安二郎、「裸の町」の内田吐夢、「大坂夏の陣」の衣笠貞之助ら、質量ともに優れた諸監督の燦然たる功績を讀へずにはゐられ

ない。外國映畫では依然としてフランスのジュリアン・デュヴィヴィエが傑出したほかは例年に比して格別の變化はなかつた。

内務省、外務省等の官廳の映畫への關心は今期において著しく高まり、國際文化振興會、國際映畫協會の積極的活動は、或は「鏡獅子」「現代の日本」以下の宣傳映畫の製作となり、映畫年鑑の發刊となり、更に文化映畫強制上映への一段階としての検閲料免除案成立、優秀國産映畫奨励策としての検閲料免除等々となつて世人の注目をあつめた。

これに關聯して映畫検閲の標準は必然的に嚴格となり、外國映畫に「検閲拒否」「本國送還」の憂目をみるものも激増したこと、今期にまさる時期はなかつた。

なほ十二年六月以後は、折柄の北支に於ける慌しき風雲とともに各社とも軍國主義的映畫の製作に馬力をかけ、ニュース映畫は殆ど狂熱的に迎へられて漸く映畫と民衆とは本格的に結ばれやうとして來た。

▽今期の主な優秀映畫
【日本映畫】「祇園の姉妹」(第一)「愛怨

映(新興)「裸の町」(日活)「春娘」(日活)「荒城の月」(松竹)「大坂夏の陣」(松竹)「新しき土」(フランク)「一人息子」(松竹)「淑女は何を忘れたか」(松竹)「股旅一夜」(日活)「見いもうと」(PCL)「彦六太」(笑ふ)(PCL)

【外國映畫】「女だけの都」(佛フェエデエ)「我等の仲間」(佛デュヴィエ)「失はれた地平線」(コロムビア)「テキサス決死隊」(パラムウント)「噫初戀」(メトロ)「この三人」(ユナイテッド)「目撃者」(RKOラヂオ)「化石の森」(ワーナー・ナショナル)

主な出來事

(昭和十一年七月—十二年六月)
【七月】三映社が配給した朝鮮で製作の半島トッキーは東京では無事に上映されたが大阪では内鮮融和に支障ありと見なされて上映禁止となつた
○中里介山氏の「大菩薩峠」は日活の手により第一第二兩篇が映畫化された後、原作者の横暴甚だしき故を以て以後の製作は中止されるに至つた
○新興キネマの本奉攝影所で一日の夜火を發しステイヂ約三百坪を烏有に歸した○外務省文化事業局と松竹との提携によつて海外に送るべく撮影された菊五郎の「鏡獅子」は試寫の結果餘り良好ならずと見られ、遂に輸出は見合せるとなつた○滿洲國政府は國策映畫製作のため研究委員會を組織し本年中に國策映畫製作所を建設するプランを發表した、なほ委員長は關東軍第二課長武藤中佐である
○朝日新聞ニユース映畫班と中華民國國民黨中央

萬部映畫撮影所との間にニュース・リール交換契約が成立し、南京中山路の新映畫劇場に初めて日本のニュース映畫が上映された。

【八月】日活では別動隊として資本金三十萬圓の日活現像株式會社を創設する旨を発表した。○歐米映畫界視察の途にあつたP.O.L.常務取締役大橋武雄氏が八日歸朝した。○ジョセフ・フォン・スターンバーグ監督が二十一日突然ブレイク・ド・クラツツで來朝してファンをびつくりさせた。同監督は折柄滞日中のアーノルド・ファンク博士と對面したり、監督協會の面々と對談したり、相變らず賑やかな話をしてゐた。○大活、日活を経てP.O.L.に特殊の魅力を感じられてゐた俳優宇留木浩が突然心臓麻痺で逝去した。行年三十四、P.O.L.で社務が営まれた。○ベルリンのオリンピック大會のニュースは對々に賣らされて日本中にオリンピック熱を煽り立てた。○大日本活動寫眞協會の調査によると十年度の封切作品を巻別にする。○次のやうな数字が現れた。五巻以内(二十一本)五巻(九本)六巻(三十一本)七巻(八十五本)八巻(百四十九本)九巻(五十五本)十巻(五十三本)十一巻以上(四十二本)これによつてみるも七、八、九巻のといふのがハリウッドと同様日本でも一番数の多いといふことがよく分る。○從來別個的存在として警戒されてゐたP.O.L.、J.O.、東寶の三社が大日本活動寫眞協會に加盟した。【九月】かねてからの存続を危ぶまれてゐた第一映畫社が遂に解散の土壇場に追ひ込まれた。その遺産は次のごとく、撮影所は新興キネマ第二スタジオとして明け渡し、監督伊藤大輔は松竹京都スタジオへ、藤田健二は新興東京スタジオへ、山田五十鈴は新興京都へ、月田一郎はマキノ、夏三

大二郎は松竹大船へそれ／＼身賣りすることゝなり、社長永田雅一氏は新興京都撮影所に乗り込んだ。○常務取締役堀久作氏の背任横領暴露とともに一氣に破綻への路を邁進する。日活は殘留重役の窮餘の一策として太泰發聲株式會社の委任經營といふことになり、翌々二十五年の大日活の歴史はひとまづこゝに幕を降ろすことになつた。○ノーマ・レナールの夫君でありアメリカ最古のブロードウェイの一人であり現在は大メトロ・ゴールドフィン・メイヤを背負つて立つてゐたアーヴィン・サルバーグ氏が突然病歿した。行年三十七、ハリウッドは最も惜しむべき人材を失つたわけである。○内務省映畫檢閲課では外國映畫の檢閲強化を凝議し、新たに館林事務官を檢閲主任に任命して合同檢閲により舊來の弊害を一掃、「軍隊の喜劇化」宮廷の繁華「濃度の煽情」などの場面は徹底的にハサミを入れる根本的の原則を樹立した。この結果パラマウントの「姫君海を渡る」のごとき日本人探偵の輕侮的アクションのゆゑに無幾の毀損を被つた。○鈴木博明が敗戦の身をハリウッドに現した。【十月】埋蔵取締役の背任事件、七百萬の負債整理などで太泰發聲株式會社に委託經營されてゐた日活は一部債権者から破産の申請を起されたりなどして前途極めて暗澹たるものがあつたところ。同社に對して二百萬圓以上の貸付金回収不能で悩んでゐる千葉合同銀行の債権を意外にも大谷竹次郎氏が個人の資格で譲りうけることによつて局面一轉、松竹、新興とともに新たに日活といはゆる松竹キネマ株式會社に姉妹會社である松竹興行株式會社を併合することになり兩社それ／＼臨時株

主總會を開いて付議可決した。これにより松竹キネマは十二年度から約五十萬圓の資本金となるわけである。○日本監督協會では第一回の表彰として第一映畫社「紙團の姉妹」の作者溝口健二氏に協會賞を贈り、なほ次回からは金一封(五百圓限度)を贈る案を樹てた。○十年度の内務省映畫檢閲取扱件数が発表された。それによると總數二萬一千七百五十五件で過去の記録はこゝに一新され常設館數も九年度の千五百三十八に四十八も増加してゐる。但し觀客數は九年度に比して東京約百八十萬、大阪約三十萬の減で、十年度の不況の相當に深刻だつたことが窺はれた。【十一月】日活更生に乘出した大谷竹次郎氏は横田永之助氏と京都に會見し、後任重役の監考方を一任した。よつて横田氏は關係方面と風重審議を重ねた結果、太泰發聲側の意向も參酌して取締役會長坂田、社長森田佐吉、副社長石井常吉、相談役横田永之助、大谷竹次郎、松方乙彦、池永浩久を選定これを臨時株主總會で付議決定することゝした。○陸胎事件で先に懲役二年を求刑された新興キネマ女優志賀隆子の判決が言渡され結局執行猶豫三年といふ恩典が與へられて彼女は感激に咽んだ。○暫らく空位のままであつた新興キネマの社長椅子に白井信太郎氏が新任し副社長は堤氏の代りに城戸四郎氏が乘出した。堤氏は監査役を承はつた。○内務省社會局では全國農漁村の青年女子慰安の目的から日本社會事業協會と結び「娛樂映畫協會」を設立、東京發聲代表者重宗務氏が十萬圓を出資して理事長に就任の上年十本この種の目的に副映畫を製作して全國農漁村で無料公開することゝなつた。○大日本天然色トニーキ映畫會社といふのが生れ

て月形龍之助主演で製作が始まりその成果は注目されてゐる。○松竹の日活への接近に對して東寶系では吉本興業部と提携、吉本プロダクションを起してP.O.L.と共同の上年五本の映畫を製作配給しようといふのだ。○新興大泉の應援を得た鈴木重吉監督は李君と共同で半島話トニーキを製作するため朝鮮に赴くことゝなつた。

【十二月】新興キネマ副社長に就任した城戸四郎氏は社運の打開策の一つとして阪妻プロと高田プロの解散を要求し、その上で阪妻と高田の個人的入社を希望した。○市川右太衛門プロもまた松竹キネマからプロダクション解散の要求を受け、これを素直に受容れるとともに右太衛門個人は新興キネマの専断スターとして入社した。○極東映畫は財政難でガタついてゐたが新資本家が登場し、赤坂、小林、神田氏らが取締役に新任の上、未拂金を整理し新作物にかゝることになつた。○東寶系では松竹が等閑に付してゐた東京江東方面の娛樂未開地に着目し資本金百萬圓の江東樂天地と稱する株式會社を創立、定員千名名の映畫部二つのほか約五千坪に及ぶ娛樂場をも併設することゝなつた。○早川雪洲に返り咲きの春が來た。「新らしき土」に出演したのが縁となつて昔は關係深かつたフランスの映畫から再招請の便りが出て彼地でアナ・ベラと共演する話が纏まつた。○メトロ映畫の傑作と稱された「戦艦バウンテイ號」に引續いてRKOの「ヘンリーの物語」「メアリー女王」が同じく檢閲却下になつた。○ファンに失望を與へた。○日活の二枚目沖悦二が十三歳の若さで心臓肥大症のため長逝した。○本年度の洋畫封切總數は三十五本で前年より三二本の増加、うち歐州物は五十

五本、残り殆んど米國物

【一月】東寶インフレは映畫興行界にも響いて新春の各館は三割増収と昨年の正月興行よりは大ニコ／＼。○大藏省が今議會に提出する改正關稅案の中に生フィルムを増課税率約十割が含まれてゐるのに吃驚した各映畫製作會社では大日本活動寫眞協會や大日本映畫協會の名においてこれが絶対反對を聲明した。○邦畫の海外進出に努力してゐる國際映畫協會は今年度の事業として次の三項目を決定した。(一)日活プロダクションの開かれる國際の具體的提携。(二)今夏五月ローマに開かれる國際映畫協會第五回會議に初めて参加出席して教育映畫の關稅免除、條約加入などの重要議題に發言する。(三)アメリカカロナセルズに映畫アタッシュを常置して相互の映畫輸出入の利便をはかる。同協會が六萬圓近い製作費を投じて藤田嗣治畫伯と鈴木重吉兩氏に委嘱して製作した「現代の日本」は俄然成績わるく各方面から罵聲を浴びて立往生してしまつた。○おめでたいお正月、方々に結婚行進曲が奏でられて景氣がいゝ、まづ藤原釜足は澤村貞子と、成瀬巳喜男は千葉早智子と、關西では坂東好太郎と飯塚敏子が婚約を発表、高田浩吉と安橋照子、坂東好之助と井上久榮の結婚話も數月を出でずして結實の豫定である。

【二月】P.O.L.とJ.O.とを抱いた東寶の陣容充實策は漸く徹底化し、まづ獨立プロ解散の高田松を單獨でP.O.L.に入社させ、「新しき土」のヒロイン原節子とその義兄熊谷久虎(監督)をJ.O.に奪ひ、日活の岡譲二、小林重四郎、渡邊邦男(監督)をそれぞれ奪ひとつて映畫界の波瀾高まる。○RKOの「スコットランドのメリー」が檢閲を拒否されて本國に

送還された。○滿洲國國策映畫製作所では日本常業者から五名の顧問を迎へ来る五月に開始する事業につき本格的協議をすゝめ、まづ新京はか／＼所に大スタジオを建設、速次の劇映畫を完成する案をたてた。○い／＼と騒がしい人氣に惹かれたアーノルド・ファンク博士が十二日東京駅を發つて歸國の途に附いた。原節子は豫定通り復發することになつた。○松竹興行とキネマとの合併から當然人員整理あるべきを見越して關西松竹系従業員たちが、物價高に伴ふ給料の自發的値上げを要求し一時不穩の徴があつたが會社がこれを受け付けずウヤムヤのうちに静まつてしまつた。

【三月】東寶プロダクション對松竹プロダクションの抗争いよいよ熾烈となり映畫界は前古未嘗有の大騒動となる。○松竹京都映畫「大坂夏の陣」の姫路白鷺城ロケーションにおいて事故突發。國寶毀損、燃發物取締違反の問題を惹起し、更に負傷者の一名が死亡して過失致死罪までが成立するに至つた。○經營難に陥つてゐたマキノ撮影所が開鎖した。これに續いて殆ど恒例ともいふべき従業員に對する未拂給料問題も起つた。○東京發聲の録音とM.G.M.の日本版の製作とを事業の主要目的とするK.S.T.トニーキ製作所誕生。○「新しき土」のベルリンにおけるプレミア・レヨウが盛大に舉行されファンク博士の挨拶、原節子の出場などに人氣をあふた。○早川雪洲がパリで製作中の「ヨレラ」は毎日的内容ありのゆゑをもつて内務省警保局から撮影中止方警告された。但し製作側では何らその非を認めず引きつゞき製作にいそしんでゐる。○東京の映畫觀客數十一年度一年分の統計が発表された。四千五百五十四萬六千八百二十八人、平均入場料二十八錢、一年一人の

入場回数六・八四、平均支拂料金一圓八十錢、監視
團興行係發表○栗島すみ子が十七年間のスクリー
ン生活を清算して大船を退いた○大河内傳次郎、黒
川彌太郎、花井蘭子らがスクリプトで日活退社を決
意、これと呼應して設立のはるがPCLに入社、日
活ではその對策として片岡千恵蔵の單獨入社、阪東
妻三郎の入社を發表して意氣大いに揚る

【四月】松竹キネマ株式會社は合併後最初の株主
總會を開き下半期決算を承認、利益金百六十六萬餘
圓と發表された○日活に寶塚少女歌劇の人氣者藤
夕起子が引きぬかれて入った○東寶と東京發聲と
の配給契約成立○國際映畫協會ではロサンゼルス
とパリに出張所を設けるために近隣主事を出張
させた、なほ五萬五千圓の巨費を投じて物した藤
田治郎伯、鈴木重吉監督による「現代の日本」は
その出来上り頗る拙劣、各方面の非難を浴びたがこ
のほど美術批評家協會によつて國辱に非ずの判
定を受け議者を面會させた○松竹大船撮影所大道
具部屋から失火、損害約三十萬圓と推定された○世
紀フオックスの製作者ソル・エル・ワッツェル
氏來朝、京都スタヂオを見學して上海へ、またかつ
てユニヴァーサルにあつたパウル・フェヨス監督
もインド旅行への途次日本に立寄つた○京都松竹
座舞台裏から出火して忽ち全焼、損害約七十萬圓、
その代館としては京極映畫劇場が選ばれた

【五月】東寶映畫配給株式會社社長として對四社
と花々しい引技戦をやつてゐた小林一三氏は突然
「映畫界は下劣なり」と稱して第一線から退いてし
まつた○さきに日活を退いた今井理輔氏は今井映
畫製作所を設立、資本金二十萬圓三流クラスの映

畫を月三本位づつ製作して東寶系で配給する○日
活映畫「巻紙」が台湾で上映を禁止された、日本映
畫が同地で禁止の憂目のみたのはこれを以て嚆矢
とする○映畫教育の徹底を期し全體的にこれが指
導統制を行ふ機關として映畫教育中央會が生れ、會
長河原前文部次官、副會長小川社會教育局長が就
任、理事として犬養健、松本學、山折儀重、栗屋
謙、三島子、大村警保局長の諸氏が決り、各道府縣
六大都市に聯盟團體を作つて中央會作成のファイル
ムを配給する豫定、既にストック十六本が用意され
た○物價高に伴ふ給料値上げ各社に波及する

【六月】資本金三十萬圓の朝日映畫製作所が創立
さる、これによつて朝日新聞社映畫部の事業は完全
にPCLから獨立されることになつた○前マキノ
支配人宗田政雄氏が新たに資本家を擁してイギリ
ス・グロモン・ブリヂツェン映畫の本邦配給権を獲
得、七月早々に十數本が輸入されることになつた
○東京發聲がかつて二十萬圓を投じて建設中だつ
た世田谷谷區の新スタヂオが竣成した○映畫統制
計畫に含まれてゐる國產優秀映畫奨励策の具體的
現れとして日活の「眞實一路」の檢閲料三百五十圓
が免除された、この企ては各方面に評判が頗るよか
つた○プラチナ・ブロードの妖姫として謳はれた
MGMのスター、ジーン・ハロウが尿管癌によつ
て他界した、行年二十六○昨年新興キネマで「櫻の
園」を完成以來助腕を病んで帝大内科に入院中であ
つた村田實監督が二十六日つひに永眠した、この映
畫界の大先輩のために映畫監督協會では最初の協
會葬としてしめやかな中にも賑はしい葬儀を執り
行つた○十二年度上半期の洋畫封切数は百六十三
本で前年同期に比べると九本の減少、この最高はコ

ロムビアの二十六本で最低は東寶輸入の歐洲もの
三本、なほ九本減少の原因は全く日本映畫の進出に
よること勿論である

劇壇

前期の歌舞伎は振はなかつたが今期も舊態
依然、中心勢力となつて活躍しなければなら
ぬはずの菊五郎が「廿四孝」の八重垣姫や「め
組の喧嘩」などを繰返し、時に新しいものと
いへば心境の小品の「入れ札」などを再演して
自己満足をしてゐるやうな程度で問題になら
ず、前年まで焦慮の吉右衛門はやうやく野心
を思ひ止まつて、元の般に逼るせんとするの
形は淋しき限りである。本興行における左團
形も振はず、たゞ自由劇場再建の前觸れのみ
が一縷の希望を抱かせ、上演脚本の作家も指
定發表されたが、準備上作が慎重で豫定通り
に公演されるかどうか分らぬ舉行であり、
全般的に觀て、これら歌舞伎の大立者の東京
出演回数が、だん／＼減少の傾向のあるのは
今後の歌舞伎の立場を暗示してゐるやうであ
る。關西歌舞伎に至つては氣息奄々、本城大
阪劇壇明渡しの形は哀れである。

新派は例によつて觀客を集めてゐるが、藝
術的に行き詰りを來たして女形と立役との對
立問題など、内部的に改新の問題が迫つて來
てゐる。そんな裡にあつて新興的演劇の活躍
はや、目覚ましい。井上正夫一座の中間演劇
青年歌舞伎出演の新宿第一劇場で「實録先代萩」の乳
人淺岡を勤め、改名披露をした(一日)・當年七十六
歳、歌舞伎俳優中最古參の尾上菊三郎は同月の歌舞
伎座番付面に役名を載せたのを最後に六十餘年の舞
台生活から勇退(一日)・長年小芝居に轉々としてゐ
た梨園の名家岩井兼三郎は十餘年振りで元の菊五郎
の傘下に歸り、歌舞伎座へ出勤した(一日)・寶塚國
民座解散以來舞台を遠ざかつてゐた新劇界の先驅森
英治郎は、今度古川緑波一座へ幹部俳優として加入
出演した(一日)・先きに東寶入りし決定した中村福
助は、東寶劇團の京都寶塚劇場へ初出演した(一
日)・大阪歌舞伎の名門市川右團次は去月二十三日
腸瀉血で卒倒、阪大病院で手當午後九時十分永眠
享年五十六(三日)・大阪朝日會館十周年記念として
新協劇團は「轉々長英」を、新築地は「守鶴奴」を、地
元の大阪協同劇團は「異町」を持寄つて三日間、新劇
の共同公演を開催(二十日)

は一寸モタレ氣味であるが、新國劇が「勳章」
上演以來、澤正時代と一色違つた文藝作品を
取りあげて、興行的にも演劇的にも成功を納
め活氣を帯びて來たのは注目し値する。新
協劇團、新築地劇團が惡戦又苦闘、不相變不
退轉の努力を續けてゐるのは敬服のほかにな
い。前進座は演劇的にはあまり足跡を残さな
かつたが、東京近郊に問題の演劇映畫研究所
を建設して明日の飛躍を期待させた。

主な出來事

(昭和十一年七月―昭和十二年六月)

【七月】新國劇は想ひ出の新橋演舞場で澤田正三
郎追悼公演をした(一日)・昨春四月以來急性白血症
に罹り、帝大病院に入院中の新築地劇團の藤田瀧
雄(山本安英の夫)死去、享年二十九(五日)・一時劇
界の花と謳はれた尾上菊枝こと近藤幸士子(二十
三年)は、能狂言界の元老野村萬齋氏の次男萬助
氏(三十六年)と上野東照宮で華燭の典を挙げた(七
日)

組織の劇團新喜劇の第一回公演が、日本劇場のア
トラクションとして開演された(二十一日)

【十一月】今年三代目中村歌右衛門の百年忌に
當るので、當代中村歌右衛門と中村吉右衛門の兩優
が十月二十六日、その記念碑を池上本門寺の境内に
建てたに因み、三代目歌右衛門建碑記念興行が歌
舞伎座で東西歌舞伎の幹部俳優を網羅して花々しく
開演された(一日)・中村時藏の子息四人が中村種太
郎、梅枝、綱童、錦之助の藝名で歌舞伎で初舞台を
踏んだ(一日)・左團次上演用の新作戯曲として應壽
入選した今村伸一郎作の「月ヶ城」一幕は、東劇で上
演されたが凡作で失望させられた(一日)・東京松竹
少女歌劇の秋の運動會が豊島園に催され、水の江
瀧子は競技中轉倒して足首を捻挫して入院(八日)・
古川緑波一座に加入した森英治郎は、松竹家庭劇へ
轉向、中座の二の替りから出演(十八日)・築地小

【八月】石井漢の實妹の女流舞踊家石井映子は急
性腹膜炎で永眠、享年二十五(十一日)・東寶で新

【九月】ムーラン・ルージュを脱退した阿木翁助
ら十五人は新喜劇を結成、吉本興業經營下に淺
草觀音劇場で旗揚げをした(一日)・同月有樂座で
單獨公演を行ふ豫定であつた水谷八重子の藝術座
は、東寶より東寶劇團との合同協力を提議された
が、脚本その他の問題で遂に纏らず、藝術座は井
上一座に合同して東劇に出演、有樂座は東寶劇團
で開けた(三日)・新協劇團はゴールキー追悼公演
として「どん底」四幕を上演、新築地劇團も同じ趣
意で九月十八日より「エゴール・ブルイチョフ」三幕
で開演した(三日)・來朝中のアメリカの劇作家エ
ルマー・ライス氏歓迎の茶話會が、文藝家協會劇作
家部、大日本俳優協會、新劇俱樂部その他演劇團體
の合同主催で早稲田大隈會館で開かれた(四日)・尾
上菊五郎一座の尾上登十郎は、胃腸のため正月以來
療養中逝去した、行年五十四、故人は村田嘉久子、
みね子、竹子三姉妹の兄に當る(七日)・先きに東京
松竹少女歌劇を脱退した春岡すみれ、三橋蓮子の跡
を追つて、同じくダンシング・チームの中座の月島
春子と葉村みき子は、女生徒の編成組習の不平不満
から松竹を脱退、日本劇場のダンシング・チームへ
入つた(十三日)・寶塚少女歌劇の作家宇津秀男は舞
踊及び音楽の視察研究のため神戸出帆アメリカへ派
遣された(二十四日)

【十月】先代左團次の胸像が明治館内に建設され
三十三回忌の追善興行が花々しく行はれた(口上)の
「仕初式」は大變珍しがられた(一日)・市川松延は養
家市川左團次家を去つて數年になるが、今度藝名と
定款を左團次に返し元の澤村訥升に返ることになり

劇場創立以來、劇團員として新劇運動に精進して来た小野宮吉は病氣療養中午前三時逝去、二十五日築地小劇場葬として築地小劇場で執行(二十日)。

【十二月】文藝懇話會賞を獲得した徳田秋聲原作「勳章」二幕が、新橋演舞場の新劇で上演されて好評(一日)。

【一月】吉例の東京松竹少女歌劇京都南座公演が大坂歌舞伎座と提携し、負傷療養中の水の江瀧子も出演(一日)。

開演(二十八日)・國聲文化振興會主宰の下に一時春來計畫されてゐた尾上菊五郎一席の歌舞伎歐洲興行問題は、近衛文磨公を會長とする後援會側と松竹側との契約調印の間隙に至り「芝居の慣習による費用の前拂要求によつて交渉不調、計畫一切の正式中止を内外に聲明するのやむなきに至つた(二十八日)。

【二月】新派創立五十年記念興行が東京新派俳優總出演の下に歌舞伎座で花々しく興行された(一日)。

【三月】新劇は二十周年記念興行と銘打つて東京劇場に初出演した(一日)。

に揉んだ帝國藝術院の新會員が文部當局から發表されたが、劇壇關係からは岡本綺堂氏一人が入會、一時噂のあつた中村歌右衛門、松本幸四郎、市村羽左衛門らが除外された(二十三日)。

狂言一覽表

- ◇七月一東京歌舞伎座「天龍一葉舟」(松浦の太鼓「橋辨慶」お祭佐七)(羽左衛門、三津五郎、仁左衛門、吉右衛門、時藏、幸四郎)。

水谷八重子は、先頃東寶入りした映畫俳優藤田謙二、小林重四郎と合同共演(三日)。

【四月】東京歌舞伎座は第二回の團菊祭に開演(一日)。

【五月】大坂における三批歌右衛門百年追善記念興行のため、中村歌右衛門は十数年ぶりで大阪歌舞伎座に出演(一日)。

◇八月一東京歌舞伎座「虹物語」嬰兒脱し「森の石松道中記」(猿之助、八百藏、時藏)。

- ◇九月一東京歌舞伎座「天龍一葉舟」(松浦の太鼓「橋辨慶」お祭佐七)(羽左衛門、三津五郎、仁左衛門、吉右衛門、時藏、幸四郎)。

【六月】今月の東京劇團は井上一座が東京劇場で「地獄」前進座が演舞場で「初戀と「鴨神」新劇が有樂座で「坂崎出羽守」と「人生劇場」で、やゝ活氣ある観演を展開した(一日)。

のまに動く男「新好風雲城」(金井修一)座。大阪
劇場。京都南座。秋される罪「鬼すゝき」(馬路
坊)夕立(俳優學校劇團。關西新派協演)。寶塚大
劇場。太夫傘「船舞」(ラ・ロマンス)(雲組)

◇九月一東京歌舞伎座「暹羅船」(壽式三番見)「重
の井子別れ」(横森の石松道中記)猿之助、男女、
舞玉。東京劇場「紙幣」(二等舞台)「武器なき人
人」(藤系)井上、八重子合同。明治座「廿六號
道」(人生の白かけ)「響」瀧の白糸(喜多村、伊志井
英、藤村、河合、花柳、柳、大矢、小堀)。新宿第一劇場
「浪人俱樂部」(牛盗人)「色彩間道」(伊勢音頭)「我
雷」高助、高助、鶴之助、松尾、勘助。新橋演舞場「灯
ともし頭」(約束手形)「大津の又平」(日露の家)「袋
屋」(曾我廼家五郎)「有樂座」(宮本武蔵)「三社祭」
「よるさ」と「老談美代吉」(東寶劇團)。東寶劇場
「運月尼」(永遠のワルツ)「今様羽衣」(騎騎兵と蒼
鷲)(星組)。新協演劇「どん底」(新築地劇團)「エ
ール・ブルーイチョウ」(未明座)「木賦
の秋」(茶海)「松男海太郎」(大阪歌舞伎座)「仇
討禁止令」(海の兄弟)「小平次神樂」(歌舞)「新國劇」
・中座「街のオリビック」(流轉)「灯取」(後
家の心)「谷底の花」(松竹家劇團)「浪花座」(宮本
武蔵)「色菊豆」(生きてゐる小平次)「伊勢音頭」(扇
雀)成太郎、菊次郎、小太夫。角座「東海美女傳」(吉
岡先生)馬市の秋「離別」(關西新派)・文樂座
「東海美女傳」(玉葉前)「極彩色扇」(扇雀)成太郎、
取千兩(人形浄瑠璃)・大阪劇場「ハッピーエ
ール」(松竹少女歌劇)・神戸松竹劇場「草履」(何其色
馬神)「盛綱陣屋」(大石最後の日)「乳房」(壽三郎
延三郎、延若)

「馬路獅子」(三社祭)「雪地獄」(乗合船)(菊五郎、友
右衛門、桑三郎、三津五郎、吉右衛門、時藏、彦三
郎、宗十郎)東京劇場「たち」(家庭晴雨計)「新
寶塚」(風流深川)「喜多村、伊志井、英、藤村、河
合、花柳、柳、大矢、小堀、嘉久子、佳子」・明治座先代
左團次「胸像建設記念興行」(基盤忠信源氏)「慶安太
平記」(神靈矢口渡)「仕初式」(連獅子)「黒手組助六」
(羽左衛門、猿之助、仁左衛門、左團次、三升、松
島、幸四郎)・新宿第一劇場「ひらかな盛衰記」(橋
渡)「口上」(寶塚先代)「生玉心中」(赤坂並木)「我
賞」(段四郎、鶴之助、松尾、勘助、高助、高助、
勘助)・新橋演舞場「そら舞」(十六夜)「ロマンス
・パレード」(東京松竹少女歌劇)・有樂座「海抜三
千尺」(ハリキリボーイ)「彼女をめぐる」(キャンダ
内山宗俊)「古川緑波」(小秋千代子、杉狂児加
入)・東寶劇場「太夫傘」(船舞)「ラ・ロマンス」(寶
塚少女歌劇)・新協演劇「轉々長英」(大阪歌舞
伎座)「新橋」(元祿忠臣蔵)「高堂の秋」(保名)「月
源」(梅玉、長三郎、菊文、市藏、船車、延三郎、多賀之
郎、芳子、嘉三郎、延若)・中座「紙幣」(夜中から朝ま
で)「兄いもうと」(産大)「大い」(新道)「井上、
八重子合同)「浪花座」(道行念玉)「囃みついた娘」
「勸進帳」(人斬り伊太郎)「前進座創立五周年」(第十
回道)「進出記念公演」(角座)「警者と商人」(児
殺)「夜霧朝露」(丁半層)「關西新派」(文樂座)「花
鏡四季書」(長辨杉)「舞臺上使」(心中天網島)「釣女」
(人形浄瑠璃)・大阪劇場「ふるとの」(大阪松竹
少女歌劇)・神戸松竹劇場「宮本武蔵」(がさね)「堅氣
街道」(梅久末松山)「戀小扇」(扇雀)成太郎、
菊次郎、小太夫。寶塚大劇場「あむり寺」(女車曳)
「ゴンドラ」(寶塚月組)

◇十一月一東京歌舞伎座「三代歌右衛門建碑記念
興行」(熊谷陣屋)「關ヶ原終曲」(口上)「双面」(段島招
拾)「繪本太功記」(其小眼夢)「堀川」(芝翫)「
(歌右衛門、三津五郎、梅玉、羽左衛門、友右衛門、
多賀之郎、宗十郎、菊五郎、仁左衛門、吉右衛門、
時藏、魁車、左團次、三升、彦三郎、幸四郎)・東
京劇場「其盤太平記」(月ヶ城)「高野物狂」(長崎土產
唐人話)「三代目親分」(左團次、松島、猿之助、菊文
多賀之郎、延若)・明治座「生ける聖母」(熊の胆)「當
世女大學」(朱と緑)「井上、八重子合同)・新宿第一
劇場「國定忠次」(捕獲の家)「風雲地獄」(新國
劇)・新橋演舞場「吉野の盜賊」(囃みついた娘)「勸
進帳」(浮名三味線)「前進座」(有樂座)「ボーイ」(興
隆經濟學)「吾掛時次郎」(東寶劇團)・東寶劇場「ハ
ッピープリンス」(汐波五人娘)「ラ・ロマンス」(花組)
・創作座「大地」(新協演劇)「新築地劇團」(女人
哀詩)・大阪歌舞伎座「廿六號道」(人生の白かけ)
「續々二筋道」(風流深川)「喜多村、伊志井、英、藤
村、河合、花柳、柳、大矢、小堀)・浪花座「續々木武蔵」
「盛綱陣屋」(色菊豆)「雪地獄」(乗合船)「扇雀」
成太郎、延三郎、小太夫、角座「地下室の午後」(生け
る聖母)「浮名三味線」(關西新派)・文樂座「盛綱
陣屋」(馬方丑五郎)「堀川」(中將蝦蟇)「赤坂並木」
(人形浄瑠璃)「前進」(中座)「南地名妓の所作事」(秋季
大演習)・寶塚大劇場「紅日傘」(松島、松島、松島、
ビーの結婚)「星組)

江戸八景「ラ・グラナダ」(東京松竹少女歌劇)・明
治座「パリの青春」(三等局長)「新月抄」(井上、八重
子合同)・新橋演舞場「草三と四郎」(勸進帳)「女優奈
奈子の審判」(新國劇)・新宿第一劇場「賑かな街の行
進」(最後の傳令)「中山安兵衛」(大學)「エノケ
ン」(有樂座)「浮城」(學生)「女夫錢」(戀の
カレンダー)「歌」(金色夜叉)「古川緑波」(一)・東寶
劇場「はやがた」(紅葉)「一年を語る」(月組)
・新協演劇「昆蟲記」(大日本俳優協會第二回演劇
會)「宮島だんまり」(槍踊)「上」(探偵)「一條大藏
」(歌)「天下茶屋」(島衛)「落人」(歌舞伎)「新派
合同」(於歌舞伎座)・大阪歌舞伎座「袋の風」(扇
雀)木「山の兄弟」(若き妻)「曾我廼家五郎)・中座
「ハヤミ」(浮城)「白粉をぬる母」(丘の一本杉)「狂
言七日間」(松竹家劇團)・浪花座「義経千本櫻」(藤
十郎)「戀」(色山賊)「扇雀、成太郎、嘉久子、延三郎、
小太夫)・角座「轉々く」(曾我廼家五郎)「市川新升」
「旅の風来坊」(すむらじ劇團)・南座「響」(一)「象
引」(歌舞伎)「盛綱陣屋」(修禪寺物語)「三千兩賣
金」(一夜の部)「繪本太功記」(繪屋おせん)「壽式三
番見」(大石最後の日)「興話浮名横濱」(風流河
原の舞衣)「羽左衛門、猿之助、仁左衛門、梅玉、魁車、
左團次、松島、三升、幸四郎)・寶塚中劇場「野狐」(星
空の眼)「蘆刈」(セレーナ)「(雲組)

◇一月一東京歌舞伎座「天神記」(二枚錦)「鎌倉三
代記」(春日龍神)「名義石切」(官長屋梅加賀)「落
人」(歌右衛門、友右衛門、宗十郎、羽左衛門、仁左
衛門、菊五郎、三津五郎、吉右衛門、時藏、彦三郎、幸
四郎)・東京劇場「明君行状記」(弓矢太郎)「馬神」(お
くみと與兵衛)「盛綱陣屋」(日高川)「左團次、
松島、猿之助、仁左衛門、三升、幸四郎)・明治座「白

き一頁」(長閑なる結婚)「小春髪結」(想夫憐)「喜多
村、伊志井、英、藤村、河合、花柳、柳、大矢、小堀、紅梅
律子)・新宿第一劇場「酒井の太鼓」(雪の
夜がたり)「乾文」(魚屋茶碗)「夜の部」(將軍頼家)
「大森彦七」(金閣寺)「三人吉三」(小栗橋長兵衛)「我
當、權十郎、新升、榮五郎、高助、福助、鶴之助、段四郎、
勘助)・新橋演舞場「若き妻」(大福帳)「浮城御用心」
「湯の街」(狂い咲)「曾我廼家五郎)・有樂座「左馬
頭源義朝」(懐しき人生)「白浪五人男」(東寶劇團)
・東寶劇場「戀に破れたるサムライ」(ゴンドラ)
(月組)・新築地劇團「ウインザの陽気な女房たち」
・金澤會「からくり人生」(仲間つづれ)・大阪歌
舞伎座「王女とヘテル」(娘氣江八景)「ロマ
ンス」(パレード)「東京松竹少女歌劇」(中座)「花月會
合」(雪夜鐘)「道行」(道行)「玉葉前」
「龍夜の夢」(拍手合)「春」(梅玉、長三郎、船車、源
之助、嘉三郎、延若)・浪花座「草三と四郎」(勸進帳)
「戀」(新國劇)・角座「開に描く」(煙る故郷)「血飛雪
伊血子台」(關西新派)・文樂座「菅原傳授手習齋」
「双鏡々曲輪日記」(三人片輪)「壹坂寺」(人形浄瑠
璃)・寶塚大劇場「雲雀山」(櫻吹雪)「世界の眼」(星
組)

高級特許品

アイデアルカラー ユースカラー

快 適 瀟 酒 經 濟



製造元
三國セルロイド株式会社

彌、成太郎、扇雀)・新橋演舞場「借金四十萬弗」(暫)
 「高翠線の下」文明開化世相(前進座)・有樂座「質屋の娘」上座第一歩「舞ころも」(藝術座)・岡譲三合同)・新宿第一劇場「黄昏の霧」(銀の鼓)・さくら「オペラ・ハット」(東京松竹少女歌劇)・東寶劇場「アルルの女」になひ文「世界の唄」(星組)・新築地劇團「櫻の園」・劇作座「ウイタアセット」・新協劇團「北東の風」・大阪歌舞伎座「新派創立五十年記念劇」口上「美しき白痴の死」浅草寺境内「真寶一路」湯島の境内「良人の貞操」(喜多村、伊志井、英、藤村、河合、花柳、柳、大矢、小堀、伊井、山口、井上、喜久子、紅梅、桂子、壽子)・中座「敵討天下茶屋」祭「元祿時雨笠」(喜三、三香、春雷、喜撰)・船車、喜三郎、芳子、葉之助、段四郎、八百藏、宗十郎)・浪花「逃がした鷹」童貞居士「良人の教育」半島のお婆さん「手」(松竹家庭劇)・角座新派創立五十年「口上」良人の貞操「書生の犯罪」(關西新派)・東寶劇場「千本櫻」沼津「安宅閣」本城下屋敷「(人形浄瑠璃)・大阪松竹少女歌劇「春のおどり」・寶塚大劇場「櫻に破れたるサムライ」マダノリア(月組)

「廓文章」花吹雪清水清文「助六」(我當、訥升、福助、段四郎、高助、鶴之助、勘彌、成太郎、扇雀)・新橋演舞場「東をどり」・有樂座「葉隠記」勸進帳「縁の母」(東寶劇團)・東寶劇場「ブリマドンナ」(ハバさん)「寶塚をどり」(花組)・新築地劇團「藤を往く船」・新協劇團「春の目ざめ」科學追放記「大阪歌舞伎座」根のない争議「紅白餅」二人のアルパム「無軌道の戀」鼻の六兵衛(曾我廻廊五郎)・中座「田舎侍」二月堂「おまへ八郎兵衛」寄戀良釣髭(船車、小太夫、芳子、喜三郎、柳、神村)・浪花「戀愛漫談」良人の貞操「ハバさん行状記」藤明丸本館「朗かな花風景」(松竹家庭劇)・角座「あしへ踊」・文樂座「戀女房染分手刺」逆橋「大捕公」(合邦)「新口村」(人形浄瑠璃)・京都南座「黄昏の誓」さくら「銀の鼓」オペラ・ハット「東京松竹少女歌劇」寶塚大劇場「春のをどり」ブレイユード「ブライア・ローズ」(雪組)

「廓文章」花吹雪清水清文「助六」(我當、訥升、福助、段四郎、高助、鶴之助、勘彌、成太郎、扇雀)・新橋演舞場「東をどり」・有樂座「葉隠記」勸進帳「縁の母」(東寶劇團)・東寶劇場「ブリマドンナ」(ハバさん)「寶塚をどり」(花組)・新築地劇團「藤を往く船」・新協劇團「春の目ざめ」科學追放記「大阪歌舞伎座」根のない争議「紅白餅」二人のアルパム「無軌道の戀」鼻の六兵衛(曾我廻廊五郎)・中座「田舎侍」二月堂「おまへ八郎兵衛」寄戀良釣髭(船車、小太夫、芳子、喜三郎、柳、神村)・浪花「戀愛漫談」良人の貞操「ハバさん行状記」藤明丸本館「朗かな花風景」(松竹家庭劇)・角座「あしへ踊」・文樂座「戀女房染分手刺」逆橋「大捕公」(合邦)「新口村」(人形浄瑠璃)・京都南座「黄昏の誓」さくら「銀の鼓」オペラ・ハット「東京松竹少女歌劇」寶塚大劇場「春のをどり」ブレイユード「ブライア・ローズ」(雪組)



喘息に スペロイン

全國各商店に有り萬
一品切れの節は直接
本舖へ御注文乞ふ

能	効	治	主
氣管支カタル	ぜんそく	ぜんそく	氣管支性
セキの諸症	感	冒	心臓性
	百日咳		



大坂市天王寺區東平野町三
合名會社 東亞藥園
電天寺王四一〇五・振大坂七五一

一日二服 高貴藥配合
價 三十分 六十分 九十分 一圓 一圓二角 一圓五角 一圓八角 二圓

音 樂

山田耕柁、堀内敬三、野村光一の三氏が常務理事として將來の發展のため鋭意畫策した東京音楽協會は三氏の努力により大倉男爵を會長とし、放送協會よりも事業費補助の口約を得たので改組して社團法人大日本音楽協會と改稱、堀内、野村兩常務時代在野の論客として絶えず兩氏の經營に對し論難を加へてゐた伊庭孝を常務とし、増澤健美と共に協會の最高行政に當らしめ、堀内、山田兩氏は身邊多忙により常務理事の位置を退いた。在野時代の伊庭の言論は自身協會常務理事として權機を握る以上刮目して俟つべき業績を擧げるものと豫想されてゐたが、その主張は會員中の演奏者達の喜ぶところとならず、まづ演奏家聯盟の結成によつて一部の人の不信が表明され、續いて放送協會よりの委嘱による合唱聯盟の結成に當つても再び合唱聯盟の背離に會ひ、小松耕輔を理事長とする國民音楽協會と全合唱聯盟との握手を見るに及び、大日本音楽協會首脳部に對する音楽家側の不信は全面的に表示された。これにおいて音楽協會

は敢て去る者を追はず、日本全樂壇の利益となるべき知的、教養的方面の開發を志し、間接に音楽家の利益を計る建前より放送協會の委嘱を受けて音楽用語の調査、統一に着手し文字による音楽文化普及を妨げてゐる難解の譯語、不統一の樂語などの整理統一を策するに至つた。野村光一の常務理事辭任と伊庭孝の死去によつて新に常務理事の補充を行ひ、東京市視學を辭して閑地に在つた田村虎藏を起用し、現在は増澤、田村兩氏が大日本音楽協會の最高行政に任じてゐる。

一方音楽協會と對立の形にある日本演奏家聯盟及び合唱聯盟と合流して新たに組織された國民音楽協會は結成日なほ淺いため未だ見る可き業績を示してゐない。このほか昭和十一年度に結成を見た全關東吹奏樂聯盟があるが、これらは三年後の東京オリンピックを目標とし、先進國ドイツに及ばないまでも東亞の盟主たる日本として恥かしからざる演奏能力を獲得しようとする努力してゐる。

▼演奏(十一年六月―十二月) 演奏會はその數において漸次増加してゐる。しかし質においては必ずしも向上を示すものではなく、

樂家は餘程の名手でない限り極めて少く、特殊の方法で切符を無理に賣つけるもの以外、藝員の盛況を見るものは絶無である。ことに藝術家としての矜持より、研究と練習の功を讀んだりサイタルが多くは主催者自身の損失で終る實情は一部のの人々に演奏會形式の滅亡説をさへ唱へしめるに至つた。彼らはこれを映畫の影響であると説く。この結果はリサイタルを避け、邦樂または舞踊界に多いお淺ひ式の門下生の會の流行となつて現はれ、昭和十年の秋より著しく増加し、昭和十一年度に至つてもこの傾向を持續し、六、七兩月中に柳兼子門下枝音會第一回演奏會、グハベニツヒ夫妻門下オボラ・アンサンブルの夕、シヤビロ門下生第四回演奏會、山口隆俊、山口俊子の双俊會音樂會、津川主下門下生の會、ネットケ・レーヴェ夫人に對する門下生感謝の會などがあつた。リサイタルでは聲樂に太田綾子、關屋敏子、三浦環(三夜)、器樂に鶴淵賢舟渡、歌別提琴獨奏會、ニコルスカヤ夫人と佐藤春日の洋琴獨奏會、木岡英太郎の風琴獨奏會を數へ、來朝樂人では五月廿六、廿九、卅と續けたフランスの提琴名家テイボーが六月に入つても一日、二日と續續して日比谷公會堂でヤノプロの洋琴伴奏で獨奏會を開き、關西における大阪朝日新聞社會事業團主催の演奏旅行を終つて再度入京、六月二十一日の夜日比谷公會堂でロバート・ボラツクの指揮の下

に中央交響楽團の伴奏でモーツァルトの協奏曲第四番、ブルッフの協奏曲第一番を、ヤノプロの洋琴伴奏で小曲四つを演奏、チェロのフオイヤーマンは關西方面の樂旅の後再度入京、六月三日の夜日比谷公會堂でレブナー指揮の下に新交響楽團の定期演奏に出演、パツハのニ短調協奏曲とドヴォルザークのロ短調協奏曲を演奏した。新響はこの外六月十二日と七月十一日にウイーンから招いた指揮者ワルター・ヘルバートの指揮で、プロムナード・コンサートを行ふ予定であつたが、ヘルバート病氣のため六月はこの時の曲目中に出た日本現代作曲家達が自身で指揮し、七月はシフエルブラットが代つた。六月二十四日のこのシーズン最終演奏會では齋藤秀雄の指揮の下にヒンデミットの「彌家マティス」とウエルナー・エツグの「ケオルギーカ」の日本初演を行つた。

三浦環夫人は七月二日の夜友人山本正夫の帝都學園建築費募集と、七月八、九の兩夜品川寺鐘樓再建費募集のため獨唱會を開いたがその前六月二十七日の夜と二十八日晝夜歌舞伎座において伊庭孝演出による歌劇「お蝶夫人」の公演を行つてシーズン末を飾つた。九月より十二月に至る秋の樂季はヘルバートに代つて新響を迎へた指揮者ローゼンシュトック統率の下における新響の活躍を中心として展開された。即ち新響は樂季の初めにおいて伯林フィルハーモニックの例に倣ひ、新

樂季の公演豫定曲目を發表し、第三回ベートーヴェン作品連続演奏を主とし、これに他の作家の作、殊に初演物を配して樂季を開き、獨奏者としてワインガルテン、チエレブニン、マリヤ・トル、豊増昇らの名を得た。このほか日比谷公會堂と東朝社會事業團主催の下に第一回日比谷公會堂、日伊協會その他の後援による日伊音樂の夕にヴェルディの「運命の力」の序曲と「鎮魂曲」の演奏に出演した。外國人ではチエレブニン來朝十月五、七、十の三夜東寶小劇場で、ロシア出身現代屈指のチエロの名手ピアチゴルスキー來朝、十月八、九、十二、十三、十四の五夜軍人會館、終つて大朝社會事業團主催の下に關西樂旅を試み、十一月再度入京四日夜日比谷公會堂で告別演奏をして米國に去つた。フランスの女流チエリスト、アデレ・クレマン九月來朝、舊知山田耕澤氏の斡旋で日佛協會、日佛會館、佛蘭西大使館主催の名目で十一月廿二日夜瀛洲講堂で獨奏會を開いた。在留外國人ではワインガルテン(十二月三日軍人會館)レオ・シロタ(同七日日本青年會館)アンニ・ウイクトリウスのベイトーヴェンの夕(同九日明治生命講堂)ウヰリイ・フライの新響を伴奏とするローゼンシュトック指揮の提琴獨奏會(同二十日)があり、我

樂人では平原謙憲、立松房三村祥子、佐藤千夜子、永田松次郎、柴田秀、中村叔子、蘭田誠一、三浦環が獨唱會、井口基成(洋琴)、井上園子(同)木岡英三郎(風琴)が獨奏會を、ソプラ

ノの武岡鶴代は洋琴の土川正浩と合同リサイタルをした。

歌劇ではヴォーカルフオーアが十一月二十一、二十二の兩夜軍人會館でロッシニの「セヴィルの理髮師」第一幕第一、第二場、ヴェルディの「椿姫」第二幕、プロトの「マルタ」第一幕第一場を公演、小林千代子は村山知義作、飯田信夫作曲の新作歌劇「カチューシャ」初演を十一月十一日の夜日比谷公會堂で行ひ、見るべき記録を遺したに反し、室内樂は不振で僅かにジュビター・コツトテトとDRSトリオが各一回公演をしただけ。合唱は前記日伊交歓ヴェルディの夕における大作「鎮魂曲」が成城學園合唱團其他によつてワイグナーの樂劇「ワルキューレ」と「神々の黄昏」の一部が東京音樂學校によつて演奏され、東京マドリガルクラブの演奏、ルナ・コーラ演奏會演奏、樂團創生第一回公演におけるグワイディエンコ作歌劇「一九一九」中の混聲合唱「車輪」の初演、音樂週間の三萬人の合唱、東京市主催第一回演劇合唱祭(参加團體二十一第一位玉川學園混聲合唱團、朝日新聞社樂祭盃獲得、第二位東京リリーターフェルフェライン、第三位君が代合唱團、第四位東京市教員合唱團)など相當の賑ひを呈し、門下生の會は十四の多き上つた。(十二年一月一五月) この樂季は一月十九日東京市主催の下に日比谷公會堂で催されたドイツ軍艦エムデン號軍樂隊歡迎日獨交歌演

奏會で非公式に翌二十日同所の新響ベートーヴェン・チクルス第七夜によつて正式に開かれた。この樂季の中心となつたのは一月再度來朝二十一、二十二、二十五、二十六、二十七の五夜公會堂で獨奏會を開いたエルマンで、それより大朝社會事業團主催の下に關西の樂旅を終り二月再度入京、十五、十六の兩夜同所で告別演奏會をして上海、南洋に向つたが船の都合で四月三度入京、十二日夜同所で行つた指揮の下に中響伴奏でベイトーヴェンとチャイコフスキーのニ長調協奏曲を弾いた。彼に續いて佛のチエロ名手モリス・アレシヤルが二月再度來朝二十三、二十四、二十六、二十七、二十八の五夜軍人會館で獨奏それより大朝社會事業團主催の關西公演を終り三月十二日の夜日本青年會館で告別演奏をした。三月ジルマルシエツクス來朝、四月より五月に互り回数獨奏、また各大學で講演と獨奏をした。五月ピアストロ・トリオ來朝十五、十七、十八、十九、二十の五夜公會堂で室内樂と各自單獨の演奏を終つて關西公演に立つた。これは東京、關西ともに東西朝日新聞社會事業團主催である。五月二十六日の夜スコットランドの民謡歌手マダム・スマンアが同國固有のハープ伴奏でヘブライド群島民謡のユニークな獨唱會を日本青年會館に開き三十日の夜待望のワインガルトナー博士夫妻が東朝社會事業團と日佛協會主催の演奏會に新交響樂團を指揮して日比谷公會堂の舞台に

立ち、ベイトーヴェンの交響曲、第五、第六及び序曲レオノレ三番を指揮して満場立錫の地もない程つめかけた聴衆を魅了し、歴史的成功を収めた。

この樂季中なほ注意すべきものに二月上野を退いたボラックの告別演奏(四月二十二日夜日本青年會館)がある。彼はシロタの洋琴伴奏でモーツァルトの協奏曲ニ長調。シューベルトの幻想曲、マルクローズの第三協奏曲日本初演の輝かしい記録を樹てた。この外リサイタルを開いたのはロイヒテンベルヒ、高松宮次、井上園子、ワインガルテン、シヤビロ(以上洋琴)藤田経秋(ウイオラ)、木岡英三郎(風琴)、柳兼子、三浦環、齋田愛子、松島詩子、關屋敏子、松原操、岩谷廣子、竹本光江、パウエル(聲樂)らで、歌劇ではヴォーカル・フオーアが五月九日夜日比谷公會堂でレオンカヴァルロの「道化師」全二幕、オツファノンバツクの「ホフマンの物語」第三幕、ビゼーの「カルメン」第二幕を出し、東洋音樂學校はグルツクの「イフィゲニア」を四月十九日夜日比谷公會堂で上演、原信子研究所も扮装付オペラの夕を催した。

三月は各音樂學校卒業演奏を行つて居り、前後して新人紹介演奏を開いたものがあるが、學校の演奏會として東京音樂學校はブリングスハイムの指揮の下に三月マラーの交響曲第七番を演奏、武蔵野音樂學校はパツハの夕を開いた。室内樂中注目すべきものは小

舞踊

倉末とエンケルのソナタの夕、エンケルと福井直弘の同様の催、特殊のものに日本アルプ協會のハープ演奏會があり、また四月二日より公會堂で開かれたメキシコ生れのスペイン舞踊家クキタ・ブランコの舞踊會に出たフランスのハーピスト、ソランジュ・レニエ夫人がある。

音樂會の不入り反し舞踊會はいづれも職員で、その盛んなことは新響の定期演奏、エルマン、ワインガルトナー博士夫妻の演奏會などを除く他の音樂會の及ぶところではない。實質的にお渡へ式のものの多いのはやむを得ないが、その中にも見るべきものが少なくない。各流中では花柳最も活躍し、藤間がこれに次ぎ、若柳には割合に人材が少い。坂東流も少壯者中に進取の氣象に富む人材が現はれ、研究會結成を見るに至つた。その大同團結たる日本舞踊協會は毎年三月と九月末に二回公演を行ひ、東京水木會が近年活躍して來た。このほか新橋東會、柳橋つばめ會をはじめ日本橋、葎町、赤坂など各々大規模の公演を催してその新作に注目し直する物を示してゐる。

西洋舞踊と新興舞踊藝術とに精進し、知識階級の支持の上に立つ舞踊家の一團、石井漢、江口隆哉、山田五郎、藤原静枝、花柳珠實、高田せい子、河上鈴子、藤間勲素娥、林きむ子、西崎縁らの一派は日本舞踊家聯盟を

結成し、紀元二千六百年の東京オリンピックに備へ、國際的に我音楽文化の精華を畫策するに至つた。新作中注目すべきものは、多くはこの聯盟員の手になるものである。昭和十一年六月以後の著しい新作は松實緑の「幻の舞」(平山瀧江作)藤澤芳枝の「名目處女」(土岐善麿作)藤間勘治郎、勳三郎の「唯園と遊女」(西條八十作)で、パリ歸りの小森嬢の發表會で上半期を終り、秋のシーズンには九月下旬公會堂における崔承喜の公演で開かれ、次々に石井小浪の「睡に列む」リズム人形、高田せい子の「祭典」リズム人形、花柳壽麿の「山田長政」(伊庭幸作)河上鈴子の「クレオパトラの幻想」(古き庭)花柳珠實の「舞踊三重奏」同壽美の「神鵲」(里見淳作)江口隆哉の「建設」藤間勘治郎の「片時雨」(邦枝完二作)「生駒物語」(木村富子作)藤澤芳枝の「初しぐれ」メキシコ舞踊ザリーナの諸作品(ホテル演藝場にて公演)等の新作が現はれた。

十二年一月より五月までの新作では藤澤芳枝の「お吉人情本」(岡本文藏作)「大工」(橋本龍溪)「晩鐘」(ミレーの名曲による)石井瀧の「ダンス・メカニク」花柳珠實の「舞踊の舞」(大村嘉代子作)「幻覺の散歩」(神坂の舞)同壽美の「牡丹燈籠」(渡邊順作)栗島澄子の「春琴抄」松實緑の「忠臣蔵」(平山瀧江作)西崎緑の「南北血笑記」(土岐善麿作)矢野文子の「邪教殿の巫」(ダンス・ド・ユニオン)若柳敏三郎の「面二題」(真葛ヶ原(内田水中亭作))、益

田隆の「プロクテンの靈宴」(藤枝の精)、原田佳明の「阿國と山三」(孤)「吾妻春枝の」(かさね)「涙美清太郎補綴」、花柳壽麿の「チベット三番舞」(町田嘉章作)「裸大名」(土岐善麿作)「借空」等注目するもの、または問題作となつたものが多い。このほか近來頗る盛んになつた小唄振、哥澤振に新作の見るべきものがあり、コロムビア新作小唄レコードに振付けた諸家の作品にまたとりくみの妙味ある小品舞踊が少くない。

外人舞踊家では四月二、四、六、八の四夜日比谷公會堂におけるキタ・ブランコのスペイン舞踊公演は特筆すべく、また五月二十六日より三十日まで毎日正午より歌舞伎座で開かれた先代藤間勘治郎十三回忌追善舞踊公演は新作「出世舞」の如き力作があつたにも拘らず、古典舞踊における藤間一門の老師匠連、中堅、新進の卓越した幾多の演技と、演出上における規模の大とによつて永く昭和舞踊史上を飾るに足る一大イベントであり、また宮内省樂部の公會堂における舞樂「春鶯囀」(遠城樂)「綾切」の莊麗な演舞は寧ろ、平安の盛時を偲ばしめるものであつた。

個人動靜 昭和十一年六月十一日江口夜詩外遊、二十二日タイボー退京、七月下旬チエレニン來朝、二十二日多忠重(宮内省樂師)永眠、二十五日ウエルクマイスター勳五等に叙せらる。八月四日尾島貴四男パリ留學より歸朝、十一日石井榮子(舞踊家)永眠、十六日ウエルクマイスター永眠、十七日ローゼンストック(新舞指揮者)來朝、

九月一日金武良仁(琉球團十郎といはれる名優)死、五日多忠重(宮内省樂師)永眠、十六日澤田柳吉死、二十二日江口夜詩歸朝、二十三日村越國保(ピクター樂長)死、二十一日ローゼンストック初指振、九月三十日レオ・シロタ歸任、九月中フランス女流チエリス、アドレ・クレマン歸朝、十月二日諸井三郎ベルリン・オリンピック出張より歸朝、五日ピアチゴルススキー殊父丸にて神戸入港、八日近衛秀房平安丸で外遊、十四日ワルター・ヘルバート病のため歸朝、レエルブラット永眠、頼母水刺子(前音樂學校教授)永眠、二十二日ベッティ(音樂教授)イタリへ歸朝、十一月七日ピアチゴルススキー横濱渡米、十二月十四日飯田忠純死、二十七日大倉男歸朝、十二月十八日飯田忠純死、三十日國際レオ・コンクール出場のため甲斐美和子東京歸渡歐、二月九日清元太兵衛永眠、十三日ボリドール社長阿南正茂永眠、清元延壽太夫歌舞伎座出演中卒倒、十七日エルク退京、二十一日マレシャル着京、二十五日伊庭孝永眠、二十八日上眞行(前宮内省樂部樂長、音樂學校教授)逝去享年八十七、三月五日宅孝二歸朝、十一日片山信一郎歸朝、十九日橋本國産歸朝、二十四日キタ・ブランコ(舞踊家)來朝、二十七日シルマルレエツクス來朝、四月三日三上孝子イタリ留學、三日暹山艶子(音樂學校助教)歸朝、太田太郎、同鏡子外遊、八日伊藤敦子外遊、十五日秋田遊子(ピアニスト)ベルリン留學、二十八日淺野千鶴子(音樂學校助教)イタリ留學、五月一日クキタ・ブランコ退京、五日山田耕作渡歐、七日ワインガルトナ博士夫妻着京、ピラストロトリオ一行氷川丸にて横濱入港、藤原義江歸朝、二十八日甲斐美和子歸朝

ラジオ

日本放送協會

日本放送協會は紀元二千六百年東京において開かれるオリンピック競技、萬國博覽會を始めとし、年と共に緊劇を加へる報道、その他國家的重要性を有する各種任務の遂行に備へるため新たに大臣級の人物を總裁に推戴し、すべてにわたつて十分なる飛躍の出来る陣容を整へた。現在その出資會員は總數五、四九五名、役員は總數約三千五百名、業務組織の體系と事務分擔は左の通りである(左表中括弧内は事務分擔)

日本放送協會組織一覽

- 總裁—會長—專務理事(常務理事)
- △秘書課、文書課、監査部
- △總務局—經理部、計畫部、加入部、料金部
- △業務局—報道部、教養部、文藝部
- △技術局—工務部、技術部
- △技術研究所、臨時建築部、放送編成會
- 日本放送協會役員一覽
- ▽總裁 公府近衛文麿▽顧問野重九郎

理事 (會長)小森七郎 (專務) 缺 (常務理事)

- 清水順治、片岡直道、石井光次郎、今井田清輔、林毅隆、小倉正恒、大原甚太郎、萩野元太郎、田信恒、神野金之助、米澤興三、中野孝之助、村田省藏、矢野恒太、山田潤二、山崎英、安光元、山根文雄、船水喜幸、青木謙太郎、佐々信一、柴藤章、關正雄、篠田次郎、山本實一、佐久間俊一
- ▽監事 (常務) 篠田次郎、山根文雄、山本實一、伯壽佐久間俊一
- ▽評議員 (五十八名省略)

ラジオ放送設備の現状

大正十四年放送開始當時は東京、大阪、名古屋三局とすべて外國製の放送機を使用し、これに要する空中線電力は僅かに一キロワット、勿論各局間を相互聯絡する中繼設備は無く、三局ともに獨立放送を行つてゐた。翌十五年放送協會設立により三局合同を見るや中繼線による聯絡を策し、放送番組交換が可能となると共に第一期擴張に着手、既設三局の空中線電力を十キロに強化、更に札幌、仙台、熊本、廣島に十キロ局、金澤に三キロ局を新設、京都、福岡に演奏所を開設した。この第一期擴張が完成したのは昭和三年で、放送機の總出力は一躍七キロに増進、放送局は放送所と演奏所とに分れ、中繼線は仙台より東京、大阪を経て熊本に至る總延長一、八七一

キロの完成を見、昭和三年十一月五百全國一齊に使用を開始、始めて制大典の御盛會を全國に中繼放送した。

第一期擴張は日本放送網の根幹建設に過ぎず、我邦の地形、氣象等による電波傳播現象の特異性に應ずる方策にも全く思ひ及ばず擴張中實地經驗により放送區域を支配するフエーディング現象の重要性を知り、小電力放送局の分散配置の必要に留意し、第二期擴張に取りかゝつた。この第二期擴張の眼目は東京、大阪、名古屋三局の十キロ二重放送のほかに、五百ワット局八、二百ワット局三、一キロ局一の新設で、放送機は國産品を主としたのが特筆に値する。またこの擴張計畫の特徴は搬送式中繼の實施で既設局間の無線中繼も有線聯絡に改めた。かくて第二次擴張は昭和八年完成を告げ、放送局數二十五局、總空中線電力一一・二キロ中繼線の總延長四、五八二キロに達した。

しかしこれでもまだ理想的放送を行ふには遠いので、更に第三次擴張を策し、五百ワット以下の小電力局増設計畫を樹てると共に、近年俄に激甚を加へて來た國際電波戰に對し、我邦に不利なる外來電波排撃のため大電力放送局の建設及びすべてにおいて優秀なる放送効果を意圖する各種ストウウェイオを包含する大放送會館の建設に進み、相次いでその竣工を見、昭和十二年六月においては放送局

總數三十一、總空中線電力一四四、中線線... 昭和九年三月より外地及び滿洲國との定期聯絡放送が可能となり、その他の國際交換局においても徐々に優良な成績を擧げるに至り、昭和十年六月より海外放送を開始した。

全國放送局一覽

Table listing broadcast stations across Japan with columns for station name, call letters, and broadcast start date. Includes stations like 東京 JOAK, 大阪 JOBK, 京都 JOJK, etc.

放送狀況

良好なる放送効果を期待せんがためには放送対象たる聴取者層の本質を明らかにし、適用の配慮が放送番組編成の上に拂はれなければならぬ。従つて聴取者層を男女の性別、年齢別、家族的地位、社會的地位、職業程度、職業、居住地域別等に細別し、放送の時間、時刻、季節などに應じて放送種目の選擇、按配が行はれる必然の結果として、逐年新放送種目の創始、放送時間の増加、放送時刻の増設を見るに至つた。東京中央放送局について一平均放送時の變遷の跡を辿れば左の如き興味ある數字を示す。

Table showing broadcast statistics for Tokyo Central Broadcasting Station from 1914 to 1921, including columns for year, first broadcast time, second broadcast time, and total time.

轉じて項目別に番組構成割合の變遷を觀察すると子供の時間及び慰安が漸次減少の傾向を示してゐる(次表参照)。しかしこれは實放送時間においてこの兩者は固定した地位を占めてゐるに反し、報道においてはニュース、經濟市況、氣象通報、實況中繼などの關係種目が年々充實されると共に、教養において第二放送の開始に伴ひ實放送時間の増加を見た結果、百分比において前二者が低下を示したものである。

Table showing broadcast statistics from 1914 to 1921, with columns for year, news percentage, education percentage, and leisure percentage.

大の時間を割き、演藝、演劇種目が番組の主要位を占め、報道はニュースを出資各新聞社持寄りの材料に仰ぎ、これを取捨選擇して放送し、經濟市況、氣象通報に及ぼしたので、報道機關としてのラジオの性能は昭和三年十一月全國中繼放送網完成を見るまではその眞價を發揮し得なかつたといつてもよい。この完成と共に漸次重要な位置を占め、遂に教養と並んで最も重要な部分を占めるに至つた。放送局編輯ニュースの放送開始は昭和五年十一月で、これに各局のローカルニュース官廳公事事項、氣象通報、産業經濟諸通報が配せられ、七年六月には英語ニュース、子供の新聞の創始を見るに至つた。その回数も當初は日曜祭日は一日二回であつたが七月より四回に増加し昭和十一年一月同盟通信社の業務開始に伴ひ放送用ニュース資料は著しく豊富を加へ、また全國民關心の對象となる重要事項、事變などに對しては「臨時放送」として随時放送を行つてゐる。

る。然るに我邦においては教養放送は當初より三〇%を興へられ、漸次増加し最近では四〇%以上に上り、全體の半に迫る勢を示すに至つた。その内容も當初は名士、専門家等の互に獨立した單獨講演であつたが、放送對象に從ふ細分化が行はれ、婦人家庭講座子供の時間、兒童の開設に進み、第二放送開始(AK)昭和六年、BK、CK(昭和八年)に當り教育放送の名の下に一大飛躍を遂げた。しかしこの第二放送はAK、BK、CKの三局に限られこれは主として大都市青年大衆の補習教育を目標とし、全國的のもの第一放送の單獨講演を以て都鄙いづれとも適切な種目放送を行つてゐる。この種のものに時局への關心を喚起し、その認識の正鵠を得しめんがため時事問題の解説、農村振興に資するための農家の時間、青年の向上心を誘發するための「青年の時間」「國民精神作興のための「朝の修養」「日曜行」(佛敎)「日曜禮拜」(基督教)聖童のための「學校放送」保健のための「ラジオ體操」などの種目がある。

にはこれを廢して浪花節を放送せよといふやうな聲もあつたが、漸次知的聴取者層の擴大に伴ひ、これを要求する聲が盛んとなり、世界的名人巨匠が囀を接して來朝し必ず全國中繼放送を行ふや、遂に慰安放送中洋樂は最も重要な位置を占めるに至つた。放送協會所屬として新交響樂團を補助し、東洋における最も完備した交響樂管絃樂團たらしめ、重要な國家的儀式または祭典、或は國際放送などに際し、對外的にも恥しからぬ交響樂的演奏を可能ならしめるまでに向上せしめたのは没すべからざる功績の一つである。

洋樂のほか我邦固有の古典的音樂の保存外國に誇るに足る幾多の郷土藝術の興隆または復活を助成し、音樂コンクール、合唱、獨唱、舞臺など歩調を合せ、新人登龍門として重要な役割を勤めると共に、新興作曲家に幾多の機會を與へ、レコード放送によつて大衆を世界最高の演奏標準に親近せしめ、一般の音樂的教養の向上を助けてゐる。

大阪放送會館竣工

昭和九年二月十九日起工以來二年八月、十一月十月竣工した大阪放送會館はその裝備に一月半を費し、十二月十二日よりその全機能を發揮し始めた。これは大阪中央放送局の演奏室と事務所全部を包含する放送建築物で敷地面積三、三五〇平方尺、建坪一、九二七平方尺、延坪九、六六一平方尺、地下一

階、地上九階(塔屋を含む)の鐵筋鐵骨コンクリート近世式で東洋一の大放送ビルディングである。

◆演奏室は三階吹拔、容積四、三〇〇立方尺餘、東洋第一の大演奏室以下大小十三あり演奏または放送の組織の大小、性質などに應じ、これに適當なる容積と殘響時間とを與へてゐる。演奏室は外部噪音侵入を防ぐためその配置構造に留意し、道路に直面せしめずなるべく事務所で圍繞し、あらゆる衝撃、振動などが室内に傳播されぬやう各室は専門家のいはゆる「浮標構造式」により、コンクリート構造の内部にフェルト充填、特殊受金具などによつて間接に支持させ、また壁はロツクウール、ミネラルフェルト、コルクボールなど音響絶縁材料を用いた遮音層と、ベニヤ原板、プラトン、バルボイド、裂地、調音スレート、輕クリート、絨毯、ライトラバーなどの材料を用ひた仕上層より成り、この仕上層は演奏種目の性質に従ひ、それに最も適する殘響時間と音響特性を有たしめるやう材料の組合せに周到な研究と注意とが拂はれてゐる。照明は特殊の小演奏室を除き、他はすべて採光窓を備へず、晝夜を通じ人工照明を用ひ、照明器具の配置と照度の均齊に留意し、天井の高い第一、第二演奏室には平板レンズによるビーム式照明法を採用し、普通電燈照明の外線不足補充に水銀バイタライト照明を併

用してゐる。照明と共に演奏者の氣分を支配し、演奏上に重大なる影響を與へる温度の調整についてはキヤリヤー式温度調整装置を用ひ、自動的に温度は冬季一八度、夏季は二六・六度、湿度五〇パーセントに保持する方式を採用してゐる。

◆放送關係機器裝備の完全は演奏室の構造と相まつて放送機能の發揮に必要であるが、在來の小放送局や演奏所とは異り、多數の演奏所を包含するこの種の大放送所は容積の大きに從ひ、放送プログラム電流の増幅、調整などに必要なる各種機器の組合せ、操作方法などに一層の複雑性を加へて來る。このため第一より第七に至る各演奏室には專屬調整室が設けられてゐる。放送プログラム系統に關する各種増幅器その他の高壓及び抵壓電流は總て六〇サイクル三相交流を變壓整流する亞酸化銅整流器付エリミネーターから供給し、停電の際でも一刻も放送を停止することのないやうに、これに小容量の蓄電池を浮動させてゐる。

台灣並鮮滿との聯絡放送

内地と外地及び盟邦滿洲國とのラヂオは國際電話株式會社の短波施設によつて聯絡し、今や完全なる電波ブロックを形成し得たので提携してプログラムの交換を行つてゐる。この結果滿洲國よりは毎週一回、朝鮮より毎月

二、三回、台灣よりは毎月一回各地方色に富むプログラムを内地に送り、内地よりは朝のラヂオ體操より夜の時報以後明日の話題に至るまで殆んど大部分が外地及び滿洲國に向つて送られてゐる。昭和十一年度における入中繼放送回数と現行出中繼放送時刻を左に表示する。

▽十一年度入中繼放送回数表

月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
滿洲より	三四	四五	五六	六五	三三	四四	四五	五五	六六	七七	八八	九九	五五
朝鮮より	三三	二二	三三	二二	三三	二二	三三	二二	三三	二二	三三	二二	二七
台灣より	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一

海外放送の現状

我邦は且下容易ならざる國際的非常時局に直面してゐる。この秋に當りラヂオが有力且つ尖鋭なる宣傳機關として國際ニュース戰線に登場し、重要な役割を演ずべきことは、數年前滿洲からの赤化宣傳放送、上海事變當時南京よりの對日宣傳放送の例を擧げるまでもない。これら日に激甚を加へる外來電波捕滅のため大電力放送設備を完了、國內電波を増強すると共に、短波放送機による海外向放送を開始し、すでにこれを行ひつゝある英、獨、佛、蘭、伊などの先進國の範に従ひ海外在留同胞、自國領民を對象とする放送を行ふのみに止らず、さらに一步を進めて外邦人に對し日本文化を宣傳し、また我國策に對する正確な認識を與へようとしてゐる。すなはち

昭和十年六月一日より主として北米及びカナダ西部に向けて短波により特別放送を開始し毎日東京時間午後二時より一時間定時に日本語と英語のニュース、演藝、音樂、講演、實況などの放送を行ひ、太平洋沿岸諸國より多額の反響を得たので、更に六月二十五日より北米東部、南米に向け毎週火、金曜日午前六時より一時間、九月四日より歐洲に向け毎週水、土曜日午前四時より一時間試験放送を行つた結果、またも相當の成績を収め得たので昭和十一年一月一日より左記の大擴張計畫の實行に移つた。これに使用する放送機は二十キロワット機であるが、五十キロワットの製作であり、放送内容も當分は商品のレコードと従前の海外放送たる日本語と英語のニュースであるが、一朝有事の日に際してはこれに應ずる放送を行ふはずである。

▽放送時刻と時間(東京時刻)

- 一、對歐洲毎日午前四時半より一時間
包含地域 歐洲全部とアフリカ西部
在留本邦人 三千餘人
該當時刻
- 英、佛、白、蘭、西 午後七・三〇—八・三〇
獨、丁、伊、瑞、典 午後八・三〇—九・三〇
諾、瑞、西、波、蘭 午後九・三〇—一〇・三〇
アフリカ西部 午後七・三〇—八・三〇
- 二、對南米及北米東部毎日午前六時より一時間

包含地域 南米及び北米、加拿大東部
在留本邦人 二十萬七千餘人
該當時刻

- 北米、カナダ東部 午後四・〇〇—五・〇〇
- ブラジル 午後六・〇〇—七・〇〇
- アルゼンチン 午後五・〇〇—六・〇〇
- 三、對海峽植民地及びジャバ毎日午後十一時より一時間
- 包含地域 南支、香港、シヤム、佛領印度支那、英領馬來、ボルネオ、蘭領東印度、フィリッピン、印度、南アフリカ
在留本邦人 三萬九千餘人
該當時刻
- 佛領印度支那 午後九・〇〇—一〇・〇〇
- 蘭領東印度 午後九・二〇—一〇・二〇
- フィリッピン、香港 午後一〇・〇〇—一一・〇〇

包含地域 北米カナダ西部、中米、南米北西部、布哇
在留本邦人 三十二萬七千餘人
該當時刻

- 北米カナダ西部 午後九・〇〇—一〇・〇〇
- 中米南米北西部 午後一〇・〇〇—一一・〇〇
- ハワイ 午後六・三〇—七・三〇

▽放送種目と所要時分

- 一、對歐洲 英語ニュース(十分程度)獨語及佛語ニュース(十分程度)(獨、佛語は隔日放送)音楽演藝、講演、實況等(二十分程度)アナウンス、プログラム豫告、解説等(十分程度)
- 二、對南米及び北米東部 日本語ニュース(十分程度)英語及佛語ニュース(十分程度)(英、佛語は隔日放送)音楽、演藝、講演、實況等(二十分程度)以下同前
- 三、對海峽植民地及ジャバ 日本語ニュース(十分程度)英語ニュース(十分程度)音楽、演藝、講演、實況等(二十分程度)以下同前
- 四、對北米西部及びハワイ 日本語ニュース(十分程度)英語ニュース(十分程度)音楽、演藝、講演、實況等(二十分程度)以下同前

右定例放送の外、一朝有事の場合、國家的意義を有する重要な事件などに際しては臨時特別放送を行ふこととなつてゐるので、遠く海外に在留するこれら約六十萬の同胞はラヂオの設備を有する限り内地在住の同胞と同時に祖國の休戚を明らかにし、憂喜を共にすることが出来るのである。

伯林大會對日中繼放送

日本放送協會はオリンピック競技放送に先鞭をつけ各國に先んじて前回の羅府大會に特派員を派遣、「實況放送」と稱する新形式放送を行つて好評を博したが、昭和十一年の伯林大會においては初めて實況放送が行はれ、参

加國三千二、參加アナウンサー百餘名を數へたので、これに職員三名(内アナウンサー二名)を特派して實況放送と實況録音放送とを行はしめ、開期中半ヶ月間にわたり、故國の聴取者に伯林大會の興奮をさながらに傳へて能くその任務を果たした。

聴取者加入狀況

放送網の擴充、プログラム内容の充實、經濟事情の好轉、聴取料金の引下等によつて昭和十一年度における聴取者加入率は前年度に優る増加を示してゐる。即ち昭和十一年間に帯廣、山形、鳥取の三局を加へて三十局となり(昭和十二年四月宮崎局開局現在三十一局)放送網は著しく擴充され、他面において受信機器製作技術の進歩と價格の低下、月賦販賣制度の普及は十月四月の聴取料金低下と相まつて加入者の急増額を軽減し、また聴取料金納付上の不便の除去、再生障害、その他良好なる聴取を妨げる諸種の障害防止方策が講ぜられたので廢止を防ぎ得ると共に、軍需工業輸出産業界の活氣に力づけられたる好景氣が地方農村にも波及し、これに加へるにペルリン・オリンピック・スタジアムよりの中繼など聴取慾を煽り立てる諸種の事情が原因となり、昭和十一年十二月末現在の加入者數は二、七七六、一八九に達し昭和十二年四月迄に三百萬突破の祝賀會を開かされるに至つたこの普及率は百世帯當り二〇・五、人口千當り三九・九の割合である。

かくの如く新規加入の激増を見、廢止防止もその效を奏したので、昭和十一年度における差引増加數は四十七萬一千餘を算し、昭和十年度の四十萬七千八百一に比し、一躍七萬の激増を示してゐる。これを一ヶ月に平均すると月々三萬九千三百餘の増加で、昭和十年度に比し、毎月五千三百餘の増加である。左に月別表を掲げるこれを前年度に比較すると四、五月に減少を示すほかはすべて増加を示し、殊にオリンピックを控へる七月と、オリンピック開期中の八月に激増を見させてゐる。九月、十月に廢止數の増加してゐるのはオリンピック中繼だけに興味を有つた臨時聴取加入の廢止の跡が歴然と現はれてゐる興味深い現象である。更に過去十年間にわたる年別許可の狀況を表示すると左の如くなる。

この加入成績を市部と郡部とに別けて觀察すると市部は一、九一五、八五七(百世帯當り四〇・八)、郡部は八六〇、三三二(百世帯當り九・七)の加入數になり、前者は總數の六九%、後者は三一%を占めるに過ぎない。しかるに世帯數は市部の三五%に對し、郡部は六五%を占めてゐるのであるから、普及率においては市部と郡部間には非常な開きが存在する。今後この差をなるべく少くすることが放送當事者の重要な關心事とならなければなるまい。

▽昭和十一年月別許可、廢止及増加數比較表

月別	許可數	廢止數	増加數	昭和十年末增加數
一月	五九、五五五	一七、三三六	四二、二一九	三三、四〇〇
二月	五九、七五三	一五、九七九	四三、七七四	三三、四〇〇
三月	六九、二七四	一六、五〇〇	五二、七七四	三三、四〇〇
四月	六八、七九六	一三、四一九	五五、三七八	三三、四〇〇
五月	六九、八二五	一三、四〇〇	五六、四二五	三三、四〇〇
六月	六九、六九五	一三、一七七	五六、四八八	三三、四〇〇
七月	五九、九七〇	一四、四一一	四五、五五九	三三、四〇〇
八月	五二、九八四	一九、五七七	三三、四〇七	三三、四〇〇
九月	五二、七四四	一九、九二八	三二、八一六	三三、四〇〇
十月	七〇、九二五	三三、九四四	三六、九八一	三三、四〇〇
十一月	一〇〇、一九一	五、六一九	九五、五七二	三三、四〇〇
十二月	二八、八三〇	六四、四三三	三五、六〇三	三三、四〇〇
計	一、〇〇、一〇一	一、〇〇、一〇一	一、〇〇、一〇一	三三、四〇〇

▽市部郡部別加入數比較表

市部	郡部	合計	昭和十一年末	昭和十一年中	十年中
東京	八八、九三六	一、九一五、八五七	一、〇〇、一〇一	一、〇〇、一〇一	一、〇〇、一〇一
大阪	二四、〇六五	一、九一五、八五七	一、〇〇、一〇一	一、〇〇、一〇一	一、〇〇、一〇一
名古屋	一八、九三六	一、九一五、八五七	一、〇〇、一〇一	一、〇〇、一〇一	一、〇〇、一〇一
京都	一三、九三六	一、九一五、八五七	一、〇〇、一〇一	一、〇〇、一〇一	一、〇〇、一〇一
仙台	一三、九三六	一、九一五、八五七	一、〇〇、一〇一	一、〇〇、一〇一	一、〇〇、一〇一
札幌	一三、九三六	一、九一五、八五七	一、〇〇、一〇一	一、〇〇、一〇一	一、〇〇、一〇一
合計	一、九一五、八五七	一、九一五、八五七	一、〇〇、一〇一	一、〇〇、一〇一	一、〇〇、一〇一

ハリキリボネ

断然大好評！

中味を使つて空瓶は實用的容器となる
一石二鳥とは「伊豆椿」の専用語です

頭髮のホルモン割

伊豆椿

美髪は紳士道

ポマード



全國百貨店・有名化粧品店・薬店にあり
ます

¥.50

伊豆椿香油本舗 大槻彩芳園



現在我々蓄音器レコード産業は資本家にとつて餘ほど有利な投資対象となつてゐる。従つて大小幾多のレコード會社が對立し、各專屬藝術家陣を擁して毎月多くの新譜を送り出すので内務省のレコード検閲官も検閲に忙殺され、また納入のレコードの保存、整理など、これが處置に當惑してゐる實情である。互に必要以上の競争より專屬藝術家の争奪、引抜きなどが傳へられ、生産の激増に伴ひ販賣上にも種々の衝策が弄せられ、結局相互の不利益を招くやうな情勢を呈するに至つたので、主要七社が製造販賣の統制機關として全國レコード製造協會を創立し、事務所を銀座西六北海タイムスビル内に設置、レコード産業統制に當るとなつた。昭和十二年五月末日現在における協會加盟は左の七社である。

日本ビクター蓄音器株式会社 資本金五百萬圓

日本コロムビア蓄音器株式会社 同五百八十萬圓

日本ポリドール蓄音器株式会社 同百六十萬圓

帝國蓄音器株式会社 同二百萬圓
大日本蓄音器株式会社 同六十萬圓
コロナ・レコード株式会社 同二十五萬圓
大日本雄辯會講談社キング・レコード部
資本金不明なるも一百万圓を下らないと思はれる。

以上七社のほか協會に所屬しないものを加へると全国各地に散在する蓄音器レコード會社は十五、六社で、その資本總額は約千七百萬圓、賣上げ年額約四千萬圓(レコード、蓄音器及び附屬品賣上げ全部を含む)で、この事業の有利なることを物語つてゐる。

次に全國の蓄音器總數は約一百五十萬台、これによつて消費されるレコード總數は月々一百五十萬枚、即ち一台につき一枚の消費率を示してゐる。ラジオの普及に伴ひ蓄音器も電化の趨勢を示し、教育レコードの播頭に從ひ學校における蓄音器使用が年と共に増加する傾向にあるので、レコードの消費率はその他種々の原因によつて急増の勢ひを示すものと豫想される。

レコード産業の好轉に伴ひ、我有力なる資本家の進出著しく、日本コロムビア及び日本ビクターの外資後退とともに日産の傘下に置かれるに至つたのは將來の飛躍を約束するものと思はれる。この二社は昭和十二年七月株主總會において各々約倍額の増資を斷行するので、後半期からの活躍は目ざましいもの

があらうと思はれる。上記七社中コロナ・レコード株式会社は故ポリドール社長阿南正茂氏が主となつて創立し、十二年一月より新譜發賣を開始したもので、全部日本物、殊に流行唄に力を注いでゐる。奈良市肘塚町に本社を有する帝國蓄音器株式会社は他社の躍進に備へるため増資を斷行、文藝部長で作曲家の古賀政男氏を専務取締役に進め、増資の大半を古賀氏に引受けさせ、昭和十二年度より企業家として同社の經營に當らしめることにした。キングレコードは大日本雄辯會講談社が選曲し、製作は日本ポリドールに一任、販賣もポリドール販賣機關を通じて行はれてゐたのを十一年の秋ポリドールより名實共に獨立し、小石川音羽の講談社々屋附近に吹込所を完成すると同時に日本物の吹込を開始し、一方ドイツテレフンケン蓄音器會社と特約を結び、同社の洋楽レコード原盤を輸入し、音羽工場においてプレスし、十一月十五日發賣を開始してから今日に及んでゐる。ヒンデミットの交響曲「畫家マティス」(作者自ら指揮)シューベルトの「未完成」(クライバー指揮)カサドを獨奏者とするドヴォルザークのチェロ協奏曲(シュミット・イツセルシュテット指揮)、ギョーレンカムプを獨奏者とするシュポアの提琴協奏曲第八番(指揮同上)等いづれもベルリン好樂管絃樂團の演奏による注意すべき佳盤と通俗的のもので

はクライバー指揮ヨハン・シュトラウスのワ
ルト名曲集、ポイトシヤツハ指揮の歴史的行
進曲集、その他オリビック優勝楽曲「戦の
舞」「死の慟哭」などを出した。同社の利用
し得るテレフンケンレコードはドイツ物ばかり
ではなく、チエツコ・スロヴァキヤ、フラ
ンス系統の母型もあるはずゆゑ今後この方面
の變つたものが期待される。

前記七社以外の新興會社に昭和録音株式會
社がある。これは十一年秋日本ビクターの邦
樂部から分れた安藤兵部氏が創立、オーゴン
・蓄音器株式會社の島田善介氏らを取締役と
して十一年十二月創業、本社を神田區神保
町、大阪營業所を西區立賣堀南邊四に置き、
オーゴンの瀧野川田端工場で製作するもの
で、レコードの名稱は「ミリオンのレコード」と
呼び、專屬藝術家としては日本ビクター脱退
五人組を中心として流行唄に力を注ぎ、日本
物だけを製作、十二年一月より毎月新譜を出
し、すでに五回録音を重ね三三のヒットを出し
てゐる。「開かぬバラシユート」(小野巡)「僕
等の乾杯」(兒玉好雄)は殊に好評で、靜と
きはものは平均に出てゐる。

邦樂洋樂の兩者にわたり毎月新譜試験會を
開いて多くの優秀盤を送つてゐるビクター、
コロムビア、ポリドール三社について十一年
六月より十二年五月までの成績を通過する
と、洋樂においてビクターは前年度にビクタ

1 愛好家クラブを結成、第一期において畫期
的成功を収め、遂に他の二社をして同様の企
圖に出でしめるに至つたが、第二期を完成す
ると共に家庭名盤集、ダンスレコードの同種
の豫約募集を行つて成功し、同時に名曲組物
を希望する最高級の愛好者のため新に「名盤
蒐集クラブ」を結成、愛好家協會の審査員九
氏(柿沼太郎、牛山充、野村あらえびす、野
村光一、青木謙幸、有坂愛彦、藤田不二、山
根銀二、鹽入龜輔)の審査推薦によるものを
審査員交互に解説を分擔して行ひ、サン・サ
ンスのピアノ協奏曲(ホルト演奏)、ペルリ
オースの「フアウストの劫罰」(コッポラ指
揮)、グアークナー名曲集(トスカニーニ指
揮)、ドビュッシー歌曲集(マギー・テイト獨
唱ホルト伴奏)シユーマンの「詩人の戀」
(パンゼラ獨唱ホルト伴奏)を贈つた。是
等特殊のもの以外の新譜では管絃樂、室内
樂、器樂、聲樂、歌劇、その他に互つて注目
すべきもの百數十曲の多き上る。

コロムビアはビクターの愛好家協會に對し
十一年六月洋樂鑑賞協會を組織、伊庭孝、堀
内敬三、田邊尚雄、牛山充、野村光一、野村
あらえびす、山田耕津、山根銀二、増澤健
美、近衛秀麿、小松耕輔、鹽入龜輔の十二氏
を審査員としてパツハよりブラームスに至る
古典派、浪漫派の巨匠の代表作の標準演奏盤
を毎月一枚宛頒布、十二年五月第一期を完了

好成绩を収めた。これと並行にフランスグ
ッタの母型による「ダンス新盤特選集」六枚
「想ひ出のダンス・アルバム」十二年一月「ス
ウイング・アルバム」を出してダンス・レコ
ード熱を煽り立てた。このほか毎月新譜洋樂
盤にはワインガルトナー博士來朝を機とし、
同博士指揮によるベートーヴェンとシユーベ
ルトの交響曲物に好成绩を収め、佛國ティス
ク大賞獲得ベルリオースの「幻想交響曲」ロ
ーヅング獨唱のムソルグスキー歌曲集、ロー
ト絃樂四重奏團演奏パツハの「フリーガの技法」
等推賞すべき重要盤を送つた。ポリドールで
はバイロイトのグアークナー祝祭公演レコー
ドの大物がこの年度を通じての金字として光
つてゐる。

轉じて邦樂を見るに依然として流行唄が中
心となり、これを主流として動いてゐる。ビ
クターの「忘れちゃいやよ」の快打によつて
「ハア小唄」時代は去つて「ねえ小唄」時代
を現出し、現代女性の口語に表現的な味を出
した新様式の流行唄が一世を風靡するに至つ
た。これと共に男女歌手の對話的形式のもの
が在來の流行唄の獨唱形式を破つて現はれ、
流行唄に新生面を開くや、コロムビア、テイ
チク、ポリドールその他も續々これに倣つて
同型のものも多く世に贈り、同時に歌ひ方に
實感を持たせることを強調し出した結果、頒
布禁止の厄を見るものが現はれるに至つた。

能樂

能樂の起源

能樂の起源に關しては勿體ぶつた起源や或
は支那の元曲に由來するなどの説もあるが、
信憑すべき何ものもなく、事實は神社に奉仕
してゐた猿樂から發達したものであることは
疑ひなく、猿樂中で幽玄味深き「能藝」が成
生して今日の能樂となり、滑稽的な部分が狂
言と變じ、曲技的な部分が願てしまつたと
見るべきが至當で、能樂の發達につれ野外か
ら室内に移り、欄掛りの位置も改められ四拍
子も進歩しことに徳川幕府の保護下に衣食の
憂ひのない能樂師達は専心藝に精進すること
を得て今日に傳はる珠玉のごとき大藝術を築
き得たのである。

能樂界大勢

能樂の流行は年を逐うて盛んになり、どん
な田舎においても素謡の聲を聞かぬ土地はな
いほどで、其社が謡曲全集を發行する時、五百
萬人の合唱と呼號した、その普遍ぶりは喜ぶ
べきことであるかも知れぬが、翻つて藝界を
大觀する時、梅若万三郎、喜多六平太、野口
兼資の長老はじめ觀世左近、寶生重英、梅若
六郎、金剛巖、櫻間金太郎の諸氏のほかシ
テ方にも後継の大名の少く、ワキ方に至つて

は寶生新氏がかり光を放つに比してその將
來が榮ぜられ、囃子方また後継の人材少く寂
しい極みである。ひとり狂言のみは關西にお
ける兩茂山家の一門が多数有望な子弟を持つ
てその將來を望まれてゐる。従つて依然識者
の間に新人出でよの聲が高い。

能樂界展望

金剛巖氏家元となる 金剛流家元右京氏
の歿後、その後継問題をめぐつて故人の素志
通り金剛家を絶家、回流を絶滅せしめよう
とする富久未亡人を纏つて同流能第一人者であ
る京都金剛巖氏を後繼者に推さんとする向も
あり、種々問題が生じ一時は能樂五流と傳へ
られる名家の一つが亡びるのではないかと
危惧されてゐたが、他の四流名家ならびに能
樂協會の奔走調停が奏功し、金剛巖氏が新た
に家元立つことになり、右京歿後八ヶ月ぶ
りて圓滿解決を見た。即ち十一年十一月東京
寶生會事務所で金剛巖氏と富久未亡人とが非
公式に會見し故右京氏の素志も尊重して

一、巖氏は二十四世家元としてでなく初代
金剛流家元として立つこと

一、諸本は右京氏編纂のものを使用する
などを條件に巖氏が分派創始の形で金剛流を
統率することになり四流家元をはじめ關係者
が集つて手打を行ひ金剛流の危機も漸く解消
した。たゞ問題は藝以外にあまりに恬淡すぎ

る新家元巖氏が流儀補充にどれ程の熱意を示
して回流を統率して行くかと注目されてゐる
万三郎、新兩氏藝術院へ入る 日本藝術
の大殿堂として各方面藝術を審議すべき帝國
藝術院は安井文相、伊東次官その他によつて
官制、人選を終り六月二十四日の官報で發表
されたが、能樂の人選については種々取沙汰
されてゐたが、遂に梅若万三郎、寶生新の兩
氏に決定を見た。

梅若万三郎氏一觀世流の元老で名人をもつ
て稱せられ明治元年十一月廿一日梅若實の長
男として東京に生れ梅若流家元たりしことと
り、後觀世流に復歸せることは衆知のことと
上演曲目數二千五百番を超え今なほ黽勉たる
ものがある。

寶生新氏一寶生流の家元、ワキ方名人
として國寶的存在といはれてゐる。明治三年
十月二十三日寶生金五郎氏の長男として東京
に生れ現在六十八歳。

音樂學校能樂科擴充 東京音樂學校邦樂
科が正科となると共に能樂科は從來觀世流だ
けであつたのが新に寶生流及び囃子科が新設
せられ、觀世左近氏の教授のほか寶生重英、
同英雄、小鼓の幸悟朗、大鼓の金春惣右衛門
の諸氏がそれ／＼講師、囑託となつた。

安宅演能異變 十一年中能樂界で特筆す
べことは梅若万三郎氏の「安宅演能異變」であ

る。十一月三日大倉利三郎追善能において万三郎氏が「安宅」演能に際し、前後を自分が演じ、その中間を岡山として登場してゐた令息万佐世氏をして演ぜしめたことであつた。病氣でもなく後見には鐵之丞氏が控へてゐるにも拘らず、ツレに代らせ、また後になつて入れ替つたことは能の傳統を損ふやうであること非難され「キセルの傳」とまで評され、家元左近氏もこれを黙止することが出来ず、鐵之丞氏を使者として謹慎を命ずることとなり、ために万三郎氏自身の記念能は勿論相ついで行はれる下齋生會、大阪の春日又三郎氏披露能にも約束を取消さねばならぬことになり、ことに万三郎氏は左近氏の大先輩であり、かつは斯界の大御所であるだけに左近氏との間に或は何かの紛糾を生ぜぬかと懸念されたが、その間齋生新、喜多六平太兩氏らが幹旋の結果、他の催しものには出演し自身の記念能のみ延期することとなつて見がついた。左近氏の苦衷もさることながらその處置の徹底を缺いたのと万三郎氏自身何ら謹慎の意思がないのと相まち結局この「キセルの傳」は或は今後の惡例となりはせぬかと識者の間に遺憾とされた。

野村萬介氏三宅家を嗣ぐ 和泉流狂言の名家三宅家は八代惣三郎歿後一女みねさんを襲すのみで流儀としての跡を絶つてゐたが、はからずもみねさんが京都祇園の某料亭にあ

日龍神」を台覽遊ばされたが、能は古い新能の形式において催され、陛下にはいと御興深げに拜された。

滿洲國皇帝に諸本献上 梅若流家元六郎氏は十一年十月末から十一月へかけて大連、新京、撫順、奉天、朝鮮各地で能樂を巡演したが、新京演能に際し回流諸曲本全部を滿洲國皇帝陛下に献上すべく田邊參議を通じ願ひ出たところ御嘉納の光榮に浴した。

外人招待能 國際文化振興會では日本古典藝術の精華「能」を外國人に理解させるため十一年十一月十七日京都金剛能樂堂で知名の外人を招き金剛殿氏の「羽衣」の演能を催し、金剛氏の通譯付講演があつてのち實演があり、アーサー・ウェーレー氏の「羽衣」譯文が觀衆に配布され深い感動と理解を興へたが、同じく三十日夜は東京華族會館能樂舞台で開催、畏くも高松宮、同妃兩殿下をはじめ奉り米、佛、伊その他各國大公使夫妻、在留知名外國人六百名、その他名士二百餘名で滿員の盛況、國寶的な貴重な能面や能衣裳を多數陳列し、梅若六郎氏の「能」とその觀賞「同景英氏の「能藝術のデモンストレーション」の講演が英語の説明つきであり、のち能茶「葵上」仕舞「熊坂」を見せ頗る盛況を呈した。

ワインガルトナー能を嚆矢 十二年春來朝の世界タクト界の巨人ワインガルトナー夫妻は金剛殿氏の招待を受け六月二十三日金剛能

ることを知り金剛殿氏および能樂研究家の澤田孝三、松野奏風氏らの肝煎りで狂言界の新人野村萬介氏夫妻（夫人は元の尾上菊枝さん）が相贈することになり十一月二十七日平安神宮で齋禮繼承の式をあげた。三宅家は初代隆九郎によつて創始され代々加州家の御用を勤め七代庄市がその名人藝を認められ天保年代禁裡の御用を仰せつかり、能狂言といへば三宅派といはれるまで天下に名を馳せ、御維新と同時に宮家をはじめ奉り、三條、岩倉諸公の供奉で東京に轉任、八代目惣三郎で跡をたつたので跡を嗣ぐ萬介氏は尾州野村家の又三郎とは關係なく三宅派と同じく加州の出で現野村萬造氏の次弟である。襲名披露能は十二年三月二十八日東京能樂堂で開催觀世左近氏「翁野村又三郎氏」御賀之松風流梅若萬三郎氏「高砂野口兼資氏」道成寺」狂言では關西の大御所淺山千五郎氏が息の眞一氏と淺山忠三郎、久治兩氏同伴で上京、四人で「三人片輪」といふ狂言の豪華版を演じた。

觀世流家元の嗣決る 觀世流家元左近氏は實子がないので同氏の従兄弟藤田等氏の二男正司君（ちを養嗣に迎へ、こゝに大觀世二十五代の後繼者とする）になつた。正司君はすでに觀世家に引取られ元正と名乗り未來の家元たるべき修業にいそしんでゐたもので披露能は十二年四月二十、二十一日の兩日濟孝五十回忌をかねて東京齋生能樂堂で開催、

樂堂に赴き殿氏の「羽衣」を鑑賞、幽玄華雅なしらべと色彩に恍惚となり「雄大な藝術です日本に來て以來偉大な一日です」と嘆賞し、能は單調なところに精神の寂びがあると喝破し、さすがに樂聖なりと思はせた。

面塚の復興建碑 觀世流發祥の地と傳へられる奈良縣磯城郡西村大字結崎「面塚」の復興建碑が竣工したので十一年十二月十四日除幕式を舉行、觀世宗家左近氏はじめ五十餘名の回流樂師に同好者多數が参列し式後糸井神社で奉告祭を行ひ左近氏その他十數氏の素誦が奉納された。

神事となつた熊野神社能 豊橋市魚町安海熊野神社の能樂堂は東海道筋では由緒深いものとされてをり、衣裳、面などは國寶的なものが多數蔵されてゐるので従來同神社祭禮の餘興に演ぜられてゐた能樂を今後は神事として永久に遺すことになつた。なほ寶物の衣裳のうち狩野元信の筆と傳へられてゐた桐鳳凰絛長絹は金剛殿氏の鑑定により豊臣秀吉が狩野山樂に命じ直接肉筆で絛の絹へ描かせたもので、前田利家に贈つたものが松平信綱からその後裔大河内家に傳はりその後大河内家御用の小久保彦七郎が三百兩で買ひ更に人手に渡つてゐたものを氏子町内で頼母子講をつくつて買ひ取り同社の寶物となつたものである。百萬圓の能舞台解消 豫算百萬圓で大舞台建築を計畫し東京市麹町區大手町の一角五百

當の元正君が「合浦」一拍子之傳、左近氏「安宅」万三郎氏「能野」喜之氏「道成寺」二日目は鐵之丞氏で二日間同じ番組で超滿員の盛況、元正太夫は取つて八蔵、新氏のワキ、一噌、高安、大倉、松村といふ元老揃ひの相手で朗らかに舞ひ納め大喝采を博したが、五月九日には京都觀世舞台で同様披露能樂會を開き元正君はやはり「合浦」を達者に演了して觀衆を喜ばせた。

實生の草紙洗風拍子 齋生流では名人九郎も勤めなかつたといふ「草紙洗風拍子」を十二年二月七日東京齋生會で重英氏が演出した。天保九年先々代彌五郎友干が勤めてから恰度百年ぶりなので、能そのものゝ良否はとに角として容易に見られぬ秘曲だけに能樂愛好者の注目の的となつた。この日野口兼資氏は「求塚」を舞つたが關西方面の希望もあつてワキ、騷子方などそつくりそのまゝ大阪で演能された。なほ風拍子は普通道成寺に限られてゐるが元來「道成寺」は金春のもので觀世は「檜垣」金剛は「住吉詣」齋生は「草紙洗」となつてゐるものである。

能樂關係事項

台覽新能 關西に行啓遊ばされた 皇太后陛下には十二年六月二十八日夜奈良の御駐泊所の御裏庭において前シテ金春榮治郎、後シテ金春光太郎、地頭櫻間金太郎氏の能樂「春坪を買収し「觀世會用地」と奉杭まで建て、新築するはずであつたが資金の募集僅か一萬圓にしかならないので遂にこの計畫は中止されることになつた。

「新しき土」に入つた「葵上」 能樂トキキ櫻間金太郎氏の「葵上」はフランク博士監督の「新しき土」の一場面に挿入された。主役の大和輝男（小杉勇）が歸朝して能を見、その藝術の偉大さに感激するといふ場面である。
ラチオ新人七氏 十二年四月二十日ラチオ新人が發表されたが入選者は小玉とり子、鹽入義治、金子與司（以上觀世）川越清行、星野鎮子、石塚久雄（以上齋生）岡田久子（喜多）の諸氏で小玉、川越兩氏は二回目の當選、喜多流は今回がはじめての當選であるが應募者は年々増加の傾向である。

能樂關係刊行物 十一年七月から一ヶ年中に發行された能樂關係刊行物の主なるものは左の通りである。
△能樂鑑賞（戸川秋骨氏）△私の能舞台（松野奏風氏）△狂言のパンフレット（野村萬造、同萬介ら、隔月發行）△隣忠秘抄（坂元雪島氏校訂）△「幸潮」幸流小鼓機關雜誌△千野の摘草（森田徳道稿、森田光風氏編）
豊島要之助氏東京へ移住 高安流ワキ方豊島要之助氏は従來廣島を本據として關西において活躍してゐたが、東京方面の懇望に應じ十二年七月から東京に移住、東都において新道に精進することになり期待されてゐる。

異色ある催能

△喜多流などが率先して學生に呼びかけたのが非常な反響を齎したのに刺激され、最近では各流擧げて學生招待能などを催し能樂の普及化を計つてゐるが、十一年九月には喜多中等教員を招待し實氏の講演と後藤氏の「田村」を見せ、觀世では學生を招待し野々村氏の講演と左近氏の「百萬」があり、定例の喜多學生鑑賞能は同年十月に開かれ佐藤氏の「清經」實氏の「羽衣」があつたが、この日八歳に六歳の野村太郎、二郎兄弟の柿山伏が満員札止めの大觀衆を有頂天に喜ばせた△狂言の野村又三郎氏は十一年九月、七十二の高齡で獨演會を開き「才寶」茶子監梅といふ珍らしいものと秘田「花子」を演じた△金春惣右衛門氏の祖父追善能は十一年十月開かれ野口兼資氏の「萬城大和舞」梅若万三郎氏の「娘捨」櫻間金太郎氏の「望月」といふ大曲揃ひに喜多六平太氏の仕舞「秋」觀世左近、寶生重英兩氏の一調といふ大もの揃ひ、万三郎氏は自動車事故で臥床中を押し出て出演、二時間四十分といふのを無事勤めおぼせた△十一月十一日の梅若流別會で六郎氏が道成寺を出し赤頭で亂拍子は左廻り七段、和歌で右廻り七段、都合十四段といふ變つたものを見せ、武久氏は「安宅」を披いた△大阪帝大、關大、關學、神戸商大、大阪商大の學生によつて組織され

てゐる關西五大學曲聯盟の秋季大會は十一年十一月二十三日大阪市で開催、各大學演壇の形で素論、仕舞、舞臺子などで終日賑つた△春日流笛方の後嗣に決定した春日又三郎氏の披露能は十一年十一月二十八日京都觀世會能樂堂で開催、金春光太郎氏「翁」向榮治郎氏「高砂」寶重英氏「安宅」觀世左近氏「井筒」金剛慶氏「奏上」があり二十九日は大阪能樂堂で開催野口兼資氏「七騎落」喜多六平太氏「富士太鼓」梅若万三郎氏「道成寺」觀世鐵之丞氏「望月」櫻間金太郎氏「是界」があり兩日とも超満員の盛況を呈した△梅若万三郎氏演能二千五百番記念能は十一年十二月五日高輪の梅若舞台で開催、万三郎氏の「姑」望月」万佐世氏の「舟辨慶」があつた△大阪商大では諸曲部開設十五年を記念し關西最初の學生能會を十一年十一月五日大阪能樂堂で開催、學生による能「俊成忠度」その他素論、仕舞などがあつた△大阪朝日新聞社では十一年度年末同僚義金募集のため同社事業團主催で朝日會館で五流能を開催、喜多流正木氏の「卷絹」金剛流豐島氏の「田村」觀世流稻田氏の「二人靜」寶生流辰巳氏の「俊寛」金春流金春（榮）氏の「熊坂」があり盛況を極め千五百圓の収益をあげた△十二年東照宮詣初式は正月三日上野東照宮神樂で森殿に舉行されたが、例により觀世、喜多の兩家元と本年は金剛流の新家元勝氏が東上し弓矢立合を勤めた△十二年

全國能樂師(イロハ順)

朝日會館春季能樂會は金剛慶氏の家元名披露をかねて五月十六日開催、喜多流栗谷益次郎氏の「月宮殿」觀世鐵之丞氏の「八島」金剛慶氏の「鸚鵡小町」寶生流野口兼資氏の「鉢木」金春流櫻間金太郎氏の「國橋」があり、ほかに金剛氏令息助氏の「熊坂」滋夫氏の「玉の段」の仕舞などがあり盛況であつた

【觀世流】觀世 左近 井上 嘉介 稻田 貞治 飯沼 侑泉 泰一郎 伊藤 巖 林 純三 橋岡久太郎 西村 眞三 戸田 一也 戸田 清二 大江 竹雪 大槻 十三 大槻 虎男 大西 信久 藤万清四郎 大塚信太郎 觀世 喜之 觀世鐵之丞 觀世 鐵雄 觀世 武雄 觀世 友資 片山 博通 金子益三郎 川端 慶造 吉田 弘長 吉井 司郎 谷村直次郎 高山新一郎 武田宗治郎 田所 繁盛 磯之助 津田善三郎 中西 喜一 中川福次郎 中島 通夫 梅若万三郎 梅若万佐世 梅若 春雄 梅若 綱義 鶴澤 勇三 浦田 信清 上田 隆一 野尻 敏吾 久志本當基 山本 博之 山下 博子 山本三三郎 山口 幸徳 牧野 友民 松田 善智 福田 光祿 藤浪順三郎 小松幹利夫 手塚 貞三 淺見 重壽 青木 只一 青木 豊 佐藤 助七 佐々木隆義 坂井普次郎 生一 兼秀 木原 康次 宮田 華瀛 清水福太郎 清水要之助 清水 八郎 渡谷 政寛 淨弘 如稻 島澤 啓次 島田 嘉雄

【寶生流】寶生 重英 石浦 興吉 岡野 信雄 堀 弘畑 富次 萩野 宿輪 寶生 英雄 大坪十喜雄 大浦 嘉門 大野興三郎 影山 泰治 河合 定彦 加藤 秀松 川上 陽通 武田 喜男 辰巳孝一郎 高橋 進 高橋 徳之 田中幾之助 田部井啓二 塚田 榮美 中井作次郎 波吉 外次 野口 兼資 野村 論 増田喜太郎 近藤 乾三 近藤 禮 小林清太郎 小川 麟一 朝倉 六郎 佐野吉之助 佐野 友吉 佐野 巖 齋藤 篤 齋田 光正 三川 清 桐谷 正治 水村 鐵治 川谷 貞治 紀 重義 三原 理吉 清水 利純 島村 平次 榎本 秀雄

【金春流】金春光太郎 金春 信高 早野隆太郎 本田 秀男 高瀬嘉美之 高本 利八 高橋 勝藏 長瀬 才平 中川 四郎 野村 保 海村平史郎 金春榮治郎 櫻間金太郎 櫻間 龍馬 櫻間 眞次 櫻間 道雄 平岡 祥介 山田末七郎

【金剛流】金剛 巖 金剛 勳 金剛 滋夫 今井 義三 今井義三郎 原 玉城 奥野 達也 小倉次郎 片野東四郎 河野萬喜佐 楠川 正範 種田 嘉一 種田 治郎 豊島 一 豊島 登 豊島 文二 廣田 弘 廣田 晋一 山田仁三郎

【喜多流】喜多六平太 伊藤 千六 友枝 爲城 友枝 敏樹 友枝喜久夫 東海 古竹 和谷 宏 和島周三郎 和島富太郎 笠井規矩三郎 金子 五郎 高林 吟二 高木 義男 中尾文治郎 上野 八郎 内田 信義 梅津 正利 野添 勝巳 正木龜三郎 藤岡 周齋 藤藤 得三 栗谷益三郎 坂 安嗣

佐藤 澤澤口政之助 喜多 實 白井 精敏 順藤和太郎 須田哲次郎

【方】 【寶生流】 寶生 新 寶生 英 松本 謙三 藤田 正信 光本 敬一 光本 彌一 【高安流】 高安 滋男 西村 弘敬 谷田民之助 豊島要之助 豊島 十郎 豊島 永藏 和泉 太郎 【福王流】 今村秀太郎 田村彌三郎 中村彌三郎 久保田千三郎 古川順之助 江崎 直康 平野 順三 松井 八浦

【狂言】 【和泉流】 野村 萬齋 井上新三郎 多々良外茂 三村田朝吉 野村 万造 三宅 万介 野村又三郎 島田 政志 【大藏流】 山本東次郎 尾崎伊三郎 横井 潤男 田中 保清 柳田 巖吉 茂山千五郎 茂山 眞一 茂山 久治 茂山忠三郎 茂山忠一 茂山吉次郎

【笛方】 【森田流】 大原 賢藏 野口傳之助 寺井 政數 貞光 義次 森田 光三 森田 光次 森田 成三 杉 市太郎 杉 三三郎 【一噌流】 一噌又六郎 一噌 巖二 宇都 水憲 藤田大五郎 島田己久馬 【春日流】 春日市右衛門 春日又三郎 安田 耕三 【藤田流】 藤田登三郎 金森 準三 鈴木 眞恒

【小鼓】 【幸流】 幸 倍則 林 吉太郎 櫻本 孔英 甲斐 林象 竹村福之助 高水 敏郎 曾和 誠堂 曾和 修吉 中野 登三 近藤 全宏 關口富之丞 住駒 政次 【幸晴流】 幸 圓次郎 吉田裕太郎 田鶴惣太郎 波吉 速鬼 福井初太郎 青木 恒治 森 重朗 【大倉流】 大藏 六藏 吉坂 修一 中原幸四郎 荒木 實光 荒木 和三

青木直七郎 北村 一郎 【觀世流】 原 興一郎 石浦 能吉

【大鼓】 【萬野流】 川崎 利吉 源島佐之六 龜井 俊雄 川崎 之精 片山彌喜知 吉見 嘉樹 中村 慶作 近藤 季雄 齋田喜一郎 瀬尾 乃武 【高安流】 高安 道喜 加藤初太郎 安福 春雄 清水 正徳 【大倉流】 大倉 宣利 今井長八郎 橋田 義一 戸次 又一 吉田太一郎 永田虎之助 山本敬一郎 下村 英一 【石井流】 谷口喜三郎 西尾孫太郎 吉田 秀夫 谷口幸治郎 谷口喜代三 谷口 勝三 中村 亨道 保田 年隆 【幸流】 中川 順堂 中川 喜隆 【寶生流】 加藤 幸直 【太鼓】 【觀世流】 觀世 元繼 岩脇 眞助 新出 勝敏 觀世 元榮 野崎光之丞 松村 隆司 藤本 純吉 小寺 金七 泉頭 八郎 明珍 宗修 【金春流】 金春惣右衛門 今西清太郎 大原 米三 楠本 豐次 浦本 肇 前川 光隆 佐藤 順造 三島 太郎 平井 眞一 森 利夫

能樂協會に屬せざる人々

【梅若流】 梅若 六郎 本城 龜作 小田切平一 金子 一川上伊兵衛 土田 快助 津川熊太郎 中安 得二 植若 景英 梅若 武久 梅若 安弘 野頭 野久世 哲三 山口 直知 山内秀三郎 松井飯 一舟橋 信三 小山健太郎 小泉 進吾 青木 永三 天野米太郎 木村 延之 平井宗一郎 【雜子方】 濱口嘉一郎 和田 良之 谷口 甚藏 丹 常雄 田中 一次 藤本新二郎 天野 光郎 佐伯 實

【狂言方】 恩地伊太郎 黒田 其壁 佐伯 繁盛

圍碁

圍碁の略史

圍碁の發生については種々論議されるが、或は印度に發し支那に發達したものであるか、或は傳へられ、日本に傳來せる時期も確路も明瞭でなく、遺唐使吉備真備が將來せるとの説も誤りで、眞は天平以前から行はれてゐたことは幾多の文獻で判明してゐる。そして當時は上手が黒、下手が白であつたのも珍らしい。その後奈良朝、平安朝時代に上流の娯樂として發達したことは奈良正倉院の御物に棋局があり、源氏物語の中に空禪と軒端秋が碁を圍むのを源氏が覗見する一節があるのでも瞭解できる。爾後源平時代、足利時代と一弛一張はあつたがだん／＼と發達普及し、戰國時代には戰争と一脈通するものがあるとして武將の間に愛好せられ、殊に京都寂光寺の住職日海は非常な名手で、織田、豊臣、徳川三代に仕へ、徳川幕府成立するや日海は召されて本因坊算砂と名乗り天寶碁のお催しもあり幕府では本因坊家のほか井上、安井、林の四家を家元として一定の俸祿を給し保護し年一回上覽碁の催が定められ、碁所預りは非常な權威として右四家より選ばれるのでこれを總つて各種の暗闘が繰返され生命を的とする手

合も再三行はれたほどであつたが、現在のごとき我が國獨特の棋法となつたのは棋聖と謳はれた第四世本因坊清策以後のことである。その後幕府瓦解と、もに四家は三百年來の扶持に離れ非常な困難に陥り林、安井兩家は斷絶し井上家は大阪に移住してその後振はず本因坊家のみ辛うじて命脈を繋いで来たが、明治の聖代に逢つて漸く復活し本因坊家と同家の高足村瀨秀圃、中川龜三郎らの組織する方圓社との間に本因坊變名に關する波瀾もあつたが、明治四十一年本因坊家と方圓社が合同中央棋院が設立され再轉して今日の日本棋院の成立を見て以後年々とも隆盛となり、ことに明治三十一年神戸新聞紙上棋譜が掲載されたのを最初に各新聞ともこれを掲載してゐたが近年圍碁の流行は驅つて新聞碁の擴張を齎し、最近六、七年間各新聞は膨大な紙面を割き大衆的解説を付するやうになつていゝやが上にその熱を煽り圍碁界は今や空前の盛況を見てゐる現狀である。

棋界時事

天才兒現はる 年齢僅かに十歳の岡山市生れ鈴木圭三君は七歳の時、瀬越七段に井目で敗れたが九歳に藤原正美五段を七目で破り十歳の十一月六月には吳六段に五目で惜敗したが、吳六段は自分の十歳のころよりうんと強いとその驚異的な神童ぶりに舌を巻き日本

棋院から招聘されて八月上京、十日日本棋院で本因坊名人と六目で對局、名人がいつ投げかといふ戦ひであつたが、子供の悲しさ惜敗はしたが、その將來を樂しまれ瀬越氏の門に入り専門棋士としてたつことになつた。

木谷七段昇格披露 棋壇の鬼才木谷七段の昇段披露大會は十一月二十三日故郷の神戸市下山手通神海俱樂部で開催、東京から本因坊名人をはじめ鈴木、瀬越兩七段以下棋院の高位者をあけて西下、専門棋士の参加九十餘名、段位しめて三百餘段といふ大豪華碁會であつた。

日本棋院十一年秋季大手合 日本棋院十一年度秋季大手合は左のごとき成績で島村四段が優勝し、十一月十一日永田町の日本棋院において左記入賞者に賞牌が授與された。

一等島村利博四段 ▲二等村島正義五段 ▲三等水谷實七段、福田正義五段

朝日新聞社寄贈の優勝碁盤に副賞一千圓は島村四段へ贈られた。島村四段は十一年春乙組より甲組に編入された新進棋士で春季大手合に三等入賞、秋季大手合で一等を獲得したものである。なほ乙組優勝者は

一等坪内政寛初段 ▲二等藤澤庫之助四段 ▲三等田中不二夫四段

ら積立金を差引き六段あたりが五十圓程度のもので、乙組の要求を容れるとなれば新聞碁の手合料をウンと頭をはわ何十人かの無収入者に均霑させるよりほかなく、さうなると常に新聞碁を打つ人のみが夥しい額を棋院に納めるといふことになり、それでは堪らぬとこれらの人達が擧つて棋院を脱退するとすると棋院は崩潰し、従つて乙組棋士も總倒れになるといふおそれがあり、ことには乙組の有聲少年にとつては本當の登龍門がなくなること大痛手であり、内心は今でも大手合を打ちたい希望者があり、更に高位者側には乙組なぞ引きすつて歩くから棋院も經濟難に陥るので乙組なぞ手を切つて仕舞へといふ強硬意見もあり、とう／＼乙組の足許はしどろもどろとなり遂に表面理事一任といふことで泣廢入りになつた。

全日本アマチュア選手權大會 大毎社主催の全日本アマチュア圍碁選手權大會は十二年五月二十一日から三日間大毎社で開催、中國代表川口正利初段が兵庫代表橋本太郎次三段を破つて輝かしい優勝者となつたが、同初段はかつての早大圍碁部の主將として、時の明大主將で吳六段の令兄吳浣二段と並び稱せられた素人棋士の雄である。なほ同氏は優勝の成績により二段を贈られた。

日本棋院十二年春季大手合 日本棋院十

吳六段靜養休場 十一年春の日本棋院春季大手合に全勝して七段昇格の呼聲高い吳六段は、元來蒲柳の質に加へてメキ／＼と賣れるだけ手合の數も多く心身を消耗させてゐるのを見兼ねた師の瀬越七段は愛弟子を思ふ餘り駿河台香雲堂病院院長佐々木博士の診察を受けたところ靜養を勧められたので七段昇格を目前にして休場するのやむなきに至つた。

更に天才少女現はる 日本棋院後援の下に十二年三月六日東京丸ノ内電氣俱樂部で「實際と理論の會」が催された。その席上木谷七段が一等参加者中から一名を選んで稽古碁をうつことになつたが、十一歳の熱海小學校四年生本田壽子さんが登場、五子で挑戦し大人もおよばぬ巧妙な打合しで白の大石を屠り中押勝を占め鬼童丸木谷七段に快勝した。同觀はかつて本因坊名人に六目で勝つたこともあり、さきに岡山から出た鈴木少年と相重んで天才棋士と稱されてゐる。

デパートで棋道教授 大阪松坂屋では十二年三月一日から將丸、圍碁を一括した棋道部を設けた。會費月三圓で、教授時間は一日午後一時より五時半まで、土曜、日曜に限り夜八時までとし臨時會員も出入自由で、婦人會員は會費半額の特點が設けられてゐる。なほ全部椅子席となつてゐる。

日本棋院乙組の連判 日本棋院の十二年春季大手合を前に大騒動が持上つた。乙組の三十人が連判帳を作つて棋院に對し

一、乙組全員に對しても給料を支給されたこと
一、大手合において甲組、乙組の差別を撤廢されたい
一、甲組四段、乙組四段の差別を撤廢されたい
その他數項の要求をしたのであるが、要は月給が問題であつた。これに對し現在棋院の財政ではその能力がなく、しかも高位者側は「乙組の大手合はむしろ乙組棋士の登龍門で、昔は叩頭百拜、或は後援者に依頼しやつと高位者と對局し修行し、それによつて昇進したもので、その辛酸は今日の乙組の棋士の夢想も出来かねるほどであつた。しかるに現在では乙組の棋士も必ず春秋二季の大手合で大手を振つて對局し、それによつて垣々たる大道を往くがごとく昇段が出来るもので乙組の大手合は願つてもなき登龍門である。無料奉仕の大仕事のやうに思ふのは大間違だ。」といふ意見を述べ、これに對し乙組棋士は「成程大手合は登龍門であるかも知れぬが、この大手合に打勝つて高位に進み得るものは二、三の人に過ぎない。殘りの二十數名の所屬棋士は新聞碁は打たされず、お弟子もないと來ては我々の生活はどうなる。日本棋院が財團法人として確立し、その所屬棋士として大手合に参加する人々には月給を出すのが當然ぢやないか。」

と主張し相譲らなかつた。が日本棋院の財源としては主として各棋士の新聞碁の手合料の二割から半額を徴収するのが主なる収入となつてをり、月給一段十圓ぐらゐるで、そのなか

ら積立金を差引き六段あたりが五十圓程度のもので、乙組の要求を容れるとなれば新聞碁の手合料をウンと頭をはわ何十人かの無収入者に均霑させるよりほかなく、さうなると常に新聞碁を打つ人のみが夥しい額を棋院に納めるといふことになり、それでは堪らぬとこれらの人達が擧つて棋院を脱退するとすると棋院は崩潰し、従つて乙組棋士も總倒れになるといふおそれがあり、ことには乙組の有聲少年にとつては本當の登龍門がなくなること大痛手であり、内心は今でも大手合を打ちたい希望者があり、更に高位者側には乙組なぞ引きすつて歩くから棋院も經濟難に陥るので乙組なぞ手を切つて仕舞へといふ強硬意見もあり、とう／＼乙組の足許はしどろもどろとなり遂に表面理事一任といふことで泣廢入りになつた。

全日本アマチュア選手權大會 大毎社主催の全日本アマチュア圍碁選手權大會は十二年五月二十一日から三日間大毎社で開催、中國代表川口正利初段が兵庫代表橋本太郎次三段を破つて輝かしい優勝者となつたが、同初段はかつての早大圍碁部の主將として、時の明大主將で吳六段の令兄吳浣二段と並び稱せられた素人棋士の雄である。なほ同氏は優勝の成績により二段を贈られた。

日本棋院十二年春季大手合 日本棋院十

二年春季大手合は五月二十八日をもつて終了したが、左のごとき成績で藤澤庫之助四段が輝く優勝者となつた。

一等藤澤庫之助四段七勝一敗(内不戦勝一局)総勝六四〇、平均八〇・〇〇 ▲二等關山利一五段(六勝一敗)総勝四九五、平均七〇・七一 ▲三等橋本宇太郎六段(五勝二敗、内苦一局)総勝五六〇、平均七〇・〇〇

以上のうち藤澤四段は甲組編入後最初の大手合にも拘らず向井氏との不戦勝を別にして福田、橋本、岩本、篠原、前田、小野田の諸氏を併し最後に島村氏に惜敗し全勝を傷つけたといへば堂々たる快勝ぶりであつた。なほ乙組では鈴木五良少年(初段)が久井初段、竹中初段、杉内初段に白で勝ち、五十川初段、井上四段、伊藤二段、渡邊三段、黒田二段に先で勝ち八戦八勝七百四十点、平均九十二點五分といふ驚異的成績で一等となり二段に昇進することになり、二等小泉三段、三等高川四段で、高川四段はこの成績で甲組に編入されることになつた。

島村四段五段に昇進 島村利博四段は日本棋院十二年度春季大手合において一〇五點を獲得五段に昇進した。

ドイツの圍碁熱 ドイツにおける圍碁熱勃興は驚くべきものがあり、例のデュール初段をはじめ熱心家が多くその數二千名に上ると見られ、月刊のドイツ圍碁新聞、初心者のための「圍碁の定石」などの書籍や雑誌が發

行され、ベルリンその他で會合して研究を積んでゐるが、それに在留邦人の天狗連がこれに加はり日本棋院の支部を設立するといふ騒ぎで、ドイツの圍碁はまさに本格的なものとなつてゐる。

日獨電報碁戦 日本編在一ヶ年、圍碁を研究し日本棋院から初段を贈られたドイツ人デュール氏は歸國後の研鑽によつてドイツ國內に好敵手を發見し得ずとあつて、遂に鳩山一郎氏とかつてなかつた電報碁をうつことになり、十一月十日一日デュール氏の先で開始、その間一弛一張あつたが五十二日目デュール初段の二百五十一手で遂に鳩山氏が七目の勝利となつて碁界を騒動させた日獨電報碁戦は終つた。

パリに圍碁クラブ設立 世界的になつて來た圍碁はさきにドイツに日本棋院の開設を見たが、パリでも圍碁クラブが組織されるに至つた。「碁の打ち方」(ハウ・トゥ・プレイ・ゴ)の著者として有名な米人本因坊ユドワード・ラスカー式と反テチスで祖國を追はれた新聞記者ハニエルの兩氏が肝煎りで十二年五月十三日パリの觀望境カルティエ・ラタンのカフェ・ジュ・ボンにおいて發會式を擧げた。また會員は十數名に過ぎぬが毎週木曜と土曜の兩日碁會を開き碁譜を相手に斯道の蘊蓄を極め、ゆくゆくは日本から専門家を聘して研究を重ねようと意氣込んでゐる。

日本棋院棋士名録(イロハ順)

- 【名人】 本因坊秀哉
- 【七段】 稻垣 日省 岩佐 銈 加藤 信 廣瀬平治郎 頼越 繁作 鈴木爲次郎 水谷 實
- 【六段】 岩本 實 林 有太郎 橋本宇太郎 小野田千代太郎 久保松勝喜代 前田 陳爾 吳 泉 木村 廣造 宮坂 敏二 光原伊太郎
- 【五段】 井上 孝平 長谷川 章 細川 千切 和久井三郎 村島重紀 山口 實石 福田 正義 喜多 文子 都谷野逸郎 篠原 正美 關山 利一 島村 利博
- 【四段】 飯田 峰助 家田 定吉 伊藤幸治郎 今井 善藏 井上 一郎 橋本國三郎 本多鏡太郎 堀 憲太郎 大槻 重雄 小川 九郎 渡邊 鶴一 若狭 勝治 龜井 龜雄 金田總次郎 風間松太郎 吉田 操子 醍醐 久吉 高井虎三郎 高橋 清致 高橋 重行 高川 格 田中不男 田村通太郎 田村 強 坪内天澤誠 鍋島 一郎 中村勇太郎 中山 新 成田 美新 向井 一男 山田 弘三 安永 一 山中兼次郎 松田 爲造 丸橋京治郎 藤田豊次郎 藤澤庫之助 藤村 義勝 小杉 丁 小島 春一 近藤 元吉 手塚 堯 赤岩 太平 荒川 雄治 湯美 六郎 酒井 通温 佐々木幸助 澤田 宇從 紀本龍太郎 三部 均一 宮下 秀洋 鹿間千代治 志田直太郎 芝 莊一 平井準一郎 平手 穰 森 常次郎 瀬尾吉太郎 鈴木 秀子
- 【井上家】 【七段】 井上 因碩
- 【棋正社】 【八段】 雁金 準一 高部 道平

將 棋

將棋の略史

將棋はインドに發生し支那を経て日本に傳來したものらしく平安朝時代既に流行してゐたことは正倉院御物に「大將棋」「中將棋」「小將棋」があることでも分る。その後徳川初葉までは中將棋も行はれてゐた模様であるが、足利の中葉頃、小將棋に中將棋の飛角を加へたものが案出され爾後改良を加へられ最も發達せる今日の將棋形式となつたもので盤上の懸引が戰場のそれに似てゐるといふので武人の間に好愛され、織田、豊臣時代を経て漸次普及發達し、徳川幕府が成立するや將棋所が設けられ初代大橋宗桂、本因坊算砂らの名手が將棋所預りとなり、さらに大橋家の高足伊藤宗看また將棋所預りとなり、爾後大橋分家大橋宗看が將棋所預りとなり、爾後大橋兩家と伊藤家とが交々將棋所預りとなり幕府瓦解後十一世名人伊藤宗印で三家は事實上消滅し小野名人を経て現在の關根名人に及んでゐるが、近年棋道の流行から各新聞社が争うて高段者の手合を興味深き解説とともに掲載するのでさらに棋道流行に拍車を加へた觀があり棋道全盛を謳歌してゐる。

將棋界時事

大成會關西支部發會 大成會關西支部發會式は十一月二十九日大阪堂ビル清交社で擧げたが、支部長神田八段、相談役木見八段、幹事長藤内六段以下若手棋士二十餘名集會、本部會長花田八段、幹事長木村八段も出席、花田、木村兩氏の挨拶、神田八段の決心を語る挨拶があつた。

全日本アマチュア大會 大毎社主催全日本アマチュア將棋大會は十一月十九、二十、二十一の三日間同社講堂で開催、遠く北海道、朝鮮、台灣などからも代表が参加し激戦をつづけたが最後に近畿の橋本三段、東神靜の内藤初段との間に優勝を争ふことになり遂に八十七手を以て橋本三段優勝し大毎社の將棋盤一組、大成會の優勝カップ、小賞賞その他が授けられた。

東京學生聯盟第四回リーグ戦 東京學生將棋聯盟主催第四回リーグ戦は本社ならびに大成會後援の下に十一月十日から大成會において開催、参加校は帝大、商大、慶大、立大、早大の五校で、同月十七、十八、二十四、三十一の五日間にわたり行はれたが遂に一位早大 ▲二位商大 ▲三位帝大 ▲四位立大 ▲五位慶大

を調停した棋界の恩人小菅劍之助翁に對し三百年の傳統を破り「名譽名人」の稱號を贈ることになり、十一月六日大成會の緊急評議員會ならびに臨時總會で満場一致で可決し十八日東京の小菅邸で關根名人の手でこれを贈つたが、小菅翁は斯界の大先輩で關根名人の兄弟子にあたり八段をもつて斯界から引退したが名譽とも名人の實録を備へ關西財界の雄として巨萬の富を擁しながら將棋界の指導發展に盡した功績は著るしく棋界感謝の的となつてゐたもので、氏は慶應元年三重縣に生れ米相場を鬼才を揮ひ數百萬圓の巨富を築きながら公共事業に奉仕し四日市のため數十萬圓を投じ公會堂、商工會議所、市民病院等を寄附した郷黨の教育指導に盡し四日市の恩人として讃仰されてゐる人格者である。

大成會降段制を實施 將棋大成會では棋界多年の懸案であつた降段制をいよいよ斷行することになり十一月二十一日の總會でその新規定を發表、十二月一日より實施することになつた。

連續三年間の總得點平均五十點に達せざるものは一段降下せしむ、但し病氣その他やむを得ざる自己の故障によつて對局をなさざるこ六ヶ月に達せざる場合はこの期間を計算上取消し六ヶ月以上一年に達せざる場合にはこれを半年として計算すとあり、これとともに各段別の昇降段も定められ、關西支部所屬棋士の昇降段はこの新規定を基準として別に制定せられる。

五棋士の昇段 將棋大成會では十一年十二月、昇段新規定により左の五棋士の昇段を發表した。

七段に坂口九彦△五段に大和久彪、畝美代吉、升田幸三△四段に加藤慶次(敬)、升田、加藤の三氏は關西支部所屬棋士) 右のうち升田新五段は十九歳で木見八段の秘藏弟子、將棋大成會主催の下に東西十二名の四段から七名を選抜する發選にまづパスし東京本部での七名のリーグ戦で見事に全勝し五段に昇格したもので、同年四月、九人抜の勝繼戦で四段に昇格したばかりで、またこの昇段を見たのは木村義雄八段以來のスピード昇段といはれてゐる。

小菅翁二十五年振りの對局 名譽名人の稱號を贈られた小菅翁は二十八歳にして棋界を去つたが、その力量の非凡さは十居八段が二段の折飛香落十八局で四局を貢越し、五段となつて日の出の際に際してもなほ飛角一組を指し分けたといふほど大物落に強い棋士であるが、その後二十五年駒を手にせなかつたが、十二年一月樋口義雄四段と飛落で對戦し常に優勢を維持したが樋口四段に起死回生の妙手が出て百二十手で惜敗した。

坂田名人再度敗る 鳴かず飛ばすの十數手、駒を貢ふ虎のごとく斯界のスフィンクスとして見られてゐた老棋士坂田名人は遂に起つて東都棋壇の花形木村八段を、次で同花田八段を迎へて平手の戦を交へた。對木村戦は

十二年三月京都南禪寺で行はれ、對花田戦は嵐山天龍寺の大書院で行はれたが一手六時間といふ長考のレコードを作つたり、對木村戦に最初の一手に九四歩、對花田に同じく一四の歩と奇想的な手を押し將棋ファンをして目を見はらせたが、老のためか、身體のコンディションが悪かつたか、兎も角も勝運に恵まれず兩八段に敗れ去つて老雄轉た秋風寂莫たるものがあつた。

大野六段昇段披露會 大野源一六段の昇段披露會は十二年五月六日大毎社で開催、土居、神田、花田の三八段以下多數高段者出席八段戦の解説、來賓競技などがあつた。

十二年度春季學生リーグ戦 十二年度學生將棋リーグ戦春季手合は五月二十二日を最初として二十三、二十九、三十、六月五日、六日の六日間にわたり舉行、参加校は前年同様帝大、商大、早大、慶大、立大の五校で熱戦を演ぜられたが、前年秋の優勝校早大と前年春の優勝校商大との優勝試合となつたが四對三で商大雪辱し優勝の覇權を握り、朝日新聞社寄贈の大優勝旗、週刊朝日寄贈の優勝杯將棋大成會の優勝杯を授與された。

名人決定の成績 新制度による將棋名人決定に關し大成會では打切を十一月二十五日と決定、その後の成績は算入されないことになつたが十二年六月十日現在の成績は左の通り。なほ病氣中の大崎八段は除外されてゐる

△第一位(九九・九點) 木村△第二位(九五・六點) 花田△第三位(七九・三點) 神田△第四位(七三・九點) 土居△第五位(五九・四點) 金子△第六位(五八・五點) 金△第七位(五五・九點) 萩原△第八位(三三・四點) 木見
大成會關西支部の成績 大成會關西支部の十二年度前半期(五月二十六日現在)の成績は左のごとくである。但し名人戦は含まず。
一〇五點 神前五段△一〇〇點 大野六段△八八點 中井六段△八四點 升田五段△七二點 加藤五段(以下略)

高段棋士(イロハ順)

- 【名 人】 關根金次郎 坂田三吉
- 【八 段】 花田長太郎 早川 隆敏 萩原 淳 土居市太郎 大崎 熊雄 金子金五郎 神田辰之助 木村 義雄 木見金治郎 金 易二郎
- 【七 段】 渡邊 東一 山本 樟郎 小泉 兼吉 齋藤銀次郎 坂口 允彦 溝呂木光治 宮松三郎
- 【六 段】 飯塚勘一郎 石井 秀吉 時田慶三郎 大野 源一 建部和歌夫 塚田 正夫 中井 捨吉 村上 眞一 山北孫三郎 藤内 金吾 寺田 梅吉 平野 信助
- 【五 段】 大和 久彪 堀 一郎 加藤竹次郎 加藤 治郎 神前 光三 畝 美代吉 松田 辰雄 升田 幸三 澁川奈長吉
- 【四 段】 市川 一郎 橋爪敏太郎 加藤 富久 加藤 慶次 中村 熊治 上田 三三 奥野 基芳 松下 力 小堀 清一 荒巻 三之 志澤 春早 高村 増喜 樋口 義雄 鈴木 禎一 角田 三男

寫眞

「型」の畫一時代

十一年度において最高潮に達したかと思はれた日本寫眞界は、十二年に入つてもその亂暴な飛躍は更に一層の拍車をかけたかの感があり、一通りの寫眞技術といふものはそれが殆んど國民の常識とさへならうとしてゐるほどである。そして引續き新しく發賣される機械も、稍寫眞機としての形態を整へたものだけでも數種を擧げるのに困る位で、事實、寫眞機商に試みに新發賣のものを照會しても商賣人の方で面食ふ位で氾濫に次ぐ洪水、この勢ひは特別の事情がない限り茲しばらくは底止するところがないであらう。

そこでこゝに見逃すことの出来ない現象はアマチュア向きに發賣される國産機の大部分が、形式においてロールフィルム用、サイズでは一般に「セミ」を冠せられて呼ばれるプロ一ニー半截、即ち十六枚撮りか、或は同じ形式においてヴェスト半截——同じく十六枚撮り——のものが壓倒的に多數を占めること、新たに購入するものの要求がそこにあるためでもあらうが、製作者の御都合主義に躍らさ

れてゐるといふ感じもなかく、深い。それらの由つて來るところは暫く措いて、結局今年度のアマチュア用カメラ界は、「型」の畫一時代にあるといふことがいへよう。

かくの如くカメラ工業が隆盛に赴きつゝあるのは大に慶賀すべきではあるが、こゝにこんな挿話を一つ語らなければならぬのはこの勃興隆盛の我がカメラ工業界に對して或は冒瀆であるかも知れないが或る人が息子の中學卒業祝にカメラをねだられて相當名の有る市販國産品の一種五六箇を取り寄せて試験して見たところ悲しいには一つも指定の距離において満足な焦點を結ぶものがなかつたといふ。結果はいふまでもなくアマチュア製のレンズの入つた機械を買はざるを得なかつたのであるが、昭和八年度輸入カメラ金額七十六萬圓を底として十年度二百五十八萬圓、十一年度においては實に三百九十五萬圓といふ飛躍的金額を示して増加してゐるといふことはカメラ工業全盛の現在に看過すべからざる情勢といはなければならず、海外の高級品がある階級に愛用の程度を擴大しつゝあることによつて激増を見たことは事實でもあらうけれどもしたまへ、前記の挿話などもこの原因の幾分かを負擔するものとしたら、これはカメラ工業界の前途に何らかの示唆を與へるものでなければならぬであらう。全く日本のカメ

ラ工業界は極言すればカメラボディ工業のみといはなければならぬほど跛行的であつてカメラの生命ともいふべきレンズ工業に對しては前年に比べても特筆される收穫はなかつたやうである。F2.9の八ミリレンズが完成されたといふ事實はあるにもせよ、その實用價值において少くとも外國製品のそれと再にも互角の太刀打が出来るとは考へられぬ。結局は素地の光學ガラスの質の問題であるが、内國の業者は相變らず、一袋幾何で輸入される外國素地の格外品を磨き上げて足れりとしてゐる有様であるから、この情勢が覆けられる以上いつになつても特筆するに足る進歩は認められないとは明らかであるが、ただ「スイコー」など比較的高級レンズが國産の素地をもつて製作せられ、形式において「ライカ」その他の模造とは云へ高級カメラの二三種が發賣されたことは少しく意を強くするに足りるであらう。

乾板、フィルム、印畫紙等もひたすら向上の一路をたどつて十一年よりも十二年は數量に於ても、質に於ても斷然進歩したとは云へこの部門においても、外國品をリードするやうなものが出来たのを聞かないことは淋しい。要するにこれも外國高級品を目ざして辛うじてそれに追隨し得る程度であるが、しかし實用的には全くことかゝらないまでに成長は

して来た。原紙及び乳劑原料のゼラチンは未だ前年度に比して何も新らしく語るべき材料がない程度で、これらも寫眞界のあらゆる部門が飛躍發展の一路をたどつてカメラ日本の存在を汎く世界に示しつゝある折柄そろそろ自給自足の結についてもらひたいものである。

軍機保護とカメラ

非常時の呼び聲はこゝ三年間何につけても殆んど定冠詞のやうに耳に慣れて來てゐたがそれを直接寫眞界にはつきりと意識させたものは昭和十一年度になつて一層嚴重になつた取締りと撮影禁止區域の擴大であらう。カメラが精巧になり感光乳劑の長足の進歩に従つてあらゆる地物は忌憚なくその形骸をビントグラスに暴露するのである。或種のカメラでは建物の大きさが數字的に認識し得られ、地形の距離等も明瞭に知り得るものさへあるさうである。これに赤外線寫眞を並用した場合に思ひ到ればその威力は實に怖るべきものといはなければならぬ。だから一般アマチュアにとつては小五月蠅い存在でしかないやうに思はれてゐるこの取締規則も軍機保護、否國土保全といふ意味から見れば實に尤もな次第で、苟くもよき趣味の寫眞家を以て任ずる者はよくこれに違ひ、といふより寧ろ進んでこの法に協力しなければならぬと思ふ。

從來の要塞地帯内は勿論、都市内でも一般に俯瞰撮影が禁止されたり、戒る地區では海岸線のはつきりした寫眞等も取締の適用を受けることになつてゐる外、各地の状況に應じて取締法案も一様ではないが十分戒心して苟くも非良心的な行爲があつてはならないことはいふまでもなく、たとひ過失であつても多くの場合笑つて済まされぬ結果を生ずるのであるから、求めてその忌しき過失に接近する愚をなしてはならない。

營業的運動と技術の上達

舶來と國産とを問はず寫眞機および諸材料の進歩は必然的に寫眞技術の上達を産んだ。上達といふことが普遍的でないならば寫眞技術水準の向上といはう。このために上手と下手の差といふものは非常に少くなり、いはゆる大家とアマチュアの差といふものさへ、或はプロバビリテイの問題ではなかつたかと思へ思はれるやうになつたといつても大した過言ではないやうである、そして數年前まで寫眞術の最高標準であるかの如く誤信されてゐたいはゆる「對眞寫眞」は見る影もなく衰退の彼方に、その怪奇な獨善的な影を消し、それに代つて在るがまゝの姿を見るがまゝに、かつ正直に端的に表現するスナップショット、またはキャンディッド・フォトグラフィが著しく擡頭したことは強記するべきで、この

傾向が總ての展覽會、懸賞寫眞などにも反映し、一般の寫眞作品を明朗化して來たことは争へない事實である。

以上の如く寫眞技術の上達明朗化といふことについてはもちろん寫眞工業の進歩發展に資ふところも少くないが、他方また一つのこの助成手段としての諸種の營業的運動の展開は十二年に至つて特に顯著なものがあつた。

A、撮影會の開催 從來關東、關西の兩寫眞聯盟を主として各地の寫眞團體、新聞社などにおいて主催する傍ら製造會社や材料商などの商策上舉行したつたものであるが、この趨勢は十二年も變らずなほ一層に拍車をかけたもので、或る製造家、材料商主催のカメラデーには、ダンサー、女優等のモデルを備つてこれを自由に撮影せしむる方法、或は地理的に著名かつ興味的な地を指定して撮影旅行をなす如きも實にしばしば見聞した事實である。

B、講演會及び展覽會の開催 においても十一十二年の如き盛大さを示したことは未曾有であつたといへる。東京一市について見ても、小西ホールの如きは殆んど年中無休の状態を利用して、その他各デパートメントストアでも毎月これに關する何らかの展覽會を見ないことはなかつた位で、遂に十一年十月銀座に寫眞専門の寫眞展覽會場日本サロンが出

現するに至つたのを見てもその一斑が知られるであらう。

〇、文書寫眞關係の書籍、雜誌、パンフレット、記録などの出版物もカメラ氾濫の世相を反映して紙價の暴騰もよそに正に氾濫時代相を現出した。各雜誌の發行部數はともかくとして、その種類の多い點のみについていふならばおそらく歐米各國にもその比を見ないであらうほどの盛大さで、殊に各製造會社で營業的に發行する型録類の如きものも、指導的の態度をもつて書かれたものが多くなつて來たのは喜ぶべき現象といはなければならぬ。

主なる記録

(十一年七月) (十二年六月)

【七月】全日本大學寫眞聯盟展(九日—十三日銀座伊東屋)アレン・ワイルソン第二回展(六日—八日東京小西六本店)十八日—二十日大阪朝日會館、二十日—三十日京都朝日會館及び大丸、十日—十二日名古屋松坂屋)第一回新光展(十日—十四日東京白木屋)廣告寫眞入選作品展覽會(二十四日—二十七日東京高島屋)新日本風景展覽會(二十四日—二十九日東京松坂屋)

【九月】カメラハイキング寫眞展(一日—六日東京白木屋)奥日光寫眞展(一日—七日淺草松屋化粧品宣傳寫眞展(七日—十一日銀座資生堂)中山岩太個展(二十四日—二十八日東京小西六本店)甲南高校寫眞展(三十日—十月二日銀座紀伊國屋書店)

【十二月】スキーと雪山寫眞展(一日—五日東京小西六本店)オタニエタル寫眞學校卒業寫眞展(十二日—十四日銀座日本サロン)同志社高商カメラ展(十八日—二十日京都大丸)第一回觀察寫眞サロン



フ井ルムに對する

滿腔の信賴です

純正な科學者の良心を以て
お薦めの出来る……

パンUSSフィルム

夜でもスナツプの出来る
色彩豊かな被寫體に
極微粒子・定評ある
バンUSS
バンクロフ
クロームスペシャル

東京六興社

年中行事

年中行事

(巻頭の略歴参照)

日	行事	日	行事	日	行事
▲一 月	一日 四方拜、回禮、惠方詣	▲三 月	一日 東大記念日、雉山鳥捕獲禁止	▲六 月	一日 更衣、貴船祭(山城)鮎漁解禁
二日 踏車始、商始、踏新聞休刊	二日 雌祭	二日 鴨川踊(京都)浪花踊(大阪北	二日 八十八夜	二日 傳教忌	二日 宇治縣祭(山城)、榮西忌
三日 元始祭	三日 地久節	三日 端午の節句、菖蒲湯	三日 立夏	三日 時の記念日	三日 入梅
四日 政治始、踏官御用始	四日 陸軍記念日、金刀比羅宮大祭、	四日 母の日	四日 金刀比羅宮開帳	四日 聖德太子御忌、銃風禁止	四日 山王祭(三日間東京日枝神社)
五日 新年宴會	五日 奈良二月堂お水取	五日 春祭(大和)	五日 雌祭(京都加茂祭)	五日 復活祭	五日 嚴島祭(安藝)
六日 消防出初式、小婁	六日 春日祭(大和)	六日 雌祭(清涼寺)	六日 熊野神社祭	六日 觀櫻御會	六日 鞍馬竹切(京都)
七日 七種粥、白馬神事(住吉神社)	七日 彼岸入、六阿彌陀詣	七日 雄崎御松明(清涼寺)	七日 三社祭	七日 壬生大念佛始まる、東寺御影	七日 熱田祭(尾張)
八日 陸軍始、觀兵式	八日 電氣通開(廿六日まで)	八日 雄崎御松明(清涼寺)	八日 唐招提寺の團扇撒き	八日 供、島原太夫道中	八日 夏至
九日 金刀比羅祭、十日戎	九日 北野天神御忌、蓮如忌、起母祭	九日 雄崎御松明(清涼寺)	九日 日本赤十字總會、愛國婦人會	九日 天長節	九日 愛宕神社四萬六千日(東京)
十日 鏡開(京都は四日)、土藏開	十日 神戶(京都)浪花踊(大阪新町)	十日 雄崎御松明(清涼寺)	十日 海軍記念日	十日 踏車神社祭(三日間)	十日 踏車六月版、住吉祭
十一日 海軍始、小豆粥、八幡詣(十九日	十一日 神武天皇祭	十一日 雄崎御松明(清涼寺)	十一日 神武天皇祭	十一日 踏車神社祭(三日間)	十一日 踏車六月版、住吉祭
十二日 初親音	十二日 神武天皇祭	十二日 雄崎御松明(清涼寺)	十二日 神武天皇祭	十二日 踏車神社祭(三日間)	十二日 踏車六月版、住吉祭
十三日 御講書始、歌御會始、大相撲	十三日 神武天皇祭	十三日 雄崎御松明(清涼寺)	十三日 神武天皇祭	十三日 踏車神社祭(三日間)	十三日 踏車六月版、住吉祭
十四日 春場所	十四日 神武天皇祭	十四日 雄崎御松明(清涼寺)	十四日 神武天皇祭	十四日 踏車神社祭(三日間)	十四日 踏車六月版、住吉祭
十五日 大寒、初大師、寒椿古	十五日 神武天皇祭	十五日 雄崎御松明(清涼寺)	十五日 神武天皇祭	十五日 踏車神社祭(三日間)	十五日 踏車六月版、住吉祭
十六日 初天神、鶯替神事、契沖忌	十六日 神武天皇祭	十六日 雄崎御松明(清涼寺)	十六日 神武天皇祭	十六日 踏車神社祭(三日間)	十六日 踏車六月版、住吉祭
十七日 陰曆元旦	十七日 神武天皇祭	十七日 雄崎御松明(清涼寺)	十七日 神武天皇祭	十七日 踏車神社祭(三日間)	十七日 踏車六月版、住吉祭
▲二 月	▲二 月	▲二 月	▲二 月	▲二 月	▲二 月
一日 節分、國分の課祭(尾張)	一日 節分、國分の課祭(尾張)	一日 節分、國分の課祭(尾張)	一日 節分、國分の課祭(尾張)	一日 節分、國分の課祭(尾張)	一日 節分、國分の課祭(尾張)

Table of dates and events for the month of September (九月). Includes dates like 八日 立秋, 十日 西鶴忌, 十三日 空也堂六齋念佛(廿四日迄), etc.

勅題と詠進の書式
宮中歌御會始は古來の御儀式で年々行はせられる。勅題は例年十一月官報をもつて發表され、何人も一人一首を限り詠進するものとす。

Table of names and titles for the 'Imperial Edicts and Recited Poems' (勅題と詠進の書式). Lists names like 三石契久, 三社頭祈世, etc.

Table of exchange rates for various countries (列國貨幣換算表). Lists countries like アメリカ, カナダ, キューバ, etc., and their respective exchange rates.

列國貨幣換算表(純分比價)

一、料紙は左の通り五ツ折りとす
一、裏面には最後から二行目右寄に現住所、族籍、左寄に氏名、官職、位勲、功爵あるものは氏名の上にそれを記す

Table with columns for '御題' (Imperial Edicts) and '名上' (Names). Contains the numbers 七, 五, 七, 五, 七, 七.

Table of exchange rates for various countries (列國貨幣換算表). Lists countries like エストニア, エジプト, 新西蘭, etc., and their respective exchange rates.

世界各地の時差

Table of time differences across various global locations (世界各地の時差). Lists locations like エリントン, シドニー, 東京, etc., and their time differences from the central standard time.

Table of astronomical events with columns for event name (e.g., アテネ、ス), date, and time.

書籍の寸法
書籍で最も普通の大きさは菊判と四六判である。菊判は縦七寸五分、横五寸、四六判は縦六寸二分、横四寸二分でメートル法で換算すると左の通り。

太陽・惑星・月 (理科年表)

Table of solar and planetary data including names (e.g., 水星, 金星), distances, and other astronomical parameters.

これより大型のものに菊二倍、四六二倍、四六四倍、菊四倍などあり、小型のものに菊半裁、四六半裁あり、特殊な型に三六判(縦六寸、横三寸から出た呼稱で縦十九号一、横九号九)三五判などがある。このほかに和本仕立には半紙判(縦二十五号七、横十七号二)美濃判(縦二十九号、横二十号八)半紙半裁、美濃半裁がある。

メートル法

度量衡相互の聯絡を有す(4)學術研究に適當(5)國際的に現在世界中メートル法専用約五十ヶ國、併用八ヶ國である。

メートル法・度量衡比較表

Comparison table of metric units (meter, liter, etc.) with columns for name, symbol, and conversion factors.

換算便法

メートルを間に直すには一割加へて二で割る。メートルを尺に直すには一割加へて三倍する。キロを貫に直すには二割引いて三で割る。貫をキロに直すには四で割つて十五倍する。斤をキロに直すには五で割つて三倍するかまたは〇・六をかけよ。

換算表

Conversion table showing relationships between various units like meters, kilometers, and traditional Japanese units.

各種税率摘要

土地台帳に登録したる賃貸価格の百分の三・八
地租
所得税 (臨時租税増徴)
第一種 (法人の所得)

Table with columns for tax type (e.g., 第一種, 第二種), tax rate, and period. Includes sub-sections for '甲 普通所得' and '乙 超過所得'.

の五を百分の十を百分の二十としたる場合の
差増額に相當する税額を増徴せらる。
考 (一)右臨時租税増徴法に依る増徴分に付ては地
方附加税を賦課することを得。但し新に國債
利子に課税する爲め生ずる増額分に付ては此
の限にあらす。

●北支事件特別税増徴(自昭和十二年八月至同十
三年七月事業年度分) 本税及び臨時租税増徴
法による税額の合計の一割

第二種

Table detailing tax rates for various types of income (e.g., 國債の利子, 公債の利子) under the '第二種' category.

Table titled '第三種' showing tax rates for different income brackets (e.g., 所得千二百圓以下, 千二百圓を超ゆる金額).

算出方法 「税率」を乗じたる金額より當該欄の「控
除額」を控除したるものが税額なり

Table showing tax rates for various income levels (e.g., 所得千圓以下, 一萬圓, 十萬圓, 五十萬圓).

Table detailing '資本利子税' (Capital Gains Tax) and '營業收益税' (Business Income Tax) rates and periods.

相続税

Table detailing inheritance tax rates for different family relationships (e.g., 配偶人, 直系尊属, 兄弟).

Table with columns for '電使用日' (Electricity usage days) and various numerical values. It lists different categories and their corresponding values, such as '千圓以下の金額' and '千圓を超ゆる金額'.

印紙税

Text detailing stamp tax regulations, including categories like '一、不動産' (Real estate), '二、委任状' (Power of attorney), and '三、約束手形' (Promissory note).

Text detailing stamp tax regulations, including categories like '四、前記以外の通帳' (Accounts other than those listed above) and '五、判取帳' (Judicial accounts).

兵役法摘要

(昭和二年 三月改正)

○兵役義務 帝國臣民たる男子は兵役法の定むる所により兵役に服す、但し六年の懲役または禁錮以上の刑に處せられたるものは兵役に服することを得ず

○兵 役 區 分 現役 陸軍二年、海軍三年。現役兵として徴集せられたる者之に服す。年齢二十五歳までに師範學校を卒業したる者(小學校の教職に就く)

○在營期間 一、現役兵は現役中在營せしめらる。但し次の各項に該当するものは短縮することを得。1. 現役兵にして青年學校の課程またはこれと同等以上と認むる課程を修めたる者

○兵役免除 一、在營中本人に依るに非ざれば家族(戸主を含み本人と世帯を同じくする者に限る)が生活を爲すこと能はざるに至りたる時

△賞札又は貨物通帳(質屋營業者の受するものに限る) △勳章通帳△乘車券、乗船券又は各種入場券△右第四條一乃至五及び三十一(列強順位)の證書にして記載金額十圓未満のもの

○罰則(第十一條乃至第十三條) 證書、帳簿に相當印紙を貼用せず又は税印の押捺を受けざるものは證書、帳簿一個毎に脱税高二十倍の罰金又は科料に處す

當該官吏の執行する検査を拒みたる者は二圓以上の科料に處す△證書、帳簿に貼用したる印紙に消印をなさず又は消印の方法を違へたるものは一個毎に二圓の科料に處す

○兵 役 區 分 現役 陸軍二年、海軍三年。現役兵として徴集せられたる者之に服す。年齢二十五歳までに師範學校を卒業したる者(小學校の教職に就く)

○兵 役 區 分 現役 陸軍二年、海軍三年。現役兵として徴集せられたる者之に服す。年齢二十五歳までに師範學校を卒業したる者(小學校の教職に就く)

○在營期間 一、現役兵は現役中在營せしめらる。但し次の各項に該当するものは短縮することを得。1. 現役兵にして青年學校の課程またはこれと同等以上と認むる課程を修めたる者

○兵役免除 一、在營中本人に依るに非ざれば家族(戸主を含み本人と世帯を同じくする者に限る)が生活を爲すこと能はざるに至りたる時

一日より同月三十一日までの間に年
齡二十年となる者あるときはその年
十一月中に、一月一日より十一月三
十日までの間に年齢二十年となる者
あるときはその前年十一月中に本籍
の市町村長に届出づべし、戸主年齢
二十年となるときまた同じ、但し命
令をもつて定むる者についてはこの
限にあらず

徴集延期

一、徴兵検査を受けたる者現役兵とし
て徴集せらるゝに因り家族(戸主を含
み本人と世帯を同じくする者に限る)

が生活を爲すこと能はざるに至るべき
確證ある場合においては二年間徴集を
延期す、但し故意に其事故を作為した
るときは此限にあらず△二、中学校又
は中学校の學科程度と同特以上と認む
る學校に在學する者に對しては本人の
願に依り學校の修業年限に應じ年齢廿
七年に至るまで徴集を延期す、以上の
者は在學の事由止む年又は其翌年に於
て徴兵検査を行ふ、但し一の學校卒業
の日より六月以内に他の學校に入學す
る者に對しては徴集延期の事由なほ繼續
するものと看做す△三、徴兵適齡及其

の前より帝國外の地に在る者(勅令を
以て定むる者を除く)に對しては本人
の願により徴集を延期す、以上の者は
其事由止む年又は其翌年に於て徴兵檢
査を行ふ△四、徴兵検査を受くべき者
次の場合には徴集を延期することを
△禁錮以上の刑に該るべき犯罪の罰
褫奪または公判中なるとき△犯罪の
ため拘禁中なるとき△刑の執行停止
中なるとき△假出獄中なるとき△少
年法の定むる所に依り少年救護院、
矯正院または病院に收容中なるとき
△矯正院法の定むるところに依り假
退院中なるとき

入營延期

一、家族(戸主を含み本人と世帯を同
じくする者に限る)二人以上現役兵と
して同時に在營するため家事上の支障
を生ずべき時は一人在營の他の者の
入營を延期することを得△二、現役兵
として入營すべき者疾病其他避く可か
らざる事故に依り入營期日に入營し難
きとき

召集

一、戦時又は事變に際し必要に應じ歸
休兵、豫備兵、後備兵、補充兵又は國
民兵を召集す△二、在營兵補調其他必
要ある場合は歸休兵を召集す△三、警
備其他必要により歸休兵を召集するも

尙兵員を要する場合は服務一年次の豫
備兵を召集す
△四、【勤務演習召集】豫備兵及後
備兵は豫備役後備役を通じ五回以内召
集す但し此召集は一年一回とし陸軍
三十五日以内、海軍七十日以内とす
△補充兵にして軍隊において教育を受
けたる者は右同様とす△五、【教
育召集】教育のため第一補充兵は百
二十日以内之を召集す
△六、【簡閱點呼】陸軍現役を終
りたる者及補充兵にして軍隊に教育召
集を受けたる者は其翌年より二年に一
回、召集を受けざる補充兵は徴集年
の翌年より三年に一回簡閱點呼を行ふ
△海軍補休兵、豫備兵、後備兵及補充
兵に對しては毎年一回簡閱點呼を行ふ
△七、【免除】豫備兵、後備兵及補
充兵にして左の如きものに對しては勤
務演習又は簡閱點呼を免除す
△餘人を以て代ふべからざる職に在る
官吏又は官更待過者△市町村長、助
役、収入役その他に準ずべき職にあ
るもの△帝國議會、府縣會、市町村會
その他之に準ずべきもの△議員、但し
その會期中に限る△帝國外の地に旅行
又は在留するもの(但し滿洲國及關東
州を除く)△帝國外の地に往復する帝
國船舶の船員

通信規則摘要

内國郵便

普通郵便

(内地相互間及内地、台灣、樺太、朝鮮、關東局管内、南洋群島相互間)
第一種 書狀。重量二十グラムまたはその端數毎に四錢
全部印刷したる無封の書狀、盲人の點字の無封書狀及大部分印刷したる無封書狀にして官公署公共團體、社寺學校または營利を目的とせざる法人若しくは團體より發するもの、營業者よりその營業に關し發する報知書、送狀、契約申請書、契約の諾否書、請求書、督促狀、計算書、見積書、明細書、領收書、重量百二十グラムまたはその端數毎に三錢
第二種 通常書狀二錢
往復葉書、封緘葉書四錢
第三種 第三種郵便物として認可を受けたる定期刊行物、重量六十グラムまたはその端數毎に五風、同上中日刊新聞紙にして發行人または賣捌人

市内特別取扱

第五種 郵便物種子、重量百二十グラムまたはその端數毎に一錢
一郵便區市内に發着する全部または大部分印刷したる同文の有封および無封書狀または同一内容の第三種および第四種郵便物にして同時に百個以上差出すときは市内特別取扱とせば左記の料金による。
有封同文書狀 一個に付二十グラム迄二錢、またはその端數毎に二錢を増す
無封同文書狀 一個に付百二十グラム迄一錢五風、またはその端數毎に一錢を増す
同時に三千一個以上を出す時は三千一個分より百二十グラムまたはその端數毎に一錢
第三種郵便物 一個に付百二十グラム迄以上百二十グラム毎に五風を増す
第四種郵便物 一個に付百二十グラムまで一錢五風、以上百二十グラム毎に一錢五風を増す、同時に三千一個以上差出す時は三千一個より百二十グラムまで毎に一錢

迅速郵便

(註)一行政市内の各郵便區市内地とこれに直接續いてゐる行政市外の郵便區市内地相互間は總て同一郵便區市内と看做す
迅速區域 植民地を除く全國
運送料金
一、郵便區市内(市内とは市制を布いた市とは關係なく、各郵便局に郵便區市内、市外の別あり)に宛てたるもの 八錢
二、郵便區市外に宛てたるものおよび配達局を指定したるもの 三十錢
配達局より陸路八キロメートル迄 三十錢
八キロメートルを超ゆる四キロメートル又はその端數毎に二十五錢
三、無封書狀および第三種乃至第五種並びに小包郵便物で特に航空による運送の場合は前記料金の外に
イ、無封書狀および第三種乃至第五種 重量六十瓦又はその端數毎に 十錢
ロ、小包郵便物 重量一瓦迄 九十二錢
重量一瓦を超ゆる五百瓦又はその端數毎に 五十錢

小包郵便料

内地同一郵便局市内は普通六錢、書留十二錢
△内地相互間(括弧内は外埠位)
五百一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇

航空郵便

集金郵便料 集金委託料 六錢
航空郵便 内地と朝鮮、台湾、樺太および南洋群島相互間に發着する郵便物は、航空郵便とすることを得。

外國郵便

通常郵便物封書状および第二種往復郵便物は、往復通信各別に八錢
無封書状及至第五種郵便物の重量は、十八錢を超過する六十五瓦またはその端數に十錢を超過する五瓦またはその端數に十錢を超過する五瓦

Table with columns for '郵便物' (Postage Items) and '郵便料' (Postage Rates). It lists various types of mail like '郵便物' (Postage Items) and '郵便料' (Postage Rates) with their respective costs and conditions.

出のまゝ送出す印刷物の最小寸尺は長さ一〇釐、幅七釐
價格表記 箱物長さ三〇釐一幅二〇釐一高さ一〇釐一重量一瓦
○通常郵便物料金(滿洲國及中華民國宛のものを除く)

外國無線電報

〇料金

一、帝國海岸局經由直接外國船舶に宛つる場合は帝國陸線料、海岸局料に外國船舶局料を附課す、但し海岸局一受付のものは陸線料を課せず

内地電話

〇加入電話

(1)單獨加入、共同線加入および連接加入の三種あり、十一等級地に分る

(2)臨時加入電話 短期間電話の架設を必要とする場合三十日以内の加入期間臨時單獨加入電話に加入し得る

〇通話の種類、料金

(1)市内通話 同一加入區域内で交換される電話度敷料金制施行地 一通話毎に五錢

外地電話

二圓二十五錢△千二百五十キロ以内二圓五十錢△千五百キロ以内二圓七十五錢△千八百キロ以内三圓△二千五百キロ以内三圓二十五錢△二千四百キロ以上三圓七十五錢

日滿電話

東京中央電話局、新京中央電話局間、または東京中央電話局、大連中央電話局間の無線連絡による

船舶電話

〇神戸中央電話局または門司郵便局の媒介によるもの

六大都市その他神戸または門司附近の主要各局の加入電話およびその局の加入區域内にある通話局から神戸中央電話局または門司郵便局内設置の無線電話設備の媒介により航行中または神戸港もしくは門司港碇泊中(岸壁繋留中を除く)左記船舶と通話し得る

國際電話

海上航行中の通話最初の三分時まで三圓

内地の主要各都市より東京中央電話局と上海、マニラ、バンドン、サイゴン、香港、ブエノスアイレス、メルリン、ロンドンとの無線電話連絡により支那、比島、佛印、蘭印、シヤム、米國、カナダ、アルゼンチン、ブラジル、歐洲のほとんど全部および南阿爾那との間に國際電話の通話をなし得

國際電話主要區域、料金および聯絡時間

Table with columns for region (e.g., 中華民國上海, 佛領印度支那), communication time, and rates. Includes a section for '國際通話の特色' (Features of International Communication).

東京中央電話局、新京中央電話局間、または東京中央電話局、大連中央電話局間の無線連絡による

〇東京中央電話局の媒介によるもの 全國各主要地より日本郵船秩父丸および青島丸との間に東京中央電話局の無線電話設備の媒介によりほとんどその全航路を通じて通話し得る

内地の主要各都市より東京中央電話局と上海、マニラ、バンドン、サイゴン、香港、ブエノスアイレス、メルリン、ロンドンとの無線電話連絡により支那、比島、佛印、蘭印、シヤム、米國、カナダ、アルゼンチン、ブラジル、歐洲のほとんど全部および南阿爾那との間に國際電話の通話をなし得

Table with columns for region (e.g., 中華民國上海, 佛領印度支那), communication time, and rates. Includes a section for '國際通話の特色' (Features of International Communication).

Table of telegraph rates for various regions including Europe, America, and Japan. Columns include destination, rate, and time of service.

船舶國際電話

Text regarding international telephone services for ships, including rates and conditions of use.

實驗用無線施設

Text regarding experimental wireless facilities, including regulations and permitted areas.

聽取無線電話

Text regarding interception of wireless telegrams, including procedures and penalties.

內國郵便爲替

Text regarding domestic postal exchange rates and regulations.

Table of telegraph rates for various regions including Europe, America, and Japan. Columns include destination, rate, and time of service.

外國郵便爲替

Text regarding international postal exchange rates and regulations.

日滿郵便爲替

Text regarding postal exchange rates between Japan and Manchuria.

證券保管制度

Text regarding the securities custody system.

振替貯金

Text regarding remittance savings.

現金拂出料

Text regarding cash withdrawal fees.

Table of telegraph rates for various regions including Europe, America, and Japan. Columns include destination, rate, and time of service.

船舶國際電話

Text regarding international telephone services for ships, including rates and conditions of use.

實驗用無線施設

Text regarding experimental wireless facilities, including regulations and permitted areas.

聽取無線電話

Text regarding interception of wireless telegrams, including procedures and penalties.

內國郵便爲替

Text regarding domestic postal exchange rates and regulations.

Table of telegraph rates for various regions including Europe, America, and Japan. Columns include destination, rate, and time of service.

外國郵便爲替

Text regarding international postal exchange rates and regulations.

日滿郵便爲替

Text regarding postal exchange rates between Japan and Manchuria.

證券保管制度

Text regarding the securities custody system.

振替貯金

Text regarding remittance savings.

現金拂出料

Text regarding cash withdrawal fees.

養する證券の種類——國債證券、勸業債券、復興貯蓄債券、北海道拓殖債券、興業債券

簡易保險

郵便局で扱ふ簡易生命保險は終身、養老及び小兒の三種額あつて終身及び養老保險は十二歳以上六十歳まで、保險金二十圓以上四百五十圓まで同一被保險者に付額額四百五十圓以内ならば二口以上でも入れる、保險料は大體別表のやうなもので五十圓、一圓といふ少額であり、集金にも来るし、また取纏めて前納すれば六十一ヶ月分は半月分、十二ヶ月分は一ヶ月分の割引がある、又五年以上経過した契約には経過年數に應じ保險料の割戻をせらるゝことになつてゐるし、加入後労働能力を失ふたいはゆる癩疾者又は加入後三十年を経過し被保險者の年齢が七十歳を超えたときには將來の保險料を免除せらるゝ規定もある

被保險者は全國主要都市の健康相談所で診察を受けられ、衛生検査もして貰へる、保險金は平常保險料を拂込んでゐる郵便局の窓口で、即時に支拂はるゝ途もある

小兒保險 満三歳以上十二歳までの者に十五年と二十年の二種とし、保險料は月額三十圓、五十圓、七十圓一圓の四種とし、保險金は保險料一圓に對し、四歳未満六十圓、それから一歳を増す毎に二十圓を増して十二歳未満二百圓を限度とする、この制度は申込の際醫師の診査が要らないし、その他の手續も至極簡便に出来てゐる

簡易保險金額略表 (保險料月掛一圓に對し)

Table with columns for age groups (終身, 十年, 十五年, 廿年) and insurance amounts (保額) for different types of insurance (終身, 終身, 終身).

郵便年金

即時終身年金は満四十歳以上満八十歳まで、据置終身年金は満十二歳以上満六十歳まで加入することができる、年金最高受取人一人につき二千四百圓最低十二圓まで掛金も一時拂と分割拂とあり、元金を保留するものと、放棄するものとあつて、極めて便利にできてゐる、左記は掛金の一例である

Table showing postal pension amounts for different age groups and genders (男子, 女子).

鐵道規則摘要

(昭和十二年六月改正)

運賃對折(省線三等旅客運賃) 八十粒以下の粒程 毎粒一錢一厘六毛 八十粒を超ゆる粒程 同 一錢三厘一毛 六十粒を超ゆる粒程 同 一錢〇厘六毛 三十粒を超ゆる粒程 同 八厘七毛 四十粒を超ゆる粒程 同 六厘九毛 八十粒を超ゆる粒程 同 六厘三毛 粒未滿の端數は之を一粒に切り上げ右貨率を粒程に乘じた厘位は錢位で切り上げる、最低運賃は三粒分にて

Table showing railway fare rules for different grain amounts (粒) and fare types (運賃略別).

行 券(單位錢)

Table showing special and general travel tickets (特別急行券, 普通急行券) with columns for class (新 特急, 新 普通) and fare (一等, 二等, 三等).

特急券は四日前から發賣、同時に座席を指定する 六歳未満は無料、十二歳未満は半額

旅行券 乗車券引換證と同様商品切手のやうなもの十圓、五圓、三圓、一圓の四種額があり一枚二十圓の券片を綴り合はせてあつて乗車券、急行券、發台券、入場券等と引換へる事が出来る、進物として最適

定期乗車券 一定區間の通勤用とか常時乗用として便利なる二、三等普通定期乗車券と通學用の三等學生定期乗車券と工場法または鑛業法の適用を受け、且鐵道省の指定した工場に通勤中の職工徒弟、人夫に對する三等の職工定期乗車券があります

一等一夜上段五圓、下段七圓△二等同上段三圓、下段四圓五〇錢△三等同上段一圓、中段一圓三十錢、下段一圓五十錢

三等普通定期乗車運賃略例 (單位は圓)(二等は本表の二倍)

Table showing general railway fare rates for different routes and classes (新 特急, 新 普通).

電使用日

普通定期券は一ヶ月、三ヶ月、六ヶ月の三種、學生定期券は一ヶ月、三ヶ月、六ヶ月、十二ヶ月の四種で、何れも通用期間と乗車距離とに依つて普通運賃より餘程割安な運賃になつてゐる。

回数乗車券

通用その他で、同一區間を幾度往復する者の爲めに片道十六回分を一冊に綴つた三ヶ月有効の二等または三等の回数乗車券がある。種類は普通回数券、家庭回数券および農漁村の農夫、漁夫に對する回数券がある。割引率は最低二割五分、最高四割引である。この乗車券は記名本人の外にその本人と同行する四人以内の者に限り使用することが出来る。また大人用回数乗車券はその一片で同時に小兒二人乗車にまた小兒用回数券はその二片を以て大人一人乗車に適用できる。東京および大阪附近の電車區間では電車特定運賃の十六倍から一割引した運賃で無記名の十六回回数券を發賣致します。これは使用者に制限がないから銀行、會社、家などの共用に使用できる。

普通回数乗車券運賃略例

行程	一・六〇	行程	一・一〇
行程	一・一〇	行程	一・一〇
行程	一・一〇	行程	一・一〇

一〇	一・九〇	三〇	三・七五
二〇	三・五〇	四〇	四・九〇
三〇	四・九〇	五〇	六・〇〇
四〇	六・〇〇	六〇	七・一〇
五〇	七・一〇	七〇	八・二〇
六〇	八・二〇	八〇	九・三〇
七〇	九・三〇	九〇	一〇・四〇
八〇	一〇・四〇	一〇〇	一四・六〇

團體割引

以上四六〇軒まで一軒を増す毎に十八錢を加へ、額位は二拾三八の方法により五錢、十錢單位とする。

二十人以上の普通團體には二、三等運賃の、特別團體には三十人以上の三等運賃の割引がある。出發停車場が最寄の停車場へ前もつて申込みはよい。

第一期(一月一日—十月、三月十一日—六月十日、七月十一日—十二月末)

第二期(十一月十一日—三月十日及六月十一日—七月十日)

三人以上	一割	二人以上	二割
三人以上	一割	二人以上	二割
三人以上	一割	二人以上	二割

高等小學校生徒

三十人以上 一割
百人以上 二割
二百人以上 三割
四百人以上 四割

手荷物無償扱

一等六十斤△二等四十斤△三等三十斤(小兒はいづれもこの半量)
右に超過した場合は超過した重量だけ通常小荷物運賃を拂はばよろしい。

宅報(集貨配達付小口貨物鐵道運送)

申請方法—驛或は丸通運送店へ電話口頭などにより申込みはよい。

一、自轉車、乳母車、乳母桶	一輛一日に付 三十錢
二、その他のもの	同 十錢
但し預入れの日と引渡しの日は時間にかゝらず一日として計算し十五日以上は預りません	

電使用日

- 1 他普通品は普通貨率、嵩高品は別増運賃には集貨料、配達料などを含みまた運賃増補となすことを得。
- 2 鋼及び鋳、戸及び磁子
- 3 靴及びトランク(學生用鞄を除く)行李、バスケット及び提籠
- 4 硝子壺、燈器用の笠およびグローブ(硝子製、布製のもの)、火舎
- 5 鐵類(荷造用鐵、鐵詰食品および煉乳用鐵を除く)荷造用箱および津並にその他の箱(組立てたるもの)袋笠類
- 6 小兒遊戯用車類(組立てたるもの)
- 7 自動車(組立てるもの)および自動車、リム
- 8 歐鳥および鳥類、蜜蜂
- 9 製茶機械、製糖機械(組立てたるもの)
- 10 衝器(桿桿を除く)ガンシヤ計量機
- 11 苗木、花(俵入のものを除く)
- 12 業煙草、紙巻煙草
- 13 綿、木毛
- 14 蠶類及びその製品、莖飯類、蠶網
- 15 茶、麥稈、眞田
- 16 (ロ)十割増のもの

- 1 乾菓、孔明菓
- 2 自動車の運轉台及びファンダー、
- 3 鐵及び管(荷造用鐵及び管を除く)蠶籠及び桑籠
- 4 寒天
- 5 眞綿、脱脂綿、藥綿
- 6 車類、消防車、自轉車及び自動車、手筒台及び診察台、醫療器械用箱及び提籠
- 7 簞笥、長持、茶棚及び茶籠筒、戸棚、衣桁箱、本箱、襪帳、折疊みたるものを除く)鼠不入、文化流、下駄箱、屏風、衝立、襪、襪及び屏風の骨(組立てたるもの)机及びテーブル、椅子及び腰掛、寢台、風呂桶
- 8 提灯、電球、電球用硝子球、ラヂオ機、電線管、ネオン管
- 9 燈心
- 10 荷造用機および桶(ビール容用のものを除く)經木製の折箱(組立てたるもの)
- 11 布團および座布團
- 12 牧草
- 13 繭類(乾繭および孔明繭を除く)
- 14 佛壇
- 15 雜品(ハ)に掲ぐる貨物を混じたるものは雜品の取扱をなす
- 16 貴重品

自轉車(組立てたるもの)	三〇斤まで	一割
唐箕、収播器、推漕用水車	一〇〇斤まで	一割
荷造用籠および管、荷造用鐵(ボツ)	一〇〇斤まで	一割
硝子(目出籠、運動籠、古硝子および提籠を除く)	一〇〇斤まで	一割
特別貨率適用品(生活必需品)	一〇〇斤まで	一割

鹽乾魚介類、鯨肉(鮮のものを除く)	一〇斤	一割
國定教科書、米、麥類、豆類、雜穀	一〇斤	一割
小麥粉、昆布若布類、食鹽、薪、木炭、炭團類、漬物類、味噌、醬油、酢類、麵類、甘藷、馬鈴薯、野菜類(葉類を除く)	一〇斤	一割

昨夜の飲み過ぎが祟つて朝からこれで何回目かの下痢だ——といふ様な苦しさ不愉快さを一年に一日位経験する方が少なくないでせうそんな時に思ひ出して服んで下さるのが谷の健胃固腸丸だそうすケロリと懸つたアノ時の氣持よさが本劑への御信頼を深くした光榮ある證據です

光榮ある證據



健胃固腸丸

ニセ物ありマークと名義に御注意を乞ふ

價 定
二十錢 三十錢
五十錢 一圓
二圓 三圓
五圓 十圓

本舖 谷回春堂
大阪 會社

全國有名公私團體一覽

(昭和十二年九月十日現在)
東京市は區名以下を記す

政治・軍事團體

名稱	所在地	代表者
選舉改正中央聯盟	麹町區內幸町大阪ビル	理事長 永田 秀次郎
全國自治協會	四谷區三光町八	岡崎 勉
都市協會	麹町區大手町	馬場 義一
帝國地方行政學會	京橋區銀座七ノ一	大谷 甚兵衛
僧 行 社	麹町區飯田町二	寺内 壽一
水 交 社	芝區榮町一三	米内 光政
東京市政調査會	麹町區內山下町二	坂谷 芳郎
大阪都市協會	大阪市北區中之島大阪市役所	坂間 棟治
都市研究會	內 務 省	田中 國重
明 倫 會	麹町區丸ノ内海上ビル	竹下 勇
有 終 會	芝區榮町水交社内	百武 三郎
洋 々 會	麻布區霞町二二	等々力 森城
皇 道 會	芝區榮町二	大井 成元
依 弘 會	麹町區飯田町二	井上 幾太郎
帝國在鄉軍人會	日比谷市政會館	伊藤 乙次郎
義勇財團海防協會	麹町區內幸町太平ビル	井上 幾太郎
海軍協會	京橋區銀座西五	山田 英太郎
大日本青年航空團	麹町區丸ノ内二	井上 幾太郎
大日本國防協會	九段靖國神社境内	山田 英太郎
日本刀鍛錬會	淀橋區百人町陸軍技術本部内	井上 幾太郎
國防科學協會		井上 幾太郎

法 曹 團 體

名稱	所在地	代表者
國民防空協會	澁谷區千駄谷町	松平 義壽
帝國軍人後援會	牛込區若松町一〇	谷田 志康生
全國傷兵軍人聯合會	本郷區菊坂町七〇	入江 仁六郎
帝國軍用犬協會	神田區一橋二ノ九	阪谷 芳郎
三笠保存會	芝區田村町	大島 健一
精 濟 會	牛込區原町三ノ八	今泉 定助
帝國軍用犬協會	芝區芝公園協同會館内	入江 仁六郎
軍馬愛護協會	神田區一橋二ノ九	鈴木 莊六
法 曹 會	麹町區西日比谷町	林 續三郎
自由法曹會	芝區新橋田町	山崎 今朝彌
帝國辯護士會	麹町區西日比谷町	鶴澤 昭明
日本辯護士協會	同 右	理事 五十名
東京辯護士會	同 右	乾 政彦
大阪辯護士會	大阪市北區若松町大阪辯護士會館	森下 龜太郎
愛國法曹聯盟	麹町區有樂町一ノ六	林 逸郎
刑務協會	麹町區西日比谷町	會長 岩松 文十
司法協會	京橋區西小川町高等法院内	會長 小川 悌
國際文化振興會	麹町區丸ノ内明治生命ビル	公 近衛 文麿

國際對外關係團體

公 近衛 文麿

覽一體

日本國際協會 日本外交協會 太平洋問題調查會 日米協會 神戶日米協會 日佛協會 日佛文化協會 關西日佛協會 日英協會 日獨協會 獨逸文化研究所 日濠協會 日墨協會 日ソ文化協會 日加協會 大阪日露貿易協會 日露協會 日本瑞典協會 日本諾威協會 日本丁抹協會 日亞協會 日印協會 日暹協會 暹羅協會 日土協會 比律斯協會 日伊協會 日伊文化協會

南洋協會 日伯協會 日伯中央協會 日本羅甸アメリカ協會 日華協會 東洋協會 普濟協會 中央演藝協會 日滿少年少女協會 日滿中央協會 東亞問題調查會 東亞經濟調查局 滿洲文化協會 大亞細亞協會 東亞同文會 日支問題研究會 日本移民協會 海外移民組合聯合會 近東貿易協會 海外事情研究會 海外協會中央會 海外教育協會

宗教團體

全國神職會 神道學會 日本宗教協會 日本宗教同盟 反宗教思想折伏聯盟 澁谷區若木町 小石川區白山御殿町 東京帝國大學文學部 芝區正則中學校內 本邦區蓬萊町 小石川區小日向台町一

覽一體

信教自由基督教同盟 大車信教協會 基督教研究會 神之國運動 日本基督教青年會同盟 基督教女子青年會日本同盟 日本聯合基督教共勵會 日本日曜學校協會 日本宗教教育協會 一燈園 國柱會 香草社 人生創造社 國際佛教協會 佛教思想普及會 全日本佛教青年會聯盟 佛教青年聯盟 本邦西片町

修養教化團體

務省內 町區大手町一 八坂市東區大阪府廳內 八坂市東區葛原江町 神戶市東區宮本通三 本所區吾妻橋町二 (假)澁谷區種田一ノ一四四 赤坂區新坂町 澁谷區尾井町六 芝區三田南寺町

學術・文化團體

東京帝國大學部 京都帝國大學部 東京帝國文學部 本邦區駒込千駄木町 牛込區早稲田町三四 小石川區竹早町三七 文部省內 井上哲次郎 天野貞祐 姉崎正治 大島正徳 大隈信常 尼子正 近衛文麿

學術研究會
日本學術協會
大東文化協會
帝國文化協會
日本文化協會
中山文化研究所
江戸時代文化研究所
帝國教育會
全國私立大學聯合會
全國小學校教育會
全國私立中等學校教員協會
高等女學校校長協會
中學校校長協會
師範學校校長協會
日本成人教育協會
日本幼稚園協會
日本電話協會
公民教育會
社會教育協會
勤勞者教育中央會
日本圖書館協會
日本博物館協會
國民精神文化研究所
國民文化研究所
新文會
史學會
維新史料編纂會
史蹟名勝天然記念物保存協會
國史回顧會
農林部研究所

下谷區上野公園帝國學士院內
東京帝大醫學部內
澁橋區富士見町一
澁橋區百人町
澁橋區日比谷市政會館內
澁橋區內山下町東洋ビル
澁橋區日比谷市政會館內
澁橋區一橋通
東京下谷高等小學校
本郷區裏砂町三六
東京府立第一高女內
東京府立第一中學校內
赤坂區青山館內
芝區三田慶應義塾內
東京女高師附屬幼稚園內
神田區一橋
麻布區岸町
小石川區白山御殿町一二七
文部省內
文部省內
文部省社會教育局內
品川區上大崎長者丸
本郷區駒込西片町一〇
本郷區湯島聖堂
東京帝大史料編纂所
澁橋區三年町
赤坂區青山六
澁橋區若木町九

大日本國史會
國寶保存會
明治天皇聖蹟保存會
明治聖蹟紀念學會
日本民族學會
民俗學會
風俗研究會
溫故學會
啓明會
第一會
懷德堂紀念會
日本新聞協會
新聞記者協會
春秋會
日本雜誌協會
日本速記協會
日本廣告俱樂部
新聞廣告獎勵會
國語協會
音聲學協會
カネモジカイ
日本ローマ字會
帝國ローマ字會
日本エスペラント學會
日本レエクスピア協會
日本グレート協會
法學協會
國家學會
國際法學會
日本法政學會

赤坂區青山會館內
文部省內
小石川區丸山町一
芝區三田網町一〇
神田區淡河台町一ノ八
京都市富小路通松原上ル
澁橋區氷川町四
澁橋區丸ノ内海上ビル
小石川區白山御殿町一一七
大阪市東區豊後町
京橋區銀座四ノ四
日比谷區議院內
澁橋區有樂町一東京日日新聞社內
神田區一橋教育會館內
澁橋區內幸町貴族院速記課內
京橋區銀座場町ビル
牛込區北白銀町二九
小石川區小日向台町一ノ四四神保方
芝區六號地協同會館內
澁橋區有樂町ミツ栞ビル
大阪市東區北濱四ノ四六
本郷區元町一
早稲田區演劇博物館
京都市大文藝部
小石川區北原町一〇
東京帝大法學部內
同右
同右
神田區三輪町日大內

日本海法會
京都帝大法學會
東京帝大法學部
京大經濟學部
大阪商科大學經濟研究所
神戶會計學部
三菱經濟研究所
社會經濟研究所
日本社會學會
協同會
日本勞動科學研究所
大原社會問題研究所
勞働立法研究所
社會立法協會
東京統計協會
大日本氣象學會
東京天文學會
東京天文同好會
東亞天文協會
日本天文學會
日本地理學會
東京地學協會
地理教育研究所
海洋學會
日本火山學會
地質研究所
日本陸水學會
地球學園
東京人類學會
德川生物學研究所
遺傳學會

牛込區仲町、松波方
京都帝大法學部
東京帝大法學部
京都市住吉區杉本町
神戶商科大學內
澁橋區丸ノ内三ノ八
赤坂區榴池ビル
東京帝大社會學研究室
芝區芝公園六號地
赤坂區青山三ノ五
澁橋區柏木町三ノ八九五
澁橋區富士見町一ノ一
澁橋區日比谷市政會館內
京橋區銀座西三
澁橋區中央氣象台
東京府三禮村東京天文台內
京都市大醫學部
同右
東京天文台
東京帝大醫學部
澁橋區下二番町
澁橋區表神保町八
神戶市中山手海邊氣象台
同右
東京帝國大學理學部
東京文理大學理學部
京都市大醫學部
東京帝大醫學部
豐島區目白町四二
同右

日本鳥學會
名和鳥學研究所
日本動物學會
動物心理學會
日本岩石礦物地質學會
東京地質學會
日本貝類學會
日本植物學會
日本植物學會
日本醫學協會
國際醫學協會
大日本生理學會
日本病理學會
傳染病研究所
北里研究所
醫學研究所
醫學研究所
日本外科學會
日本內科學會
日本消化器病學會
營養學會
糧食研究所
糧食學會
精神衛生學會
日本神經學會
日本民族衛生協會
日本衛生會
大阪府衛生會
日本藥學會
本草學會
日本醫師會

東京帝大動物學教室
岐阜市大宮町二
東京帝大
東京帝大
東北帝大醫學部
東京帝大醫學部
京都市大醫學部
東京帝大醫學部
小石川區植物園內
東京帝大醫學部
澁橋區大手町二
同右
同右
芝區白金台町一ノ三九
芝區白金三光町一三八
東京帝大醫學部
豐島區西巢鴨町
同右
京橋區築地三ノ六
澁橋區內幸町一ノ三
小石川區鷺籠町榮養研究所
東京帝大醫學部
深川區船場本町一八
小石川區大塚窪町一八
東京帝大醫學部
東京帝大醫學部內
澁橋區大手町一ノ六
大阪市東區伏見町四ノ三一
牛込區下宮比町
澁橋區下落合四ノ一九八〇
神田區駿河台二ノ五

日本藥劑師會
日本齒科醫師會
人口問題研究會
人口對策研究會
日本無產者醫務同盟
大阪衛生相談所
大阪防協會
日本結核防協會
大阪結核防協會
同仁會
白十字會
食養研究會
日本榮養協會
綜合科學協會
金屬材料研究所
日本音響學會
プロレタリア科學研究所
理化學研究所
日本數學物理學會
物理化學研究所
科學知識普及會
工業化學會
近畿化學工業會
衛生工業協會
日本化學會
日本化學研究會
化學研究所
大阪製造學會

京橋區銀座六ノ四交詢社ビル
日本橋區通一ノ六
內務省社會局內
京橋區築地三
品川區五反田一
大阪市北區小松原町一五
內務省內
難波區大手町一ノ六
大阪市東區伏見町四ノ三一
神田區神保町二ノ一〇
神田區小川町二ノ一
四谷區慶應大學醫學部內
難波區丸ノ內昭和ビル
難波區商工獎勵館內
仙台市片平野
本都町副理化學研究所內
神田區今小路一ノ一
本都區駒込上富士前町
東京帝大醫學部內
大阪市北區堂島渡邊
難波區丸ノ內二ノ六
難波區丸ノ內三
大阪市西淀川區大阪工業試驗所內
京橋區銀座西三
東京帝大醫學部
仙台市米ヶ袋中ノ坂通
大阪府三島郡高槻町
大阪帝大工學部內

河合 龜太郎
血臨 守之助
佐佐木 行忠
西謙一郎
大栗 清賢
古野 周藏
伯壽 清浦 奎吾
公壽 徳川 順順
男爵 林 正俊
有吉 忠一
益田 孝、他
永田 秀次郎
藤 原 雄
石原 寅次郎
石本 巳四雄
布施辰治、他
大河内 正敏
西川 正治
佐多 愛彦
高松 豊吉
莊司市太郎
莊司市太郎
竹村 勲、他
鮫島 實三郎
眞島 利行
喜多 源逸
齋藤 賢道

農業教育研究會
農事電化協會
日本造園協會
日本庭園協會
公園綠地協會
國立公園協會
日本畜產學會
農藝學會
日本農業化學會
札幌農林學會
中央獸醫會
水産學會
海軍研究會
日本博覽會協會
日本萬國博覽會協會

日農區刷場東京帝大農科
難波區有樂町電氣クラブ
澁谷區榮通一ノ三五
赤坂區榴槤池三會堂內
內務省都市計畫課內
內務省內
東京帝大農學部
澁谷區松壽三七
東京帝大農學部
北海道帝大農學部
東京帝大農學部內
東京帝大農學部
難波區丸ノ內海上ビル
東京商工會議所內
難波區有樂町一ノ二

京都市上京區廣野北町
大阪市浪速區榮町四ノ二二
大阪市大正區大正通一〇
城東區大島町二
芝區白金台町一ノ一八
難波區有樂町一ノ六
同右
小石川區大塚坂下町一三三
四谷區南寺町四二
麻布區六本木二七
荒川區三河島町
小石川區駕籠町二三七
赤坂區新町五ノ七

南 梅吉
松本 治一郎
飯石 豐市
戶津 仁三郎
岩田 愛之助
林 逸郎
伊藤 清
永井 了吉
菊池 武夫
角岡 知長
赤尾 敏
今泉 定助

國民協會
國粹大衆黨
紫雲莊
信州皇民同盟
全國大日本主義同盟
「日本及日本人」政教社
大日本國粹會本部
大日本關東國粹會本部
大日本正義團
大化會
大民俱樂部
天照會
大日本生産黨
東京帝大朱光會
日本皇政會
愛國維新同盟
滿鮮問題國民同盟
明德會
立憲黨正會
立憲大同聯盟
金壽學院
七生義團
愛國學生聯盟
愛國兒童聯盟
國民航空同盟
維新青年隊
日東義會
國民生活防衛同盟

難波區內幸町一ノ六
本都區駒込遠東町六六
難波區內幸町一ノ六
長野縣下伊那郡飯田町
澁谷區常盤松二六
神田區榮樂町二ノ一五
品川區北品川六ノ三三
難波區內幸町虎門ビル
芝區高輪南町
牛込區市ヶ谷加賀町二ノ五
世田谷區若林
神田區須田町二ノ五
難波區永田町二ノ八六
東京帝大大學內
小石川區駕籠町二三七
芝區田村町二内田ビル
難波區永田町二ノ八六
赤坂區青山南町五ノ八四
澁谷區代々木深町
目黒區上目黒七
小石川區原町二二
大森區新井宿
澁谷區田端五六五
小石川區荻荷谷一六
難波區內幸町高輿ビル
芝區田村町内田ビル
難波區內幸町島ビル
足立區千住町一ノ九

赤松 克彦
笹川 良一
橋本 徹馬
淺井 敏吾
松永 材
森山 隆三郎
高山 公通
酒井 榮藏
岩田 富美夫
柴田 徳次郎
町田 經宇
内海 秀夫
今泉 定助
小池 四郎
廣谷 慶一郎
田中 澤二
下澤 秀夫
酒井 忠正、他
堀川 新、他
藤島 睦一
安部 季雄
石塚 幸次郎
佐々木 武雄
牧野 務
深田 吟次郎

主要社會運動・思潮團體

日本學生會道聯盟 京橋區銀座西六、岡本ビル
 生 弓 會 豐島區西巢鴨四
 全日本アマチュア 難波區内幸町一ノ二芳ビル
 關西アマチュア 大阪市東區森ノ宮西之町
 日本國際馬術協會 京橋區銀座二ノ三米井ビル
 日本乘馬協會 同 右
 日本學生馬術協會 同 右
 關東學生乘馬聯盟 牛込區市ヶ谷土官學校内
 關西學生乘馬聯盟 大阪市北區中之島大阪醫大馬術氣付
 全日本スキー聯盟 本郷區駒込神明町三〇八小川方
 關西學生スキー聯盟 神田區小川町三ノ一美津濃内
 全國學生水上競技聯盟 大津市松本梅林八九五淺野秀氣氣付
 大日本スケート競技聯盟 當番校制
 關西スケート聯盟 難波區丸ノ内仲五號館
 全日本體操聯盟 大阪市港區市岡町市岡土地田山秀士氣付
 日本山岳會 文部省體育課内
 芝區翠平町一不二尾ビル
 大日本相撲協會 本所區東兩國町二
 大日本關西角力協會 大阪市東區天滿濱行社樓
 關東學生相撲聯盟 難波區有樂町東京日日新聞社内
 伯 壽

經濟產業團體

大阪貿易協會 大阪日露貿易協會
 大阪日露貿易協會 近東貿易協會
 大阪輸出協會 大阪貿易同盟會
 大阪華商會 南洋貿易振興會
 橫濱貿易協會 東京銀行俱樂部
 東京銀行集會所 大阪銀行集會所
 貯蓄銀行協會 全國經濟調查機關聯合會
 日本經濟調查會 東亞經濟調查局
 大阪經濟會 金融研究會
 商工中心會 經濟更新會
 日華經濟協會 日本檢查計理士會
 商業教育協會 全國無業協會所
 大日本實業協會 東京實業組合聯合會
 大阪實業組合聯合會 大阪實業協會
 大阪府立實業會館 日華實業協會
 生命保險會社協會 大阪商工會議所
 大阪府廳工務課内 大阪商工會議所内
 大阪市役所產業部内 大阪市東區神崎町五四
 大阪市西區本田二番町一ノ二 難波區東區京工獎勵館
 橫濱市海岸通一ノ一 難波區丸ノ内一ノ八
 同 右 大阪市北區中之島一
 難波區丸ノ内一ノ八 難波區丸ノ内山下町
 難波區丸ノ内工業俱樂部内 難波區丸ノ内山下町一
 大阪北區中之島銀行集會所内 大阪北區中之島一ノ二九
 大阪市北區中之島江商ビル 大阪市北區宗是町大阪ビル
 神田區燒子町内神田ビル 神田區一橋通町三
 京橋區銀座西四 日本橋區本町三三
 大阪市東區府立實業會館内 大阪市西區西長堀北通一ノ一五
 大阪市東區内本町一 難波區丸ノ内三ノ八
 難波區丸ノ内三ノ四 岸本 彦衛
 稻畑 勝太郎
 同 右 三川 仁三郎
 張 益三
 山崎 龜吉
 上甲 信弘
 瀨下 清
 同 右 八代則彦、他
 原 邦造
 平山 敬三
 池田 成彬
 八田 嘉明
 坂田 幹太
 菊本 直次郎
 小畑 源之助
 岩井 勝次郎
 菊池 恭三
 木村 禎三
 江面 忠治
 大山 慶之助
 阿部 謙爾
 星 野 陽
 森 平兵衛
 坂間 棟治
 中井 光次
 兒玉 謙次
 成瀬 達

生命保險俱樂部 生命保險協會内
 大日本聯合火災保險協會 難波區丸ノ内一ノ六
 火災保險俱樂部 同 右
 信託協會 難波區丸ノ内一ノ二ノ一
 全日本實業團體聯合會 難波區丸ノ内山下町一ノ一
 日本實業協會 工業俱樂部内
 關東實業團體聯合會 大阪府廳工務課内
 大阪實業調查會 難波區有樂町一ノ九
 產業組合中央會 難波區有樂町一ノ九
 全國購買組合聯合會 難波區外櫻田町警視廳内
 東京工場協會 難波區東京府廳内
 東京工場總話會 難波區丸ノ内三
 化學工業協會 難波區有樂町一ノ三
 電氣化學協會 難波區丸ノ内三ノ四
 工政會 淀橋區下落合一
 工業資料調查會 商工省内
 工業組合中央會 難波區日本工業俱樂部内
 鑛山總和會 商工省地質調査所内
 日本鑛業會 京橋區銀座西八
 石炭鑛業聯合會 工業俱樂部内
 大阪工業會 大阪西區土佐堀通一大同ビル
 大阪工業總話會 大阪府廳工務課内
 大阪府立工業獎勵館 大阪市西區江ノ子島上ノ町
 大阪工業協會 大阪市浪速區稻荷町二樓ビル
 大阪府工務協會 大阪府廳工務課内
 帝國工務會 芝區東京高等工藝學校内
 大日本紡績聯合會 大阪市東區備後町綿業會館内 事務理事 男 壽
 日本輸出紡績物工業聯合會 京橋區味の素ビル
 工業組合聯合會 京橋區京橋一ノ二

日本綿糸布商組合聯合會 大阪市東區備後町綿業會館内
 日本棉花同業會 大阪市東區備後町綿業會館内
 瀨洲棉花協會 旅順市關東州廳内
 日本中央蠶絲會 難波區丸ノ内二ノ二
 全國蠶業組合聯合會 難波區丸ノ内蠶絲會館
 大日本蠶絲會 難波區有樂町一
 日本人絹聯合會 大阪市西區土佐堀大同ビル内
 大日本毛織工業組合聯合會 名古屋市
 日本羊毛工業會 難波區丸ノ内二ノ一
 日本製紙聯合會 難波區丸ノ内二ノ一〇
 日本鐵鋼協會 難波區丸ノ内三ノ二
 大日本鐵物協會 難波區永田町二ノ八六
 日本雜紗商協會 難波區有樂町一ノ三
 電氣協會 同 右
 電氣普及會 同 右
 電氣俱樂部 大阪市北區堂島中二ノ六
 中央電氣俱樂部 難波區丸ノ内三ノ二
 帝國瓦斯協會 難波區丸ノ内郵船ビル
 日本交通協會 大阪市東區大阪府廳
 大阪交通安全協會 難波區丸ノ内三ノ四
 帝國鐵道協會 難波區丸ノ内三ノ四
 鐵道同志會 難波區丸ノ内郵船ビル
 帝國運送協會 同 右
 帝國自動車協會 難波區丸ノ内海上ビル
 帝國海事協會 難波區丸ノ内海上ビル
 海事協會 難波區丸ノ内海上ビル
 海事協同會 難波區丸ノ内海上ビル
 附船改善協會 難波區丸ノ内海上ビル
 造船聯合會 難波區丸ノ内
 日本船主協會 神戸市神戶區明石町三二

株式會社要覽

(備考) このをためた諸會社は便宜上株式が東京、大阪全株式取引所へ上場されるものを主として並び、特殊のものを除き株式會社の四字を省略した。

△電燈・電力・瓦斯

Table listing electric power and gas companies with columns for company name, capital, location, and representative.

△鐵道・電軌

Table listing railway and tramway companies with columns for company name, capital, location, and representative.

編者人編 人造絹絲 昭和ヤ、四 西野幸作

Table listing various companies including oil, stone, and coal, with columns for company name, capital, location, and representative.

Table listing companies in the sugar and food processing industry, with columns for company name, capital, location, and representative.

覽一體圖

Table listing various chemical and paper industries with columns for company name, capital, and location. Includes entries like 王子製紙, 日本窒素肥料, 日本化學工業.

Table listing various shipping companies with columns for company name, capital, and location. Includes entries like 函館船渠, 東京石川島造船所, 日魯漁業.

Table listing various general merchandise stores with columns for company name, capital, and location. Includes entries like 三越, 大丸, 丸井, 丸善.

Table listing various banks with columns for bank name, capital, and location. Includes entries like 日本共立生命, 三井生命, 明治生命.

主要銀行一覽

Table listing various banks with columns for bank name, capital, and location. Includes entries like 日本共立生命, 三井生命, 明治生命, 東京海上火災.

主要百貨店

Table listing various department stores with columns for store name, capital, and location. Includes entries like 三越, 大丸, 丸井, 丸善.

Table listing various banks with columns for bank name, capital, and location. Includes entries like 日本共立生命, 三井生命, 明治生命, 東京海上火災.

ムシ歯を防ぐ！ 専賣特許の薬用歯磨

クラブ歯磨配合の二大
強力殺菌剤は口中のバ
イキンを全滅してムシ
歯や口臭を防ぎ、更に
進んで恐ろしい傳染病
を予防いたします。
その上爽快な香味や美
白作用の優れた歯磨
として大評判です。齒
磨ならば保健衛生上最
も理想的なこのクラブ
歯磨と御機嫌下さい。



磨齒ブラック

劑菌殺力強

合配 ルーロクアグルカ・ルーロク
ルーモチド・ヨび及

ンセ八十・ンセ三十……價 定
ンセ五五・ンセ五三・ンセ八二



大阪朝日新聞一覽

創業五十九年

「大阪朝日新聞」は明治十二年一月二十五日の
創刊にして、同二十一年七月一日、東京朝日
新聞を兼營す、兩新聞とも發行部數兩市新聞紙中の王座を占む
資本金六〇〇萬圓 大阪、東京朝日新聞は株式會社朝日新聞
社の發行にかゝる、資本金六〇〇萬圓、
全額拂込済。

社長上野精一氏

朝日新聞の創設者前社長村山龍平氏は我國
新聞界に不滅の功績を遺し昭和八年十一月
二十四日逝去したが、その功により勳一等に陞叙、從四位を追贈
された。その後任としては村山龍平氏と共に拮据經營、社業を今
日の隆運に導きたる創業の功勞者故理一氏の嗣上野精一氏これに
當り取締役會長は故龍平氏の嗣村山長壽氏である。

- 取締役社長 上野精一
- 取締役會長 村山長壽
- 取締役 專務取締役 村山長壽
- 取締役 取締役 岡野養之助
- 取締役 取締役 和田信夫
- 取締役 取締役 今村宗太郎
- 取締役 取締役 兵造
- 取締役 取締役 小西勝一
- 取締役 取締役 高原操
- 専務取締役 緒方竹虎
- 常務取締役 石井光次郎
- 同 美土路昌一
- 同 原田讓二
- 同 原田讓二
- 同 相談役 小西勝一

従業員四、五九九名

大阪朝日新聞社員一、一八五名、雇員
一、六一八名、計二、八〇三名、東京
朝日新聞社員八四六名、雇員九五〇名、計一、七九六名

高速輪轉機五十九台

大阪朝日は時速四頁紙十六萬枚の最新
エンクローズド、ギヤータイプの國産
高速印刷機をはじめ三十八台の高速度輪轉印刷機を有し、東京朝
日は同じく最新型機二十一台を有し、その印刷能力實に一時間

七百四十一萬枚である。ほかにグラヅニア印刷機が三百ある。

電送管、専用電話、電送電機、鳩

大朝、大阪中央電信局
間電報送受用電管、東
京、大阪間専用電話線二回線、大阪、門司間二回線、門司、福
岡間一回線、電送寫真機十二セット外携帶用電送機六台、傳書
鳩三百羽、東京朝日電信局。

飛行機二十二機

三菱式雁型(神風、朝風)三菱式鴨型、中島
式AN型、中島式AF型、石川島式T3型
石川島式R2型、石川島式R3型、石川島式R5型、P・H・式
ブスモス型、モノスパイ式ST4型、シエルバー式オートジロ、
ブー・デュ・シエル雲雀二機、朝日式グライダー十五機

定期刊行物十六種

大阪朝日新聞、東京朝日新聞(以上日
刊)、週刊朝日、アサヒグラフ(以上日
刊)、アサヒスポーツ(月二回)、大阪朝日縮刷版、東京朝日縮刷
版、アサヒカメラ、映画と演藝、ユドモアサヒ、婦人朝日、アサ
ヒグラフ海外版(以上月刊)、朝日年鑑、運動年鑑、朝日經濟年
史、朝日東亞年報その他諸種の刊行物。

九州支社

昭和十年二月門司支局の組織を擴大して九州支社
とし、九州全土、山口、沖繩兩縣、朝鮮、滿洲、
台灣に配布すべき大阪朝日新聞を印刷發行し、西日本および各地
の讀者に最新ニュースを供給しつゝあり、しかして北九州の中心
小倉市砂津に支社を移轉することとし、昭和十二年三月以來建築
工程を進め十月十七日新社屋に移轉。

名古屋支社

昭和十年十一月二十五日名古屋市中に大阪朝日名
古屋支社を創設し愛知、岐阜、三重の三縣下に
配布すべき大阪朝日新聞を印刷發行して最新ニュースの報道に努
めることとした。

財團法人大阪朝日新聞社會事業團並 に財團法人東京朝日新聞社會事業團

昭和三年一月朝日新聞
社より寄附の百萬圓を
もつて財團法人朝日新

開社事業團を設立し、爾來その所有にかゝる朝日會館の収益金並に朝日新聞社その他の寄附金をもつて歳末同情週間、兒童保護事業、農繁期託児所等諸種の社會事業を行ひ來つたが、年と共にその活動範圍擴大し、またこれが徹底の必要を痛感するに至り、これを解散して基本金百萬圓を二分し六十萬圓を以て財團法人大阪朝日新聞社會事業團を、四十萬圓をもつて財團法人東京朝日新聞社會事業團を設立することとし、昭和十一年十一月夫々設立の認可を得たのである。兩財團とも上野精一氏理事長となり、益々活潑なる社會事業機關として關西並に關東に活躍しつゝあり。

朝日ビルディング

地下二階、地上十階、塔屋頂上まで百五尺の大建築、昭和六年八月竣工、大阪朝日新聞社總務局、營業局のほか大部分は賃貸する、航空機機庫、冷暖房装置、防音装置、オゾン殺菌装置、スケートリンク、郵便局、和洋料理店などの設備あり。

大朝二萬號發刊

明治十二年一月二十五日の創刊以來大阪朝日新聞報國に力を盡し來り、昭和十二年六月二十七日をもつていよいよ紙齡二萬を數へたので、その記念事業として四月一日より二十日まで朝日會館において世界新聞文化展覧會、四月二十五日より五月二十七日まで大阪市立美術館において明治大正昭和三代代名作美術展覧會を開催したる外、國民體位向上運動の提唱をなし健康日本の建設に向つて一大驚鐘を鳴らし我民族の發展に盡力するとした。このため年々開催する全國中等學校優勝野球大會、健康優良兒表彰(「教育」欄参照)などのほかに日本體操大會、ハイキング獎勵など、體育の宣揚と保健思想の大衆化に努めた。

亞歐聯絡記録大飛行

昭和十二年年頭に發表した亞歐聯絡記録大飛行は國産機「神風」をもつて同年四月大成功をもつて完成した。(詳細は「航空界」欄を参照) 昭和十二年七月北支事變勃發し遂に南支に及ぶや、當初より全機關を動

員して記事に寫眞に報道陣の充實に努め、記者、寫眞班、航空關係者ら前後百餘名を特派し、一面歸來社員講演會を各地に開き報道の完璧を期した。

軍用機獻納運動

本社の多年提唱し來つたる航空報國運動を飛躍的に擴大して、我が空軍の強化に國民的の協力をなすため、軍用機獻納運動を起し、十二年七月二十日發表以來全國國民の共鳴支持を受け、九月一日をもつて五百萬圓を突破し、なほ續々と寄附された。八月不取敢陸軍へ最新鋭偵察機、同戰闘機、同轟撃機各十機、海軍へ轟撃機、戰闘機、攻撃機各十機、合せて六十機を獻納し、「全日本號」と命名され支那事變の第一線に送られた。

新邦文モノタイプ完成

日本タイプライター會社技師加藤顯次氏と本社印刷局印刷部三浦正則氏ら中心となり、數年研究の結果、活字鑄造から文庫、植字、解版返版の四階段の勞を省き、キー一つ叩けば四役の操作をなすモノタイプ完成し十一月十二日披露した。

朝日賞

大阪朝日創刊五十周年記念事業の一として昭和四年創設以來毎年贈呈し、昭和十一年度をもつて四十名に達した。(詳細は「學術」欄を参照)

全國優良市町村壯丁と優良壯丁の表彰

皇太子殿下御誕生奉祝事業として、過去五年間の徴兵検査の成績に本づき、全國優良壯丁市町村のうち日本一、全日本特選、府縣一を表彰してゐたが、逐年壯丁體位低下の現状に鑑み、國民保健運動を促進徹底せしむる第一着手として第九師團管下の全壯丁四萬のうちより優良壯丁百一名を嚴選して十二年二月十日表彰式を行ひ、その他團體の部は市と人口一萬以上の町村、その他と三部に分ちて、第一位を表彰し個人部の部は各聯隊區毎に一定基準以上の優良壯丁約五十名を表彰した。



株式會社 富士洋紙店

洋紙一般

建築工業用板

パーチメント紙
透明紙
各種包裝用紙

富士テツクス
ライトテツクス

大阪市東區備後町三丁目二九番地

名古屋支店 名古屋市西區傳馬町七丁目

神戸出張所 神戸市神戸區海岸通四丁目

煙草喫んでも
これさへあれば！

高血壓

スタビ
ル



製造元 國光製藥株式會社
堺市遠里小野町
發賣元 株式會社 塩野義商店
大阪市東區道修町



日本グラヴ
ペンキ工業所

朝日新聞社御用
グラヴユアインキ界の最高峯
顔料レーキ並ニ膽寫版インキ

本社 尼崎市西長洲
東京工場 東京市大森區堤方町一番地
原料工場 尼崎市長洲字寺前

録名人

侍醫(三) 西川 巽方
侍醫(二) 齊博 荒井 悪
侍醫(一) 齊博 細井 美水
大膳頭(三) 子 黒田 長敬
庶務兼主膳頭長(五) 小倉 庫次
内蔵頭(一) 三浦 馬
主計兼財務課長(三) 池田 秀吉
用度課長 岩波 武信
内匠頭(二) 林 興之助
監理課長(三) 鈴木 鐵雄
工務課長(三) 技師 杉村 愛仁
主馬頭(一) 岡松進次郎
庶務兼自動車課長(五) 岡松進次郎
廣務課長(三) 技師 城戸 俊三
皇太后宮職 侯 廣幡 忠隆
皇太后宮大夫(一) 小倉 庫次
經理課長(五) 大金益次郎
庶務課長(三) 永積 寅彦
内廷課長(四) 典侍 竹屋志計子
女官長 典侍 竹屋津根子
女官長 典侍 竹屋津根子

東宮博育官(一) 石川 巽吉
皇子御養育掛長(勅待) 文博 藤井種太郎
○各官家附職員
秩父宮 海軍中將 今村信次郎
事務官(勅待) 伯 前田 利男
高松宮 海少將 山内 豊中
以當(一) 吉島六一郎
事務官(六) 厚東篤太郎
三等宮 陸中將 十居保太郎
別當(一) 陸中將 東馬太郎
事務官(七) 陸中將 厚東篤太郎
閑院宮 陸中將 十居保太郎
別當(一) 陸中將 稻垣 三郎
事務官(三) 谷口利三郎
東伏見宮 高橋 孝輔
別當(一) 倉賀野 明
伏見宮 海少將 四竈 孝輔
別當(一) 海中將 中根直之助
事務官(六) 山中將 大石 正吉
山階宮 海少將 村中 又一
別當(一) 海大佐 村中 又一
事務官(四) 陸中將 松浦淳六郎
賀陽宮 陸中將 勝田 圭通
別當(一) 陸中將 勝田 圭通
事務官(四) 陸中將 勝田 圭通

久遠宮 海軍中將 宇川 武
別當(一) 濱田 武
事務官(四) 三雲敬一郎
梨本宮 別當(一) 臼井 兵作
事務官(六) 陸中將 森田 宣
朝香宮 陸中將 折田 有彦
別當(一) 陸中將 森田 宣
事務官(勅待) 折田 有彦
東久遠宮 陸中將 松本幹之助
別當(一) 陸中將 折田 有彦
事務官(六) 陸中將 折田 有彦
北白川宮 陸中將 石川 連平
別當(一) 陸中將 石川 連平
事務官(五) 陸中將 犬塚 力
竹田宮 陸中將 犬塚 力
別當(一) 陸中將 犬塚 力
事務官(勅待) 古川 義天
帝室會計審査局長官(一) 古川 義天
帝室林野局長官(一) 木下 道雄
監理部長(三) 岡本 愛祐
業務部長(三) 眞崎 脩
東京支局長(三) 技師 津村 昌志
札幌支局長(三) 技師 前田頼太郎
名古屋支局長(三) 技師 小林 哲司
木曾支局長(三) 技師 日戸 政章
御歌所長(一) 兼) 公 三條 公輝

學習院長(親待) 海軍大將 野村吉三郎
女子學習院長(一) 長屋 順耳
東京帝國博物館館長(一) 法博 杉 榮三郎
奈良帝國博物館館長(勅待) 山口 巖
京都地方事務所長(一) 伊夫依雄一
李王職長官(親待) 法博 藤田 治策
次官(一) 男 李 恒九
庶務課長(三) 志賀 信光
李維公附 末松多美彦
事務官(三) 飯高 治衛
李錫公附 飯高 治衛
事務官(一) 飯高 治衛

大臣 廣田 弘毅
政務次官(一) 松本 忠雄
次官(一) 堀内 謙介
參事官(一) 船田 中
秘書官(勅待) 岸 倉松
人事課長(三) 松本 俊一
文書兼編譯課長(三) 磯野 弘
會計課長(四) 土田 豊
電信課長(三) 武藤 義雄
東亞局長(一) 石射猪太郎

外務省

録名人

第一課長(三) 上村 伸一
第二課長(五) 佐藤信太郎
第三課長(四) 花輪 義敬
第四課長(一) 東郷 茂徳
第一課長(三) 加瀬 俊一
第二課長(四) 山路 章
第三課長(四) 吉田丹一郎
第四課長(三) 岡本 正三
第五課長(三) 石井 康
第六課長(四) 塚本 毅
第七課長(三) 隈部 種樹
第八課長(三) 松嶋 鹿夫
第九課長(三) 小林 久雄
第十課長(三) 水野伊太郎
第十一課長(三) 新納 克己
第十二課長(四) 千葉 泰一
第十三課長(三) 三谷 隆信
第十四課長(三) 大久保利隆
第十五課長(三) 杉原 龍太
第十六課長(四) 西村 熊雄
第十七課長(三) 河相 達夫
第十八課長(三) 田代 重徳
第十九課長(四) 本野 盛一
第二十課長(三) 矢野 征記
第二十一課長(三) 堀内 謙介
第二十二課長(四) 永田 安吉
第二十三課長(四) 安東 義良
第二十四課長(四) 後藤 鶴尾

第五課長(四) 井口 貞夫
文化事業部長(三) 岡田 兼一
第一課長(四) 林 安
第二課長(三) 官崎 申郎
第三課長(三) 市河彦太郎
大使館
▽英國 特命全權大使 吉田 茂
參事官(一) 富井 周
商務參事官(一) 松山晋二郎
陸軍武官 歩中佐 辰巳 榮一
海軍武官 海大佐 矢野 英雄
▽佛國 特命全權大使 法博 杉村陽太郎
參事官(三) 内山岩太郎
陸軍武官 歩大佐 土橋 勇逸
海軍武官 海大佐 山田 定義
▽獨逸 特命全權大使 武者小路公共
參事官(三) 柳井 恒夫
陸軍武官 陸少將 大島 浩
海軍武官 海大佐 小島 秀雄
▽伊國 特命全權大使 堀田 正昭
參事官(三) 松宮 順
陸軍武官 航空中佐 有末 精三
海軍武官 海大佐 平出 英夫
▽白耳義國 特命全權大使 來栖 三郎

參事官(三) 坂本 龍起
▽ソウエト聯邦 特命全權大使 重光 葵
參事官(三) 西 春彦
陸軍武官 歩中佐 川俣 雄人
海軍武官 海大佐 川畑 正治
▽土耳其國 特命全權大使 武富 敏彦
參事官(三) 宮崎勝太郎
▽米國 特命全權大使 齋藤 博
參事官(三) 須磨彌吉郎
陸軍武官 歩大佐 平田 正判
海軍武官 海大佐 小林 謙五
▽ブラジル國 特命全權大使 澤田 節藏
參事官(三) 天城 篤治
▽滿洲國 特命全權大使(兼) 陸大將 植田 謙吉
參事官(一) 澤田 廉三
陸軍武官(兼) 陸少將 笠原 幸雄
海軍武官(兼) 海大佐 鈴木 義尾
▽中華民國 特命全權大使 川越 茂
參事官(三) (南京) 日高信六郎
陸軍武官 陸少將 森島 守人
海軍武官 海少將 原田 熊吉
同 (北平) 陸少將 本田 忠雄

△公使館
▽ポランド國 特命全權公使(一) 法博 伊藤 述史
一等書記官(三) 木村 惇
▽瑞西國 特命全權公使(一) 天羽 英二
二等書記官(四) 井上 豪
▽西班牙國 特命全權公使(一) 矢野 眞
▽ポルトガル國 代理公使 大森元一郎
一等書記官(三) 桑島 主計
特命全權公使(一) 鈴木 六郎
二等書記官(四) 栗山 茂
特命全權公使(一) 栗山 茂
二等書記官(四) 男 藤井 慶三
▽ラトヴィヤ國(兼) エストニア國、
リトアニア國 特命全權公使(一) 佐久間 信
特命全權公使(一) 佐久間 信
▽チエッコスロヴァキヤ國 特命全權公使(一) 藤井啓之助
一等書記官(三) 小川 昇
▽埃國(兼) ハンガリー國 特命全權公使(一) 谷 正之
一等書記官(三) 諏訪 務
△希臘國 特命全權公使(一) 兼) 武富 敏彦
一等書記官(三) 兼) 嘉納 久一

人名録

▽羅馬尼亞國(兼ユーゴスラヴィヤ國)
特命全權公使(一) 栗原 正
一等書記官(三) 黒澤 二郎
▽イラン國
特命全權公使(二) 中山 詳一
▽アフガニスタン國
特命全權公使(三) 北田 正元
二等書記官(三) 桑原 鶴
▽暹羅國
特命全權公使(一) 村井 倉松
一等書記官(三) 森 喬
▽加奈陀國
特命全權公使(一) 加藤 外松
二等書記官(四) 木下 武雄
▽キューバ國
特命全權公使(一、兼) 齋藤 博
▽メキシコ國(兼サルヴァドル國)
グアテマラ國、サンチエラス國
ニカラガ國、コスタリカ國)
特命全權公使(一) 越田佐一郎
二等書記官(四) 河原駿一郎
▽ペルー國(兼エクアドル、ボリビア國)
代理公使 藤村 信雄
二等書記官(四、兼) 齊々 哈爾總領事(四) 田中莊太郎

人名録

西貢領事(五) 高澤 貞義
ダウオ領事(五) 柴田市太郎
スラバヤ領事(四) 姉齒 準平
メダン領事(五) 米垣 興業
蘭官副領事(六) 金子 豊治
コロンボ領事(五) 久我 成美
アレキサンドリア領事(六) 黒木時太郎
ポトサイド副領事(七) 大野 道造
モンバサ領事(六) 茂垣 長作
ケイプタウン領事(四) 太田 知庸
ロサンゼルス領事(四) 太田 一郎
ポートルランド領事(四) 吉田 寛
シアトル領事(四) 岡本 一策
シカゴ領事(四) 榎谷 秀夫
ニューオールレア副領事(五) 佐藤 由巳
鴨香城領事(五) 根道 廣吉
ハバナ領事(五) 寺崎 英成
サンサルヴァドル領事(四) 大谷 彌七
パナマ領事(五) 海本 徹雄
馬尼ラ領事(四) 藤村 信雄
パウルー領事(五) 早尾 季鷹
アデイスアベバ領事(四) 野田實之助
孟買領事(四) 石川 實

内務省

大臣 法海
政務次官(一) 馬場 鎮一
次官(一) 勝田 永吉
参事官(一) 廣瀬 久忠
参事官(二) 木村 正義
参事官(三) 長沼 弘毅
参事官(四) 新居善太郎
参事官(五) 内藤 寛一
参事官(六) 熊谷 憲一
参事官(七) 中島 清二
参事官(八) 兒玉 九一
参事官(九) 中村 四郎
参事官(十) 宮地 直一
参事官(十一) 坂 千秋
参事官(十二) 加藤於菟丸

人名録

902

○衛生試験所長(技師) 東京所長(三) 藥博 衣笠 豊 大阪所長(勅待) 藥博 町口 英三
○榮養研究所長(三) 技師 醫博 佐伯 炬
○國立癩癬研究所長(醫官) 長島愛生園長(三) 光田 健輔 栗生樂泉園長(三) 醫博 古見 嘉一 星塚敬愛園長(四) 醫博 林 文雄
○國立結核療養所長(六) 使 西野 重孝
○造神宮使廳 使 多 嘉 王 副使(二、兼) 兒玉 九一 主事(三、兼) 中村 四郎
○神宮司廳 神宮祭主 多 嘉 王 大宮司(一) 伯 三條西實義 少宮司(二) 福宜 慶光院利敬 儀式課長(三) 福宜 坂本廣太郎 會計課長(四) 福宜 坂口 岩七 神宮司廳館長(三) 平田 貫一

大藏省

大臣 賀屋 興宣 大藏次官(一) 經濟博 太田 正孝

次官(一) 石渡莊太郎 參與官(一) 中村三之助 秘書官(四) 男 水谷川忠麿 文書課長(三) 兼 尾野嘉代治 會計課長(三) 山田鐵之助 財政經濟調查課長(三) 大竹 虎雄 海外駐割財務官(一) 荒川 昌二 主計局長(三) 谷口 恒二 豫算課長(三) 氏家 武 決算課長(三) 久保 文藏 調査課長(四) 植木庚子郎 主稅局長(三) 大矢半次郎 國稅課長(三) 松隈 秀雄 關稅課長(三) 尾關 將玄 調査課長(三) 安藤 明道 企畫課長(三) 田中 新平 特別調査課長(三) 竹内 忠三 理財局長(一) 關原 忠三 國庫課長(三) 梅北 末初 國債課長(三) 木内 四郎 地方債課長(三) 日比野 襄 金融課長(四) 追水 久常 銀行局長(一) 入間野武雄 普通銀行課長(三) 小宮 陽 特別銀行課長(四) 山際 正道 庶民金融課長(三) 岸 嘉二雄

○銀行検査官 検査課長(一) 尾野嘉代治 日本銀行監理官(三) 湯本 武雄 爲替局長(三) 上山 英三 總務課長(勅待) 松山 宗治 第一管理課長(三) 菅村道太郎 第二管理課長(四) 石井 茂樹 外資課長(三) 長谷川安次郎 預金部資金局長(三) 廣瀬 豊作 運用部長理事(三) 山路 綱夫 運用課長(三) 高橋 時夫 資金課長(三) 富樫 久吉 監理部長(三) 栗原 修 監理課長事務取扱 栗原 修 考查課長(三) 高瀬 武寧 營繕管財局長官 次官 石渡莊太郎 總務部長(一) 理事 江口 順一 工務部長(一) 技師 池田 謙次 總務課長(勅待) 森本 靖男 國有財産課長(三) 橋本 昂藏 第一技術課長(三) 技師 下元 連 第二技術課長(三) 技師 小島 榮吉 造幣局長(三) 技師 山田 龍雄 總務部長(三) 書記官 杉村 武正 製造部長(三) 技師 柴田 武 試金部長(三) 技師 小松原久治

專賣局長官(一) 荒井誠一郎 販賣部長(三) 花田 政春 收納部長(三) 河西 金城 製造部長(三) 森澤 一博 經理部長(三) 野呂 一雄 中央研究所長(三) 技師 兒玉 章
△地方專賣局長(參事) 東京局長(三) 理事 南 勝治 水戸局長(勅待) 平澤 法人 宇都宮局長(勅待) 宇田 吉一 高崎局長(三) 上林 一枝 郡山局長(四) 吉田 勳三 仙台局長(勅待) 加藤 嘉藏 函館局長(四) 原 辰次郎 名古屋局長(三) 理事 鈴木 徹雄 金澤局長(三) 常陸 庫二 大阪局長(三) 理事 光山 盛貞 岡山局長(心得) 清水 頼母 廣島局長(三) 理事 長谷川孝治 坂出局長(三) 小林 末夫 德島局長(三) 吉田 秀穂 福岡局長(三) 米村佐一郎 熊本局長(三) 木内 五助 鹿兒島局長(三) 鈴木 繁

港務部長(六) 山田 定男 神戸税關長(三) 中村孝次郎 監視部長(三) 北井 幾夫 港務部長(勅待) 河北 一男 大阪税關長(三) 高橋 周三 港務兼監視部長(四) 太田 幸作 長崎税關長(勅待) 玉井 徳和 門司税關長(三) 谷岡 勝美 監視部長(三) 新 敏雄 港務部長(三) 伊藤 陽 函館税關長(三) 川又 公平

陸軍省

東京監督局長(三) 原 邦道 總務部長(三) 山住 克巳 大阪監督局長(三) 中村 應 札幌監督局長(三) 山田 義見 總務部長(三) 佐藤 一郎 仙台監督局長(三) 中村 重喜 青木 正映 名古屋監督局長(三) 深田 養一 廣島監督局長(三) 櫻谷 孝典 總務部長(三) 武部 弘成 熊本監督局長(三) 齋藤和三郎 總務部長(三) 太田龜太郎 總務部長(三) 金山 國臣 釀造試驗所長(兼) 大矢半次郎

元帥府

元帥 陸軍大將 載仁親王 海軍大將 博恭王 陸軍大將 守正王

軍事參議院

參議官 海軍大將 大角 岑生 海軍大將 末次 信正 海軍大將 高橋 三吉 海軍大將 藤田 尙徳 (兼) 陸軍中將 畑 俊六 陸軍中將 中村孝太郎 陸軍中將 鳩 彦王 陸軍中將 杉 彦王

侍從武官府

武官長 陸軍中將 宇佐美興屋 海軍少將 平田 昇 陸軍少將 町尻 量基

陸海軍大將

(親任願) (△印は退後役) (△印は警備後備役) 陸軍大將 載仁親王 陸軍大將 親王 陸軍大將 五郎 陸軍大將 山梨 半造

海軍大將 岸本 綏夫 海軍大將 外吉 海軍大將 山屋 他人 海軍大將 野間口兼雄 海軍大將 小栗孝三郎 海軍大將 井出 謙治 海軍大將 谷口 尚眞 海軍大將 小島 謙造 海軍大將 中村 良三

尾野 實信 守正王 鈴木 莊六 宇垣 一成 森岡 守成 鈴木 孝雄 田中 國重 岸本 鹿太郎 南 次郎 林 銑十郎 松本 庄 松井 石根 松木 直亮 植田 謙吉 岸本 綏夫 海軍大將 有馬 良橘 町田 經宇 田中弘太郎 菅野 尙一 菅野 尙一 井上幾太郎 磯村 隆 菱刈 豊彦 吉田 勝一 緒方 勝一 眞崎 基三郎 阿部 信行 川島 貞夫 西 義一 杉山 壽一 伯寺内 元

陸軍省

大臣 大將 杉山 元 大藏次官(一) 中將 加藤久米四郎 次官(一) 中將 梅津美治郎 參與官(一) 高橋 三吉 高級副官 騎大佐 原 守 新聞班長 步大佐 阿南 惟幾 補任課長 步大佐 青木 重誠 徵募課長 步大佐 柳田 元三 恩賞課長 步大佐 及川 源七 軍務局長 中將 後宮 淳 軍事課長 步大佐 田中 新一 軍務課長 步大佐 柴山兼四郎 軍務課長 步大佐 飯田祥二郎 兵務局長 少將 飯田幸次郎 兵務課長 步大佐 飯田 忠道 防備課長 工大佐 栗林 忠道 馬政課長 騎大佐 栗林 忠道 整備課長 步大佐 山脇 正隆 戰備課長 步大佐 長谷川 基 整備課長 步大佐 山田 清一 兵器局長 少將 木村兵太郎 銃砲課長 砲大佐 菅 晴次 機械課長 步大佐 青木 成一

人名錄

人事局長 少將 清水 光美
第一課長 大佐 德永 榮
第二課長 大佐 多田 武雄
教育局長 中將 住山 德太郎
第一課長 大佐 山口 儀三郎
第二課長 大佐 丸茂 邦則
第三課長 大佐 澤 達
軍需局長 中將 氏家 長明
第一課長 大佐 中村 俊久
第二課長 大佐 細谷 信三郎
第三課長 大佐 南里 昌治
醫務局長 軍醫中將 高杉 新一郎
經理局長 主計中將 村上 春一
第一課長 主計大佐 山本 壯之助
第二課長 主計大佐 橫尾 石夫
第三課長 主計大佐 森島 種雄
建築局長(兼)技師 吉田 直
法務局長(兼)法務官 潮見 茂樹
艦政本部長 中將 上田 宗重
總務本部長 少將 澤本 頼雄
第一部長 造兵少將 谷村 豐太郎
第二部長 造兵少將 砂川 兼雄
第三部長 造兵少將 平岡 磯
第四部長 造船中將 山本 幹之助
第五部長 造機少將 福間 忠哉
第六部長 造機少將 熊岡 謙
會計部長 主計少將 高橋 四郎
水路部長 少將 太田 垣富三郎

技術研究所長 造兵 日高 鑑一
理學部長 少將 林田 恒雄
化學部長 大佐 竹内 均
電氣部長 造兵少將 男山 武定
造船部長 造兵少將 徳川 信次
火藥部長 造兵少將 山家 宗雄
燃料部長 少將 吉成 宗雄
總務部長 機調大佐 上田 儀右衛門
製油部長 機調大佐 別府 良三
研究部長 少將 野村 將三
探炭部長 主計少將 金谷 隆一
鑛業部長(平壤) 少將 石井 常次郎
大學校長 中將 佐藤 三郎
兵學校長 中將 出光 萬兵衛
機關學校長 少將 兼田 市郎
軍醫學校長 少將 向山 美弘
經理學校長 主計 佐々木 重藏
砲術學校長 少將 草鹿 任一
水雷學校長(兼) 少將 細萱 茂子郎
潛水學校長 少將 浮田 秀彦
通信學校長 少將 細萱 茂子郎
航海學校長 少將 小池 四郎
工機學校長 少將 朝隈 彦吉
△軍令部
軍令部總長 元帥 大將 博 恭 王
次長 中將 嶋田 繁太郎

第一部長 少將 近藤 信竹
第二部長 少將 高橋 伊登
第三部長 少將 野村 直邦
第四部長 少將 降幡 敏
航空本部長 中將 及川 古志郎
總務部長 少將 塚原 二四三
教育部長 大佐 大西 瀧治郎
技術部長 少將 杉山 俊亮
航空隊長 少將 原 俊五郎
總務隊長 大佐 石黑 廣助
科員部長 少將 廣瀬 正經
飛行機部長 少將 櫻井 忠武
發動機部長 少將 花島 孝一
兵器部長 大佐 佐藤 源藏
飛行實驗部長 大佐 桑原 虎雄
霞ヶ浦 少將 片桐 英吉
廣須賀 大佐 三木 貞三
佐世保 中佐 三木 森彦
大村 大佐 千田 貞敏
館山 大佐 巨塚 道太郎
吳 大佐 長谷川 喜一
大湊 中佐 加來 止男
佐伯 大佐 今村 脩
舞鶴 大佐 樋口 晴
木更津 大佐 竹中 龍造
鹿屋 大佐 石井 藤江
橫濱 大佐 加藤 尚雄

鎮海 大佐 市丸 利之助
○廣須賀鎮守府
司令官 大將 百武 源吾
參謀長 少將 岩村 清一
人事部長 少將 太田 泰治
札幌人事部長 大佐 福田 貞三郎
港務部長 大佐 花島 節雄
艦政部長 少將 木梨 律馬
軍需部長 主計少將 大東 健夫
經理部長 主計少將 武井 大助
工廠長 中將 古市 龍雄
造船部長 造船少將 山本 弘毅
造船部長 造機少將 鈴木 格司
造船部長 造機少將 澁谷 隆太郎
造船部長 造機少將 木崎 行
防備隊司令 大佐 田中 朝三
海兵團長 大佐 副島 大助
病院長 軍醫少將 田中 朝三
○吳鎮守府
司令官 中將 加藤 隆義
參謀長 少將 戸河 隆給
人事部長 大佐 奥 信一
大阪人事部長 大佐 酒井 茂吉
金澤人事部長 大佐 小住 德三郎
港務部長 大佐 原 顯三郎
艦政部長 少將 立花 才次郎
軍需部長 少將 脇 鼎
經理部長 主計少將 平井 博
軍工廠長 中將 豊田 貞次郎

人名錄

砲術部長 少將 若荷 秀雄
水雷部長 少將 岸本 鹿子治
電氣部長 少將 足立 吉平
造船部長 造船少將 桑原 重治
造船部長 造機少將 都築 伊七
造船部長 造機少將 二階堂 行健
造船部長 主計少將 荒木 彦彦
造船部長 主計少將 樋口 修一郎
防備隊司令 大佐 樋口 修一郎
海兵團長 少將 矢野 好信
病院長 軍醫少將 菅原 佐平
○佐世保鎮守府
司令官 中將 鹽澤 幸一
參謀長 少將 桑折 英三郎
人事部長 少將 祝原 不知名
高松人事部長 大佐 山本 耕一郎
港務部長 大佐 後藤 權造
艦政部長 少將 中村 重一
軍需部長 少將 須田 稔
經理部長 主計少將 石黒 利吉
工廠長 中將 菊野 茂
造船部長 造船少將 原 清
造船部長 造機少將 正木 宣恒
造船部長 造機少將 勳 柄 玉造
防備隊司令 大佐 勳 柄 武夫
海兵團長 大佐 佐倉 武夫
病院長 軍醫少將 中野 太郎
○舞鶴要港部
司令官(親補) 中將 中村 龜三郎
參謀長 大佐 大野 一郎
港務部長 大佐 三浦 友三郎

軍需部長 機調大佐 竹岡 健治
經理部長 主計大佐 加納 金三郎
工廠長 少將 本田 喜一郎
防備隊司令 大佐 小林 徹理
○大湊要港部
司令官 少將 井澤 春馬
參謀長 大佐 佐藤 波藏
防備隊司令 大佐 難波 祐次
○馬公要港部
司令官 少將 和田 專三
參謀長 大佐 三輪 茂義
防備隊司令 大佐 山崎 助一
○鎮海要港部
司令官 中將 原 敬太郎
參謀長 大佐 水野 準一
防備隊司令 大佐 坂野 民部
○旅順要港部
司令官 少將 前田 政一
參謀長 大佐 原 忠一
○駐滿海軍部(新京)
司令官 中將 日比野 正治
參謀長 大佐 鈴木 義尾
臨時防備隊司令(ハルビン) 大佐 松永 貞市
○聯合艦隊兼第一艦隊
司令官 大將 永野 修身
參謀長 少將 小澤 治三郎
第三艦隊 中將 有地 十五郎

第八戰隊 司令官 少將 南雲 忠一
第一水雷戰隊 司令官 大佐 吉田 庸光
第一水雷戰隊 司令官 少將 小松 輝久
第一航空戰隊 司令官 少將 高須 四郎
第二戰隊 司令官 中將 吉田 善吾
參謀長 少將 三川 軍一
第五戰隊 司令官 少將 三木 太市
參謀長 少將 宮田 義一
第十二戰隊 司令官 少將 坂本 伊久太
第二水雷戰隊 司令官 少將 大和田 芳之介
第二水雷戰隊 司令官 少將 堀江 六郎
第二航空戰隊 司令官 少將 堀江 六郎
第十戰隊 司令官 中將 長谷川 潤
參謀長 少將 杉山 六藏
第十一戰隊 司令官 少將 下村 正助
第五水雷戰隊 司令官 少將 谷本 馬太郎
上海特別陸戰隊司令官 少將 大熊 政吉
上海特別海戰隊司令官 少將 大川 内傳七

○警備戰隊
廣須賀司令官 少將 近藤 英次郎
吳司令官 少將 水戸 春造
佐世保司令官 少將 雪下 勝美
○防備戰隊
廣須賀司令官 少將 園田 滋
吳司令官 少將 藤森 清一朗
佐世保司令官 少將 鈴木 新治
○練習艦隊
司令官 中將 古賀 峰一
大臣 磯野 季彦
政務次官(一) 久山 知之
政務次官(二) 長島 毅
政務次官(三) 藤田 若水
秘書官(一) 矢萩 富吉
秘書官(二) 船津 宏
秘書官(三) 坂野 千里
會計課長(一) 齋藤 直一
會計課長(二) 森山 武市郎
保護課長(一) 大森 洪太
保護課長(二) 橫田 正俊
第一課長(一) 根本 松男
第一課長(二) 辻 朔郎
第一課長(三) 堀内 信之助
第一課長(四) 松阪 廣政
第一課長(五) 佐藤 藤一
第一課長(六) 中西 要一

司法省

録名人

- 第三課長(三) 大竹武七郎
- 第四課長(四) 高田正
- 第五課長(五) 平野利
- 行刑局長(一) 龍川秀雄
- 第一課長(一) 岡五朗
- 第二課長(二) 吉江知養
- 第三課長事務取扱(三) 日沖憲郎
- 第四課長(三) 衛生官醫博 芥川信
- 調査部長(一) 井上登
- 第一課長(一) 清原那
- 第二課長(二) 梶村敏樹
- 第三課長(三) 下村三郎
- 大審院長(親任)法博 池田寅二郎
- 部長(一) 神谷健夫
- 部長(二) 木村向達
- 部長(三) 佐藤共之
- 部長(四) 霜山精一
- 部長(五) 宇野聖三郎
- 部長(六) 遠藤誠
- 部長(七) 三宅正太郎
- 部長(八) 矢部克巳
- 部長(九) 泉二新熊
- 部長(十) 岩村通世
- 部長(十一) 岩川治廣
- 部長(十二) 杉浦忠雄
- 部長(十三) 佐々木良一
- 部長(十四) 高崎支部長(三)
- 部長(十五) 小林四郎
- 部長(十六) 古川純一郎
- 部長(十七) 齋藤喜一
- 部長(十八) 神垣秀六
- 部長(十九) 小中公毅
- 部長(二十) 下飯坂潤夫
- 部長(二十一) 垂水克巳
- 部長(二十二) 吉益俊次
- 部長(二十三) 中野重助
- 部長(二十四) 豊水道雲
- 部長(二十五) 鬼頭豊隆
- 部長(二十六) 徳永榮吉
- 部長(二十七) 瀬崎憲三郎
- 部長(二十八) 赤羽謙
- 部長(二十九) 神谷敏行
- 部長(三十) 窪田幹太
- 部長(三十一) 三輪智
- 部長(三十二) 佐々木與次郎
- 部長(三十三) 石田弘吉
- 部長(三十四) 立石種一
- 部長(三十五) 金澤次郎
- 部長(三十六) 水野忠行
- 部長(三十七) 西村卯
- 部長(三十八) 志賀貞次郎
- 部長(三十九) 秋山高彦
- 部長(四十) 安岡静四郎
- 部長(四十一) 上條桂十郎
- 部長(四十二) 安倍直
- 部長(四十三) 澤村直
- 部長(四十四) 神戶地方所長(一)
- 部長(四十五) 大阪監査官(三)
- 部長(四十六) 大阪支部長(一)
- 部長(四十七) 京都支部長(一)
- 部長(四十八) 京都監査官(三)
- 部長(四十九) 京都支部長(二)
- 部長(五十) 京都監査官(二)
- 部長(五十一) 京都支部長(三)
- 部長(五十二) 京都監査官(二)
- 部長(五十三) 京都支部長(四)
- 部長(五十四) 京都監査官(一)
- 部長(五十五) 京都支部長(五)
- 部長(五十六) 京都監査官(一)
- 部長(五十七) 京都支部長(六)
- 部長(五十八) 京都監査官(一)
- 部長(五十九) 京都支部長(七)
- 部長(六十) 京都監査官(一)
- 部長(六十一) 京都支部長(八)
- 部長(六十二) 京都監査官(一)
- 部長(六十三) 京都支部長(九)
- 部長(六十四) 京都監査官(一)
- 部長(六十五) 京都支部長(十)
- 部長(六十六) 京都監査官(一)
- 部長(六十七) 京都支部長(十一)
- 部長(六十八) 京都監査官(一)
- 部長(六十九) 京都支部長(十二)
- 部長(七十) 京都監査官(一)
- 部長(七十一) 京都支部長(十三)
- 部長(七十二) 京都監査官(一)
- 部長(七十三) 京都支部長(十四)
- 部長(七十四) 京都監査官(一)
- 部長(七十五) 京都支部長(十五)
- 部長(七十六) 京都監査官(一)
- 部長(七十七) 京都支部長(十六)
- 部長(七十八) 京都監査官(一)
- 部長(七十九) 京都支部長(十七)
- 部長(八十) 京都監査官(一)
- 部長(八十一) 京都支部長(十八)
- 部長(八十二) 京都監査官(一)
- 部長(八十三) 京都支部長(十九)
- 部長(八十四) 京都監査官(一)
- 部長(八十五) 京都支部長(二十)
- 部長(八十六) 京都監査官(一)
- 部長(八十七) 京都支部長(二十一)
- 部長(八十八) 京都監査官(一)
- 部長(八十九) 京都支部長(二十二)
- 部長(九十) 京都監査官(一)
- 部長(九十一) 京都支部長(二十三)
- 部長(九十二) 京都監査官(一)
- 部長(九十三) 京都支部長(二十四)
- 部長(九十四) 京都監査官(一)
- 部長(九十五) 京都支部長(二十五)
- 部長(九十六) 京都監査官(一)
- 部長(九十七) 京都支部長(二十六)
- 部長(九十八) 京都監査官(一)
- 部長(九十九) 京都支部長(二十七)
- 部長(一百) 京都監査官(一)

録名人

- 福井地方所長(三) 伊佐早 信
- 金澤地方所長(一) 小澤八十
- 富山地方所長(三) 橋川喜三
- 富山支部長(三) 森 勇
- 富山監査官(三) 古松鐵太郎
- 富山支部長(二) 猪原 敬勝
- 富山監査官(二) 伊部 榮治
- 富山支部長(一) 高岡支部長(勅待) 櫻田 壽
- 富山監査官(一) 坂崎 正敏
- 富山支部長(一) 渡邊 彦土
- 富山監査官(一) 三橋市太郎
- 富山支部長(一) 上席検事(三) 長谷川 寧
- 富山監査官(一) 松田孫治郎
- 富山支部長(一) 廣島地方所長(三) 藤井 建一
- 富山監査官(一) 藤井 建一
- 富山支部長(一) 山口地方所長(三) 竹内 勇平
- 富山監査官(一) 吉田茂久郎
- 富山支部長(一) 山口地方所長(二) 石塚 揆一
- 富山監査官(一) 阿部 久治
- 富山支部長(一) 下關支部長(勅待) 白井清左衛門
- 富山監査官(一) 國枝 鎌三
- 富山支部長(一) 岡山地方所長(一) 田中 智作
- 富山監査官(一) 北本常三郎
- 富山支部長(一) 鳥取地方所長(三) 山口 龍作
- 富山監査官(一) 細川 兵一
- 富山支部長(一) 松江地方所長(三) 中西 保則
- 富山監査官(一) 前田前之助
- 富山支部長(一) 松江地方所長(二) 樋口 良助
- 富山監査官(一) 谷田勝之助
- 富山支部長(一) 松江地方所長(一) 松山 精一
- 富山監査官(一) 宇和島支部長(三)
- 長崎監査官(一) 長崎支部長(一) 長崎支部長(二) 長崎支部長(三) 長崎支部長(四) 長崎支部長(五) 長崎支部長(六) 長崎支部長(七) 長崎支部長(八) 長崎支部長(九) 長崎支部長(十) 長崎支部長(十一) 長崎支部長(十二) 長崎支部長(十三) 長崎支部長(十四) 長崎支部長(十五) 長崎支部長(十六) 長崎支部長(十七) 長崎支部長(十八) 長崎支部長(十九) 長崎支部長(二十) 長崎支部長(二十一) 長崎支部長(二十二) 長崎支部長(二十三) 長崎支部長(二十四) 長崎支部長(二十五) 長崎支部長(二十六) 長崎支部長(二十七) 長崎支部長(二十八) 長崎支部長(二十九) 長崎支部長(三十) 長崎支部長(三十一) 長崎支部長(三十二) 長崎支部長(三十三) 長崎支部長(三十四) 長崎支部長(三十五) 長崎支部長(三十六) 長崎支部長(三十七) 長崎支部長(三十八) 長崎支部長(三十九) 長崎支部長(四十) 長崎支部長(四十一) 長崎支部長(四十二) 長崎支部長(四十三) 長崎支部長(四十四) 長崎支部長(四十五) 長崎支部長(四十六) 長崎支部長(四十七) 長崎支部長(四十八) 長崎支部長(四十九) 長崎支部長(五十) 長崎支部長(五十一) 長崎支部長(五十二) 長崎支部長(五十三) 長崎支部長(五十四) 長崎支部長(五十五) 長崎支部長(五十六) 長崎支部長(五十七) 長崎支部長(五十八) 長崎支部長(五十九) 長崎支部長(六十) 長崎支部長(六十一) 長崎支部長(六十二) 長崎支部長(六十三) 長崎支部長(六十四) 長崎支部長(六十五) 長崎支部長(六十六) 長崎支部長(六十七) 長崎支部長(六十八) 長崎支部長(六十九) 長崎支部長(七十) 長崎支部長(七十一) 長崎支部長(七十二) 長崎支部長(七十三) 長崎支部長(七十四) 長崎支部長(七十五) 長崎支部長(七十六) 長崎支部長(七十七) 長崎支部長(七十八) 長崎支部長(七十九) 長崎支部長(八十) 長崎支部長(八十一) 長崎支部長(八十二) 長崎支部長(八十三) 長崎支部長(八十四) 長崎支部長(八十五) 長崎支部長(八十六) 長崎支部長(八十七) 長崎支部長(八十八) 長崎支部長(八十九) 長崎支部長(九十) 長崎支部長(九十一) 長崎支部長(九十二) 長崎支部長(九十三) 長崎支部長(九十四) 長崎支部長(九十五) 長崎支部長(九十六) 長崎支部長(九十七) 長崎支部長(九十八) 長崎支部長(九十九) 長崎支部長(一百)
- 長崎監査官(一) 清水壯左久
- 長崎監査官(二) 岩村 流芳
- 長崎監査官(三) 宮山武兵衛
- 長崎監査官(四) 和田 良平
- 長崎監査官(五) 堀部 茂
- 長崎監査官(六) 大原 利文
- 長崎監査官(七) 棚田丈四郎
- 長崎監査官(八) 堀 成章
- 長崎監査官(九) 堀 耕作
- 長崎監査官(十) 稲塚庄三郎
- 長崎監査官(十一) 和田 一之
- 長崎監査官(十二) 水田 正之
- 長崎監査官(十三) 越川 道三
- 長崎監査官(十四) 長谷川松太郎
- 長崎監査官(十五) 浅沼 猪助
- 長崎監査官(十六) 佐藤伊惣治
- 長崎監査官(十七) 石田伊太郎
- 長崎監査官(十八) 後藤 省三
- 長崎監査官(十九) 佐藤 修一
- 長崎監査官(二十) 宮崎 國吉
- 長崎監査官(二十一) 阪口 清
- 長崎監査官(二十二) 村上 雄治
- 長崎監査官(二十三) 平山 慎英
- 長崎監査官(二十四) 青山 春彦
- 長崎監査官(二十五) 久保田美英
- 長崎監査官(二十六) 勅使河原直三郎
- 長崎監査官(二十七) 岩松 次十
- 長崎監査官(二十八) 飯澤 高
- 長崎監査官(二十九) 加藤 健一
- 長崎監査官(三十) 仙台地方所長(三)
- 長崎監査官(三十一) 福島地方所長(一)
- 長崎監査官(三十二) 福島支部長(一)
- 長崎監査官(三十三) 若松支部長(三)
- 長崎監査官(三十四) 山形地方所長(三)
- 長崎監査官(三十五) 盛岡地方所長(三)
- 長崎監査官(三十六) 秋田地方所長(三)
- 長崎監査官(三十七) 青森地方所長(三)
- 長崎監査官(三十八) 弘前支部長(三)
- 長崎監査官(三十九) 札幌監査官(一)
- 長崎監査官(四十) 札幌支部長(一)
- 長崎監査官(四十一) 札幌監査官(二)
- 長崎監査官(四十二) 札幌支部長(二)
- 長崎監査官(四十三) 札幌監査官(三)
- 長崎監査官(四十四) 札幌支部長(三)
- 長崎監査官(四十五) 札幌監査官(四)
- 長崎監査官(四十六) 札幌支部長(四)
- 長崎監査官(四十七) 札幌監査官(五)
- 長崎監査官(四十八) 札幌支部長(五)
- 長崎監査官(四十九) 札幌監査官(六)
- 長崎監査官(五十) 札幌支部長(六)
- 長崎監査官(五十一) 札幌監査官(七)
- 長崎監査官(五十二) 札幌支部長(七)
- 長崎監査官(五十三) 札幌監査官(八)
- 長崎監査官(五十四) 札幌支部長(八)
- 長崎監査官(五十五) 札幌監査官(九)
- 長崎監査官(五十六) 札幌支部長(九)
- 長崎監査官(五十七) 札幌監査官(十)
- 長崎監査官(五十八) 札幌支部長(十)
- 長崎監査官(五十九) 札幌監査官(十一)
- 長崎監査官(六十) 札幌支部長(十一)
- 長崎監査官(六十一) 札幌監査官(十二)
- 長崎監査官(六十二) 札幌支部長(十二)
- 長崎監査官(六十三) 札幌監査官(十三)
- 長崎監査官(六十四) 札幌支部長(十三)
- 長崎監査官(六十五) 札幌監査官(十四)
- 長崎監査官(六十六) 札幌支部長(十四)
- 長崎監査官(六十七) 札幌監査官(十五)
- 長崎監査官(六十八) 札幌支部長(十五)
- 長崎監査官(六十九) 札幌監査官(十六)
- 長崎監査官(七十) 札幌支部長(十六)
- 長崎監査官(七十一) 札幌監査官(十七)
- 長崎監査官(七十二) 札幌支部長(十七)
- 長崎監査官(七十三) 札幌監査官(十八)
- 長崎監査官(七十四) 札幌支部長(十八)
- 長崎監査官(七十五) 札幌監査官(十九)
- 長崎監査官(七十六) 札幌支部長(十九)
- 長崎監査官(七十七) 札幌監査官(二十)
- 長崎監査官(七十八) 札幌支部長(二十)
- 長崎監査官(七十九) 札幌監査官(二十一)
- 長崎監査官(八十) 札幌支部長(二十一)
- 長崎監査官(八十一) 札幌監査官(二十二)
- 長崎監査官(八十二) 札幌支部長(二十二)
- 長崎監査官(八十三) 札幌監査官(二十三)
- 長崎監査官(八十四) 札幌支部長(二十三)
- 長崎監査官(八十五) 札幌監査官(二十四)
- 長崎監査官(八十六) 札幌支部長(二十四)
- 長崎監査官(八十七) 札幌監査官(二十五)
- 長崎監査官(八十八) 札幌支部長(二十五)
- 長崎監査官(八十九) 札幌監査官(二十六)
- 長崎監査官(九十) 札幌支部長(二十六)
- 長崎監査官(九十一) 札幌監査官(二十七)
- 長崎監査官(九十二) 札幌支部長(二十七)
- 長崎監査官(九十三) 札幌監査官(二十八)
- 長崎監査官(九十四) 札幌支部長(二十八)
- 長崎監査官(九十五) 札幌監査官(二十九)
- 長崎監査官(九十六) 札幌支部長(二十九)
- 長崎監査官(九十七) 札幌監査官(三十)
- 長崎監査官(九十八) 札幌支部長(三十)
- 長崎監査官(九十九) 札幌監査官(三十一)
- 長崎監査官(一百) 札幌支部長(三十一)
- 長崎監査官(一) 山本 寛治
- 長崎監査官(二) 高野 寛治
- 長崎監査官(三) 増田 通彦
- 長崎監査官(四) 三浦 通太
- 長崎監査官(五) 菅波 鶴雄
- 長崎監査官(六) 岡 國吉
- 長崎監査官(七) 西岡 治作
- 長崎監査官(八) 竹中 治
- 長崎監査官(九) 松野 祐治
- 長崎監査官(十) 日下 計治
- 長崎監査官(十一) 中村 憲平
- 長崎監査官(十二) 菅間 正英
- 長崎監査官(十三) 日高要次郎
- 長崎監査官(十四) 鳥津 二郎
- 長崎監査官(十五) 猪俣 治六
- 長崎監査官(十六) 熊谷 誠
- 長崎監査官(十七) 清水 正一
- 長崎監査官(十八) 中野 重助
- 長崎監査官(十九) 近 幹之助
- 長崎監査官(二十) 井上健一郎
- 長崎監査官(二十一) 木村 正
- 長崎監査官(二十二) 佐久間辰二
- 長崎監査官(二十三) 谷津 慶次
- 長崎監査官(二十四) 大和田三治
- 長崎監査官(二十五) 高橋 久徳
- 長崎監査官(二十六) 柳澤 雅休
- 長崎監査官(二十七) 本間 寛二
- 長崎監査官(二十八) 阪元不二男
- 長崎監査官(二十九) 大阪少年審判所長(三)
- 長崎監査官(三十) 大阪監査官(一)
- 長崎監査官(三十一) 大阪監査官(二)
- 長崎監査官(三十二) 大阪監査官(三)
- 長崎監査官(三十三) 大阪監査官(四)
- 長崎監査官(三十四) 大阪監査官(五)
- 長崎監査官(三十五) 大阪監査官(六)
- 長崎監査官(三十六) 大阪監査官(七)
- 長崎監査官(三十七) 大阪監査官(八)
- 長崎監査官(三十八) 大阪監査官(九)
- 長崎監査官(三十九) 大阪監査官(十)
- 長崎監査官(四十) 大阪監査官(十一)
- 長崎監査官(四十一) 大阪監査官(十二)
- 長崎監査官(四十二) 大阪監査官(十三)
- 長崎監査官(四十三) 大阪監査官(十四)
- 長崎監査官(四十四) 大阪監査官(十五)
- 長崎監査官(四十五) 大阪監査官(十六)
- 長崎監査官(四十六) 大阪監査官(十七)
- 長崎監査官(四十七) 大阪監査官(十八)
- 長崎監査官(四十八) 大阪監査官(十九)
- 長崎監査官(四十九) 大阪監査官(二十)
- 長崎監査官(五十) 大阪監査官(二十一)
- 長崎監査官(五十一) 大阪監査官(二十二)
- 長崎監査官(五十二) 大阪監査官(二十三)
- 長崎監査官(五十三) 大阪監査官(二十四)
- 長崎監査官(五十四) 大阪監査官(二十五)
- 長崎監査官(五十五) 大阪監査官(二十六)
- 長崎監査官(五十六) 大阪監査官(二十七)
- 長崎監査官(五十七) 大阪監査官(二十八)
- 長崎監査官(五十八) 大阪監査官(二十九)
- 長崎監査官(五十九) 大阪監査官(三十)
- 長崎監査官(六十) 大阪監査官(三十一)
- 長崎監査官(六十一) 大阪監査官(三十二)
- 長崎監査官(六十二) 大阪監査官(三十三)
- 長崎監査官(六十三) 大阪監査官(三十四)
- 長崎監査官(六十四) 大阪監査官(三十五)
- 長崎監査官(六十五) 大阪監査官(三十六)
- 長崎監査官(六十六) 大阪監査官(三十七)
- 長崎監査官(六十七) 大阪監査官(三十八)
- 長崎監査官(六十八) 大阪監査官(三十九)
- 長崎監査官(六十九) 大阪監査官(四十)
- 長崎監査官(七十) 大阪監査官(四十一)
- 長崎監査官(七十一) 大阪監査官(四十二)
- 長崎監査官(七十二) 大阪監査官(四十三)
- 長崎監査官(七十三) 大阪監査官(四十四)
- 長崎監査官(七十四) 大阪監査官(四十五)
- 長崎監査官(七十五) 大阪監査官(四十六)
- 長崎監査官(七十六) 大阪監査官(四十七)
- 長崎監査官(七十七) 大阪監査官(四十八)
- 長崎監査官(七十八) 大阪監査官(四十九)
- 長崎監査官(七十九) 大阪監査官(五十)
- 長崎監査官(八十) 大阪監査官(五十一)
- 長崎監査官(八十一) 大阪監査官(五十二)
- 長崎監査官(八十二) 大阪監査官(五十三)
- 長崎監査官(八十三) 大阪監査官(五十四)
- 長崎監査官(八十四) 大阪監査官(五十五)
- 長崎監査官(八十五) 大阪監査官(五十六)
- 長崎監査官(八十六) 大阪監査官(五十七)
- 長崎監査官(八十七) 大阪監査官(五十八)
- 長崎監査官(八十八) 大阪監査官(五十九)
- 長崎監査官(八十九) 大阪監査官(六十)
- 長崎監査官(九十) 大阪監査官(六十一)
- 長崎監査官(九十一) 大阪監査官(六十二)
- 長崎監査官(九十二) 大阪監査官(六十三)
- 長崎監査官(九十三) 大阪監査官(六十四)
- 長崎監査官(九十四) 大阪監査官(六十五)
- 長崎監査官(九十五) 大阪監査官(六十六)
- 長崎監査官(九十六) 大阪監査官(六十七)
- 長崎監査官(九十七) 大阪監査官(六十八)
- 長崎監査官(九十八) 大阪監査官(六十九)
- 長崎監査官(九十九) 大阪監査官(七十)
- 長崎監査官(一百) 大阪監査官(七十一)
- 文部省 大臣 安井 英二
- 文部省 政務次官(一) 内ヶ崎作三郎
- 文部省 政務次官(二) 伊東 延吉
- 文部省 政務次官(三) 池崎 忠孝
- 文部省 政務次官(四) 田中 西蔵
- 文部省 政務次官(五) 堀池 英一
- 文部省 政務次官(六) 朝比奈策太郎
- 文部省 政務次官(七) 橋本 政實
- 文部省 政務次官(八) 拓 政
- 文部省 政務次官(九) 山川 建
- 文部省 政務次官(十) 有光 次郎
- 文部省 政務次官(十一) 本田 弘人
- 文部省 政務次官(十二) 藤野 愚
- 文部省 政務次官(十三) 朝比奈策太郎
- 文部省 政務次官(十四) 伊藤日出登
- 文部省 政務次官(十五) 小笠原豊光
- 文部省 政務次官(十六) 岩松 五良
- 文部省 政務次官(十七) 田中 保平
- 文部省 政務次官(十八) 田中 重之
- 文部省 政務次官(十九) 清水 芳一
- 文部省 政務次官(二十) 栗沼 直
- 文部省 政務次官(二十一) 青年教育課長(一)
- 文部省 政務次官(二十二) 成人教育課長(一)
- 文部省 政務次官(二十三) 庶務課長(一)
- 文部省 政務次官(二十四) 農林教育課長(一)
- 文部省 政務次官(二十五) 商業教育課長(一)
- 文部省 政務次官(二十六) 農工教育 事務官
- 文部省 政務次官(二十七) 社会教育局長(一)
- 文部省 政務次官(二十八) 成人教育課長(二)
- 文部省 政務次官(二十九) 庶務課長(二)
- 文部省 政務次官(三十) 農林教育課長(二)
- 文部省 政務次官(三十一) 商業教育課長(二)
- 文部省 政務次官(三十二) 農工教育 事務官
- 文部省 政務次官(三十三) 社会教育局長(二)
- 文部省 政務次官(三十四) 成人教育課長(三)
- 文部省 政務次官(三十五) 庶務課長(三)
- 文部省 政務次官(三十六) 農林教育課長(三)
- 文部省 政務次官(三十七) 商業教育課長(三)
- 文部省 政務次官(三十八) 農工教育 事務官
- 文部省 政務次官(三十九) 社会教育局長(三)
- 文部省 政務次官(四十) 成人教育課長(四)
- 文部省 政務次官(四十一) 庶務課長(四)
- 文部省 政務次官(四十二) 農林教育課長(四)
- 文部省 政務次官(四十三) 商業教育課長(四)
- 文部省 政務次官(四十四) 農工教育 事務官
- 文部省 政務次官(四十五) 社会教育局長(四)
- 文部省 政務次官(四十六) 成人教育課長(五)
- 文部省 政務次官(四十七) 庶務課長(五)
- 文部省 政務次官(四十八) 農林教育課長(五)
- 文部省 政務次官(四十九) 商業教育課長(五)
- 文部省 政務次官(五十) 農工教育 事務官
- 文部省 政務次官(五十一) 社会教育局長(五)
- 文部省 政務次官(五十二) 成人教育課長(六)
- 文部省 政務次官(五十三) 庶務課長(六)
- 文部省 政務次官(五十四) 農林教育課長(六)
- 文部省 政務次官(五十五) 商業教育課長(六)
- 文部省 政務次官(五十六) 農工教育 事務官
- 文部省 政務次官(五十七) 社会教育局長(六)
- 文部省 政務次官(五十八) 成人教育課長(七)
- 文部省 政務次官(五十九) 庶務課長(七)
- 文部省 政務次官(六十) 農林教育課長(七)
- 文部省 政務次官(六十一) 商業教育課長(七)
- 文部省 政務次官(六十二) 農工教育 事務官
- 文部省 政務次官(六十三) 社会教育局長(七)
- 文部省 政務次官(六十四) 成人教育課長(八)
- 文部省 政務次官(六十五) 庶務課長(八)
- 文部省 政務次官(六十六) 農林教育課長(八)
- 文部省 政務次官(六十七) 商業教育課長(八)
- 文部省 政務次官(六十八) 農工教育 事務官
- 文部省 政務次官(六十九) 社会教育局長(八)
- 文部省 政務次官(七十) 成人教育課長(九)
- 文部省 政務次官(七十一) 庶務課長(九)
- 文部省 政務次官(七十二) 農林教育課長(九)
- 文部省 政務次官(七十三) 商業教育課長(九)
- 文部省 政務次官(七十四) 農工教育 事務官
- 文部省 政務次官(七十五) 社会教育局長(九)
- 文部省 政務次官(七十六) 成人教育課長(十)
- 文部省 政務次官(七十七) 庶務課長(十)
- 文部省 政務次官(七十八) 農林教育課長(十)
- 文部省 政務次官(七十九) 商業教育課長(十)
- 文部省 政務次官(八十) 農工教育 事務官
- 文部省 政務次官(八十一) 社会教育局長(十)
- 文部省 政務次官(八十二) 成人教育課長(十一)
- 文部省 政務次官(八十三) 庶務課長(十一)
- 文部省 政務次官(八十四) 農林教育課長(十一)
- 文部省 政務次官(八十五) 商業教育課長(十一)
- 文部省 政務次官(八十六) 農工教育 事務官
- 文部省 政務次官(八十七) 社会教育局長(十一)
- 文部省 政務次官(八十八) 成人教育課長(十二)
- 文部省 政務次官(八十九) 庶務課長(十二)
- 文部省 政務次官(九十) 農林教育課長(十二)
- 文部省 政務次官(九十一) 商業教育課長(十二)
- 文部省 政務次官(九十二) 農工教育 事務官
- 文部省 政務次官(九十三) 社会教育局長(十二)
- 文部省 政務次官(九十四) 成人教育課長(十三)
- 文部省 政務次官(九十五) 庶務課長(十三)
- 文部省 政務次官(九十六) 農林教育課長(十三)
- 文部省 政務次官(九十七) 商業教育課長(十三)
- 文部省 政務次官(九十八) 農工教育 事務官
- 文部省 政務次官(九十九) 社会教育局長(十三)
- 文部省 政務次官(一百) 成人教育課長(十四)

錄名人

統計課長(三)兼 津田儀三郎
會計課長(三) 周東英雄
農務局長(一) 小濱八彌
農政課長(三) 重政誠之
肥料課長(三) 山添利作
耕地課長(一) 片岡謙
農產課長(三) 森肆郎
山林局長(一) 原辰二
林政課長(三)兼 山口立
監理課長(三) 梶原茂嘉
森林保險課長(三) 久保覺次郎
業務課長(三) 貴島圭三
林務課長(三) 田中八百八
水產局長(一) 三宅發土郎
漁政課長(三) 平岡梓
監督課長(三) 井出正孝
海洋課長(三)兼 寺田省一
漁船保險課長(三) 倉上晃
畜產局長(一) 細川利壽
畜政課長(三)兼 平山洋三郎
經營改善課長(三) 離波理平
家畜保險課長(三) 中村直夫
畜產課長(一) 技師 石崎芳吉
蠶絲局長(一) 田淵敬治
絲政課長(三) 吉田清二
產繭課長(三) 佐藤公明
蠶業課長(一) 技師 荷見安
米穀局長(一) 技師 米穀局長(一) 技師

錄名人

損害保險課長(四)兼 細川政之助
統計局長(一) 黒田鴻五
統制課長(三) 諸井桃二
合理課長(四) 猪熊信二
金融局長(四)兼 猪熊信二
貿易局長(一) 寺尾進
庶務課長(三) 妹川武人
第一部長(三) 乘杉研壽
施設課長(四) 齋藤吉臣
企畫課長(三) 楠瀬常猪
情報課長(三) 官田忠雄
第二部長(一) 堀合野野吉
輸出課長(三) 奥田新三
輸入課長(四) 新井茂
検査課長(三)兼 奥田新三
特許局長(一) 石井銀彌
總務部長(三) 大貝晴彦
出願課長(三) 衣川毅夫
庶務課長(四) 石田福三
登録課長(四) 三木秋義
調査課長(五) 松田太郎
審判部長(三) 安達詳三
書記課長(四)兼 三木秋義
意匠商標部長(三) 大島永明
意匠課長(三) 技師 奥田誠一
商標課長 事務取扱 大島永明
機械部長(三) 技師 三根繁太
化學電氣部長(三) 技師 淺見起平

商工省

大臣 吉野 信次
政務次官(一) 木暮武大夫
茶業(三)兼 安藤廣太郎
園藝(三)兼 藤岡光長
林業(三)兼 春日信市
水産(二) 釘本昌二
畜産(三) 平塚英吉
蠶絲(一) 杉浦保吉
水産講習所長(三) 杉浦保吉
獸疫調査所長(三) 山脇圭吉
横濱生絲検査所長(三) 肥後俊彦
神戸生絲検査所長(三) 北尾富烈
神戸輸出生絲 三堀 参郎
登録所長(五) 久保 百造
横濱輸出生絲 登録所長(三)
米穀事務所長(技師)
東京(三)對馬彌作△大阪(三)井水
正名△神戸(五)柴田勝三郎△名
古屋(四)砂田久雄△岡山(三)齋藤
廣三△松江(三)鈴木三郎△金
澤(三)佐藤廣△門司(三)水川潔△
熊本(七)野崎貫一△新潟(三)酒井
正男△酒田(三)中野代二△仙台
(七)近藤寛保△青森(七)木下義親
△小樽(七)鈴木義勝△京城(五)安
孫子勝吉

遞信省

大臣 永井柳太郎
政務次官(一) 田島勝太郎
次官(一) 平澤 要
参事官(三) 大養 健
秘書官(五) 東 舜英
秘書課長(三) 小林 武治
文書課長(三) 安田 丈助
保健課長(三) 中村 純一
監察課長(三) 監察官 牛田 耕藏
現業調査課長(三) 東 博仁
郵務局長(一) 進藤 誠一
規畫課長(三) 遠藤 毅
業務課長 岡崎 誠一
外國郵便課長(三) 藤川 晴
電報局長(一) 藤田鐵外喜
規畫課長(四) 津田鐵外喜
業務課長(三) 高木 正道
外信課長(四) 立花 章
無線課長(四) 宮本 吉夫
調査課長(四) 渡邊 晋二
工務局長(一) 櫻井 剛
庶務課長(三) 櫻井 剛
線路課長(三) 技師 山根 貞一
機械課長(三) 技師 淺見 親
無線課長(三) 技師 白井 武
日蘭電話建 設課長(一) 技師 小野 孝
石井 淺八

福岡飛行場長(五)同 石田 正規
那覇飛行場長(五)同 中込 由正
札幌飛行場長(七)同 飯塚 哲夫
青森飛行場長(七)同 赤木 鈴雄
京城飛行場長(五)同 鈴木 恭一
新義州飛行場長(三)同 濱名 增雄
蔚山飛行場長(三)同 松尾 靜齋
大連飛行場長(四)同 石橋 健
經理局長(三) 手島 榮
主計課長(四) 鈴木 恭一
監査課長(三) 松永 忠男
需品課長(四) 長 得一
營繕課長(三) 技師 大島 三郎
貯金局長(三) 技師 荻原 丈夫
業務課長(三) 前田 丈夫
經理課長(三) 岸上 俊吉
國際業務課長(四) 山戶 利生
簡易保險局長(三) 伊勢谷 次郎
業務長(三) 理事 出塚 祐助
監理課長(五) 高橋 祐等
年金監理課長(三) 森 義信
積立金運用課長(三) 景山 準吉
積立金監理課長(三) 廣瀬 勝
經理課長(四) 深水 六郎
事業課長(四) 深川 太郎
統計課長(三) 技師 龜田 豊治朗
醫務課長(三) 技師 佐藤 正

福岡支局長(勅待) 櫻井 學
仙台支局長(三) 渡邊 聰
○電信電話建設事務所長(技師)
東京所長(三) 津田 龍三
大阪所長(三) 山縣 房一
福岡所長(四) 野村 精一郎
電氣試驗所長(三) 工博 密田 良太郎
燈台局長(三) 福原 敬次
監理課長(三) 遠藤 精一
工務課長(三) 技師 森田 富士助
東京都市遞信局長(三) 飯野 毅夫
監督課長(三) 佐佐 慎三
東京地方遞信局長(三) 山田 良秀
海事部長(四) 長井 實行
監督課長(三) 村上 景介
名古屋遞信局長(三) 田村 謙治郎
海事部長(三) 技師 半間 巖保
監督課長(四) 山中 道夫
大阪遞信局長(三) 藤原 保明
海事部長(勅待) 猪間 信一
監督課長(三) 白井 修一
廣島遞信局長(三) 長岡 信捷
海事部長(勅待) 技師 岡本 誠
監督課長(四) 岡井 彌三郎
熊本遞信局長(三) 中村 松次郎
海事部長(五) 三宅 保
監督課長(三) 高松 順茂
仙台遞信局長(三) 技師 森島 美之助
海事部長(三) 坂部 長

監督課長(四) 鶴田 誠
札幌遞信局長(三) 藤井 崇治
海事部長(五) 熊谷 直行
監督課長(四) 伊藤 順二郎
○主要郵便局長(通信事務官)
東京中央局長(三) 平塚 運吉
名古屋中央局長(三) 山田 一衛
大阪中央局長(四) 中村 恭治
神戸中央局長(三) 中野 武男
廣島局長(三) 板東 嘉郎
熊本局長(三) 今井 富次
仙台局長(三) 加藤 正道
札幌局長(三) 高田 豐市
○主要電信局長(通信事務官)
東京中央局長(三) 廣島 庄太郎
大阪中央局長(四) 木村 平三郎
神戸中央局長(三) 杉山 悅造
○主要電話局長(通信事務官)
東京中央局長(三) 丸山 晋次郎
廣島中央局長(六) 小崎 政臣
名古屋中央局長(三) 天野 榮十郎
大阪中央局長(三) 増田 邦彦
京都中央局長(四) 柴田 勤次
神戸中央局長(五) 西川 佐太郎
高等海員審判所長(一、兼) 小野 猛
○地方海員審判所長
東京所長(二、兼) 山田 良秀
大阪所長(二、兼) 藤原 保明

大臣 中島 知久平
政務次官(一) 中島 知久平
次官(一) 伊尻 生五
參事(一) 喜安 健次郎
秘書官(三) 金井 正夫
人事課長(三) 澁澤 金藏
文書課長(三) 野內 直文
法規課長(三) 平山 孝
保健課長(三) 玉置 善雄
現業調査課長(三) 大山 秀雄
監察官(一) 江口 胤顯
監察官(一) 坂口 忠次
研究所長(三) 技師 菅 健次郎
監督局長(三) 橋口 行彦
總務課長(三) 鈴木 清秀
業務課長(三) 山脇 秀輔
陸運第一課長(三) 川井 健太郎
陸運第二課長(三) 小倉 俊夫
監理課長(三) 陸運 片岡 壽郎
技術課長(三) 技師 佐土原 勳
運輸局長(三) 技師 山田 新十郎
總務課長(三) 中島 寅之助
旅客課長(三) 堀木 謙三
貨物課長(三) 齋藤 義八

鐵道省

配車課長(三) 吉松 喬
自動車課長(三) 高橋 定一
運轉課長(三) 技師 武井 明通
船舶課長(勅待) 技師 山本 謙
建設局長(三) 技師 平山 復一
計畫課長(三) 技師 岡田 實
工事課長(勅待) 技師 淺間 逸雄
工務局長(三) 阿曾 沼均
計畫課長(勅待) 技師 山中 良樹
保線課長(三) 技師 沖瀧 政次
改良課長(三) 技師 三浦 義男
建築課長(三) 技師 坂本 綱雄
工作局長(三) 紀伊 壽次
車輛課長(勅待) 技師 德永 晋作
機械課長(三) 技師 千谷 虎雄
工場課長(三) 技師 小坂 彌二
電氣局長(三) 技師 森田 重彦
電力課長(勅待) 技師 坂元 常樹
電化課長(三) 技師 永田 盛三
通信課長(三) 技師 魚住 朝治
經理局長(三) 池井 啓次
會計課長(三) 青盛 忠雄
購買第一課長(勅待) 手塚 操
購買第二課長(三) 益子 梓
倉庫課長(勅待) 湯本 昇
審查課長(三) 原 清武
國際觀光局長(一) 田 久信
庶務課長(三) 藤原 誠
事業課長(三) 高田 寛

鐵道調查部長 次官 喜安 健次郎
第一課長(三) 藤本 哲
第二課長(三) 井上 剛
第三課長(三) 技師 濱野 信一郎
○建設事務所長(技師)
北海道所長(三) 菊地 潤
熊本所長(三) 佐藤 忠三郎
東京所長(勅待) 高井 信一
米子所長(三) 宮本 保
岡山所長(三) 出島 嘉吉
山口所長(三) 足立 貞嘉
熱海所長(三) 尾野 茂樹
盛岡所長(三) 小出 浩治郎
秋田所長(三) 上山 經亮
長岡所長(三) 瀧淵 實烈
岐阜所長(三) 小林 紫朗
○改良事務所長(技師)
東京所長(三) 工博 井上 隆根
大阪所長(三) 後藤 宇太郎
下關所長(三) 釘宮 馨
○電氣事務所長(技師)
東京所長(三) 西村 辨造
信濃川所長(三) 倉田 玄二
東京鐵道局長(三) 長崎 惣之助
運輸部長(三) 參事 吉川 美男
運轉部長(勅待) 技師 福井 國男
工務部長(三) 技師 山口 繁
名古屋鐵道局長(三) 早川 慎一

運輸部長(三) 參事 穴澤 貞利
運轉部長(三) 技師 淺野 英次
工務部長(三) 技師 柳ヶ瀬 正哉
大阪鐵道局長(三) 參事 木村 隆規
運輸部長(三) 技師 關田 友吉
工務部長(三) 技師 青山 秀雄
廣島鐵道局長(三) 參事 堀越 清六
運輸部長(三) 技師 羽中 喜代作
工務部長(三) 技師 河合 毅一
門司鐵道局長(三) 參事 島岡 浩一郎
運輸部長(三) 參事 繁澤 三野
運轉部長(三) 技師 小平 長兄
工務部長(三) 技師 小早川 貞三
仙台鐵道局長(三) 參事 上林 市太郎
運輸部長(三) 參事 土屋 恒治
運轉部長(三) 技師 木村 英太郎
工務部長(三) 技師 岡崎 信雄
新潟鐵道局長(三) 參事 森本 義夫
運輸部長(三) 技師 野田 菊一
運轉部長(三) 技師 馬場 裕吉
工務部長(三) 技師 大島 未彦
札幌鐵道局長(三) 參事 山下 雅實
運輸部長(三) 技師 西尾 壽男
運轉部長(三) 技師 原田 弘
工務部長(三) 技師 渡邊 榮五郎
○主要運輸事務所長
新橋所長(三) 參事 近藤 順二

上野所長(三) 技師 中島 昌夫
名古屋所長(三) 參事 福中 義勝
大阪所長(三) 技師 上野 耕作
湊町所長(五) 副參事 土屋 政次郎
岡山所長(三) 技師 河崎 篤三郎
下關所長(三) 參事 太田 義彦
廣島所長(三) 副參事 藤澤 和夫
新潟所長(三) 技師 本山 邦久
仙台所長(三) 技師 山本 利三郎
札幌所長(三) 副參事 平野 玄雄
門司所長(三) 參事 小倉 一郎
○主要驛長
東京驛長(六) 副參事 天野 辰太郎
上野驛長(三) 同 齋藤 良治
橫濱驛長(六) 同 石倉 篤太郎
名古屋驛長(六) 同 淺野 甚兵衛
大阪驛長(五) 同 前田 敬之丞
京都驛長(六) 同 角田 正實
神戸驛長(六) 同 田中 昌利
門司驛長(六) 同 井手 豊
○鐵道病院長(鐵道醫)
東京院長 醫博 阿部 實夫
名古屋院長 醫博 竹永 一時
大阪院長 技師 和邇 秀恒
(勅待) 醫博 氣賀澤 猛保
門司院長 醫博 高橋 昌涉
仙台院長 醫博 武藤 昌知
札幌院長 醫博 齋藤 昌知

拓務省

大臣 大谷 尊由
政務次官(一) 海中將 八角 三郎
次官(一) 萩原 彦三
参事官(一) 伊禮 彦三
秘書官(一) 海口 守三
秘書課長(一) 今吉 敏雄
文書課長(一) 赤木 親之
會計課長(一) 副島 勝
司計課長(一) 副島 勝
朝鮮部長 次官 萩原 彦三
管理局長(一) 榎居 俊一
管理課長(一) 眞室 亞夫
地方課長(一) 橋爪 恭一
警務課長(一) 中野 勝次
殖産局長(一) 植場 鐵三
農林課長(一) 本多保太郎
理財課長(一) 増本 甲吉
商工課長(一) 渡部 肆郎
拓務局長(一) 安井誠一郎
東亞第一課長(一) 大野 季夫
東亞第二課長(一) 有松 昇
南米課長(一) 宮木 廣大
南洋課長(一) 川本 邦雄
(備考) 本省の各課長は外局を除き特記の外すべて書記官を以て充てらる。省内の各課長は事務官とする。

會計検査院

院長(親任) 河野 秀男
第一部長(一) 河本 文一
第二部長(一) 岡 今朝男
第三部長(一) 井上綱太郎
第四部長(一) 木村 精一
行政裁判所
長官(親任) 法博 二上 兵治
部長(一) 三上 徳業

主要會議首腦及び議員等

△紀元二千六百年奉祝會
總裁 雅仁 親王
會長(貴族院議員) 公 徳川 家達
副會長(同) 阪谷 芳郎
同(貴族院議員) 佐佐木行忠
同(貴族院議員) 郷 誠之助
理事(東京瓦斯社長) 井坂 孝
(文部次官) 伊東 延吉
(大藏次官) 石渡莊太郎
(東京税關局長) 原 邦道
(貴族院議員) 大橋新太郎
(内閣書記官長) 風見 章
(京都商議會議頭) 田中 博
(大東紡織社長) 鶴見左吉雄

貴族院

部長(一) 法博 遠藤 源六
議長 伯 松平 頼壽
副議長 佐々木行忠
書記官長(一) 長 世吉
衆議院
議長 小山 松壽
副議長 金光 庸夫
書記官長(一) 田口 弼一

監事

(安田銀行副頭取) 森 廣藏
(住友本社理事) 池田 成彬
(大倉組頭取) 小倉 正恒
(大倉七郎) 大倉喜七郎
△中央經濟會議
議長 內閣總 公 近衛 文麿
副議長 企畫廳總裁 廣田 弘毅
(東北興業總裁) 八田 嘉明
(朝鮮殖産頭取) 有賀 光豊
(貴族院議員) 伯 酒井 忠正
(帝國農會會長) 津田 信吾
(日銀副總裁) 津島 壽一
(全產聯會長) 石黒 忠篤
(貴族院議員) 男 藤原銀次郎
(昭和石炭會長) 大藏 公望
(日本窒素社長) 松本健次郎
(正金取縮役) 野口 進
(東拓總裁) 兒玉 謙次
(南洋興發社長) 安川雄之助
(日産社長) 松江 春次
(台拓社長) 鮎川 義介
(大阪商船社長) 加藤 恭平
(住友金屬工業專務) 村田 省藏
(東電社長) 古田俊之助
(東電社長) 小林 一三

副會長 內務大臣 馬場 鎮一
同 文部大臣 安井 英二
委員 (樞密顧問官) 河合 換
(同) 有馬 良橘
(同) 原 嘉道
(學務院長) 野村吉三郎
(陸軍大將) 阿部 信行
(貴族院議員) 三上 參次
(同) 松浦鎮次郎
(廣島文理大教授) 西 晋一郎
(東大名譽教授) 寛 克彦
(京大名譽教授) 小西 重直
(貴族院議員) 永田秀次郎
(帝國教育會長) 米山 梅吉
(三井物産會理事) 米山 梅吉
△臨時物價對策委員會
會長 內閣總 公 近衛 文麿
副會長 大藏大臣 賀屋 興宣
同 農林大臣 伯 有馬 頼壽
同 商工大臣 吉野 信次
委員 (帝國學士院會員) 山崎覺次郎
(理研所長) 子 大河内正敏
(東京瓦斯社長) 井坂 孝
(日本郵船取締役) 二宅川百太郎
(鐘紡社長) 津田 信吾
(三井合名常務理事) 南條 金雄
(日本製鐵會長) 平生叙三郎
(全產聯會長) 藤原銀次郎

各務 鎌吉
(日本郵船會長) 小倉 正恒
(住友本社理事) 佐藤 寛次
(東大教授) 安部 磯雄
(社會大黨々員) 大口 喜六
(政友會政務調査會長) 小川郷太郎
(民政黨總裁) 石黒 忠篤
(憲法中理理事長) 松本健次郎
(昭和石炭會長) 松本健次郎
(第一生命社長) 矢野 恒太
(正金取縮役) 兒玉 謙次
(日産社長) 鮎川 義介
△金融評議會
會長 大藏大臣 賀屋 興宣
委員 大藏政務次官 太田 正孝
大藏次官 石渡莊太郎
大藏省理財局長 關原 忠三
大藏省銀行局長 入間野武雄
(日銀總裁) 結城豊太郎
(橫濱正金頭取) 大久保利賢
(日本勸業總裁) 石井 光雄
(日本興業總裁) 實來 市松
(鮮銀總裁) 加藤敬三郎
(合銀頭取) 保田 次郎
(產組中金理事長) 石黒 忠篤
(安田銀行副頭取東京) 森 廣藏
(手形交換所理事長) 廣藏
(住友銀行會長大阪) 八代 則彦
(手形交換所委員長) 八代 則彦

△資源審議會
總裁 內閣總 公 近衛 文麿
副總裁 海軍大臣 米内 光政
同 商工大臣 吉野 信次
委員 內閣書記官長 風見 章
法制局長官 瀧 正雄
資源局長官 松井 春生
外務次官 堀内 謙介
内務次官 廣瀬 久忠
大藏次官 石渡莊太郎
陸軍次官 梅津美治郎
海軍中將 多田 駿
海軍次官 山本五十六
海軍中將 嶋田繁太郎
農林次官 井野 碩哉
商工次官 村瀬 直養
(三菱銀行會長東京) 瀨下 清
(銀行集會所會長) 子 澁澤 敬三
(東京貯蓄銀行會長貯蓄) 今村 幸男
(新銀行協會常任理事) 成瀬 達
(住友信託事務) 信託協會々員 今村 幸男
(住友信託會々員) 成瀬 達
(日本生命社長生保) 成瀬 達
(社會協會理事長) 杉野 嘉精
(東株理事長) 柴山 鶴雄
(大株理事長) 門野重九郎
(東京商議會議頭) 門野重九郎
(大阪商議會議頭) 安宅 彌吉

遞信次官 平澤 要
鐵道次官 喜安健次郎
拓務次官 萩原 彦三
貴族院議員 菅原 通敬
男 稻田 昌植 伯 酒井 忠正
伯 有馬 頼壽 男 坂本 俊篤
子 大久保 立
衆議院議員 松岡 俊三
工務 鐵男 內ヶ崎作三郎
工藤十三雄 林 平馬
宮澤 清作 末松信一郎
古屋 慶隆 松村 光三
西方 利馬 河上丈太郎
(農事試驗場長) 安藤廣太郎
(東大教授) 那須 皓
(貴族院議員) 男 松岡 均平
(三井合資顧問)
(前貴族院議員) 土田 萬助
(日本勸業總裁) 石井 光雄
(前東大教授) 森澤 元治
(理研所長) 子 大河内正敏
(松坂屋相談役) 伊藤次郎左衛門
(住友本社理事) 小倉 正恒
(日銀總裁) 結城豊太郎
(日産社長) 鮎川 義介
(鐘紡社長) 津田 信吾

地方廳職員一覽

人名錄

警視總監(一) 齋藤 樹
 官房主事(三) 村田 五郎
 警務部長(三) 藤岡 長敏
 特別高等 菊池 啓登
 警務部長(三) 服部 直彰
 刑事部長(三) 松澤 美雄
 保安部長(三) 重成 格
 衛生部長(三) 伊能 芳雄
 消防部長(三) 石黑 英彦
 北海道廳長官(一) 留岡 幸男
 警務部長(三) 中村 忠充
 警務部長(三) 土肥 米之
 警務部長(三) 遠山 信一郎
 警務部長(三) 高辻 武邦
 警務部長(三) 奥野 定八
 警務部長(三) 館 哲二
 警務部長(三) 佐々木 芳遠
 警務部長(三) 渡 正監
 警務部長(三) 多湖 實夫
 警務部長(三) 吉岡計之助
 警務部長(三) 鈴木 敬一
 警務部長(三) 橋本 清吉
 警務部長(三) 山内 繼喜
 警務部長(三) 外山 福男
 警務部長(三) 岩重 隆治

技師
 岡本 茂
 福光 正義
 渡邊 信男
 宮野 省三
 宮村 才一郎
 重田 忠保
 田中 進
 高野 長春
 近藤 駿介
 出石 於菟彦
 西原 忠雄
 上原 參良
 物部 薫郎
 土肥 憲二郎
 菊山 嘉男
 永安 百治
 井田 完二
 工藤 鐵太郎
 水谷 秀雄
 大石 巖
 君島 清吉
 眞崎 長年
 青柳 一郎
 坂井 貞一
 和田 貞臣
 雪澤 千代治
 柳井 義男
 高島 資吉
 古城 林

警務部長(三) 土木部長(三) 技師
 大阪府知事(一) 大藤 知事(一)
 警務部長(三) 長谷川 透
 警務部長(三) 荒木 義夫
 警務部長(三) 十居 章平
 警務部長(三) 鈴木 省吾
 警務部長(三) 三輪 周藏
 警務部長(三) 半井 清
 警務部長(三) 中野 善敦
 警務部長(三) 島田 昌福
 警務部長(三) 江邊 清夫
 警務部長(三) 中原 啓造
 警務部長(三) 横山 喬
 警務部長(三) 岡田 周造
 警務部長(三) 安岡 正光
 警務部長(三) 細瀬 彌三
 警務部長(三) 奥田 久七郎
 警務部長(三) 石井 錦樹
 警務部長(三) 西 義一
 警務部長(三) 岡田 文秀
 警務部長(三) 副見 秀雄
 警務部長(三) 小菅 芳次
 警務部長(三) 平井 章
 警務部長(三) 遠藤 直人
 警務部長(三) 關屋延之助
 警務部長(三) 梁井 淳二

警務部長(三) 警務部長(三) 技師
 警務部長(三) 岡田 武雄
 警務部長(三) 山田 利和
 警務部長(三) 岡 榮二
 警務部長(三) 川西 實三
 警務部長(三) 岩上 美雄
 警務部長(三) 坂 信彌
 警務部長(三) 武政 隆一
 警務部長(三) 和田 寛
 警務部長(三) 和多 安信
 警務部長(三) 上田 誠一
 警務部長(三) 田中 省吾
 警務部長(三) 清水 虎雄
 警務部長(三) 川井 章知
 警務部長(三) 土屋 正三
 警務部長(三) 安井 章一
 警務部長(三) 石原 專一
 警務部長(三) 崎田 義雄
 警務部長(三) 川崎 勇
 警務部長(三) 林 信夫
 警務部長(三) 今松 治郎
 警務部長(三) 沖野 信
 警務部長(三) 井上 文介
 警務部長(三) 山崎 隆義
 警務部長(三) 松村 光磨
 警務部長(三) 北里 善從
 警務部長(三) 久安 博忠
 警務部長(三) 星子 政雄
 警務部長(三) 宮崎 謙太

警務部長(三) 警務部長(三) 技師
 警務部長(三) 奈良 誠也
 警務部長(三) 八田 三郎
 警務部長(三) 青木 秀夫
 警務部長(三) 乾 徳二
 警務部長(三) 床次 武
 警務部長(三) 安藤 壯四郎
 警務部長(三) 龍野 英
 警務部長(三) 町村 金五
 警務部長(三) 松木 茂一
 警務部長(三) 關口 勳
 警務部長(三) 田中 廣太郎
 警務部長(三) 足立 收
 警務部長(三) 早川 元
 警務部長(三) 高野 源進
 警務部長(三) 永井 浩
 警務部長(三) 山口 十一郎
 警務部長(三) 飯沼 一省
 警務部長(三) 中里 喜一
 警務部長(三) 牛悦 住求馬
 警務部長(三) 岡田 包義
 警務部長(三) 刀 有秋
 警務部長(三) 關谷 新造
 警務部長(三) 藤原 孝夫
 警務部長(三) 久保田 駿
 警務部長(三) 桃井 直美
 警務部長(三) 石川 貞四郎
 警務部長(三) 浦 長
 警務部長(三) 平 敏孝
 警務部長(三) 内藤 三郎

人名錄

警務部長(三) 岡本 茂
 警務部長(三) 福光 正義
 警務部長(三) 渡邊 信男
 警務部長(三) 宮野 省三
 警務部長(三) 宮村 才一郎
 警務部長(三) 重田 忠保
 警務部長(三) 田中 進
 警務部長(三) 高野 長春
 警務部長(三) 近藤 駿介
 警務部長(三) 出石 於菟彦
 警務部長(三) 西原 忠雄
 警務部長(三) 上原 參良
 警務部長(三) 物部 薫郎
 警務部長(三) 土肥 憲二郎
 警務部長(三) 菊山 嘉男
 警務部長(三) 永安 百治
 警務部長(三) 井田 完二
 警務部長(三) 工藤 鐵太郎
 警務部長(三) 水谷 秀雄
 警務部長(三) 大石 巖
 警務部長(三) 君島 清吉
 警務部長(三) 眞崎 長年
 警務部長(三) 青柳 一郎
 警務部長(三) 坂井 貞一
 警務部長(三) 和田 貞臣
 警務部長(三) 雪澤 千代治
 警務部長(三) 柳井 義男
 警務部長(三) 高島 資吉
 警務部長(三) 古城 林

技師
 青森縣知事(一) 青森 謹二
 警務部長(三) 小田 正儀
 警務部長(三) 小田 光伴
 警務部長(三) 池田 長吉
 警務部長(三) 手島 傳
 警務部長(三) 坂田 喜一郎
 警務部長(三) 武井 群嗣
 警務部長(三) 龍野 周二
 警務部長(三) 辻山 治平
 警務部長(三) 田村 浩
 警務部長(三) 藤澤 喜久郎
 警務部長(三) 本間 精
 警務部長(三) 久慈 學
 警務部長(三) 森本 雅雄
 警務部長(三) 酒井 榮吉
 警務部長(三) 伊藤 久松
 警務部長(三) 羽生 雅則
 警務部長(三) 關 陽一
 警務部長(三) 關 外余男
 警務部長(三) 高橋 一郎
 警務部長(三) 玉置 政一
 警務部長(三) 兒玉 政介
 警務部長(三) 白戸 半次郎
 警務部長(三) 齊藤 亮
 警務部長(三) 中川 剛毅
 警務部長(三) 山口 乾治
 警務部長(三) 土岐 銀次郎
 警務部長(三) 小早川 貞登
 警務部長(三) 菅澤 肇

警務部長(三) 警務部長(三) 技師
 警務部長(三) 佐伯 敏男
 警務部長(三) 坂田 啓造
 警務部長(三) 立田 清辰
 警務部長(三) 清水 谷 徹
 警務部長(三) 龍野 喜一郎
 警務部長(三) 原 保雄
 警務部長(三) 上村 晴
 警務部長(三) 三樹 三
 警務部長(三) 並川 義隆
 警務部長(三) 友末 洋治
 警務部長(三) 藤野 英陽
 警務部長(三) 新見 俊介
 警務部長(三) 伊藤 武彦
 警務部長(三) 矢野 兼三
 警務部長(三) 泉 守紀
 警務部長(三) 長谷川 公一
 警務部長(三) 高橋 三郎
 警務部長(三) 富田 愛次郎
 警務部長(三) 淵上 房太郎
 警務部長(三) 小泉 梧郎
 警務部長(三) 鈴木 脩藏
 警務部長(三) 中村 元治
 警務部長(三) 長谷川 勝伍
 警務部長(三) 白井 演
 警務部長(三) 竹谷 源太郎
 警務部長(三) 奥田 茂造
 警務部長(三) 平本 義隆
 警務部長(三) 吉永 時次

警務部長(三) 警務部長(三) 技師
 警務部長(三) 中島 知三
 警務部長(三) 中村 良三
 警務部長(三) 廣田 増太郎
 警務部長(三) 小田 成就
 警務部長(三) 清水 良策
 警務部長(三) 後藤 耕造
 警務部長(三) 柴山 博
 警務部長(三) 迫 靜吾
 警務部長(三) 横山 一俊
 警務部長(三) 佐藤 正俊
 警務部長(三) 稻垣 潤太郎
 警務部長(三) 野村 儀平
 警務部長(三) 沖森 源一
 警務部長(三) 乾 伊太郎
 警務部長(三) 古川 靜夫
 警務部長(三) 荒山 隆
 警務部長(三) 網島 覺左衛門
 警務部長(三) 山田 俊介
 警務部長(三) 高橋 淳
 警務部長(三) 小林 光政
 警務部長(三) 長橋 茂男
 警務部長(三) 安田 廣
 警務部長(三) 渡邊 廣
 警務部長(三) 岡本 正一
 警務部長(三) 畑山 四男美
 警務部長(三) 玉田 昇次郎
 警務部長(三) 廣瀬 永造
 警務部長(三) 郡山 義夫
 警務部長(三) 藤山 千之

縣名人

外事課長(勅待) 加藤 三郎
會計課長(三兼) 山岸金三郎
審議室主任(三) 山本 眞平
兼調查課長(三) 井手 薫
警務課長(一) 技師 山縣 三郎
內務局長(二) 西村 高兄
地方課長兼 石川 定俊
地理課長(三) 島田 昌勢
土木課長(三) 廣谷 致貞
文教局長(一) 廣谷 隆夫
學務課長(三) 廣谷 隆夫
社會課長(三) 廣谷 隆夫
編修課長(三) 編修官 三屋 靜
財務局長(一) 嶺田 丘造
主計課長(三) 中島 一郎
稅務課長(三) 江藤 昌之
金融課長(三) 山岸金三郎
殖產局長(一) 田端幸三郎
農務課長(三) 一番夕瀬佳雄
特産課長(三) 奧田 達郎
山林課長(三) 劉 明 朝
商工課長(三) 井田 憲次
鑛務課長(三) 玉手 亮一
米穀課長兼水産課長(三) 松野 孝一
警務局長(一) 田端幸三郎
警務課長(四) 二見 直三
保安課長(四) 細井 英夫
理蕃課長(三) 橋爪 清人
鈴木 秀夫

衛生課長(五) 加藤 重喜
交通局長(一) 泊 武治
鐵道部長事務取扱 泊 武治
警務部長事務取扱 戸水 昇
道警課長(一) 技師 松本 虎太
警務局長(一) 今川 長淵
基隆稅關長(三) 小林 長彦
台北警務局長(三) 坂口 主稅
高等法院長(一) 警務 於保 乙彦
檢察官長(一) 警務 齊藤 三郎
台北地方法院長(三) 伴野喜四郎
檢察官長(三) 池内 善雄
台中地方法院長(勅待) 緒方 潤繼
檢察官長(三) 石橋 省吾
台南地方法院長(三) 麻澤榮三郎
檢察官長(勅待) 伊藤 兼吉
台北帝國大學校長(一) 醫博 三田 定則
文政學部長 文博 矢野 禾積
理農學部長 農博 山根 其信
警務專門部主事 三田 定則
警務專門部主事 三田 定則
警務專門部主事 三田 定則
農林專門部主事 八谷 正義
台北高等商業校長(三) 遠藤 壽三
台南高等工業校長(三) 若槻 道隆
台北高等學校校長(一) 谷本 清心
中央研究所長 森岡 二朗
糖業試驗所長(一) 技師 岡出 幸生

天然瓦斯研究所長 田端幸三郎
台北州知事(三) 藤田 信治郎
內務部長(三) 三輪 幸助
警務部長兼港務部長(三) 佐々木金太郎
台北市尹(三) 石井 龍猪
新竹州知事(三) 川添 修平
內務部長(三) 赤堀 鐵吉
警務部長(三) 森田 俊介
警務部長(三) 樂滿 金次
新竹市尹(五) 吉田 駿馬
台中州知事(三) 松岡 一衛
內務部長(三) 佐治 孝德
警務部長(三) 中平 昌
警務部長(三) 藤田 淳敏
彰化市尹(五) 安藤院直熊
台南州知事(三) 川村 直岡
警務部長(三) 鶴 友彦
警務部長(三) 西村 德一
警務部長(三) 古澤 勝之
警務部長(三) 伊藤 英三
警務部長(三) 內海 忠司
警務部長(三) 高橋 逸人
警務部長兼港務部長(三) 高橋 尙秀
高崎市尹(四) 松尾 繁治
屏東市尹(五) 宗隆 大陸
台東廳長(三) 大磐 誠三
花蓮廳長(三) 藤村 寛太
澎湖廳長(三) 林田 正治

關東局

總長(一) 武部 六藏
秘書課長(五兼) 山中 徳二
文書課長(三) 御厨 信市
行政課長(三) 三浦 直彦
行理課長(三) 成田 政次
警務課長(三) 大塚 喜一
警務課長(三) 杉村 正
警務課長(三) 陸少將 田中 靜登
高等警察課長(三) 青木 重臣
警備課長事務取扱 田中 開壹
監理部長(一) 田中 信良
高等法院長(三) 鹿島鶴之助
檢察官長(三) 下田 勝久
地方法院長(三) 中里 邦
檢察官長(三) 下田 勝久
海務局長(三) 技師 伊藤 敏行
海務局長(三) 西澤 久雄
專賣局長(三) 米内山農作
旅順工務局長(一) 工博 野田清一郎
關東州廳長官(一) 御影池辰雄
內務部長(三) 白石喜太郎
警察部長(三) 大和田彌一
旅順民政署長(三) 安永 登
大連民政署長(三) 米内山農作

縣名人

北海道 村上 元吉
東 岡 蕃
京都 大西太郎兵衛
大阪 磯村彌右衛門
神奈川 青木 巽
兵庫 大久保直次郎
長崎 西村 久之
新潟 田下 政治
群馬 堀江 泰助
千代田 星野 元治
茨城 島田 彌久
栃木 石川 市郎
栃原 佐久間 渡
三原 高森榮喜三
石原 圓吉

愛知 野田 正昇
靜岡 飯塚 榮隆
山梨 有泉 直松
滋賀 佐野眞次郎
青森 福士永一郎
山形 登坂 又藏
秋田 金子 爲吉
福井 恩地政右衛門
石川 武谷甚太郎
富山 森丘 正雄
岐阜 間 孔太郎
長野 小野 秀一
宮城 小野 廣亮
福島 釘本 衛雄
岩手 高橋榮次郎

鳥取 井上 光美
島根 天野種三郎
岡山 柏山八郎治
廣島 望月 乙也
山口 伊藤三樹三
和歌山 山本 喜平
德島 山田 庄市
香川 廣瀬小三郎
愛媛 岡本馬太郎
高知 井上 熊兄
福岡 添田雷四郎
大分 工藤 一藏
佐賀 一ノ瀬平治
熊本 脇山 眞一
鹿兒島 脇山 眞一
神戶 脇山 眞一
平塚 橋本 武敏
神奈川 橋本 武敏
神戶 橋本 武敏
西宮 橋本 武敏

明石 青木雷三郎
長崎 相賀 照郷
佐世保 相賀 照郷
新潟 市代理 篠崎 縁吉
長岡 市代理 安倍那太郎
高田 木村清三郎
三條 飛田 新作
川谷 橋本定五郎
熊谷 永瀨 寅吉
川口 新井 良作
浦和 小谷野傳藏
前橋 江原桂三郎
高崎 久保田宗太郎
桐生 關口義慶二
桐生 關口義慶二
桐生 關口義慶二
桐生 關口義慶二

樺太廳

南洋廳

全國各市長及市會議長

錄名人

桑名 目塚榮之助 安達逸次郎 仙台 澁谷徳三郎 佐々木幸助 岡山 石原市三郎 國富友次郎 久留米 石野 斐夫 吉田 清 門司 缺 員 中野 眞吉 小倉 百濟 文輔 林 敬之助 若松 田中無事生 柳川精四郎 大牟田 前田 慎吾 鶴 繁市 八幡 岡部 兼武 上田 吉次 戸畑 輪田 豊 大庭 琢磨 直方 勝野 重吉 森田 武 飯塚 猪野 鹿次瓜生右衛門 大分 朝吹 龜三 後藤 憲照 別府 小野 廉 森 八治 中津 竹岡吉太郎 豊田 國松 佐賀 橋爪 勇 太田 壽一 唐津 西山 茂 清水莊次郎 熊本 山隈 康 平野 龍起 宮崎 根井 久吾 日高 寛藏 都 城 曾木 重貴 山下次之助 延岡 缺 員 小田彦太郎 鹿兒島 伊知地四郎 中野 直一 那 額 金城 紀光 長野時之助 那 額 缺 員 城間 理王 首里 缺 員 村上 信二 飯 順 高山 勝司 村上 信二 大連 丸茂 藤平 貝瀬 謹吾 豊原 高橋彌太郎 四日 榮造

貴衆兩院議員總覽

昭和十二年九月二十日現在

貴族院議員一覽

皇族(十八名) 雍親王 宣親王 崇仁親王 載仁親王 博恭王 博義王 武彦王 恒憲王 朝融王 守正王 多嘉王 鳩彦王 孚彦王 稔彦王 盛厚王 永久王 恒徳王 春仁王 (公爵以下五十音順、下の数字は昭和十二年の年齢)

公爵議員(十六名、定員なし) 伊藤 博精(火) 完 一條 實孝(火) 五 大山 柏(無) 兜 九條 道秀(火) 三 西園寺公望(無) 允 三條 公輝(火) 五 島津 忠承(火) 三 鷹司 信輔(火) 三 德川 閑順(火) 三 德大寺實厚(無) 三 山縣 有道(火) 三 侯爵議員(三十六名、定員なし) 淺野 長之(火) 三 井上 三郎(火) 三 池田 宣政(火) 三 大久保利武(研) 三 華頂 博信(無) 三 木戸 幸一(火) 三 黒田 長成(研) 三 久我 通顯(火) 三 小村 捷治(火) 三 佐佐木行忠(火) 三 佐竹 義春(火) 三

録名人

豊岡 圭資(研) 豊 富小路隆直(研) 豊 西尾 忠方(研) 豊 西大路吉光(研) 豊 野村 益三(研) 豊 八條 隆正(研) 豊 保科 正昭(研) 豊 前田 利定(研) 豊 松平 直平(研) 豊 松平 乘統(研) 豊 三島 保男(研) 豊 藤田 廣城(研) 豊 毛利 元恒(研) 豊 三宅 敬光(研) 豊 冷泉 爲勇(研) 豊 米津 政賢(研) 豊 渡邊 千冬(研) 豊 鍋島 直繩(研) 豊 西四辻公亮(研) 豊 舟橋 清賢(研) 豊 松平 忠壽(研) 豊 松平 康春(研) 豊 増山 正興(研) 豊 水無瀬忠政(研) 豊 吉田 清風(研) 豊

○男爵議員(六十五名、缺員一名)

足立 豊公(公) 安保 清種(公) 赤松 範一(公) 有地 隆三(公) 淺田 良逸(公) 飯田 精太郎(公) 井上 清純(公) 井出 馨楠(公) 伊江 朝助(公) 伊藤 文吉(公) 伊藤 昌植(公) 今枝 直規(公) 今園 國貞(公) 岩倉 清俱(公) 岩村 一木(公) 小畑 大太郎(公) 大井 成元(公) 大藏 公望(公) 大森 佳一(公) 奥田 剛郎(公) 神 貞男(公) 加藤 成之(公) 金子 有道(公) 紀 俊秀(公) 北島 貴孝(公) 菊池 武夫(公) 肝村 兼英(公) 黒田 長和(公) 郷 誠之助(公) 近藤 滋畑(公) 佐藤 達次郎(公) 阪谷 芳郎(公) 坂本 俊馬(公) 周布 兼清(公) 杉 隆 由言(公) 千秋 季隆(公) 千田 嘉平(公) 關 善壽(公) 園田 武彦(公) 高木 喜寛(公) 東郷 安(公) 長 基連(公) 辻 太郎(公) 中村 謙一(公) 徳川 喜翰(公) 中島 久萬吉(無) 橋元 正輝(公) 鍋島 直明(公) 原田 熊雄(公) 橋原 俊丸(公) 東久世 秀雄(公) 深尾 隆太郎(公)

○勅選議員(百二十四名、缺員一名)

前田 勇(公) 松尾 義夫(公) 松岡 均平(公) 松田 正之(公) 松平 外典(公) 三須 精一(公) 矢吹 省三(公) 山根 健男(公) 安場 保健(公) 渡邊 汀(公) 渡邊 修二(公) 有吉 忠一(公) 伊澤 多喜男(成) 稲畑 勝太郎(和) 今井 五介(研) 内田 重成(交) 遠藤 柳作(無) 小野 寺長治郎(無) 大島 健一(和) 大橋 八郎(研) 岡 喜七郎(交) 岡 嘉治五郎(和) 川上 親晴(成) 門野 茂之進(和) 倉知 鐵吉(和) 小久保 喜七(交) 後藤 文夫(無) 幸 顯 榮(和) 男爵 原喜重郎(和) 白根 竹介(研) 鈴木 喜三郎(交) 田所 美治(和) 武富 時敏(成) 出淵 勝次(和)

録名人

徳富 猪一郎(和) 内藤 久寛(研) 中川 健藏(成) 中川 小十郎(交) 中村 純九郎(交) 永田 秀次郎(和) 長岡 隆一郎(交) 西野 元(研) 仁井田 益太郎(和) 根津 嘉一郎(研) 野村 徳七(和) 馬場 鏡一(研) 橋本 圭三郎(交) 八田 嘉明(研) 林 頼三郎(研) 坂西 利八郎(研) 土方 寧(無) 土方 久微(和) 平生 弘三郎(無) 廣田 弘毅(無) 深井 英五(研) 福永 吉之助(無) 藤沼 庄平(研) 藤原 銀次郎(研) 藤山 雷太(研) 二上 兵治(無) 堀 啓次郎(研) 堀切 善次郎(研) 松井 泳(無) 眞野 文二(和) 男爵 井慶四郎(無) 松井 茂(和) 松浦 鎮次郎(和) 松本 丞治(無) 松村 義一(公) 松村 眞一郎(研) 丸山 鶴吉(成) 松本 學(研) 三井 清一郎(研) 三平 秀(成) 水野 謙太郎(交) 光永 星郎(和) 官田 光雄(研) 室田 義文(交) 山岡 萬之助(研) 山川 端夫(研) 男山本 達雄(交) 結城 豊太郎(研) 芳澤 謙吉(交) 吉田 茂(無) 和田 彦次郎(交) 若尾 璋八(交) 男若 棧禮次郎(和) 若林 齊藏(研) 渡邊 暢(無)

○學士院議員(四名)

小野 塚喜平次(無) 交 田中 館愛橋(無) 長岡 半太郎(無) 三上 參次(無) 三

○多額議員(六十五名、缺員一名)

茨城 青木 才次郎(交) 島 根 糸原 武太郎(研) 佐賀 石川 三郎(交) 毛 宮 崎 岩崎 清行(交) 北海道 板谷 宮吉(研) 青 森 宇野 勇作(交) 岐阜 上松 泰造(研) 吉 鹿 兒 島 上野 喜左衛門(研) 尾

宮城 氏家 清吉(研) 東京 小野 耕一(研) 京都 大澤 徳太郎(研) 茨城 大和田 健三郎(成) 京都 大西 虎之介(交) 福岡 大蔵 守治(研) 京都 風間 八左衛門(研) 神奈川 上郎 清助(研) 北海道 金子 元三郎(研) 富山 金岡 又左衛門(成) 鹿兒島 久米 田新太郎(研) 三重 久保 市三郎(研) 長野 小坂 順造(成) 新潟 小林 嘉平治(和) 群馬 坂野 鉄次郎(成) 大坂 佐々木 八十八(和) 群馬 澁澤 金藏(交) 愛知 白 勢 春三(研) 群馬 鈴木 幸作(研) 岩手 瀨川 彌右衛門(無) 新潟 高島 順作(研) 山梨 瀧川 儀作(研) 山梨 名取 忠愛(研) 愛媛 仲田 傳之助(研) 山梨 長野 忠次(研) 和歌山 西本 健次郎(研) 山梨 野村 茂久馬(研) 山口 橋本 辰二郎(研) 山梨 濱口 儀兵衛(研) 山口 林 平四郎(交) 山梨 平沼 亮三(成) 東京 久恒 貞雄(交) 山梨 平尾 喜三郎(研) 東京 細田 安兵衛(研) 山梨 松本 政樹(公) 兵庫 松岡 潤吉(研) 山梨 松本 眞平(研) 兵庫 松本 勝太郎(和) 山梨 三橋 彌(交) 兵庫 三浦 新七(和) 山梨 三木 與吉郎(研) 廣島 水野 甚次郎(交) 山梨 森 平兵衛(研) 廣島 山本 米三(成) 山梨 山上 岩二(交) 熊本 山根 康(研) 山梨 山田 仙之助(研) 鳥取 山井 洋治郎(交) 鳥取 米原 章三(研)

人名録

Table listing names and affiliations for various regions including 大分一區, 宮城二區, 秋田二區, etc. Includes names like 宮房治郎, 小山倉之助, 大西虎之介, etc.

人名録

Table listing names and affiliations for various regions including 丸山 鶴吉, 伊藤多喜男, 坂野鉄次郎, etc. Includes names like 油井 徳蔵, 加藤政之助, 小坂 順造, etc.

五十音順(政)は政友会(民)は民政黨(國)は國民同盟(社)は社會大衆黨(東)は東方會(無)は無所属を示す姓名の下は昭和十二年現在の年齢、その下のローマ数字は代議士當選回数

衆議院議員一覽

録名人

Table of names and numbers for page 933. Columns include names like 鹿兒島二區, 北海道五區, 東京一區, etc., and numbers like 6, 3, 10, etc.

録名人

Table of names and numbers for page 932. Columns include names like 岡山二區, 兵庫四區, 鹿兒島三區, etc., and numbers like 4, 2, 3, etc.

録士名

井坂 孝 横濱火災海上保險社長、東京瓦斯社長、貴族院議員
伊藤 多喜男 工博、帝國學士院會員
伊藤 忠太 三菱重工常務
伊藤 琢三 日本皮革取締役會長
伊藤 忠兵衛 伊藤忠商事社長
伊藤 文吉 男爵、貴族院議員、日本鑛業社長
伊藤 正徳 評論家
伊藤 次郎左衛門 松坂屋相談役、伊藤産業社長
飯田 正輔 高島屋社長
池田 芳三郎 川崎造船所取締役會長
池田 三郎 日本電力社長、電氣協會會長
池田 清 三菱鑛業常務
池田 寅二郎 大阪府知事
池田 成彬 法博、大審院長
石井 菊次郎 前日本銀行總裁
石井 光雄 子爵、樞密顧問官
石川 日出輝丸 日本鑛業銀行總裁
石黒 忠篤 醫博、京大教授
石坂 泰三 産業組合中央金庫理事長
石田 憲次 第一生命專務
石塚 英藏 文博、京大教授
石原 廣一 樞密顧問官
石原 純 理博、著述家
石原 謙 石原産業社長
石原 謙 東洋經濟新聞主幹
石木 巳四雄 理博、東大地質研究所長

録士名

磯村 豊太郎 貴族院議員、北海道炭礦汽船社長
一木 喜徳郎 男爵、法博、帝國經濟顧問
一條 實孝 公爵、貴族院議員
市河 三喜 文博、東大教授
市島 乙彦 貴族院議員、元藏相
市村 謙吉 著述家、早大名譽理事
市村 三郎 京都市長
市村 通次郎 日本郵船專務
出雲路 通次郎 京大講師、下御靈神社社司
稻田 龍吉 京都市中京區寺町丸太町下ル
稻畑 龍太郎 醫博、帝國學士院會員
稻畑 龍太郎 神田、駿河台、二ノ九
稻原 勝治 貴族院議員、日本染料社長
今井 五介 日本外事協會常務理事
今井 利三郎 神奈川縣鎌倉町片瀬
今泉 定助 貴族院議員、帝國製絲會長
今泉 三郎 澁谷、代々木初台、六二七
今村 幸男 千代田生命社長
今村 幸男 神宮奉齋會長
今村 幸男 阪神電鐵社長
今村 幸男 住友信託專務、住友本社理事
今村 幸男 大日本紡績常務
今村 幸男 醫博、京大名譽教授
今村 幸男 醫博、東大名譽教授
今村 幸男 淨土寺管長、總本山知恩院門主
今村 幸男 男爵、三菱合資社長
今村 幸男 三菱合資副社長
今村 幸男 男爵
今村 幸男 七尾セメント社長、磐城セメント社長
今村 幸男 法博、樞密顧問官、貴族院議員
今村 幸男 同恩通信社長
今村 幸男 同恩通信社長
岩波 茂雄 岩波書店主

録士名

宇井 伯壽 醫博、東大名譽教授
宇井 伯壽 文博、東大教授
宇井 一成 陸軍大將、前朝鮮總督
宇井 一成 日本海上保險社長、右近商事社長
右近 權左衛門 法博、明治大學總長
右近 權左衛門 農博、全國米穀販賣購買組合聯合會長
右近 權左衛門 文博、帝國學士院會員
右近 權左衛門 法博、東京商大學長、學士院會員
右近 權左衛門 同通信社常務理事編輯局長
右近 權左衛門 朝日新聞社長
右近 權左衛門 陸軍大將、關東軍司令官
右近 權左衛門 代議士、政友會總務
右近 權左衛門 前東京市長
右近 權左衛門 貴族院議員
右近 權左衛門 貴族院議員
右近 權左衛門 貴族院議員
右近 權左衛門 神戶商議會議員、日本染工社長
右近 權左衛門 神戶市須磨區榎木町一ノ二六
右近 權左衛門 法博、代議士、民政黨總務
右近 權左衛門 理博、帝國學士院會員
右近 權左衛門 理博、前理化學研究所長
右近 權左衛門 貴族院議員、住友本社總理
右近 權左衛門 法博、貴族院議員、學士院會員
右近 權左衛門 文博、東洋大學教授、高野山大學教授
右近 權左衛門 中野、千光前、一〇
右近 權左衛門 ラサ工業社長、東洋人造肥料社長
右近 權左衛門 大森、北千束、六二五
右近 權左衛門 愛國婦人會事務總長
右近 權左衛門 貴族院議員、前法相
右近 權左衛門 東京市長
右近 權左衛門 貴族院議員

小畑 源一 理博、東大教授、航空研究所長
小畑 源一 豐島、巢鴨、三ノ三〇
小畑 源一 日本、ベイント社長
小畑 源一 住友電線製造所專務
小畑 源一 工博、三井鑛山會長
小畑 源一 代議士
小畑 源一 法博、大審院判事、明治文化研究所會長
小畑 源一 文博、帝國藝術院會員
小畑 源一 陸軍大將
小畑 源一 朝日新聞主筆
小畑 源一 法博、貴族院議員、學士院會員
小畑 源一 代議士、民政黨總務
小畑 源一 男爵、陸軍大將、貴族院議員
小畑 源一 名古屋市長
小畑 源一 東大教授
小畑 源一 大川合名社長
小畑 源一 子爵、工博、理化學研究所長
小畑 源一 橫濱正金銀行頭取
小畑 源一 代議士、政友會政調會長
小畑 源一 侯爵、早大名譽總長
小畑 源一 男爵、貴族院議員、東洋協會理事
小畑 源一 男爵、貴族院議員、東洋協會理事
小畑 源一 日本磚子社長、東洋陶器社長
小畑 源一 上智大學長、大倉精神文化研究所長
小畑 源一 男爵、大倉組頭取
小畑 源一 貴族院議員、大澤商會社長
小畑 源一 世界教育會副會長
小畑 源一 工博、東大教授
小畑 源一 前大日本體育協會會長、陸軍中將
小畑 源一 住友銀行常務
小畑 源一 男爵、海軍大將、軍事參議官

録士名

九鬼周造 文博、京大教授
久布白 婦人矯風會事務理事
串田萬藏 三菱合資總理

録士名

小林一三 東京電燈社長
小林三郎 台灣總督、海軍大將
小林正直 海軍中將

録士名

近藤賢二 日本カーボン社長
佐々木信綱 文博、帝國學士院會員
佐々木駒之助 山口合資理事長、日本生命會長

四王天 延孝
志立誠次郎 帝國飛行協會事務理事
清水順治 帝國飛行協會事務理事

録士名

白岩龍平 東亞同文會理事長 澁谷、南平台、四六
白鳥倉吉 文博、帝國學士院會員 目黒、上目黒、六ノ一五七五
新城新造 理博、上海自然科學研究所 京都市上京區塔之段敷ノ下町四
柴田桂太 理博、東大理學部長 小石川、小日向台、一ノ一
柴山鶴雄 大阪株式取引所理事長 西宮市香櫨園濱
正方松太郎 貴族院議員 芝、三田四國、二ノ一
勝田主計 貴族院議員 澁谷、南平台、四五
正田貞一郎 日清製粉會長 小石川、小日向台、一ノ二二
庄司乙吉 東洋紡績社長 兵庫縣武庫郡住吉村反高林一八七六
新村乙吉 文博、帝國學士院會員 京都市上京區馬場口通丸西入ル
水津彌吉 橫濱正金銀行副頭取 赤坂、青山南、六ノ七二
末次信正 海軍大將、軍事參議官 杉並、西荻窪、三ノ三二
菅原時保 法博、東大教授 市外村奈根上ノ台七九一
菅原政人 臨濟宗建長寺派管長、大 神奈川縣鎌倉町大船山ノ内
杉浦宗三郎 海軍中將、日本製鋼所社長 赤坂、青山南、五ノ三七
杉野喜富 工博、帝國鐵道協會會長 淀橋、西大久保一ノ四四九
杉村廣太郎 澁澤倉庫會長、第一銀行常務 澁谷、八幡通一ノ三二
杉森孝次郎 東京株式取引所理事 神奈川縣鎌倉町長谷五五六
杉山元 朝日新聞社顧問 千葉縣東葛飾郡我孫子町二二一〇
鈴木貞太郎(大拙) 陸軍大將、陸軍大臣 澁谷、代々木西原、一〇〇一
鈴木貞太郎(大拙) 文博、大谷大學教授 杉並、高圓寺、一ノ三三
鈴木貞太郎 文博、京大教授 京都市上京區相國寺東門前六八四
鈴木貞太郎 文博、海軍大將、海軍顧問官 豐島、巢鴨七ノ一五七六
鈴木貞太郎 法博、貴族院議員 麹町、九段、四ノ六
鈴木貞太郎 農博、帝國學士院會員 澁谷、宇田川、三ノ八
鈴木貞太郎 海軍顧問官、陸軍大將 牛込、北山伏、二八
鈴木貞太郎 京都市知事 京都市上京區丸太通中立賣上ル
鈴木貞太郎 兵庫縣武庫郡住吉村反高林一八七六
住友左衛門 男爵、住友本社社長

録士名

高岡熊雄 法博、農博、北大總長 札幌市北六條西十二丁目
高木貞治 理博、帝國學士院會員 本郷、駒込曙、二四
高木陸郎 中日實業副總裁 芝、高輪南二八
高木友三郎 經濟博、企畫委員會 下谷、上野櫻木三九
高久甚之助 シヤパンソリストビニ 杉並、堀ノ内、一ノ一三〇
高橋順次郎 文博、帝國學士院會員 市外保谷村保谷新田
高橋順次郎 日本人絹ハルプ、日露木 麹町、下六番、一四
高橋順次郎 材社長、王子製紙副社長 佐賀縣小城郡三日月村
高橋保馬 文博、京大教授 豊島、駒込、一ノ二八
高橋三吉 法博、貴族院議員 兵庫縣武庫郡魚崎町七七八
高橋龜吉 法博、帝國學士院會員 澁谷、代々木山谷、一六七
高橋龍太郎 文博 本郷、駒込動坂、三三七
高橋里美 農博、東大名譽教授 麻布、斧、一〇九
高橋美里 子爵、日本酸業社長、浦 芝、白金台、八三
高橋龍太郎 海軍大將、軍事參議官 赤坂、青山南、五ノ三七
高橋龜吉 高橋經濟研究所長 本郷、駒込上富士前、一三三
高橋里美 東北帝大教授 仙台市花壇町一
高橋美里 朝日新聞社名譽主筆 大阪府豊能郡池田町室町、七
高橋龍太郎 東大教授、同附屬圖書館長 神奈川縣三浦郡區子町久水二五
高橋龜吉 公爵、貴族院議員、華族 目黒、上目黒、三ノ一七三二
高橋里美 海軍大將、學術振興會理事 芝、白金三光、五一九
高橋美里 文博、帝國學士院會員 品川、上大崎、四ノ二二六
高橋龍太郎 法制局長官、代議士 麻布、斧、一〇六
高橋龜吉 貴族院議員、神戶取引所 神戸市須磨區關守町二ノ三
高橋里美 理事長 芝、高輪東、三五
高橋美里 海軍大將、海軍有終會理 中野、新井、三三三
高橋龍太郎 貴族院議員

關下精拙 三菱銀行取締役會長 芝、車、七六
關善作 天龍寺派管長 京都市宇治町萬福寺内
關金次郎 第百銀行頭取 赤坂、青山高樹、一二
關根宗室 將棋名人 豐島、三ノ二
千石宗統 茶道家 京都市上京區小川寺之内上ル
千石興太郎 男爵、出雲大社宮司 鳥根縣川郡大社町
十河信二 農博、中央會常務理事 豐島、麩司ヶ谷、一ノ六二
野村邦 農博、出雲大社宮司 本郷、弓、二ノ二六
野村邦 農博、出雲大社宮司 京都市中京區町屋町下ル
野村邦 農博、出雲大社宮司 明治製糖スマトラ興業社長 芝、伊皿子、五二
野村邦 農博、出雲大社宮司 伯耆、貴族院議員 澁谷、代々木上原、一三三一
野村邦 農博、出雲大社宮司 安田銀行常務 赤坂、青山南、六ノ一四七
野村邦 農博、出雲大社宮司 著述家 新瀨縣系魚川町大町
野村邦 農博、出雲大社宮司 三井物產常務 澁谷、百人、三ノ二八五
野村邦 農博、出雲大社宮司 昭和田行頭取 麻布、永坂、二五
野村邦 農博、出雲大社宮司 陸軍大將、明倫會總裁 小石川、駕籠、二五二
野村邦 農博、出雲大社宮司 法博、東大法學部長 澁谷、松壽、五九
野村邦 農博、出雲大社宮司 法博、中央銀行總裁 豐島、長崎南、一ノ一八八六
野村邦 農博、出雲大社宮司 京都市議會頭取京都市電燈社長 牛込、市谷仲、八
野村邦 農博、出雲大社宮司 日本化學工業社長 京都市上京區上高野東山町五五
野村邦 農博、出雲大社宮司 中外商業新報社長 本郷、根津宮永、三六
野村邦 農博、出雲大社宮司 法博、早大總長 澁谷、金玉、一一
野村邦 農博、出雲大社宮司 愛知縣知事 牛込、舞天、一七〇
野村邦 農博、出雲大社宮司 理博、貴族院議員、帝國 小石川、雜司ヶ谷、一四四
野村邦 農博、出雲大社宮司 飛行協會副會長 澁谷、八幡通、一ノ三六
野村邦 農博、出雲大社宮司 三菱製紙取締役會長 兵庫縣武庫郡稻津村平田四二七
野村邦 農博、出雲大社宮司 神戶製鋼所社長 京都市上京區吉田中大路町一七
野村邦 農博、出雲大社宮司 文博、京大教授 淀橋、下落合、一ノ五四六
野村邦 農博、出雲大社宮司 音樂評論家、舞踊研究家

武智直道 御歌所寄人 小石川、原、一六
武智直道 台製製糖社長、糖業協會 麻布、市兵衛、二ノ一三
武智直道 理事長 大阪市東區豐後町八〇
武智直道 武田長兵衛商店社長 品川、五反田、五ノ五七
立作太郎 法博、帝國學士院會員 辰馬海上保險社長、辰馬 西宮市殿掛町一二五
辰馬吉左衛門 汽船相談役 文博、東大教授 目黒、駒込九二八
辰馬吉左衛門 陸軍中將 澁谷、響ヶ谷本、三ノ六六三
辰馬吉左衛門 陸軍中將 品川、上大崎長者九二七〇
辰馬吉左衛門 東京府知事 代議士、民政黨常任顧問 淺草、東三筋、一三
辰馬吉左衛門 工博、日本電化工業會長 本郷、駒込東片、一五七
辰馬吉左衛門 日本自動車會長、大倉商會會長 兵庫縣武庫郡藤屋藤ヶ谷一四三四
辰馬吉左衛門 工博、帝國學士院會員 澁橋、下落合一ノ四一六
辰馬吉左衛門 代議士、民政黨常任顧問 小石川、駕籠、二二三
辰馬吉左衛門 御歌所寄人、帝國藝術院會員 四谷、南、九
辰馬吉左衛門 文博、慶大教授 荏原、中延、一〇七一ノ一
辰馬吉左衛門 日本銀行副總裁 麹町、下二番、六二
辰馬吉左衛門 鑄金家、帝國藝術院會員 下谷、谷中天王寺、一六
辰馬吉左衛門 鑄金家、帝國藝術院會員 澁谷、響ヶ谷本、三ノ六六三
辰馬吉左衛門 貴族院議員 小石川、大塚仲、四一
辰馬吉左衛門 東大助教授 中野、上高田一ノ二六八
辰馬吉左衛門 大橋圖書館長、博文館取締役 牛込、北山伏、二九
辰馬吉左衛門 理博、東大教授 澁谷、代々木上原、一三三一
辰馬吉左衛門 文博、東大教授、學士院會員 澁谷、代々木上原、一三三一
辰馬吉左衛門 大東紡績社長 赤坂、青山高樹、一二
辰馬吉左衛門 貴族院議員 世田谷、玉川尾山、九六
辰馬吉左衛門 伯耆、陸軍大將 神奈川縣中郡大磯町東小磯五六三
辰馬吉左衛門 浦賀船渠社長、海軍中將 澁谷、松壽六〇

録士名

日比谷平左衛門 富士瓦紡績會長 品川、北品川、三ノ二〇三
比田井天來 書家、帝國藝術院會員 澁谷、代々木山谷、三八八
土方久藏 貴族院議員、學士 麩町、三番、六ノ一七
土方成美 貴族院議員、元日銀總裁 澁谷千駄ヶ谷、四ノ七六三
百武三郎 經濟博、東大經濟學部長 麩町、三番、六ノ一七
百武源吾 侍從長、海軍大將 麩町、一番、二
海軍大將、橫須賀鎮守府司令長官 橫須賀市公卿町
平賀常次郎 貴族院議員、日本製鐵會長 兵庫縣武庫郡住吉村新堂五三ノ一
平賀三郎 工博、東大工學部長、學士院會員 赤坂、青山南、五ノ四五
平賀常次郎 樺太共同漁業社長、日魯 澁谷、巖樂、二八
平賀常次郎 貴族院議員、大日本體協 澁谷、巖樂、二八
平沼亮三 男爵、法博、樞密院議長 澁谷、巖樂、二八
廣海三三郎 理博、帝國學士院會員 澁谷、巖樂、二八
廣田弘毅 外務大臣、貴族院議員 澁谷、巖樂、二八
廣田弘毅 文博、醫博 澁谷、巖樂、二八
深井英五 貴族院議員、元日銀總裁 澁谷、巖樂、二八
深井英五 男爵、貴族院議員、南洋 澁谷、巖樂、二八
深井英五 拓殖社長 澁谷、巖樂、二八
藤原八郎 南米拓殖社長 澁谷、巖樂、二八
藤井乙男 文博、帝國學士院會員 澁谷、巖樂、二八
藤井健次郎 帝國教育會專務理事 澁谷、巖樂、二八
藤井健次郎 理博、東大名譽教授 澁谷、巖樂、二八
藤澤幾之輔 樞密顧問官 澁谷、巖樂、二八
藤田尚德 海軍大將、軍事參議官 澁谷、巖樂、二八
藤田尚德 貴族院議員、王子親紙社長 澁谷、巖樂、二八
藤原銀次郎 貴族院議員、王子親紙社長 澁谷、巖樂、二八

録士名

前田米藏 代議士、政友會總代理行委員 麻布、三河台、二八
前田米藏 工博、前三井礦山會長 麻布、北日ヶ窪、四三
牧野伸顯 伯爵、帝國藝術院會員 麻布、六本木、一
牧野英一 法博、東大教授、學士院會員 小石川、大塚坂下、一一〇
牧野英一 代議士 麩町、下二番、五〇
正木直彦 東京美術學校名譽教授 牛込、矢來、三三
增田次郎 代議士、實業之日本社長 小石川、原、一二五
增田次郎 大同電力社長 澁谷、上智、四八
益田忠孝 男爵、三井合名顧問 神奈川縣小田原町板橋七三一
益田忠孝 代議士、民政黨總裁 大森、田調布、三ノ五七八
松井石根 陸軍大將 大森、山王、一ノ二七〇八
松井石根 法博、貴族院議員、中央教 品川、大井鹿島、三一四一
松井石根 化團體聯合會常務理事 小石川、茗荷谷、四九
松井石根 貴族院議員、文教審議會委員 本郷、上富士前、一一一
松井石根 南洋開發社長 麩町、下六番、四七
松井石根 滿鐵總裁 兵庫縣武庫郡蘆屋大橋一六一一
松井石根 貴族院議員、松岡汽船社長 麻布、材木、二四
松井石根 男爵、法博、貴族院議員 澁谷、豐分、三三
松井石根 三愛合資顧問 澁谷、松嶽、一六
松方幸次郎 代議士、松方日ノ石油會社長 神戶市須磨區須磨寺町一ノ五五
松方幸次郎 台灣電力社長 澁谷、豐分、三三
松方幸次郎 宮内大臣 澁谷、松嶽、一六
松方幸次郎 伯爵、貴族院議長、能樂協會會長 澁谷、駒込、四ノ一五
松方幸次郎 東邦電力社長 澁谷、下谷合、一ノ三六七
松方幸次郎 代議士、政友會幹事長 芝、三田新、二
松方幸次郎 東京石川島造船所社長、海 世田ヶ谷、代田二ノ九五五
松方幸次郎 軍中將 西宮市森具小山田三三二ノ九
松方幸次郎 住友本社理事 大森、田調布四ノ二〇五
松方幸次郎 法博、貴族院議員 小石川、小日向台、二ノ一五
松方幸次郎 貴族院議員 京都市左京區淨土寺町二
松方幸次郎 文博、帝國學士院會員 花原、中延、一〇五一

藤原辰平 理博、中央氣象台技師、東 麩町、竹本
藤原辰平 大教授、帝國學士院會員 仙台市二本杉町一二
藤原辰平 理博、東北大学教授、帝國學 澁谷、代々木、一ノ二七
藤原辰平 士院會員 澁谷、代々木、一ノ二七
藤村作 文博、東洋大學學長 芝、白金今里、一四
藤村作 貴族院議員、大日本製糖相 芝、白金今里、一四
藤山雲太 大日本製糖社長 芝、白金今里、一四
藤山雲太 日本油脂社長、台灣肥料社長 牛込、矢來、四一
藤山雲太 三愛商事取締役會長 牛込、納戸、三七
藤山雲太 男爵、住友炭礦常務 大阪市天王寺區勝山通一ノ三三
藤山雲太 男爵、古河鐵業社長 牛込、若宮、三〇
藤山雲太 住友金屬工業專務、住友ア 兵庫縣武庫郡本山村中野三五九
ルミニウム社長 牛込、拂方、九
藤山雲太 男爵、法博、東大教授 澁谷、代々木初台、四六七
藤山雲太 日本興業銀行總裁 小石川、高田老松、七六
藤山雲太 伯爵、國貨保存會長 兵庫縣川邊郡西谷村切畑長尾山
貴族院議員、大阪商船相繼役 二ノ二二〇
日清汽船社長 大阪府豐能郡箕面村平尾六六〇
日本飛行機社長、海軍中將 二ノ二二〇
世田ヶ谷、上馬、二ノ一三九二
貴族院議員 小石川、高田老松、二七
元興院議員 牛込、市ヶ谷田、二ノ五
元興院議員 刀劍鑑定家 中野、上ノ原、八
元興院議員 男爵、陸軍大將 澁谷、櫻ヶ丘、九五
元興院議員 林博、帝國森林會長、日本 仙台市米ヶ袋鷹子清水、二
庭園協會會長 兵庫縣武庫郡住吉村觀音林一八
理博、東北帝大總長 七五
理博、阪大理事部長 麩町、富士見、二ノ四五
東大醫學部教授 京都市左京區北白川上池田町二二
醫博、京大醫學部長 定橋、西大久保、一ノ四二一
子爵、貴族院議員

松本健次郎 昭和石炭會會長、九州水電社長 戶畑市中原町一〇七一
松本健次郎 帝國圖書館長 豐島、池袋、八ノ三三三八
丸山鶴吉 貴族院議員 澁谷、大和田、九六
丸山鶴吉 三井銀行取締役會長 麻布、井、一七六
丸山鶴吉 男爵、三井合名社長 麻布、今井、四二
萬代順四郎 男爵、三井銀行取締役 麩町、平河、二ノ七
三井高公 男爵、三井礦山監査役 小石川、雜司ヶ谷、一二四
三井高公 醫博、帝國學士院會員 神田、駿河台、二ノ一
三井高公 文博、貴族院議員、學士 本郷、駒込林、一六九
三井高公 院會員 兵庫縣武庫郡瀧村打出丸山
三井高公 三井合名顧問 澁谷、代々木、初台、五四五
三井高公 前三愛商事會長 中野、昭和通二ノ二五
三井高公 理博、帝國學士院會員 本郷、駒込西片、一〇比ノ一五
三井高公 三愛石油社長、三愛合資 牛込、市ヶ谷仲、五七
三井高公 常務理事 澁谷、九段、三ノ四
三井高公 三輪出高女校長 四谷、霞ヶ丘、二〇
三井高公 東京朝日新聞社編輯局長 市外武藏野町吉祥寺野田北九五二
三井高公 法博、帝國學士院會員 京都市上京區塔之段櫻木町四一五
三井高公 理博、帝國學士院會員 芝、白金、六一
三井高公 法博、貴族院議員 京城府倭城臺町
三井高公 朝鮮總督、陸軍大將 澁谷、榮通、二ノ六
三井高公 樞密顧問官、國語審議會會長 和歌山縣西牟婁郡田邊町中屋敷
三井高公 博物、土俗學者 板橋、練馬向山、一六〇九
三井高公 醫博、帝國學士院會員 本郷、駒込上富士前、七八
三井高公 醫博、東大教授、傳研所長 芝、伊皿子、一〇
三井高公 日清紡績社長 兵庫縣御影町篠塚一三六二
三井高公 大阪商船社長 兵庫縣御影町那家二八五
三井高公 朝日新聞社取締役會長 澁谷、原宿、三ノ三〇七
三井高公 代議士 澁谷、原宿、三ノ三〇七
三井高公 樞密顧問官 麩町、雙町、五ノ七

中里介山 市外高尾妙音谷陸陸 豊島區東葛七ノ一八七九 中野吉二 牛込區早稲田町三四 中野實藏 豊島區西葛七ノ一九六九 中村正常 杉並區下高井戸一ノ二五一 中村實藏 神奈川縣藤澤町辻堂 永井荷風 麻布區市兵衛町一ノ六 永田秀雄 世田谷區三軒茶屋町一ノ一 長田秀彦 牛込區新小川町江戸川アパート 長田善彦 四谷區東信濃町一〇 長田善彦 目黒區下目黒二ノ一九一 長田善彦 中野區文圃町四〇 長田善彦 荒川區日暮里渡邊町一〇四〇 野村嘉堂 世田谷區宇奈根七九五 野村嘉堂 長野縣上伊那郡赤穂村一九四八 野村嘉堂 四谷區右京町三四 野村嘉堂 赤坂區南町三〇 野村嘉堂 芝區高輪南町三〇 野村嘉堂 赤坂區青山高輪町三 野村嘉堂 赤坂區河津ケ谷一ノ七六〇 野村嘉堂 神奈川縣鎌倉町淨明寺塔岡谷 野村嘉堂 淀橋區下落合、四ノ二二三 野村嘉堂 中野區中野驛前四、生稻方 野村嘉堂 牛込區富久町一三三 野村嘉堂 淀橋區西大久保一ノ四四五 野村嘉堂 神奈川縣鎌倉町二階堂大塔宮前 野村嘉堂 神奈川縣鎌倉町扇ヶ谷二三九 野村嘉堂 大阪南區長堀橋筋一ノ五〇 野村嘉堂 豊島區池袋二ノ一二四三ノ二二 野村嘉堂 杉並區西葛三ノ一二三 野村嘉堂 市外吉祥寺二六五八 野村嘉堂 大森區山王二ノ一八九五

眞山青果 小石川區雲六天町四八 眞山青果 長野縣上諏訪町湖心社 眞山青果 大森區南千束町三三七 眞山青果 大森區山王二ノ二七八一 眞山青果 赤坂區高輪町三 眞山青果 豊島區鎌倉ヶ谷町一ノ三六七 眞山青果 杉並區方南町二五 眞山青果 世田谷區下六番町二九 眞山青果 赤坂區氷川町二七 眞山青果 牛込區新小川町江戸川アパート 眞山青果 世田谷區富士見町一ノ一八 眞山青果 世田谷區千駄ヶ谷二ノ四二四 眞山青果 市外吉祥寺六四五路小路 眞山青果 武蔵野區上落合一ノ一八六 眞山青果 大森區馬込町東三ノ七六三 眞山青果 市外吉祥寺六一一 眞山青果 目黒區上目黒一ノ一四三 眞山青果 牛込區矢來町四一 眞山青果 市外三鷹村下連雀九一 眞山青果 大阪西區玉出町通二ノ一四 眞山青果 長野縣上諏訪町湖心社 眞山青果 世田谷區北澤二ノ一四五 眞山青果 世田谷區代々木大山町一〇五九 眞山青果 赤坂區赤坂町三ノ二四 眞山青果 世田谷區玉川南町四五六 眞山青果 牛込區砂土原町三ノ一八

飯島正(映畫) 世田谷區北澤三ノ九七五 飯島正(映畫) 板垣慶(美術) 淀橋區上落合二ノ五九九 飯島正(映畫) 猪俣津南雄(經濟) 澁谷區原宿二ノ一七〇 飯島正(映畫) 岩崎起(映畫) 豊島區池袋一ノ七八七 飯島正(映畫) 大森義太郎(社會) 神奈川縣鎌倉町塔の辻 飯島正(映畫) 大宅壯一(文學) 世田谷區野澤町一ノ七二 飯島正(映畫) 太田黒元雄(音樂) 杉並區東葛三ノ一二五 飯島正(映畫) 岡邦雄(科學、社會) 杉並區西葛三ノ一二五 飯島正(映畫) 藤本清一郎(文學) 四谷區新町一ノ一三 飯島正(映畫) 兼常清(音樂) 豊島區鎌倉ヶ谷町一 飯島正(映畫) 河上徹太郎(文學) 品川區五反田五ノ七八一 飯島正(映畫) 清澤洸(外交) 大森區瀨田町二ノ九二二 飯島正(映畫) 小林秀雄(文學) 神奈川縣鎌倉町扇ヶ谷 飯島正(映畫) 小宮豐隆(文學) 仙台市北二番町六八 飯島正(映畫) 兒島喜久雄(美術) 仙台市光輝寺通一三 飯島正(映畫) 杉山平助(文學) 目黒區緑ヶ丘三三〇一 飯島正(映畫) 谷川徹三(文學) 杉並區東田一ノ五七 飯島正(映畫) 戸居徹(文學) 杉並區阿佐ヶ谷三ノ二五 飯島正(映畫) 新居格(文學) 杉並區高圓寺三ノ三六〇 飯島正(映畫) 馬場恒吾(政治) 四谷區南町一〇 飯島正(映畫) 長谷川如是閑(社會) 中野區上原町六 飯島正(映畫) 本多照太郎(外交) 目黒區上目黒七ノ一〇 飯島正(映畫) 三宅周太郎(演劇) 杉並區高圓寺四ノ五三九二 飯島正(映畫) 水野廣徳(軍事) 豊島區池袋三ノ一六三七 飯島正(映畫) 光吉積男(舞踊) 世田谷區三軒茶屋町 飯島正(映畫) 山川均(社會) 四谷區傳馬町一ノ三七 飯島正(映畫) 脇本樂之軒(美術) 本郷區千駄木町二三四

今井 節子(明日香) 澁谷區千駄ヶ谷三ノ五二七 今井 節子(明日香) 本郷區駒込東片町二二 今井 節子(明日香) 大森區新井宿二ノ一六三六 今井 節子(明日香) 小石川區白山御殿町一二七 今井 節子(明日香) 世田谷區北澤五ノ六八四 今井 節子(明日香) 澁谷區川田町二二三 今井 節子(明日香) 澁谷區代々木山一ノ八五 今井 節子(明日香) 杉並區神明町七四 今井 節子(明日香) 兵庫縣御影町字掛田 今井 節子(明日香) 世田谷區成城一九 今井 節子(明日香) 小石川區難波ヶ谷町八八 今井 節子(明日香) 本郷區駒込西片町一〇八 今井 節子(明日香) 一ノ一六 今井 節子(明日香) 赤坂區青山南町五ノ八一 今井 節子(明日香) 品川區大井出石町五〇五二 今井 節子(明日香) 澁谷區伊達町一七 今井 節子(明日香) 新井宿系魚川町大町五二 今井 節子(明日香) 四谷區南町九 今井 節子(明日香) 荏原區中延町一〇七一 今井 節子(明日香) 赤坂區青山南町五ノ五一 今井 節子(明日香) 目黒區下目黒四ノ八〇四 今井 節子(明日香) 杉並區西大久保三ノ一六五 今井 節子(明日香) 淀橋區西大久保三ノ一六五 今井 節子(明日香) 目黒區上目黒四ノ二一五四 今井 節子(明日香) 杉並區東葛三ノ一一九 今井 節子(明日香) 静岡市中田町二ノ四一 今井 節子(明日香) 千葉縣印旛郡本笠村下井三四 今井 節子(明日香) 沼津市市道町 尾崎 喜八 杉並區東葛三ノ四一 尾崎 喜八 豊島區目白町二ノ一五六九 尾崎 喜八 静岡市廣匠町二ノ四 蒲原 有明

川路柳虹 澁橋區上落合二ノ五六九 川路柳虹 目黒區中目黒四ノ一四八〇 川路柳虹 澁谷區代々木山一ノ八五 川路柳虹 川崎市砂子町一ノ二六 川路柳虹 淀橋區柏木町三ノ三七七 川路柳虹 小石川區高田町四二 川路柳虹 西宮市分銅町二二 川路柳虹 豊島區長崎町三ノ三八四二 川路柳虹 高知縣中村町南京町一五二 川路柳虹 兵庫縣武庫郡甲東村仁川 川路柳虹 仙台市本荒町二一 川路柳虹 兵庫縣武庫郡茶屋敷田島別宅 川路柳虹 中野區城山町二七 川路柳虹 市外吉祥寺七七八 川路柳虹 中野區櫻山町四一 川路柳虹 世田谷區代田一ノ六三五 川路柳虹 中野區高根町二八 川路柳虹 杉並區阿佐ヶ谷六ノ一一七 川路柳虹 澁谷區千駄ヶ谷五ノ九〇二新宿ハウス 豊島區長崎町一ノ二四四〇 世田谷區大原町一五五四 牛込區新小川町二ノ一〇、江戸川アパート 杉並區永福町二七九 市外三鷹村東五八二 小石川區関口町二〇七 中野區小窪町三一 青木 月斗(同人) 大阪市天王寺區北山町一三 飯田 蛇笏(雲母) 山梨縣東八代郡境川村 伊藤 松宇(にひはり) 小石川區関口町芭蕉庵

日田 亞浪(石版) 中野區西町四〇 大谷 何佛(彫刻) 大森區池田上徳持町三三三 岡本新三郎(著述) 本郷區駒込神明町三三三 大場白太郎(著述) 芝公園二一號地八 小野 燕子(著述) 本郷區新井町三 萩原 春雄(著述) 牛込區若松町八二 島田 香(著述) 世田谷區代田六八二 志田 素(著述) 京都市左京區吉田中大路八 鈴鹿野風(著述) 神奈川縣鎌倉町下 高濱 虚子(著述) 世田谷區若林町三七三 中塚 一(著述) 神戶區高島町三 野田 天(著述) 牛込區新小川町三ノ一九 野田 天(著述) 浦和市東町三六二六 長谷川 かな(著述) 大坂此花區玉川町一丁目 原 石(著述) 牛込區赤坂下町三三 日野 草(著述) 品川區上大崎一ノ四七〇 星野 葵(著述) 品川區上野町四三 前田 善(著述) 富山縣生野町四三 水原 秋(著述) 神田區西神田町一ノ六 室賀 徂(著述) 澁谷區新町四ノ八ノ一 室賀 徂(著述) 神奈川縣鎌倉町扇ヶ谷 秋山 結月(著述) 本所區龜澤町四ノ一一 矢田 穂(著述) 福岡市今泉九四 吉岡 輝(著述) 品川區東大崎四ノ二二二 吉田 多(著述) 澁谷區新町四ノ五ノ六 渡邊 水(著述) 大坂南區炭屋町二五 和田 御(著述) 大阪府堺市

美術家録 五十音順

(備考) 小會派會で帝展出品者は大體帝展に統一、即ち(帝展)とあるは帝展審査員、帝展無審査

特選、推薦、帝展出品等の全部を含む。(帝院)は帝院會員、帝院參與、帝院指定等を含む。

日本畫の部

- 穴山 勝堂(國畫院)
荒井 寛方(美術院)
伊東 紅雲(帝展)
伊東 深水(帝展)
伊藤 小坡(帝展)
池上 秀敏(帝展)
今中 繁友(帝展)
石崎 光隆(帝展)
岩田 正巳(國畫院)
岩田 孝太郎(帝展)
宇田 萩樹(帝展)
上村 松雪(帝展)
上村 松雪(帝展)
小川 幸鏡(美術院)
小川 翠村(帝展)
小野 竹齋(帝展)
尾竹 國麿(帝展)
大河内 夜江(帝展)
太田 秋民(帝展)
大智 勝觀(美術院)
萩生 天泉(帝展)
奥村 土牛(美術院)
藤田 龍湖(帝展)
藤田 南風(美術院)
藤田 菫翠(帝展)
藤田 晋(帝展)

- 金島 桂華(帝院)
鍋木 清方(帝院)
川合 玉堂(帝院)
川北 龍峰(帝院)
川崎 小虎(帝院)
川端 龍子(青龍社)
川端 水煙(帝展)
川村 曼舟(帝院)
木村 武山(美術院)
菊池 華秋(帝展)
北野 恒富(帝展)
小泉 勝留(帝展)
小早川 秋登(帝展)
小林 桐白(美術院)
小林 古徳(美術院)
小林 草悅(美術院)
小村 雪村(國畫院)
小村 大雲(帝展)
小室 翠雲(帝展)
小山 榮達(帝展)
小山 大月(美術院)
水嶋 櫻谷(帝院)
見玉 希聖(帝院)
郷倉 千鶴(美術院)
近藤 港一路(美術院)
佐々木 街文(帝展)
坂口 一草(青龍社)
藤原 紫峰(帝院)

- 酒井 三良(美術院)
島田 成園(帝展)
島田 巖仙(帝院)
白倉 二鶴(帝展)
眞道 黎明(美術院)
菅 糖彦(帝展)
田中 青坪(美術院)
田中 龍哉州(春陽會)
田中 頼環(帝展)
高木 保之助(帝展)
竹内 福風(帝院)
玉村 方久斗(方久斗社)
常岡 文龜(帝展)
登内 敬榮(帝展)
登本 印象(帝院)
徳岡 神泉(帝院)
富取 風堂(美術院)
富永 朝榮(帝展)
中村 岳陵(帝院)
中村 大三郎(帝院)
中村 貞以(美術院)
永田 春水(帝展)
長野 草風(美術院)
西澤 信成(帝展)
西山 五雲(帝院)
西山 翠輝(帝院)
根上 富治(帝展)
野田 九浦(帝院)
野田 香雪(美術院)
橋本 永邦(美術院)

- 橋本 開雲(帝院)
橋本 静水(美術院)
高田 錦成(帝展)
服部 有恒(帝院)
林 文麿(自由黨)
飛田 周山(帝院)
人見 少華(南畫院)
平井 松仙(帝展)
平井 松仙(帝展)
平井 松仙(帝展)
平井 松仙(帝展)
平井 松仙(帝展)
不動 立山(帝展)
福岡 青嵐(青龍社)
福岡 惠一(帝展)
福田 浩湖(畫南畫院)
福田 平八郎(帝院)
筆谷 等觀(美術院)
古谷 一昆(帝展)
堀井 香坡(帝展)
前田 齊彬(帝院)
前田 齊彬(帝院)
益田 玉成(帝展)
町田 曲江(帝展)
松岡 映丘(帝院)
松林 桂月(帝院)
松本 委水(帝展)
松本 委水(帝展)
三谷 十系子(帝展)
三輪 長勢(帝院)
瀧上 遊龜(美術院)
水田 祝山(畫南畫院)

- 水田 竹園(帝院)
水越 松南(南畫院)
村上 恭生(帝展)
村上 恭生(帝展)
村上 恭生(帝展)
村上 恭生(帝展)
村上 恭生(帝展)
望月 春江(帝展)
森 月城(帝展)
森 白甫(帝展)
森村 宣相(帝展)
矢野 敬月(帝院)
矢野 敬月(帝院)
矢野 敬月(帝院)
安田 半圃(畫南畫院)
安田 半圃(畫南畫院)
八木 岡春山(帝展)
山川 秀雄(帝展)
山口 孝春(帝院)
山口 孝春(帝院)
山口 孝春(帝院)
山口 孝春(帝院)
山本 紅雲(帝展)
山本 紅雲(帝展)
山元 春汀(帝院)
結城 素明(帝院)
幸松 春浦(畫南畫院)
横尾 翠田(畫南畫院)
横山 大觀(美術院)
吉岡 堅三(帝展)
吉田 秋光(帝院)
吉村 忠夫(帝院)
安宅 安五郎(帝展)

- 足立 源一郎(春陽會)
阿以 田治修(帝展)
相田 直彦(帝展)
青山 義雄(元春陽會)
赤松 麟作(帝展)
浅井 眞(帝展)
藤生 豊(帝展)
跡見 春(帝展)
新井 完(帝展)
有馬 生馬(帝院)
有馬 生馬(帝院)
有馬 生馬(帝院)
伊藤 隆(獨立)
伊原 宇三郎(帝展)
猪熊 敏一郎(帝展)
池部 鈞(帝展)
石井 鶴三(美術院)
石井 柏亭(二) 科
石川 寅治(帝展)
上野 山清(帝展)
内田 巖(帝展)
梅原 龍三郎(帝展)
織田 一慶(帝展)
大久保 作次郎(帝展)
太田 喜二郎(帝展)
太田 三郎(帝展)
大野 隆徳(帝展)
大橋 孝吉(國畫會)
岡田 三郎助(帝院)
岡見 富雄(東光會)
岡本 一平(漫畫)
恩地 孝四郎(帝展)
加藤 壽見(帝展)

藤子木孟郎(帝展) 京都下京區下鴨西林町二七
片岡 銀藏(帝展) 世田谷區代田一ノ六四四
金澤 重治(帝展) 神奈川縣鎌倉町大町九〇五
金山 平三(帝展) 淀橋區下落合四ノ二〇八〇
川口 軌外(獨立展) 淀橋區下落合四ノ一九九五
川島理一郎(國畫會) 大森區新井宿六ノ四六一
河井 清一(帝展) 目黒區自由ヶ丘一四九
木下 孝則(一水會) 澁谷區千駄ヶ谷町五ノ九〇二
木下 義謙(一水會) 澁谷區愛通二ノ一三
水村 莊八(春陽會) 杉並區和田町一〇五二
鬼頭三郎(元春陽會) 名古屋西區御幸本町三丁目
北 瀧藏(帝展) 澁谷區伊達一〇一
北島 淺一(帝展) 杉並區西荻窪三ノ八六
草光 信成(帝展) 花原區中延二二四六
國枝 金三(二科) 大阪南區西區町二八
窪田 照三(帝展) 豊島區上野八
熊岡 美彦(帝展) 澁谷區戸塚町二ノ一二
倉田 白茅(春陽會) 長野縣上田市外神科村大久保
熊谷 守一(二科) 豊島區長崎町一ノ二六九二
栗原 信二(二科) 東京府下町吉野寺木田南
黒田重太郎(二科) 神戶山本通一ノ二七
小磯 良平(帝展) 下谷區上野一ノ二七
小藤源太郎(帝展) 神田區東松下町
小柴 錦持(帝展) 東京府下町多摩郡加住村中
小島善太郎(獨立展) 丹水
小杉 放庵(春陽會) 澁谷區川區田端一五五
小寺 健吉(帝展) 澁谷區百人町三ノ三二九
小林徳三郎(春陽會) 千葉縣館山町御屋敷
小林 和作(獨立展) 尾道市長江町六丁目
小林 萬吾(帝展) 赤城區新坂町六五
小山 敬三(二科) 神奈川縣茅ヶ崎町

兒島善三郎(獨立展) 東京府下町多摩郡國分寺多
喜三三六
五味 清吉(帝展) 杉並區上荻窪八九五
河野 通勢(國畫會) 東京府下町小金井村二八〇〇
香田 勝太(帝展) 澁谷區川區田端一〇六
神津 港人(構造社) 杉並區東萩町六九
權藤 種男(帝展) 豊島區長崎町一ノ八六〇
佐竹徳次郎(帝展) 赤坂區新坂町六二
齋藤 與里(帝展) 大阪住吉區北島中二ノ二四
坂本繁二郎(二科) 福岡縣八女郡福島町稻富
里見 勝藏(獨立展) 杉並區神戶一六
三田 康(帝展) 品川區大井原町五三〇三
清水 登之(獨立展) 東京府下町武蔵野町吉祥寺
清水 刀根(二科) 前橋市石川町三三
清水多嘉示(帝展) 杉並區井荻町三ノ三九
島崎 鶴二(二科) 赤坂區松町六乃水城クラブ
白瀧幾之助(帝展) 大森區田園調布四ノ二〇七
杉浦 非水(光風會) 澁谷區伊達一七
鈴木 千久馬(帝展) 本郷區駒込神田町四〇四
鈴木 保徳(獨立展) 本郷區成宗一ノ二
鈴木 隆徳(帝展) 澁谷區大塚町二ノ二六四
關口 隆一(帝展) 大森區下落合二ノ六二三
曾宮 一念(獨立展) 浦和市浦和町一八九二
相馬 其一(帝展) 豊島區長崎町一ノ一九四〇
田中 繁吉(帝展) 世田谷區深澤町二ノ七三四
田邊 至(帝展) 澁谷區川區田端一〇〇
多々羅義雄(帝展) 澁谷區川區上中里町一
高岡 敬七(帝展) 豊島區西區四ノ八八
高村 眞夫(帝展) 本郷區駒込池袋町一四
島海 青見(春陽會) 麴町區九段四ノ一
津田 青楓(無所屬) 杉並區天沼一ノ一三六

辻 永(帝展) 澁谷區伊達五九
藤 貞雄(國畫會) 船橋市九日市一三六〇
堤 寒三(漫畫) 世田谷區上馬町一ノ七九二
寺内萬治郎(帝展) 浦和市針ヶ谷一八
東郷 青見(二科) 世田谷區北澤二ノ一九六
富田温一郎(帝展) 下谷區谷中清水町六
中川 一政(春陽會) 杉並區蒲田町四〇四
中川 紀元(二科) 蒲田區蒲田町一四七〇
中澤 弘光(帝展) 澁谷區神田町一八
中野 和高(帝展) 澁谷區本村町一六
中村 研一(帝展) 澁谷區代々木初台四七六
中西 利雄(帝展) 下谷區上根岸一二五
永地 秀太(帝展) 中野區池袋町四八
野口 謙藏(帝展) 澁谷區下落合四ノ二〇八〇
野間 仁根(二科) 澁谷區蒲生郡櫻川村新田四
伊之助(二科) 四三
橋本 邦助(帝展) 下谷區谷中三軒町一八
橋本八百二(帝展) 本郷區駒込淺草町四九
橋本八百二(帝展) 本郷區駒込曙町二三
長谷川 昇春陽會) 世田谷區代田一ノ六四四
服部 亮英(帝展) 小石川區豐島町大和村一三六
濱地 清松(帝展) 大森區馬込町仲井一五五二
林 重義(獨立展) 豊島區經司ヶ谷町一ノ三三四
林 俊衛(春陽會) 千葉縣市川市八幡町野
林 武(獨立展) 中野區新井町五〇二
平岡 暹一(國畫會) 京橋區銀座七ノ四
平塚 暹一(國畫會) 澁谷區下落合一ノ一六一
武田 福治(二科) 本郷區曙町一五
古家 新(二科) 澁谷區戸塚町九六三
兵衛縣川邊郡川西町鶴之莊

前川 千帆(春陽會) 澁谷區代々木山谷町三一六
牧野 虎雄(旺友社) 澁谷區下落合二ノ六〇四
正宗得三郎(二科) 中野區蓮子町櫻山字仲町
松岡 壽(帝展) 神奈川縣逗子町櫻山字仲町
丸山曉霞(太平洋畫會) 本郷區駒込神田町一四
三上 知治(帝展) 澁谷區下落合二ノ七五三
三宅 克己(帝展) 神奈川縣足柄郡興村四八五
水谷 清(春陽會) 澁谷區百人町三ノ二六三
南 寧造(帝展) 世田谷區多摩川奥澤町二
宮本 三郎(二科) 大阪住吉區田邊本町五ノ六
矢崎千代(帝展) 〇久松方
矢島 堅土(帝展) 澁谷區川區中里町三五
安井曾太郎(二科) 澁橋區下落合一ノ四〇四ノ四
山下 繁雄(帝展) 奈良市下清水町四九五
山下新太郎(二科) 芝區白金三光町二五五
山本 鼎(農氏美術) 大森區山王一ノ二八一〇
山崎 信徳(國畫會) 高知市八軒町六
山崎 省三(元春陽會) 澁谷區代々木上原一一一
山崎 久太(帝展) 澁谷區川區田端六〇九
横井 禮市(二科) 名古屋東區田代池上一〇八
横山 隆一(漫畫) 本郷區駒込林町一六一
吉田 博(帝展) 澁橋區下落合二ノ六六七
吉村 芳松(帝展) 澁谷區川區田端一〇〇
和田 英作(帝展) 麻布區小町八
和田 三造(帝展) 赤坂區福吉町一
渡部 寧也(太平洋畫) 世田谷區代田一ノ六三五

石川雅治(帝展第三部會) 荒川區日暮里渡邊町
上田直次(帝展第三部會) 澁谷區川區中里町六二
小笠原貞弘(現人社) 澁谷區江古田町一七四一
小倉右一朗(帝展) 澁谷區川區上中里町一七二
大内 青龍(美術院) 世田谷區新町一ノ一二五
大國 貞藏(帝展) 兵庫縣武庫郡蘆屋權ノ梁
萩島 安二(構造社) 澁谷區川區中里三四六堀内方
加藤 顯清(帝展) 花原區中延一一〇〇
關登 芳光(帝展) 板橋區小竹町二六三六
金子九平次(新古典派) 世田谷區五川奥澤一
喜多武四郎(美術院) 本所區太平町三ノ一〇
北村 正信(帝展) 澁谷區川區田端三五二
北村 西望(帝展) 澁谷區川區西ヶ原町七
國方 林三(帝展) 澁谷區川區田端三三一
後藤 其三(帝展) 本郷區駒込神田町三四一
佐々木大樹(帝展) 澁橋區戸塚町二ノ二二五
佐藤 朝山(美術院帝展) 大森區馬込町西一
齋藤 雲巖(構造社帝展) 豊島區長崎町三ノ五五二
澤田 晴廣(帝展木彫會) 王子區上十條一二三七
柴田 正重(帝展) 澁谷區川區田端三九九
清水多嘉示(洋畫の部に) 澁谷區川區田端三三〇
新海 竹藏(美術院) 澁谷區川區中里四二七
關野 關雲(帝展) 王子區王子一〇五〇
高村光太郎(國畫會) 本郷區駒込林町二五
建品 大夢(帝展) 荒川區日暮里渡邊町
津上 昌平(帝展) 澁谷區千駄ヶ谷二ノ四一七
内藤 伸(帝展) 澁橋區神田町三三〇
中野桂樹(帝展日本木彫) 澁谷區川區蒲田四五〇
中村 直人(美術院) 長野縣小縣郡神川村
沼田 一雅(帝展) 世田谷區松原三ノ一〇六四
橋本 朝秀(東邦美術) 世田谷區松原三ノ一〇六四
長谷川榮作(帝展) 品川區北品川四ノ七三三

長谷川義起(帝展) 世田谷區三軒町二四三
細 正吉(帝展) 本郷區駒込千駄木町五七
日名子實三(帝展) 豊島區池袋四ノ三八八
平塚 田中(美術院) 下谷區上野櫻木町四四
藤井 浩輔(美術院) 荒川區日暮里町四
堀 進三(帝展) 下谷區谷中三軒町六一
松田 尚之(帝展) 京都左京區修學院大林町
三國 慶一(帝展) 王子區上十條一〇五五
毛利 敦武(帝展) 荒川區日暮里渡邊町
三木 宗東(帝展) 澁谷區川區中里四二九
保田 龍門(美術院) 大阪天王寺區茶臼山町七九
山崎 朝雲(帝展) 本郷區駒込林町一四二
山本 豊市(美術院) 四谷區新宿二ノ七七
横江 嘉純(帝展) 目黒區下目黒四ノ九三五
吉田 久繼(第一美術) 豊島區雑司ヶ谷六ノ八三三
吉田 三郎(白日會) 澁谷區川區田端一〇五
吉田 白嶺(美術院) 荒川區日暮里渡邊町
吉田 芳明(帝展) 本郷區駒込林町二〇八
渡邊 義知(二科) 豊島區長崎町一ノ八六四

北原 千鹿(金、帝展) 世田谷區深澤町四ノ五〇八
水内 半古(金、帝展) 豊島區長崎町西原三六四二
清水 六兵衛(金、帝展) 京都市東山区五條橋東五

音楽家録

洋楽の部 五十音順
漢野千鶴子(ソプラノ) 外遊(豊島區池袋二ノ九)

淡谷のり子(ソプラノ) 大森區池上洗足町二八八
阿部 秀子(ソプラノ) 大森區池上洗足町一ノ四四四
荒木 和子(ピアノ) 兵庫縣武庫郡本山村北畑

黒川いさ子(ピアノ) 世田谷區北原四ノ三七三
江 文也(パルトン) 大森區南千束町四六
高 勇吉(チェロ) 澁谷區櫻ヶ丘町一四

關屋 敏子(ソプラノ) 四谷區西信濃町一
瀬戸口藤吉(指揮、作曲) 澁谷區代々木富ヶ谷町
關田 誠一(ピアノ) 澁谷區代々木富ヶ谷町

長坂 好子(ソプラノ) 澁谷區代々木大山町一〇六七
永田慈次郎(ピアノ) 澁谷區下落合二ノ七九四
長門 美保(ソプラノ) 世田谷區代田二ノ七二〇

松島 敏子(ピアノ) 目黒區上目黒五ノ二四〇一
松平 晃(ピアノ) 目黒區池袋三ノ三三七
松原 操(ソプラノ) 四谷區右京町八

藤田 鈴蘭(尺八) 小石川區原町一〇
吉田 晴風(尺八) 麴町區下二番町一
梅若 六郎(能樂梅若流宗家) 淺草區藏前町三ノ三
梅若 萬三郎(能樂觀世流) 品川區北品川六ノ三四三
喜多 六平太(能樂喜多流宗家) 四谷區愛住町六七
觀世 左近(能樂觀世流宗家) 澁谷區向山町一七
櫻間 金太郎(能樂金春流) 麴町區高士見町二ノ五
金剛 廣(能樂金剛流宗家) 京都區東山町上ル三
寶生 新(能樂寶生流) 下谷區上野櫻木町四八
寶生 重英(能樂寶生流宗家) 本郷區元町二ノ二七
榎本 至水(能樂芝水流宗家) 日本橋區通二ノ六
水藤 錦輝(能樂錦輝宗家) 本郷區湯島天神町一ノ八八
堀 旭翁(能樂堀宗家) 麴町區三番町三ノ二
杵屋 六左衛門(長限家元) 麻布區東馬場坂町七
松永 和風(長限家元) 赤坂區中ノ町六ノ六七
松島 庄三郎(長限家元) 下谷區龍泉寺町七七
吉住 小三郎(長限家元) 日本橋區通三ノ一ノ五
岡安 三郎(長限三味線家元) 四谷區左門町五
杵屋 泰玉(長限三味線家元) 芝區西久保神谷町一八
杵屋 彌七(文化三味線宗家) 麻布區三河台町一四
杵屋 佐吉(長限三味線家元) 麴町區平河町二ノ一
杵屋 榮藏(長限三味線) 麴町區下二番町五ノ二
稀音 家六四郎(長限三味線家元) 赤坂區新坂町三三
望月 太左衛門(長限三味線家元) 日本橋區渡花町一七
清元 延壽太夫(清元家元) 芝區高輪北町四八
清元 梅吉(清元三味線家元) 赤坂區溜池町二
岸澤 古式部(常磐津家元) 淺草區柳橋町一ノ一ノ六
常磐津 文字太夫(常磐津家元) 日本橋區吳服橋三
常磐津 津尾太夫(常磐津) 京橋區銀座西八
常磐津 津助右衛門(常磐津家元) 荒川區日暮里町二ノ
五七
歌澤 相傳(歌澤家元) 下谷區二長町五二
歌澤 芝勢(芝勢以派家元) 牛込區矢來町一〇五

高澤 芝金(芝派家元) 芝區高輪南町三〇
歌澤 寅右衛門(寅派家元) 下谷區二長町五二
竹本 津太夫(義太夫) 大阪住吉區長崎町四七
竹本 土佐太夫(同) 大阪住吉區天下町二ノ四三
鶴澤 友次郎(義太夫三味線) 大阪東區淡路町一ノ二〇
鶴澤 道八(同) 神戸北長狹通六ノ六八ノ三
豐竹 古柳太夫(義太夫) 大阪西區區粉津中ノ町四
竹本 小仙(女義太夫) 布施市芝屋西二七
竹本 小土佐(同) 品川區五反田三ノ一〇九
竹本 東廣(同) 大阪東區材木町八
富本 豐前(富本家元) 淀橋區角筈一ノ七五〇
岡本 文彌(新内岡本流家元) 神田區多町二ノ二ノ二
鶴野 若松藏(新内鶴野流家元) 牛込區神明町三ノ二
富士 松加賀太夫(新内富士松正派家元) 淺草區田島町
田村 小てる(小田田村派家元) 芝區新橋田町一九
潮 小多滿(小田田派家元) 京橋區榮女町三五
春日 同上(小田田派家元) 下谷區上野櫻木町二二
荻 胡蝶(小田田派家元) 芝區芝口町一ノ一三
小田 幸兵衛(小田幸兵衛派家元) 京橋區築地町四
山彦 八重子(河東節) 本郷區湯島同明町
菅野 序遊(中節菅野派家元) 淺草區淺草橋一ノ六
官園 千之(團八節) 芝區西久保廣町九
萩江 壽々子(萩江節) 赤坂區青山南町六ノ一四七
平岡 市舟(東明節) 麻布區護國寺町一
音 丸(歌謡) 麻布區護國寺町二八
向山 小梅(同) 赤坂區田町四ノ一四
小田 勝太郎(同) 京橋區築地一ノ九ノ二
後藤 市丸(同) 淺草區柳橋二ノ二ノ五
喜代 三(同) 芝區新橋三ノ八
藤本 三吉(同) 日本橋區人形町二ノ四ノ五
舞踊 家 五十音順
青山 圭男(浪付) 麻布區赤井町一八〇

吾妻 春枝(新舞踊) 京橋區銀座七ノ四
東 勇作(洋舞) 麴町區下六番町一〇
石井 小浪(同) 目黒區自由ヶ丘一六九
石井 渡(同) 豐島區長崎町三ノ五一五
石井 小どり(同) 世田谷區北澤四ノ三七七
井上 徳雄(同) 世田谷區北澤四ノ三七七
井上 八千代(日舞井上流家元) 京都區前橋手東
榎茂 都陸平(日舞榎茂流家元) 大阪東區博愛町一
江川 幸一(洋舞浪付) 大阪浪速區千日前大阪劇場
江口 隆哉(洋舞) 目黒區平町三〇五
印牧 季雄(同) 四谷區南伊賀町一六
河上 鈴子(同) 蒲田區濱沼町三二三
寒水 多久茂(同) 目黒區自由ヶ丘六二石井方
九貴 麗子(新舞踊) 豐島區池袋二ノ一〇六〇
那 正美(洋舞) 在外(宅)世田谷區北澤四
栗島 才子(日舞) 大森區新井宿一ノ二三七〇
小森 敏(同) 目黒區本郷町一〇〇
崔 承喜(同) 杉並區永福町二六四
志賀 山勢(日舞志賀山流家元) 京橋區八丁堀二
執行 正俊(洋舞) 杉並區杉木町四ノ八六八
高田 せい子(同) 淀橋區柏木町四ノ八六八
田澤 千代子(同) 在外(宅)神田區神保町三
玉置 眞吉(社交舞階) 杉並區高圓寺六ノ七三九
趙 澤元(洋舞) 澁谷區向山町五三共活社
アパルト
津田 信敏(同) 赤坂區青山高輪三
中川 三郎(タップ・ダンス) 下谷區上根岸町八社
中村 小虎(新舞踊) 淺草區田島町八六
中村 虎治(日舞中村流家元) 淺草區田島町八六
西川 喜洲(日舞西川流家元) 下谷區同明町一
西崎 鏡(新舞踊) 小石川區原町一
エ・パ・ロ・ワ(洋舞) 麴町區有樂町區議會前

花園 歌子(新舞踊) 豐島區西巢鴨二
花柳 悅太郎(日舞) 品川區南品川一ノ二三七
花柳 壽輔(日舞花柳流家元) 京橋區木挽町六
花柳 壽藏(新舞踊) 赤坂區高輪町八
花柳 壽美(同) 四谷區傳馬町一ノ一八
花柳 珠實(同) 麻布區六本木町三一
花柳 珠實(同) 麴町區下六番町一〇
花柳 壽二郎(新舞踊) 麻布區護國寺町六
花柳 徳太郎(日舞) 芝區新幸町一〇
花柳 徳兵衛(新舞踊) 淺草區左衛門町一
林 幸七子(同) 豊島區西巢鴨四ノ一二一
原田 佳明(同) 中野區桃園町三〇
福井 茂(洋舞) 本郷區千駄木町一七五
藤崎 静枝(新舞踊藤崎流家元) 麻布區護國寺町六
藤崎 芳枝(新舞踊) 赤坂區青山北町五ノ二三
藤間 勲次(日舞藤間別派家元) 澁谷區中通一
藤間 勲次(日舞) 牛込區矢來町一六二
藤間 勲十郎(日舞藤間流家元) 京橋區東新堀町一
藤間 勲素枝(新舞踊) 麴町區三番町六ノ一二
藤間 喜與恵(同) 赤坂區表町二ノ一三
藤間 政彌(日舞) 京橋區銀座七ノ四
益田 陸(洋舞) 世田谷區北澤四ノ四〇一
水木 歌子(日舞) 蒲田區御園町二六三
南 繁子(洋舞) 麴町區麴町五ノ二ノ五
宮 操子(同) 目黒區平町三〇五
山田 五郎(同) 本郷區向ヶ丘園生町三三
與世 山彦志(新舞踊) 神奈川縣鎌倉坂ノ下一〇九
滑柳 吉藏(日舞滑柳流家元) 日本橋區藏前町三

市川 延升(浪派) 芝區下高輪町五七
市川 巖之助(同) 京橋區明石町三一
市川 男女(同) 牛込區北町八
市川 小太夫(同) 神奈川縣由比ヶ濱塔ノ辻
市川 左團次(同) 神田區駿河台三ノ六ノ五
市川 三升(同) 本所區藤町一ノ六ノ五
市川 松甚(同) 京橋區築地二ノ二ノ八
市川 八百藏(同) 麴町區平河町二ノ一七
市川 羽左衛門(同) 澁谷區代々木西原町九三
市村 家藏(同) 芝區西久保明舟町三〇
市村 家藏(同) 芝區芝谷町二ノ八九
岩井 榮三郎(同) 板橋區板橋町一〇ノ二、五二五
尾上 菊五郎(同) 芝區芝公園一號ノ七
尾上 多賀之丞(同) 蒲田區蒲田町一、三六二
大谷 友右衛門(同) 下谷區御徒町二ノ五九
片岡 我當(同) 芝區西久保明舟町二
片岡 仁左衛門(同) 牛込區筑土八番町二八
澤村 源之助(同) 下谷區龍泉寺町一四
澤村 宗十郎(同) 神奈川縣鎌倉宿願川一六七
澤村 田之助(同) 麴町區麴町一ノ七ノ四
澤村 調子(同) 神奈川縣鎌倉小町一九〇
澤村 調子(同) 日本橋區兩國一〇
實川 延若(同) 大阪天王寺區上本町九
助高 高助(同) 麴町區三番町二ノ一
中村 歌右衛門(同) 澁谷區千駄ヶ谷五ノ八九一
中村 魁車(同) 大阪南區宗右衛門町一八
中村 歌扇(同) 小石川區西江戸川町三一
中村 吉右衛門(同) 牛込區中町八

俳優名鑑

中村 芝鶴(同) 品川區大井出石町五〇、六四
中村 扇雀(同) 京都市中區河原町鮎藥師上ル
中村 時藏(同) 澁谷區青葉町一八
中村 成太郎(同) 大阪南區九郎右衛門町
中村 梅玉(同) 兵庫縣武庫郡精道村山邊屋
林 長三郎(同) 西宮市夙川西山手一
坂東 三郎(同) 大坂南區大寶寺町西ノ町三三
坂東 三郎(同) 麴町區麴町三ノ六
坂東 三郎(同) 下谷區上根岸町七九
坂東 三郎(同) 横濱區見島不安町一ノ二五三
松本 幸四郎(同) 澁谷區中通一ノ三四
守田 勲彌(同) 芝區白金今里町一五一
河原 崎國太郎(前進座) 東京市外武藏野吉野寺二、五
河原 崎長十郎(同) 四六前進座住居
中村 歌右衛門(同) 同
中村 鶴藏(同) 同
山岸 しづ江(同) 同
礼川 高麗藏(東寶) 赤坂區新町三ノ四三
市川 壽美藏(同) 赤坂區新町五ノ三
片岡 薫燕(同) 赤坂區新町三ノ四四
夏川 静江(同) 世田谷區松原町四ノ一八六
中村 もしほ(同) 麴町區麴町二ノ六ノ八
坂東 豊助(同) 芝區芝公園九號地ノ三
伊井 友三郎(新派) 向島區隅田町二ノ一、四一五
伊志 井 寛(同) 淺草區上平右衛門町一〇
井上 正六(同) 品川區大井出ヶ森町二、四八〇
梅島 界(同) 本所區向島三ノ九
梅野 井秀男(同) 大阪西區南吉田町一六
河合 武雄(同) 日本橋區中洲町一三
麴町區永田町二ノ七

故人録

- 十一年
- 九 梅谷 光貞 海外移住組合聯合會理事
 - 一〇 井上 正一 法博、元大審院部長
 - 一〇 伊東 祐彦 醫博、九大名譽教授
 - 石本 憲治 漢鐵理事
 - 八 章間 謙 醫博、病理學者
 - 下田 歌子 女子教育の先覺者
 - 〇 藤 親王 瀟湘國皇帝陛下の御再從兄
 - 一 東 乙彦 朝香宮別當、陸軍中將
 - 六 市川清次郎 後備海軍中將、機務部長
 - 則共眞善雄 前代護士
 - 元 香 迅 支那の文豪
 - 安田善次郎 安田同族會會長
 - 壬生 基義 伯爵、陸軍少將、元侍從
 - 三 岡倉由三郎 英文學者
 - 大寺 純藏 男爵、貴族院議員
 - 中島 鐵平 元專賣局長
 - 小倉 伸吉 理博、水師部技師、潮汐天文の權威者
 - 志野 總助 日新丸捕鯨隊長
 - 二 段 誠 北平軍閥の大長老
 - 原 保太郎 貴族院議員、勳選の最長老
 - 九 秋山高三郎 護士、往年の名捕事

- (自昭和十一年九月
至昭和十二年八月)
- 田村 新吉 貴族院議員、神戸實業界の長老
 - 〇 竹内友治郎 前代護士
 - 二 林 民雄 元日本郵船專務
 - 三 栗原 忠二 洋書家、英王立美術家
 - 三 岡田朝太郎 法博、古川柳研究家
 - 六 藤方十右衛門 醫博、阪大名譽教授
 - 野澤喜左衛門 義太夫三味線の名匠
 - 〇 谷 源六 「財政」主筆
 - 六 田部 芳若 法博、元大審院部長
 - 元 中山秀三郎 工博、帝國學士院會員
 - 〇 菊澤 季隆 浦和高校長
 - 小野 宮吉 新劇運動の關士
 - 三 黃 肇 歐洲軍需工業王
 - 六 渡岡 光吉 支那革命の功勞者
 - 〇 今村恭太郎 關西財界の元老
 - 六 比ランデル 伊文蔵、一九三四年ノーベル賞受賞者
 - 六 坂本彰之助 關西新聞官
 - 元 加藤 亨 醫博、大阪府立口語學校校長
 - 三 原田佐之治 元代護士
 - 〇 牧野菊之助 法博、元大審院部長
 - 三 原田 三郎 米新聞記者の長老

- 十二年
- 元 テリ 元東大法科大學教授
 - 元 佐々木岩次郎 帝室技師、建築家
 - 三 大川平三郎 貴族院議員、實業家
 - 三 ウナムノ スペイン文豪
 - 速水 太郎 山陽中央電氣社長
 - 一 東條真太郎 醫博、產婦人科の大家
 - 三 瀧川 清雄 大審院部長
 - 四 徳大寺公弘 公將
 - 六 坂口右左衛門 洋書家
 - 八 佐藤 義長 農博、農學教育界の元老
 - 九 松浦 青々 俳壇の巨匠
 - 〇 松井 伯軒 新聞言論界の古名
 - 三 大森金五郎 國史學者
 - 山口 文洞 關西實業界の耆宿
 - 六 川手 忠義 法博、護士
 - 元 高山 長幸 元代護士、前東拓總裁
 - 三 長尾 瓦吉 前鐵道社長
 - 三 森永太一郎 森永製菓の創立者
 - 三 市川 清 醫博、前京大教授
 - 三 添田飛雄太郎 元代護士
 - 元 石川 昇 醫博、金澤醫大教授
 - 一 淺野 長助 侯爵、醫島島主
 - 河東碧梧桐 俳壇の巨星
 - 三 藤原金次郎 名物精神病者
 - 三 淺野和三郎 心算研究家
 - 三 齋藤 恒三 工博、前東洋紡社長
 - 六 長崎 省吾 宮中顧問官
 - 七 長瀬 一太郎 元アメリカ國務長官
 - 九 金義文一郎 大阪電軌社長

- 〇 池田岩三郎 海軍中將、前藤永田造船所社長
- 三 山田良之助 賀陽宮別當、陸軍中將
- 三 山田 豊造 陸軍中將、元第九師團長
- 六 岩下保太郎 海軍少將、聯合艦隊參謀長、海軍作戦の偉材
- 元 中内 蟻二 劇作家
- 三 伊藤 孝 音楽評論家
- 三 神保 日慈 日蓮宗大本山貫首
- 元 上 眞行 元宮内省樂長
- 二 武富 清 洋樂の先覺者
- 六 レク ア 米石油業界の大立者
- 四 牧野謙次郎 早大教授、漢學者
- 六 チェンパレン 元代護士
- 六 松谷與三郎 元代護士
- 元 川口孫治郎 鳥の研究家
- 三 宮田 脩 女子教育の功勞者
- 三 大賀 壽吉 ダンテ研究家
- 三 三浦 信三 法博、東大教授
- 三 小倉根喜一郎 神戸實業家
- 三 十一谷義三郎 作家
- 三 宮尾 菊治 貴族院議員、元東拓總裁
- 三 野村米太郎 元代護士
- 三 細 其太郎 錦鶏園社長、元瑞興公使
- 二 淺山富之助 前京都市長
- 三 秋山雅之介 法博、國際法學者
- 三 中渡東一郎 醫博、内科醫の耆宿
- 三 清水 銀藏 前代護士、政支會滋賀支部長
- 三 烏園順次郎 醫博、前東大教授
- 三 黒井悌次郎 退役海軍大將
- 三 岡田 庄作 法博、護士
- 三 岸 一太 醫博

- 九 菅原 傳 政友會の長老代議士
- 三 阿部房次郎 貴族院議員、關西財界の重鎮
- 三 スノーデン イギリス元藏相
- 六 上田 太郎 元第十九師團長、陸軍中將
- 元 生駒 萬治 前佐賀高校長
- 三 海老名 正 元同志社大學總長
- 三 中村啓次郎 元衆議院議員
- 三 ロック フ 元アメリカの世界的大家
- 元 山田信一郎 理博、昆蟲學者
- 六 金子 馬治 文博、早大教授
- 三 ホフ マン 上智大學學長
- 三 トハチエフ ソ聯元國防人民委員部次長(鐵道)
- 三 スキー元帥 政社社長
- 三 五百木良三 元吳鎮守府長官、海軍中將
- 三 大谷幸四郎 元英領守府長官、海軍中將
- 三 カール ヴ 元ナガ・バルパット
- 三 ヴァイン 獨逸登壇隊長
- 三 ゴーメルグ 元フランス大統領
- 三 パリ 元イギリスの作家
- 三 有吉 明 三和銀行常務
- 三 下山 元一 新興キネマ監督
- 三 フイツァー 新興キネマ監督
- 三 村田 實 醫博、名古屋醫大教授
- 三 大庭 士郎 醫博、名古屋醫大教授
- 三 立松 懐清 辯護士
- 三 一秋吉 晉治 福岡高等學校長
- 三 ヴァン 三郎 社長(米)
- 三 松澤清次郎 貴族院議員、中京財界有力者
- 三 權藤 成郷 「皇民自治本義」著者

- 〇 福澤 泰江 前全國町村長會長
- 六 北河原公平 男爵、貴族院議員
- 三 田代院一郎 前支那駐屯軍司令官
- 六 小泉東太郎 元代護士「三申」
- 元 大野 豊四 後備陸軍中將、元第十七師團長
- 三 マルコニー侯 無線電信の父(伊)
- 三 菊竹 淳 福岡日日新聞社長
- 三 三 連 關西軍中將、滿洲事變當時の獨立守備隊司令官
- 三 内田 眞平 大日本生産黨總裁
- 元 細木 繁 陸軍歩兵大佐、通州特務機關長
- 九 原 善一郎 原合名副社長
- 六 塚本 詩 工博、東大名譽教授
- 三 大山 勇夫 上海特別陸隊附(海軍)
- 三 鷲尾 健治 同志社高商校長
- 三 岡元 政次 退役陸軍中將
- 三 ランシマン 元イギリス前首相
- 三 ベツ オールド ドイツの聲樂家、我女流樂壇産みの親
- 三 山田 健三 豫備陸軍中將
- 三 高木角懸坊 川柳研究家
- 三 北 一 思想家、二・二六事件刑死
- 三 和田 英松 文博、帝國學士院會員
- 三 小川市太郎 大阪都市協會常務理事
- 三 中川孝太郎 法博、法曹界の長老
- 三 メロン 元アメリカ元財務長官
- 元 松浦有志太郎 醫博、元京大教授、禁酒運動の先覺者
- 元 倉永 辰治 陸軍歩兵大佐(戦死)

朝日年鑑廣告目次

食料品問屋(松下商店)特表	一
内外綿株式會社 特表	二
内外文房具問屋(澤井商店)特表	三
ロイヒ膏(歌橋製藥所)	四
敷島香(安正堂)	五
日本電力株式會社	六
纒綿(川島兵衛商店)	七
新大阪ホテル	八
大谷金庫店	九
帝國製帽株式會社	一〇
森川印刷所	一一
清酒白箱	一二
コリサ(吉松醫院)	一三
櫻石一ツる市	一四
銘酒忠勇	一五
關西信託株式會社	一六
サクラビール	一七
羅仙堂	一八
そごう	一九
南海電車	二〇
松坂屋	二一
京阪電車	二二
阪神電車	二三
三越	二四
阪急電車	二五
寫眞版用銅板、同班鉛板	二六
阪急百貨店	二七
グラビヤインキ(潮本商店)	二八
ポリタミン	二九
獨西クルト社置時計	三〇
(尙美堂)	三一
シャープ受信機	三二
ネオ肝精	三三
ボラギノール	三四
眼鏡肝油	三五
エキホス	三六
ホルトン	三七
末廣勝風堂	三八
ゴーパーマード	三九
ピオフェルミン	四〇
大日本麥酒株式會社	四一
イカリソース	四二
玉草園	四三
割烹一新茂	四四
南海高島屋	四五
帝國人絹	四六
美神丸(宮内善進堂)	四七
美頭水	四八
吉本興業合名會社	四九
アイデアルカラー	五〇
スベロイン	五一
伊豆椿灰皿パーマード	五二
さくらフキルム	五三
健胃固腸丸(合回春堂)	五四
クラブ齒磨	五五
洋紙、建築工業用板	五六
(富士洋紙店)	五七
日本グラヅエ	五八
インキ工業所	五九
スタビゾール	六〇
(國光製藥株式會社)	六一
東京海上火災	六二
保險株式會社	六三
日本石材工作株式會社	六四
輪轉騰寫機(坂田商會)	六五
日本生命保險株式會社	六六
裏表紙	六七

索引 【五十音引】

この索引は便利を旨とし、主として國語に依り、また漢字の頭文字を羅列するなど簡單化に努めた。隨つて假名遣ひや表現も將來の用例と異なるものが少くない。即ち「クワ」を「カ」の部に、「イッ」を「エ」の部に入れた類である。なほ件名の取り方を種々に變へて二ヶ所、三ヶ所に掲出したものもある。帝國學士院は「テ」の部と學士院で「カ」の部と二ヶ所につたなどがあるが如きことである。また運動競技「欄」を「スポーツ」として採つてあるが如きことである。こんな風に目次とは全く別な行き方で標示してあるから、この欄子を呑み込んで使ひ廻れると非常に便利である。

アイスランド	三三
アイス・ホッケー諸大會	三八
アイヌ人口	三九
アイルランド	四〇
アフガニスタン	四一
アメリカ合衆國	四二
アラビヤ	四三
アルゼンチン	四四
アルバニヤ	四五
アンドラ	四六
アメリカ外國貿易	四七
アメリカ金流出入	四八
愛知縣(道府縣欄参照)	四九
愛國航空切手	五〇
秋田縣(道府縣欄参照)	五一
青森縣(道府縣欄参照)	五二
朝日新聞(一覽)	五三
朝日賞	五四
有栖川宮記念學術獎勵金	五五
イギリス	五七
イギリス外國貿易額	五八
イギリス金流出入	五九
イタリ	六〇
イラク	六一
イラン	六二
イルズ墮落車傷	六三
イヤハート機遭難	六四
インド	六五
伊・ユーゴスラヴ協定	六六
伊・ウエニス會商	六七
伊・ウエニス會商	六八
移住民の沿革と現勢	六九
移住教養所	七〇
移民民學校	七一
移民(列國)	七二
醫師、藥劑師、産婆、看護婦數	七三
醫學業年比較	七四
位階	七五
位階(帝國)	七六
圍碁	七七
石川縣(道府縣欄参照)	七八
茨城縣(道府縣欄参照)	七九
岩手縣(道府縣欄参照)	八〇
市場(公益)賣上成績	八一
一審有罪被告罪名別累年比較	八二
一般會計歳入科目別割合	八三
一般會計歳出費途別割合	八四
一般會計歳入歳出(財政)	八五
印紙稅	八六
ウ	八七
ウルグアイ	八八
ウイタミンP	八九
ウイタミンBIの人工合成	九〇
ウエネズエラ	九一
宇垣内閣流産	九二
植村中將判決	九三
歌御會始	九四
内田信也氏起訴	九五
運河(外國)	九六
運賃(鐵道)	九七
運動競技	九八
運輸統計	九九
運輸者種別表	一〇〇
運輸労働者	一〇一
エ	一〇二
エクアドル	一〇三
エチオピア	一〇四
エジプト	一〇五
エストニヤ	一〇六
愛媛縣(道府縣欄参照)	一〇七
映畫と演藝	一〇八
映畫界	一〇九
映畫俳優名鑑	一一〇
永代借地權の解消(外交)	一一一
營業收益稅	一一二
營業收益(個人)種類別	一一三
營業收益稅率	一一四
營業收益稅額人員	一一五
營業收益稅別表	一一六
營業收益稅額人員	一一七
衛生	一一八
英領ボルネオ	一一九
英領マレー	一二〇
英米爲替相場	一二一
英國外國貿易額	一二二

英國金流出入	三六
英伊地中海協定	三〇
驛傳競走大會	三三
演劇俳優名鑑	八〇
オーストラリア	三六
オーストリア	三六
オランダ	三六
オリピンピック東京大會	三七
大山事件突發(支那事變)	一四
大谷光昭伯の婚儀	三四
太田覺眠師の被蒙	三三
大分縣(道府縣欄参照)	三五
大藏省預金部資金及運用金	三七
大藏省(人名錄)	三六
大藏大臣(歴代)	一四
大阪朝日新聞	八九
大阪市(六大都市)	三七
大阪における労働賃銀	三七
大阪放送會館竣工	八三
大阪府(道府縣欄参照)	三三
大阪府大講堂教授	三三
大阪府市教育委員	六三
大阪府大講堂教授	三三
歐米民間航空界	三三
歐洲航路運賃表	三三
王族及公族(朝鮮)	三七
岡山縣(道府縣欄参照)	三三
岡山市(二十大都市)	三三
岡山醫大講座教授	三三
岡山の百廿萬圓債領事件	六六
尾去澤のダム決潰	六四
沖繩縣(道府縣欄参照)	三三
小樽市(二十大都市)	三三
主な海洋	三三
卸賣物價指數(朝日新聞社調)	三三
卸賣物價指數(三菱)	三三
卸賣物價指數(主要國)	三三
音楽と舞踊	三三
音楽家録	三三
カナダ	三三
歌人録	三三
香川縣(道府縣欄参照)	三三
神風の亞歐大飛行	三三
神奈川縣(道府縣欄参照)	三三
鹿兒島縣(道府縣欄参照)	三三
鹿兒島市(二十大都市)	三三
家庭知識	三三
家庭常備藥	三三
家庭用メートル法	三三
家畜・家禽倫義數	三三
滑空機規則制定される	三三
華族一覽(人名錄)	三三
河川(本邦)	三三
河川(世界)	三三
科學知識	三三
化學工業の發展	三三
貨幣換算表(列國)	三三
海外發展	三三
海外放送の現状	三三
海外への旅客運賃	三三
海外協會その他(海外發展)	三三
海技免狀受有者	三三
海峽植民地	三三
海洋	三三
海底トンネル	三三
海軍	三三
海軍大學校令の改正	三三
海軍甲種飛行豫科練習生新採用	三三
海軍通信隊令發表	三三
海軍船の開館	三三
海軍各學校生徒數の増加	三三
海軍工務規則の大改正	三三
海軍志願兵令改正公布	三三
海軍經費の趨勢	三三
海軍大將(人名錄)	三三
海軍省(人名錄)	三三
海軍大臣(歴代)	三三
海軍二航空隊(新設)の開隊	三三
海軍現有勢力(五大海軍國)	三三
海軍飛行機一覽表	三三
海軍船舶積算別累年表	三三
海防廳	三三
艦隊(十二年)新編成會計検査院(人名錄)	三三
外交	三三
外交(日本)	三三
外交(國際)	三三
外交官(人名錄)	三三
外國の主な運河	三三
外國の主な長橋	三三
外國貿易額(英、米)	三三
外國貿易輸出入月別表	三三
外國貿易輸出入月別表	三三
外國郵便	三三
外國無線電報	三三
外國郵便到着日數	三三
外國爲替相場	三三
外國郵便爲替	三三
外地電話	三三
外國輸入現在高	三三
外務省(人名錄)	三三
外務大臣(歴代)	三三
各國國債高	三三
各國新造船進水高	三三
各國定期航空路線總延長	三三
各國民間飛行機操縦士數	三三

各國民間飛行機數	三三
各國大公使一覽(本邦駐在)	三三
各國飛行場數	三三
各國の死亡原因別比較	三三
各國死亡率累年比較	三三
各國の平民壽命比較	三三
各市歳出一覽	三三
各種稅率摘要	三三
各政黨幹部	三三
學位授與數	三三
學校總覽	三三
學校所在地(陸軍所屬)	三三
學士院	三三
學士院議員(人名錄)	三三
學術	三三
學術研究會議	三三
學術・文化團體	三三
學生相模大會	三三
學生航空選手權大會	三三
學生海洋飛行團關西支部	三三
學生機初の海外飛行	三三
學童兒童就學歩合累年比較	三三
金澤市(二十大都市)	三三
金澤醫大講座教授	三三
樺太(植民地)	三三
樺太廳(人名錄)	三三
株價指數	三三
株式會社要覽	三三
株式相場の騰貴	三三
紙生産高(世界)	三三
川口の細雨庵	三三
川崎市(二十大都市)	三三
簡易生命保險契約高	三三
簡易生命保險資金運用	三三
簡易保險	三三
觀劇式一覽表	三三
觀光客概況	三三
看護婦數	三三
干支・九星早見表	三三
官廳別文官人員	三三
官營事業擴張と値上げ	三三
官業及官有財産收入	三三
官・公・私立高等學校	三三
官廳職員一覽	三三
官・國幣社一覽	三三
官幣社	三三
關西アマチニア飛行俱樂部	三三
關東地方(地方年觀)	三三
關東局(人名錄)	三三
關東州(都市)	三三
關東州(植民地)	三三
艦隊(人名錄)	三三
艦艇一覽	三三
艦艇發數一覽	三三
艦艇別列國艦艇發數比較表	三三
キニーバ	三三
ギリシヤ	三三
氣象大要(昭和十一年)	三三
氣象台及測候所	三三
氣象摘要表	三三
汽船會社(主なる)	三三
貴族院議員總覽	三三
貴族院(人名錄)	三三
貴族院議員一覽表	三三
貴族院各派幹部	三三
貴族院制度改革調査會	三三
貴族院機構改善案要綱	三三
議會解散さる	三三
企業總覽	三三
企業總覽	三三
議員定數(衆議院議員)	三三
棋士名錄	三三
岐阜縣(道府縣欄参照)	三三
救世軍の内亂	三三
救護狀況調	三三
宮中顧問官	三三
宮中杖	三三
宮城・皇宮・御所・離宮その他	三三
宮廷	三三
宮廷録事	三三
宮中歌御會始	三三
氣球諸元表(陸軍制式)	三三
急行券	三三
弓道大會	三三
弓道範士	三三
弓道教士	三三
九星早見表(年齢、干支)	三三
紀元二千六百年奉祝會(人名錄)	三三
疑獄一束	三三
教學刷新施設	三三
教育	三三
義務教育延長問題	三三
義務教育年限延長問題	三三
教學刷新評議會と教育局	三三
教育局	三三
教育總監部(人名錄)	三三
教育費地方團體別累年比較	三三
教化團體	三三
教會	三三
狂言一覽表	三三
京都市(六大都市)	三三
京都醫大講座教授	三三
京都府(道府縣欄参照)	三三
生糸生産額	三三
機械工業の躍進	三三
近畿地方(地方年觀)	三三
九州地方(地方年觀)	三三
戲曲界	三三

砂糖(内地)需給表 二四〇
 在外公館 二七三
 在外本邦人 二七三
 在郷軍人會に勸語を賜る 二八八
 在郷軍人會令の制定 二八八
 在荷、運輸 二八八
 在留外國人 二八八
 在刑務所人員累年比較 二八八
 財政 二八八
 財政經濟日誌 二八八
 財政統計 二八八
 罪名別、犯罪原因別百 二八八
 罪名別、犯罪年輪別百 二八八
 比 二八八
 札幌市(二十大都市) 二八八
 參謀本部(人名錄) 二八八
 産業 二八八
 産業、生産、需給 二八八
 産業別生産額工業生産額 二八八
 産業活動一般 二八八
 産業五ヶ年計畫試案 二八八
 産業組合員數及職業別 二八八
 産業組合資金 二八八
 産業組合 二八八
 産業上の地位別有業者 二八八
 産業別普通世帯人口 二八八
 産業數 二八八

主要港間運程 二〇六
 主要港乘降船客數 二〇六
 主要債券株式利廻調 二〇六
 主要通信社一覽 二〇六
 主要廣告取次店一覽 二〇六
 主要都市手形交換高 二〇六
 主要農産物價額 二〇六
 主要鑛産額 二〇六
 主要汽船會社 二〇六
 主要會議首腦及び議員等 二〇六
 主要天文台 二〇六
 酒造稅、麥酒稅 二〇六
 柔道大會 二〇六
 柔道有段者 二〇六
 重要美術品等認定數 二〇六
 受刑者罪名別 二〇六
 十一年の人口動態 二〇六
 十二年度提出豫算(財政) 二〇六
 十二年度修正豫算(財政) 二〇六
 十一年度地方豫算(財政) 二〇六
 出版界概観 二〇六
 出版圖書累年比較表 二〇六
 出版物種數分類表 二〇六
 出生數 二〇六
 出生地別人口(帝國内地) 二〇六
 出生(列國) 二〇六
 巡洋艦 二〇六
 時差(世界各地) 二〇六
 新ヴァイタミンP 二〇六

所得稅率 二〇六
 所得稅表 二〇六
 所得稅納額別人員表 二〇六
 初等教育(列國) 二〇六
 小兒麻痺 二〇六
 小運送業の統制實施 二〇六
 諸車現在數(全國) 二〇六
 諸船の寸法 二〇六
 諸學校總覽 二〇六
 女給累年比較 二〇六
 女子高等師範 二〇六
 女子青年團一覽 二〇六
 商工會議所 二〇六
 商工會(人名錄) 二〇六
 商工大臣(歴代) 二〇六
 商品取引所先物相場 二〇六
 商業取引の活況 二〇六
 消防組數及消防職員 二〇六
 消防職員 二〇六
 將棋 二〇六
 皇族に降下せられたる 二〇六
 皇族及王公族 二〇六
 皇族(海海) 二〇六
 神宮、神社創建計畫 二〇六
 神宮及官國幣社一覽 二〇六
 神道各教派一覽 二〇六
 神道宗教會教師數 二〇六
 神社及神官神職數 二〇六

神兵隊事件豫審終結 二〇六
 新設海軍二航空隊の開設 二〇六
 十二年度豫算新編成 二〇六
 新艦艇進水 二〇六
 新議事堂完成 二〇六
 新空路四線 二〇六
 新屋の發見 二〇六
 暖台使用料金 二〇六
 新聞一覽(全國) 二〇六
 新聞紙現在數 二〇六
 新聞令から 二〇六
 人造絹糸生産高(世界) 二〇六
 人造絹糸生産高 二〇六
 人造羊毛生産高 二〇六
 人造絹糸及毛糸生産高 二〇六
 人口(土地・人口) 二〇六
 人口、面積(列國) 二〇六
 人口及世帯(帝國) 二〇六
 人口及世帯(道府縣別) 二〇六
 人口増加率(列國) 二〇六
 人口動態(昭和十一年) 二〇六
 人口増加率(列國) 二〇六
 人口動態(道府縣別) 二〇六
 人口二萬以上の町村 二〇六
 人道教(白々教と) 二〇六
 人名錄 二〇六
 人體は何から出來てる 二〇六
 スイス 二〇六
 スエーデン 二〇六

シヤム 三三
 ジャビー渡海難 三三
 常住人口(國勢調査) 三三
 市域入談出 三三
 市域出一覽(都市) 三三
 市長、市會議長(人名錄) 三三
 市町村數及縣議定數 三三
 資源審議會(人名錄) 三三
 資本利子稅率 三三
 恩賜團體 三三
 司法・警察 三三
 司法省(人名錄) 三三
 司法大臣(歴代) 三三
 子爵(人名錄) 三三
 子爵議員(人名錄) 三三
 史蹟・名勝・記念物 三三
 團專覽 三三
 事業會社營業成績 三三
 「死ななう」の切腹事件 三三
 死亡原因別 三三
 死亡(列國) 三三
 師管別受領壯丁職業表 三三
 師團長(人名錄) 三三
 師團、旅團、聯隊所在地 三三
 酒類專賣實施(財政) 三三
 證券保管制度 三三
 私立大學 三三
 紙幣流通高(主要國) 三三

紙幣及銀行券流通高 三三
 絲綢安定施設法 三三
 詩、文學と藝術院 三三
 詩人錄 三三
 徵實縣(道府縣編參照) 三三
 自然増加(列國) 三三
 周園(帝國) 三三
 兒童發育標準表 三三
 自動車台數(本邦) 三三
 自動車(列國) 三三
 自動車種別累年表 三三
 自動車運轉者種別表 三三
 支那事變を繞りて(經濟) 三三
 支那(中華民國) 三三
 支那事變 三三
 支那沿岸封鎖(支那事變) 三三
 支那事變に對する列 三三
 國の態度 三三
 士官校採用人員倍加 三三
 新造船契約約百萬ト突破 三三
 寺院及住職數 三三
 侍從武官府(人名錄) 三三
 事變對策の第七十二議會 三三
 衆議院(人名錄) 三三
 衆議院議員一覽 三三
 衆議院議員定員一覽 三三
 衆議院黨派の消長 三三
 衆議院解散一覽表 三三

衆議院議員定數、有 三三
 權者數 三三
 傷兵院會の發會 三三
 傷兵院(國立)落成 三三
 宗教團體 三三
 宗教徒一覽(世界) 三三
 修養教化團體 三三
 證券 三三
 資本並公社債 三三
 信託、保險 三三
 信託會社信託財產調 三三
 信託會社信託財產有 三三
 價證券 三三
 蹴球 三三
 靜岡縣(道府縣編參照) 三三
 那珂市(二十大都市) 三三
 實業用無線施設 三三
 實業學校(諸學校總覽) 三三
 實業學校(甲種)累年比較 三三
 實業專門學校 三三
 實業補習學校累年比較 三三
 就學歩合(學童)累年比較 三三
 下谷の茶箱詰事件 三三
 島根縣(道府縣編參照) 三三
 島津女子機學事件 三三
 社會 三三
 社會運動・恩賜團體 三三
 社會事業(總覽) 三三
 社會局關係豫算調 三三

衆議院議員定數、有 三三
 權者數 三三
 傷兵院會の發會 三三
 傷兵院(國立)落成 三三
 宗教團體 三三
 宗教徒一覽(世界) 三三
 修養教化團體 三三
 證券 三三
 資本並公社債 三三
 信託、保險 三三
 信託會社信託財產調 三三
 信託會社信託財產有 三三
 價證券 三三
 蹴球 三三
 靜岡縣(道府縣編參照) 三三
 那珂市(二十大都市) 三三
 實業用無線施設 三三
 實業學校(諸學校總覽) 三三
 實業學校(甲種)累年比較 三三
 實業專門學校 三三
 實業補習學校累年比較 三三
 就學歩合(學童)累年比較 三三
 下谷の茶箱詰事件 三三
 島根縣(道府縣編參照) 三三
 島津女子機學事件 三三
 社會 三三
 社會運動・恩賜團體 三三
 社會事業(總覽) 三三
 社會局關係豫算調 三三